

木古内町

幸連5遺跡

—高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

第1分冊

概要・遺構（西側）編

令和4年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

木古内町

幸連5遺跡

—高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

第1分冊

概要・遺構（西側）編

令和4年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



検出された遺構群（合成処理によるイメージ画像） 俯瞰



遺跡周辺近景 NW→SE



遺跡周辺近景 S→N



遺跡周辺近景 NE→SW



遺跡近景 E→W



東側斜面盛土



東側楯状盛土



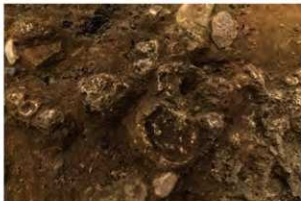
西側遺構重複状況



東側遺構重複状況



炭化クリ子葉埋納柱穴 (P-147)



貝層出土状況 (H-9)



フラスコ状土坑に埋納された炭化クリ子葉(P-479)



フラスコ状土坑に埋納された炭化イネ科茎(P-297)



遺物出土状況 (H-2)



遺物出土状況 (H-1)



埋甕炉体土器の使用痕跡 (H-116)



土製品出土状況 (H-44)



柱穴埋納土器 (H-17)



斜面際倒立土器 (D7区)



破片を敷き並べた土器 (H-100A)



破片を敷き並べた土器 (H-49)



H-2 榎林式土器集合写真



H-2 大安在B式土器集合写真



H-7・16ノダップⅡ式土器集合写真



H-1 煉瓦台式土器集合写真



三角形石製品出土状況 (H-49)



炭化繊維出土状況 (H-64)



側縁有溝石器出土状況 (H-83)



長野県産黒曜石製石鏃出土状況 (E 24区)



刃部突出形石刀出土状況 (E 14区)



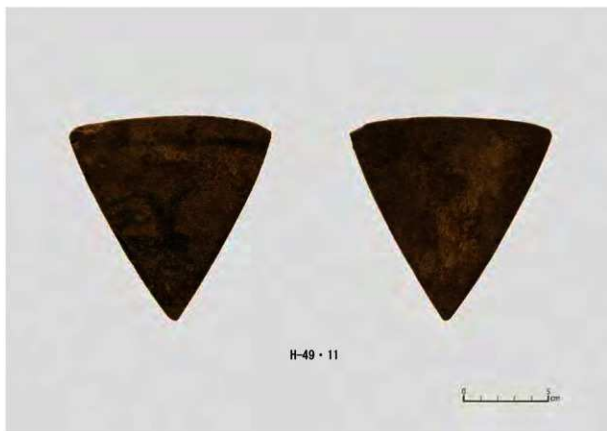
青竜刀形石器出土状況 (P-35)



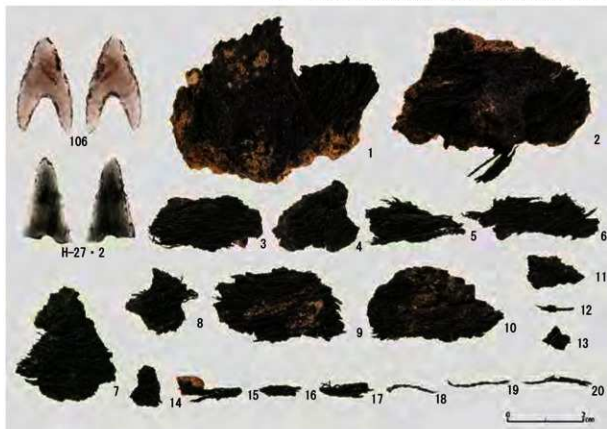
石棒埋納フラスコ状土坑と西側盛土の関係(P-129)



クジラ類肋骨が納められたフラスコ状土坑(P-111)



H-49出土の人の顔が描かれた三角形石製品（表裏）



長野県産黒曜石製石鏃・H-64出土炭化繊維



遺物に付した数字は第7分冊図版番号-掲載番号(例: 151-2050=図版151-2050)

多様な土製品（上段）と石製品（中・下段）

例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局函館開発建設部が行う、高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが、平成28・29・30および令和元年度に実施した木古内町牽連5遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 調査および報告書の作成は第1調査部第2調査課が行った。

3. 本書の作成にあたっては、遺構調査を土肥研晶・大泰司統・福井淳一・酒井秀治が、現地での遺物一次整理を土肥・酒井が、現地での写真撮影は主に吉田裕史洋が行った。室内での二次整理は、土器を土肥、石器を酒井、繊維製品・骨角器・自然遺物を福井が担当し、金属器は土肥が担当し立田理が協力した。遺物写真の撮影および写真図版作成は吉田が担当し、菊池慈人が協力した。

編集は分冊ごとに行い、第1分冊と第5分冊は福井、第2分冊は土肥・酒井、第3分冊は土肥、第4分冊は酒井、第6分冊と第7分冊は吉田・菊池が行った。なお、各章・各節の執筆担当は文末に記してある。

4. 土器の実測・トレースの一部は、(株)トラスト技研に委託した。

5. 各種分析・鑑定・保存処理は、下記に委託した。

・放射性炭素年代測定 (AMS測定): 株式会社 加速器分析研究所、株式会社 バレオ・ラボ

・樹種同定: 株式会社 加速器分析研究所、株式会社 バレオ・ラボ

・炭化種実同定: バリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社 バレオ・ラボ

・繊維製品の素材同定: 株式会社 バレオ・ラボ

・プラント・オパール分析: 株式会社 バレオ・ラボ

・炭化繊維製品の保存処理: 株式会社 大宮保修

・動物遺存体同定: 株式会社 バレオ・ラボ

・土器の残存有機物分析: 株式会社 古生態研究所、株式会社 バレオ・ラボ

・黒曜石製石器産地推定: 株式会社 バレオ・ラボ

・白色物の材質分析: 株式会社 バレオ・ラボ

・人の顔が描かれた三角形石製品の顔料分析: 国立奈良文化財研究所との連携研究

・人の顔が描かれた三角形石製品の保管ケース製作: 元興寺文化財研究所

・土器包埋物分析: 熊本大学小畑弘氏の科学研究費研究に協力した

6. 調査終了後の出土資料は、木古内町教育委員会が保管する。

7. 調査にあたっては下記の機関および人々のご協力、ご助言をいただいた(順不同、敬称略)

北海道教育委員会、木古内町教育委員会、北斗市教育委員会、国土交通省北海道開発局函館開発建設部

木古内町教育委員会 木元豊、加内町教育委員会 竹田聡、北斗市教育委員会 時田太一郎、函館市教育委員会 野村祐一・

福田裕二・小林賢・吉田力・大矢京石・佐藤智雄、松前町教育委員会 佐藤雄生、七飯町歴史館 山田央、森町教育委員会

高橋毅、八雲町教育委員会 大谷茂之、上ノ国町教育委員会 塚田直哉、厚沢部町 石井淳平、乙部町教育委員会 藤田巧、

今金町教育委員会 宮本雅通・寺崎康史、一般財団法人道南歴史文化振興財団 平野千枝・萩野幸男・太田哲也、

函館工業高等専門学校 中村和之、新潟医療福祉大学 澤田純明、横浜市歴史博物館 高橋健、流山市教育委員会 小川勝和、

金子清昌、大沼忠孝、阿部千春、小林克、高橋豊彦、森裕裕、坪井睦美、佐藤裕、北海道教育委員会 西脇名夫、

宗像公司、村本周三

記号等の説明

1. 遺構については、次の記号にハイフンとともに確認順に番号を付けた。

H：住居跡 P：土坑 F：焼土 SB：小礫集中

HP：住居内の柱穴・土坑 HF：住居の炉跡 HS：住居内の集石 HFC：住居内の剥片集中

PP：土坑内の柱穴・土坑 FP：焼土に伴う柱穴・土坑

2. 掲載した実測図の縮尺は原則として以下のとおりである。なお、個々にスケールを付けてある。

遺構 1：40 遺構図一部拡大 1：20

復元土器 1：4 土器拓影 1：4 土製品 1：4

剥片石器・石斧・石製品 1：2 礫石器・大型の石製品 1：3（一部大型のもの 1：4）

骨角器 1：1、1：2 金属器 1：1、1：2 繊維製品 2.5：1、5：1

3. 遺構の規模については、単位をmとし、以下の要領で示した。現存長は（ ）で示した。

竪穴住居跡・土坑：確認面の長軸の長さ／床面・底面での長軸の長さ×確認面の短軸の長さ／床面・底面での短軸の長さ×最大の深さ

焼土・小礫集中：確認面の長軸の長さ×確認面の短軸の長さ×最大の深さ

4. 土層の表記は、基本土層をローマ数字（Ⅰ・Ⅱ…）、遺構覆土・盛土層などをアラビア数字（1・2…）で示した。

5. 土層の観察には『新版標準土色帖』（小川・竹原2004）を用い、『土壤調査ハンドブック改訂版』（日本ペトロロジー学会編2000）を引用した。

6. 火山灰は『北海道の火山灰』（北海道火山灰命名委員会1982）に準じ、以下の略号を用いた。

駒ヶ岳d火山灰：Ko-d 白頭山一苦小牧火山灰：B-Tm

7. 土器の実測図において、炭化物付着部分を灰色で、赤彩や埋竈炉使用などによる焼け部分を赤色で示したものがある。

8. 石器の実測図では、たたき痕は「V—V」、すり痕は「|←→|」、摩滅痕は「|—|」で範囲を示した。剥片石器の使用による明瞭な光沢と被熱の範囲は、スクリーントーンで示した。アスファルトなどの黒色付着物の部分については濃いスクリーントーンとした。その内容を本文中に記載した。

9. 土器・土製品、骨角器、金属器は、それぞれ別に通しの掲載番号を付した。石器・石製品は、遺構別に通しの掲載番号を付し、盛土遺構・包含層は分類別に通しの掲載番号を付した。遺構図や総括図で使用した遺物に付した番号は、この掲載番号である。

目 次

【第1分冊】概要・遺構（西側）編

口絵

例言

記号等の説明

目次

I 調査の概要

1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	4
4 調査の経過	4

II 幸連5遺跡の位置と環境

1 幸連5遺跡の位置と地質・地形	7
2 幸連5遺跡周辺の遺跡	12

III 幸連5遺跡の調査方法

1 調査範囲と調査区の設定	19
2 発掘調査の方法	19
3 整理の方法	23
(1) 土器の整理	
(2) 石器等の整理	
(3) 骨角器・動植物遺存体等の整理	
4 幸連5遺跡の基本層序	25
5 遺物の分類	68

(1) 土器

(2) 土製品

(3) 石器・石製品

IV 幸連5遺跡の遺構の概要

1 概要	71
2 時期別遺跡形成過程	71

V 幸連5遺跡の西側遺構群

1 西側遺構群の概要	103
2 盛土遺構・削平凹地	103
3 竪穴住居跡	106
4 フラスコ状土坑	151
5 柱穴状土坑	188
6 その他の土坑	242
7 焼土	256
8 小礫集中	261
9 その他の遺構	262

報告書抄録

【第2分冊】遺構（東側）編

目次

Ⅴ 幸連5遺跡の東側遺構群

- 1 東側遺構群の概要
- 2 盛土遺構
- 3 竪穴住居跡

4 フラスコ状土坑

5 柱穴状およびその他の土坑

6 焼土

報告書抄録

【第3分冊】遺物（土器）編

目次

Ⅵ 幸連5遺跡の土器・土製品

- 1 土器の概要
一覧表
- 2 出土状況の特徴

報告書抄録

【第4分冊】遺物（石器）編

目次

記号等の説明

Ⅶ 幸連5遺跡の石器・石製品

- 1 石器の概要
- 2 竪穴住居跡の石器
- 3 土坑の石器
- 4 焼土の石器

5 その他の遺構の石器

6 盛土遺構・包含層の石器

一覧表

引用・参考文献

報告書抄録

【第5分冊】遺物（骨角器等・動植物遺存体）・分析・総括編

目次

Ⅷ 幸連5遺跡の骨角器・金属器

Ⅸ 幸連5遺跡の繊維製品

Ⅹ 幸連5遺跡の動物遺存体

Ⅺ 幸連5遺跡の植物遺存体

Ⅻ 自然科学的分析

- 1 幸連5遺跡の放射性炭素年代測定（1）
（株式会社 加速器分析研究所）

2 幸連5遺跡の放射性炭素年代測定（2） （株式会社 バレオ・ラボ）

3 幸連5遺跡の放射性炭素年代測定（3） （株式会社 バレオ・ラボ）

4 幸連5遺跡の炭化材樹種同定（1） （株式会社 加速器分析研究所）

- 5 幸連5遺跡の炭化材樹種同定(2)
(株式会社 バレオ・ラボ)
- 6 幸連5遺跡の炭化種実同定(1)
(バリノ・サーヴェイ株式会社)
- 7 幸連5遺跡の炭化種実同定(2)
(株式会社 バレオ・ラボ)
- 8 幸連5遺跡から出土した繊維製品の素材
植物(株式会社 バレオ・ラボ)
- 9 幸連5遺跡のプラント・オパール分析
(株式会社 バレオ・ラボ)
- 10 炭化繊維製品の保存処理について
(大宮保修)
- 11 幸連5遺跡の動物遺体(1)
(株式会社 バレオ・ラボ)
- 12 幸連5遺跡の動物遺体(2)
(株式会社 バレオ・ラボ)
- 13 幸連5遺跡出土土器の残存脂質分析(1)
(株式会社 古生態研究所)
- 14 幸連5遺跡出土土器の残存脂質分析(2)
(株式会社 バレオ・ラボ)
- 15 幸連5遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定(1)
(株式会社 バレオ・ラボ)

- 16 幸連5遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定(2)
(株式会社 バレオ・ラボ)
- 17 幸連5遺跡出土白色物の材質分析
(株式会社 バレオ・ラボ)
- 18 X線機器による幸連5遺跡出土土器圧痕
調査報告(小畑弘己・塚田千代・宮浦舞衣・
李潤枝・福井淳一・土井研晶)
- 19 幸連5遺跡出土の人の顔が描かれた三角
形石製品の顔料分析(土井研晶・福井淳一)

Ⅹ 総括

- 1 幸連5遺跡における遺構の特徴と変遷
- 2 幸連5遺跡の土器
- 3 幸連5遺跡の石器・石製品
- 4 幸連5遺跡の骨角器と動物遺体
- 5 幸連5遺跡の繊維製品と植生環境
- 6 幸連5遺跡の炭素年代
- 7 幸連5遺跡の土器胎土残存脂質分析
- 8 幸連5遺跡のウニ圧痕土器

主要引用参考文献
報告書抄録

【第6分冊】写真図版遺構編

目次

写真図版

報告書抄録

【第7分冊】写真図版遺物編

目次

写真図版

報告書抄録

第1分冊 挿図目次

I 調査の概要

図 I-1 幸連5遺跡の位置	2
図 I-2 幸連5遺跡周辺の地形と調査範囲	3

II 遺跡の位置と環境

図 II-1 遺跡の位置と周辺の地質	8
図 II-2 空中写真に現れた幸連5遺跡のソイル マーク	9
図 II-3 (1) 幸連5遺跡周辺の空中写真の変遷(1)	10
図 II-3 (2) 幸連5遺跡周辺の空中写真の変遷(2)	11
図 II-4 (1) 幸連5遺跡周辺の遺跡(1)	14
図 II-4 (2) 幸連5遺跡周辺の遺跡(2)	15
図 II-5 幸連5遺跡周辺の地形	18

III 調査の方法

図 III-1 グリッド設定と調査進行図	20
図 III-2 2017年度トレンチ設定図	21
図 III-3 表土除去後の地形	22
図 III-4 調査区土層堆積模式図	28
図 III-5 堆積状況模式図	29
図 III-6 遺構覆土堆積状況模式図	29
図 III-7 土層断面図の実測位置	30
図 III-8 土層断面①	31
図 III-9 土層断面②	32
図 III-10 土層断面③	33
図 III-11 土層断面④	34
図 III-12 土層断面⑤	35
図 III-13 土層断面⑥	36
図 III-14 土層断面⑦	37
図 III-15 土層断面⑧	38
図 III-16 土層断面⑨	39
図 III-17 土層断面⑩	40
図 III-18 土層断面⑪	41
図 III-19 土層断面⑫	42
図 III-20 土層断面⑬	43
図 III-21 土層断面⑭	44

図 III-22 土層断面⑮	45
図 III-23 土層断面⑯	46
図 III-24 東斜面盛土層下地形図	47

IV 幸連5遺跡の遺構の概要

図 IV-1 遺構位置図(1:500)	73
図 IV-2 遺構位置図(等高線あり)	74
図 IV-3 遺構位置図(1:80)索引	75
図 IV-4 遺構位置図(1): Z・A 5~7区	76
図 IV-5 遺構位置図(2): B・C 5~7区	77
図 IV-6 遺構位置図(3): D・E 5~7区	78
図 IV-7 遺構位置図(4): A・B 8~10区	79
図 IV-8 遺構位置図(5): C・D 8~10区	80
図 IV-9 遺構位置図(6): E・F 8~10区	81
図 IV-10 遺構位置図(7): G・H 8~10区	82
図 IV-11 遺構位置図(8): A・B 11~13区	83
図 IV-12 遺構位置図(9): C・D 11~13区	84
図 IV-13 遺構位置図(10): E・F 11~13区	85
図 IV-14 遺構位置図(11): G・H 11~13区	86
図 IV-15 遺構位置図(12): A・B 14~16区	87
図 IV-16 遺構位置図(13): C・D 14~16区	88
図 IV-17 遺構位置図(14): E・F 14~16区	89
図 IV-18 遺構位置図(15): G・H 14~16区	90
図 IV-19 遺構位置図(16): A・B 17~19区	91
図 IV-20 遺構位置図(17): C・D 17~19区	92
図 IV-21 遺構位置図(18): E・F 17~19区	93
図 IV-22 遺構位置図(19): G・H 17~19区	94
図 IV-23 遺構位置図(20): A・B 20~22区	95
図 IV-24 遺構位置図(21): C・D 20~22区	96
図 IV-25 遺構位置図(22): E・F 20~22区	97
図 IV-26 遺構位置図(23): G・H 20~22区	98
図 IV-27 遺構位置図(24): A・B 23~25区	99
図 IV-28 遺構位置図(25): C・D 23~25区	100
図 IV-29 遺構位置図(26): E・F 23~25区	101
図 IV-30 盛土遺構・削平凹地位置図	102

V 幸連5遺跡の西側遺構群

図 V-1 西側遺構群遺構位置図	263
------------------	-----

図V-2	西側遺構群竪穴住居跡位置図	264
図V-3	西側遺構群竪穴住居跡位置図(等高線あり)	265
図V-4	西側遺構群フラスコ状土坑位置図	266
図V-5	西側遺構群柱穴状土坑位置図	267
図V-6	西側遺構群その他の土坑位置図	268
図V-7	西側遺構群焼土・小礫集中位置図	269
図V-8(1)	H-1(1-1)	270
図V-8(2)	H-1(1-2)	271
図V-9	H-1(2)	272
図V-10	H-1(3)	273
図V-11	H-1(4)	274
図V-12	H-1(5)	275
図V-13	H-1(6)	276
図V-14	H-1(7)	277
図V-15(1)	H-1(8-1)	278
図V-15(2)	H-1(8-2)	279
図V-16	H-1(9)	280
図V-17	H-2(1)	281
図V-18	H-2(2)	282
図V-19	H-2(3)	283
図V-20	H-2(4)	284
図V-21	H-2(5)	285
図V-22	H-2(6)	286
図V-23	H-2(7)	287
図V-24	H-2(8)	288
図V-25	H-2(9)	289
図V-26	H-2(10)	290
図V-27	H-3(1)	291
図V-28	H-3(2)	292
図V-29	H-3(3)	293
図V-30	H-3(4)	294
図V-31	H-3(5)	295
図V-32	H-3(6)	296
図V-33	H-3(7)	297
図V-34	H-3(8)	298
図V-35	H-3(9)	299
図V-36	H-3(10)	300
図V-37	H-4(1)	301
図V-38	H-4(2)	302

図V-39	H-4(3)	303
図V-40	H-4(4)	304
図V-41	H-5(1)	305
図V-42	H-5(2)	306
図V-43	H-8(1)	307
図V-44	H-8(2)	308
図V-45	H-8(3)	309
図V-46	H-8(4)	310
図V-47	H-9(1)	311
図V-48	H-9(2)	312
図V-49	H-9(3)	313
図V-50	H-9(4)	314
図V-51	H-9(5)	315
図V-52	H-9(6)	316
図V-53	H-9(7)	317
図V-54	H-9(8)	318
図V-55	H-9(9)	319
図V-56(1)	H-10・85・117(1-1)	320
図V-56(2)	H-10・85・117(1-2)	321
図V-57	H-10・85・117(2)	322
図V-58	H-10・85・117(3)	323
図V-59	H-10・85・117(4)	324
図V-60	H-10・85・117(5)	325
図V-61	H-10・85・117(6)	326
図V-62	H-10・85・117(7)	327
図V-63	H-10・85・117(8)	328
図V-64	H-10・85・117(9)	329
図V-65	H-10・85・117(10)	330
図V-66	H-10・85・117(11)	331
図V-67	H-10・85・117(12)	332
図V-68	H-10・85・117(13)	333
図V-69	H-10・85・117(14)	334
図V-70	H-10・85・117(15)	335
図V-71	H-10・85・117(16)	336
図V-72	H-11(1)	337
図V-73	H-11(2)	338
図V-74	H-11(3)	339
図V-75	H-11(4)	340
図V-76	H-12(1)	341
図V-77	H-12(2)	342

圖 V-78	H-12(3)	343	圖 V-118	H-39(1)	382
圖 V-79	H-16(1)	344	圖 V-119	H-39(2)	383
圖 V-80	H-16(2)	345	圖 V-120	H-40	384
圖 V-81	H-16(3)	346	圖 V-121	H-43(1)	385
圖 V-82	H-16(4)	347	圖 V-122	H-43(2)	386
圖 V-83	H-16(5)	348	圖 V-123	H-45·70(1)	387
圖 V-84	H-17(1)	349	圖 V-124	H-45·70(2)	388
圖 V-85	H-17(2)	350	圖 V-125	H-48(1)	389
圖 V-86	H-17(3)	351	圖 V-126	H-48(2)	390
圖 V-87	H-17(4)	352	圖 V-127	H-49(1)	391
圖 V-88	H-18(1)	353	圖 V-128	H-49(2)	392
圖 V-89	H-18(2)	354	圖 V-129	H-49(3)	393
圖 V-90	H-18(3)	355	圖 V-130	H-49(4)	394
圖 V-91	H-18(4)	356	圖 V-131	H-49(5)	395
圖 V-92	H-18(5)	357	圖 V-132	H-49(6)	396
圖 V-93	H-19(1)	358	圖 V-133	H-49(7)	397
圖 V-94	H-19(2)	359	圖 V-134	H-49(8)	398
圖 V-95	H-19(3)	360	圖 V-135	H-54(1)	399
圖 V-96	H-23(1)	361	圖 V-136	H-54(2)	400
圖 V-97	H-23(2)	362	圖 V-137	H-55	401
圖 V-98	H-23(3)	363	圖 V-138	H-56(1)	402
圖 V-99	H-24	364	圖 V-139	H-56(2)	403
圖 V-100	H-25(1)	365	圖 V-140	H-57(1)	404
圖 V-101	H-25(2)	366	圖 V-141	H-57(2)	405
圖 V-102	H-25(3)	367	圖 V-142	H-58(1)	406
圖 V-103	H-25(4)	368	圖 V-143	H-58(2)	400
圖 V-104	H-25(5)	369	圖 V-144	H-60(1)	407
圖 V-105	H-25(6)	370	圖 V-145	H-60(2)	408
圖 V-106	H-26	371	圖 V-146	H-61(1)	409
圖 V-107	H-29(1)	372	圖 V-147	H-61(2)	410
圖 V-108	H-29(2)	373	圖 V-148	H-61(3)	411
圖 V-109	H-30(1)	374	圖 V-149	H-64(1)	412
圖 V-110	H-30(2)	375	圖 V-150	H-64(2)	413
圖 V-111	H-32(1)	376	圖 V-151	H-64(3)	414
圖 V-112	H-32(2)	373	圖 V-152	H-66(1)	415
圖 V-113	H-33(1)	377	圖 V-153	H-66(2)	416
圖 V-114	H-33(2)	378	圖 V-154	H-66(3)	417
圖 V-115	H-34	379	圖 V-155	H-66(4)	418
圖 V-116	H-35	380	圖 V-156	H-67	419
圖 V-117	H-38	381	圖 V-157	H-68	420

圖 V-158	H-69	421	圖 V-198	H-112(1)	460
圖 V-159	H-71(1)	422	圖 V-199	H-112(2)	461
圖 V-160	H-71(2)	423	圖 V-200	H-115	462
圖 V-161	H-71(3)	424	圖 V-201	H-116(1)	463
圖 V-162	H-71(4)	425	圖 V-202	H-116(2)	464
圖 V-163	H-71(5)	426	圖 V-203	H-121(1)	465
圖 V-164	H-71(6)	427	圖 V-204	H-121(2)	466
圖 V-165	H-71(7)	428	圖 V-205	H-121(3)	467
圖 V-166	H-72·73	429	圖 V-206	H-122	468
圖 V-167	H-75	430	圖 V-207	H-124(1)	469
圖 V-168	H-77	431	圖 V-208	H-124(2)	468
圖 V-169	H-80	432	圖 V-209	H-126	470
圖 V-170	H-87	433	圖 V-210	H-127(1)	471
圖 V-171	H-91·99(1)	434	圖 V-211	H-127(2)	470
圖 V-172	H-91·99(2)	435	圖 V-212	H-128	472
圖 V-173	H-91·99(3)	436	圖 V-213	H-131(1)	473
圖 V-174	H-92·120(1)	437	圖 V-214	H-131(2)	474
圖 V-175	H-92·120(2)	438	圖 V-215	H-135	475
圖 V-176	H-92·120(3)	439	圖 V-216	H-136	476
圖 V-177	H-92·120(4)	440	圖 V-217	H-139(1)	477
圖 V-178	H-92·120(5)	441	圖 V-218	H-139(2)	478
圖 V-179	H-92·120(6)	442	圖 V-219	H-139(3)	479
圖 V-180	H-92·120(7)	443	圖 V-220	H-142	480
圖 V-181	H-92·120(8)	444	圖 V-221	H-143(1)	481
圖 V-182	H-92·120(9)	445	圖 V-222	H-143(2)	482
圖 V-183	H-92·120(10)	446	圖 V-223	P-6	483
圖 V-184	H-96(1)	447	圖 V-224	P-7(1)	484
圖 V-185	H-96(2)	448	圖 V-225	P-7(2)	485
圖 V-186	H-97(1)	449	圖 V-226	P-12	486
圖 V-187	H-97(2)	448	圖 V-227	P-14	487
圖 V-188	H-100A(1)	450	圖 V-228	P-18	488
圖 V-189	H-100A(2)	451	圖 V-229	P-26	489
圖 V-190	H-100A(3)	452	圖 V-230	P-27	490
圖 V-191	H-100B(1)	453	圖 V-231	P-31	491
圖 V-192	H-100B(2)	454	圖 V-232	P-33·34	492
圖 V-193	H-109	455	圖 V-233	P-42	493
圖 V-194	H-110A(1)	456	圖 V-234	P-43	494
圖 V-195	H-110A(2)	457	圖 V-235	P-44·45·46	495
圖 V-196	H-110B(1)	458	圖 V-236	P-48	496
圖 V-197	H-110B(2)	459	圖 V-237	P-54	497

圖 V-238	P-56 · 57	498	圖 V-278	P-295	538
圖 V-239	P-59 · 60	499	圖 V-279	P-297	539
圖 V-240	P-65(1)	500	圖 V-280	P-298 · 300	540
圖 V-241	P-65(2) · 67	501	圖 V-281	P-306 · 308	541
圖 V-242	P-68	502	圖 V-282	P-309 · 310	542
圖 V-243	P-69 · 70	503	圖 V-283	P-313	543
圖 V-244	P-71 · 73	504	圖 V-284	P-314 · 320	544
圖 V-245	P-74	505	圖 V-285	P-329 · 330	545
圖 V-246	P-75	506	圖 V-286	P-333 · 336	546
圖 V-247	P-76 · 77	507	圖 V-287	P-339 · 340	547
圖 V-248	P-78 · 79 · 80	508	圖 V-288	P-341 · 348	548
圖 V-249	P-81	509	圖 V-289	P-356 · 363	549
圖 V-250	P-91 · 96	510	圖 V-290	P-366	550
圖 V-251	P-97	511	圖 V-291	P-367	551
圖 V-252	P-98	512	圖 V-292	P-368	552
圖 V-253	P-99	513	圖 V-293	P-369	553
圖 V-254	P-100 · 101	514	圖 V-294	P-380 · 387	554
圖 V-255	P-104 · 112	515	圖 V-295	P-388 · 392	555
圖 V-256	P-122 · 123	516	圖 V-296	P-393 · 394	556
圖 V-257	P-128	517	圖 V-297	P-398 · 400	557
圖 V-258	P-129	518	圖 V-298	P-405(1)	558
圖 V-259	P-132	519	圖 V-299	P-405(2) · 408	559
圖 V-260	P-133	520	圖 V-300	P-414 · 415	560
圖 V-261	P-140	521	圖 V-301	P-417 · 419	561
圖 V-262	P-156 · 157	522	圖 V-302	P-420 · 423	562
圖 V-263	P-159 · 162	523	圖 V-303	P-427 · 429	563
圖 V-264	P-164 · 165	524	圖 V-304	P-443 · 448	564
圖 V-265	P-181	525	圖 V-305	P-449 · 451(1)	565
圖 V-266	P-191	526	圖 V-306	P-451(2)	566
圖 V-267	P-202 · 203(1)	527	圖 V-307	P-455 · 483	567
圖 V-268	P-202 · 203(2)	528	圖 V-308	P-509 · 519	568
圖 V-269	P-202 · 203(3) · 205	529	圖 V-309	P-546 · 569 · 570	569
圖 V-270	P-206	530	圖 V-310	P-571 · 572(1)	570
圖 V-271	P-207	531	圖 V-311	P-572(2)	571
圖 V-272	P-226	532	圖 V-312	P-585 · 593	572
圖 V-273	P-238	533	圖 V-313	P-592	573
圖 V-274	P-256 · 257	534	圖 V-314	P-4	574
圖 V-275	P-280 · 281	535	圖 V-315	P-38 · 41 · 47	575
圖 V-276	P-286 · 288	536	圖 V-316	P-49 · 52	576
圖 V-277	P-289	537	圖 V-317	P-58 · 63	577

図 V-318	P-64 · 72 · 85	578	図 V-352	P-375 · 378 · 379	612
図 V-319	P-88 · 89	579	図 V-353	P-381 · 382 · 383	613
図 V-320	P-94 · 95	580	図 V-354	P-384 · 385 · 356	614
図 V-321	P-105 · 106	581	図 V-355	P-390 · 395 · 397	615
図 V-322	P-120 · 121 · 139	582	図 V-356	P-399 · 401 · 402	616
図 V-323	P-143 · 145 · 146 · 151	583	図 V-357	P-410 · 411 · 412	617
図 V-324	P-147 · 149	584	図 V-358	P-422 · 424 · 425	618
図 V-325	P-163 · 166 · 169	585	図 V-359	P-426 · 430 · 431 · 435	619
図 V-326	P-176 · 179 · 180	586	図 V-360	P-432 · 433 · 434	620
図 V-327	P-184 · 185	587	図 V-361	P-436 · 437 · 438 · 439	621
図 V-328	P-188 · 189 · 194	588	図 V-362	P-445 · 446 · 447 · 456	622
図 V-329	P-208 · 234	589	図 V-363	P-457 · 458	623
図 V-330	P-237 · 239 · 247	590	図 V-364	P-459 · 460 · 461	624
図 V-331	P-249 · 250 · 251	591	図 V-365	P-462 · 464 · 467	625
図 V-332	P-252 · 253 · 254	592	図 V-366	P-468 · 469 · 470 · 471	626
図 V-333	P-255 · 264 · 265	593	図 V-367	P-473 · 474 · 480	627
図 V-334	P-266 · 268 · 275	594	図 V-368	P-484 · 485 · 486	628
図 V-335	P-277 · 278 · 279	595	図 V-369	P-489 · 490 · 491 · 492 · 493	629
図 V-336	P-283 · 287	596	図 V-370	P-498 · 499 · 503 · 504	630
図 V-337	P-290 · 291 · 292	597	図 V-371	P-510 · 520 · 541 · 542	631
図 V-338	P-296 · 299	598	図 V-372	P-521~540 · 553~555 · 560 · 565~ 568 · 600 · 601 (1)	632
図 V-339	P-301 · 303 · 304	599	図 V-373	P-521~540 · 553~555 · 560 · 565~ 568 · 600 · 601 (2)	633
図 V-340	P-307 · 311 · 312	600	図 V-374	P-556~558 · 561~563	634
図 V-341	P-315 · 316 · 317	601	図 V-375	P-575~579 · 581 · 582	635
図 V-342	P-318 · 319 · 321	602	図 V-376	P-589~591 · 595	636
図 V-343	P-322 · 324 · 325 · 326	603	図 V-377	P-3 · 5 · 13	637
図 V-344	P-327 · 328 · 332	604	図 V-378	P-19 · 20	638
図 V-345	P-334 · 335 · 337 · 338	605	図 V-379	P-30 · 53	639
図 V-346	P-346 · 350 · 353~355	606	図 V-380	P-66 · 82	640
図 V-347	P-361 · 362 · 365	607	図 V-381	P-83 · 84	641
図 V-348	P-370~373	608	図 V-382	P-86 · 87	642
図 V-349	P-374 · 407 · 440 · 495~497 · 500 · 501 · 512~518 · 543~545 · 547~ 552 · 580 (1)	609	図 V-383	P-107 · 114	643
図 V-350	P-374 · 407 · 440 · 495~497 · 500 · 501 · 512~518 · 543~545 · 547~ 552 · 580 (2)	610	図 V-384	P-134	644
図 V-351	P-374 · 407 · 440 · 495~497 · 500 · 501 · 512~518 · 543~545 · 547~ 552 · 580 (3)	611	図 V-385	P-136 · 138	645
			図 V-386	P-144 · 150 · 599 · 158	646
			図 V-387	P-182 · 183 · 223	647
			図 V-388	P-240 · 245 · 258	648
			図 V-389	P-285	649

図 V - 390	P - 293・294・302	650
図 V - 391	P - 305・331・344	651
図 V - 392	P - 345・347	652
図 V - 393	P - 349・357・358	653
図 V - 394	P - 377・396	654
図 V - 395	P - 406・421・428	655
図 V - 396	P - 450・452~454	656
図 V - 397	P - 463・476	657
図 V - 398	P - 481・487	658
図 V - 399	P - 507・573・574	659
図 V - 400	P - 583・584・586	660
図 V - 401	P - 587・588・594	661

図 V - 402	P - 596・598	662
図 V - 403	F - 1・2・3・4	663
図 V - 404	F - 13・19・20・21・23	664
図 V - 405	F - 28・30・32~36	665
図 V - 406	F - 37~38	666
図 V - 407	F - 39~41	667
図 V - 408	F - 42~48	668
図 V - 409	S B - 1 ~ 4	669
図 V - 410	石棒ビット・倒立土器	670
図 V - 411	細跡(1)	671
図 V - 412	細跡(2)	672

第1分冊 表目次

I 調査の概要

表I-1 遺構数一覧	5
表I-2 土器・土製品集計表	6
表I-3 石器・石製品・骨角器等集計表	6

II 遺跡の位置と環境

表II-1(1) 木古内町域の遺跡(1)	12
表II-1(2) 木古内町域の遺跡(2)	13
表II-2(1) 上磯地塊山地東・南麓の遺跡群(1)	16
表II-2(2) 上磯地塊山地東・南麓の遺跡群(2)	17

III 調査の方法

表III-1 土層断面①注記	48
表III-2 土層断面①②③注記	49
表III-3 土層断面②③注記	50
表III-4 土層断面③④注記	51
表III-5 土層断面④注記	52
表III-6 土層断面⑤⑥注記	53

表III-7 土層断面⑥注記	54
表III-8 土層断面⑥⑦注記	55
表III-9 土層断面⑦⑧注記	56
表III-10 土層断面⑧注記	57
表III-11 土層断面⑧⑨注記	58
表III-12 土層断面⑨⑩注記	59
表III-13 土層断面⑩⑪注記	60
表III-14 土層断面⑪注記	61
表III-15 土層断面⑪⑫注記	62
表III-16 土層断面⑫注記	63
表III-17 土層断面⑫⑬注記	64
表III-18 土層断面⑬⑭注記	65
表III-19 土層断面⑭⑮注記	66
表III-20 土層断面⑮注記	67
表III-21 石器細分類表	70

V 幸連S遺跡の西側遺構群

表V-1 遺構一覧(堅穴住居跡)	673
表V-2 遺構一覧(土坑)	679
表V-3 遺構一覧(焼土)	694

第1分冊 写真図版目次

口絵

- 口絵1 検出された遺構群（合成処理によるイメージ画像） 俯瞰
- 口絵2 遺跡周辺近景 NW→SE
遺跡周辺近景 S→N
- 口絵3 遺跡周辺近景 NE→SW
遺跡近景 E→W
- 口絵4 東側斜面盛土
東側傾斜盛土
西側遺構重複状況
東側遺構重複状況
炭化クリ子葉埋納柱穴（P-147）
貝層出土状況（H-9）
フラスコ状土坑に埋納された炭化クリ子葉（P-479）
フラスコ状土坑に埋納された炭化イネ科茎（P-297）
- 口絵5 遺物出土状況（H-2）
遺物出土状況（H-1）
埋壺炉体土器の使用痕跡（H-116）
土製品出土状況（H-44）
柱穴埋納土器（H-17）
斜面倒立土器（D7区）
破片を敷き並べた土器（H-100A）
破片を敷き並べた土器（H-49）
- 口絵6 H-2 榎林式土器集合写真
H-2 大安在B式土器集合写真
- 口絵7 H-7・16ノグップⅡ式土器集合写真
H-1 煉瓦台式土器集合写真
- 口絵8 三角形石製品出土状況（H-49）
炭化繊維出土状況（H-64）
側縁有溝石器出土状況（H-83）
長野県産黒曜石製石鎌出土状況（E24区）
刃部突出形石刀出土状況（E14区）
青竜刀形石器出土状況（P-35）
石棒埋納フラスコ状土坑と西側盛土の関係（P-129）

クジラ類肋骨が納められたフラスコ状土坑（P-111）

- 口絵9 H-49出土の人の顔が描かれた三角形石製品（表裏）
長野県産黒曜石製石鎌・H-64出土炭化繊維
- 口絵10 多様な土製品（上段）と石製品（中・下段）

Ⅱ 幸連5遺跡の位置と環境

- 写真図版Ⅱ-1 近代の畑の痕跡…………… 7
- 写真図版Ⅱ-2 橋興川河口…………… 7
- 写真図版Ⅱ-3 木古内漁港（札刈地区）東側の平磯…………… 7
- 写真図版Ⅱ-4 調査区のソイルマーク…………… 9

Ⅲ 幸連5遺跡の調査方法

- 写真図版Ⅲ-1 竪穴住居跡・土坑・盛土遺構・削平地の堆積状況…………… 25
- 写真図版Ⅲ-2 竪穴住居跡壁面の断層…………… 25
- 写真図版Ⅲ-3 Ⅱ層堆積状況…………… 25
- 写真図版Ⅲ-4 竪穴住居跡床面に残る湧水痕…………… 26
- 写真図版Ⅲ-5 土手状盛土層断面…………… 26
- 写真図版Ⅲ-6 斜面盛土層断面…………… 26
- 写真図版Ⅲ-7 整地層断面…………… 27
- 写真図版Ⅲ-8 ローム層断面…………… 27
- 写真図版Ⅲ-9 段丘砂礫層断面…………… 27

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：高規格幹線道路兩館江差自動車道建設工事用地内埋藏文化財発掘調査（幸連5遺跡外）

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

遺 跡 名：幸連5遺跡（北海道教育委員会登載番号B-05-62）

所在地：上磯郡木古内町字幸連206、209、215、216

調査面積：2687m²

発掘期間：平成28年10月21日～11月9日 ：平成29年5月11日～11月17日

：平成30年5月9日～10月26日　　：令和元年5月10日～10月24日

整理期間：平成28年7月1日～令和5年3月31日

2 調査体制

幸達5遺跡の発掘調査から整理報告期間（平成28年10月～令和5年3月）における当センターの調査体制は次のとおり。

理 事 長	越 田 賢一郎	平成27年 6 月26日～令和元年 6 月21日
	長 沼 孝	令和元年 6 月21日～現在に至る
副 理 事 長	中 田 仁	平成27年 6 月26日～令和元年 6 月21日
専 務 理 事	山 田 寿 雄	平成27年 6 月26日～令和元年 6 月18日
	馬 橋 功	令和 3 年 6 月18日～現在に至る
常 務 理 事	長 沼 孝	平成27年 6 月26日～令和元年 6 月21日
	鈴 木 信	令和元年 6 月21日～現在に至る
事 務 局 長	山 田 寿 雄	兼 務 ～令和元年 6 月18日
	馬 橋 功	兼 務
総 務 部 長	和 田 基 興	平成24年 6 月11日～平成30年 6 月22日
	成 田 直 彦	平成30年 6 月25日～令和 2 年 3 月31日
	馬 橋 功	令和 2 年 4 月 1 日～現在に至る
第 1 調 査 部 長	長 沼 孝	兼 務 ～令和元年 6 月21日
	鈴 木 信	兼 務

第1調査部第3調査課

課長	土肥研 晶	～平成29年3月31日
主査	吉田 裕吏洋	～平成29年3月31日

第1調査部第2調査課

課長	土肥研晶	平成29年4月1日～現在に至る
主査	富永勝也	平成29年4月1日～令和3年3月31日
主査	大泰司 統	平成30年4月1日～令和3年3月31日
主査	福井淳一	平成29年4月1日～現在に至る
主査	吉田裕史洋	平成29年4月1日～令和3年3月31日
主査	酒井秀治	平成29年4月1日～現在に至る

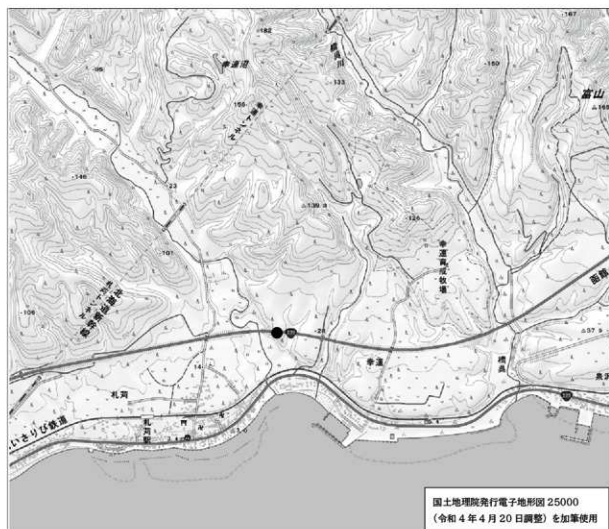


図 I - 1 幸連5遺跡の位置

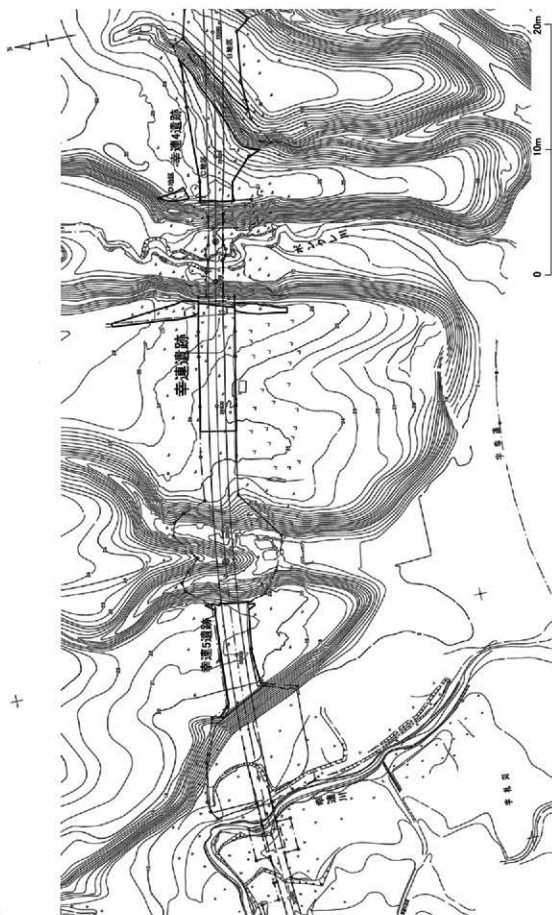


図 1-2 幸運 5 遺跡周辺の地形と調査範囲

3 調査に至る経緯

平成11年、国土交通省北海道開発局函館開発建設部（以下「函館開建」）は、函館江差自動車道、茂辺地木古内道路における埋蔵文化財包蔵地に関する事前協議書を北海道教育委員会（以下「道教委」）に提出した。これを受けて現地踏査を実施した道教委は、木古内町内の大釜谷から大平までの範囲において15地点に関して所在確認調査が必要と通知した。幸連地域における範囲確認調査は平成27年7月7日から9日にかけて道教委が実施し、このとき新たに発見された幸連5遺跡は、工事範囲のすべてが発掘調査の対象となった。しかし遺跡の西側は幸連川左岸の段丘崖、東側は小沢に深く開析されており、幸連川を渡る工事用道路が開通しなければ重機も近づけない地点であった。また、調査地点の両側の用地交渉も難航しており、函館開建からは用地取得が早くて平成28年度となるみこみで、平成31年度に木古内インターの共用開始の計画実現のためには、平成29年に調査着手、完了させてほしいと要望があった。道教委は対象地域全域が発掘調査必要範囲になった結果と調査区内に盛土遺構が含まれることから、調査を単年度で終了させることは困難である可能性があるため、平成28年度に一部でも人力で発掘調査を実施することが可能か工程の検討を求めた。平成28年9月、幸連川をわたり遺跡を迂回し、東側の谷から調査地点に近づく工事用道路の完成も間近となり、現地調査の準備を進めることが可能となった。こうして、10月21日より東側斜面の発掘調査着手に至った。

4 調査の経過

平成28年10月21日から11月9日、まだ森林だった調査区のうち、調査区東南端で樹木の伐採と搬出のための進入斜路を取り付けるための発掘調査を実施した。調査前に現地では、水抜き管の埋設地や側溝脇の斜面に、盛土遺構が広がるのを確認できた。当初の調査計画では、400㎡程度の調査を行い台地上の状況を把握することも目的であったが、調整のすえ、調査面積は台地の縁の61㎡にとどまった。調査期間も11月に入り悪天候が続くなか、調査を終了させたが、結果は、調査区全面が斜面に堆積する縄文時代の盛土層で、台地上の平坦面の状態を探るには至らなかったが、出土遺物は6万3千点で、1㎡当たり1,000点を超える出土量で、台地上に大集落があることが予測された。

平成29年度の調査は、計画2,234㎡の調査を終える方針ではじまった。昨年までの結果から台地上には大規模な集落跡があることや、地形図から南北に延びる2列の盛土遺構があることが予測された。調査を進めるにつれ、それ以上に隙間なく重なる堅穴住居跡群や、その下にフラスコ状土坑群が存在することを確認した。さらに調査が進むにつれ遺構数も増し、終了が困難であることが判明した。おりしも対岸で、調査終了後に橋台敷設工事の着工が計画されている幸連遺跡でも計画をこえる遺構・遺物が検出され、そちらの終了を優先させるため、作業人工を落としての調査だった。調査期間の終盤の10月4日、道教委と函館開建が現地の立会で、当初計画の調査終了する方針を改め、調査区北側の10m幅を優先させ進めることとなった。また、発掘期間を11月8日まで延期させるなどの対応をとった。しかし、調査区北側は土層の堆積も厚く、遺構も複雑に重なる状況があり、調査は思うように進捗しなかった。そのような厳しい調査状況下の10月19日、「人の顔が描かれた三角形石製品」が堅穴住居跡覆土から出土した。11月16日の函館開建と道教委との三者協議で、函館開建側からは、今年度の様々な調査努力を承知したうえで、調査結果について理解したこと、来年度も調査を継続してほしいこと、また、調査が難航し再来年までかかるようであれば、調査計画の作成を願いたい旨が伝えられ、センターは再来年度まで調査期間がほしいと要請し、調査計画を練り直すこととなった。平成29年度は現地調査を11月8日、現場養生等を11月17日までおこない終了した。11月29日、道教委記者クラブで「人の顔が描かれた三角形石製品」の共同記者発表をおこなった。平成29年度の

調査成果は、12月18日当センターで両館開建、道教委の三者協議で確認し、当初の2,234㎡を終了させる計画から、1,455㎡を着手したという結果となった。着手した遺構は堅穴住居跡84軒、土坑108基、焼土21か所であった。その席上、当方から来年度の調査についても6カ月間の期間を要し、それでも平成30年度内に完了するのは厳しく、平成31年度（令和元年度）に3カ月程度の調査期間がほしいと要望。両館開建は、幸速5遺跡の調査見通しについて了解し、工事工程を見直す考えを示した。

平成30年の調査は、多数検出される遺構や遺物に対応し調査を進めるため、体制の拡充をはかり、5月9日から10月26日の期間で調査をおこなった。その結果1,065㎡の調査を終え、調査を進めた遺構は堅穴住居跡124軒、土坑280基、焼土45か所となった。6月22日には長野県産の黒曜石製の石鏃が出土し、昨年出土した石鏃の中からも1点みづかり、あわせて2点を確認した。道内では2・3例目で、原産地から最も遠方の出土例となった。7月26日、両館開建は幸速5遺跡の調査期間見直しから木古内I Cの開通時期を平成31年度から平成33年度に正式に変更した。11月1日両館開建と道教委の三者で打ち合わせ、残りの1,622㎡の調査を最大10月までに終了させることと、整理計画は平成35年度で計画している旨を伝えた。12月14日、長野県産黒曜石製の石鏃の共同記者発表をおこなった。

令和元年の調査は、5月10日から10月24日の期間で行い、残り1,622㎡の調査を終了、幸速5遺跡の現地調査を終えた。調査面積は合計2,748㎡、調査終了時の遺構数は堅穴住居跡143軒、土坑595基、焼土48か所の遺構が検出され、出土遺物は160万点に達した。ただし遺構数は整理に伴い、堅穴住居跡135軒、土坑588基、焼土44か所などとなった。整理計画はのちの調整で令和4年度までとなり、整理期間が1年間短縮された。幸速5遺跡の現地調査が2年延びたことで、木古内茂辺地道路の工事工程にも影響をのこし、茂辺地木古内道路は当初計画から2年遅れ、令和4年3月26日北茂辺地I C－木古内I C間が開通した。

(土肥)

表I-1 遺構数一覧

		前期 結果	前期結果 ～ 中期前	前期結果 ～ 中期中	前期結果 ～ 中期後	前期 ～ 中期前	中期 結果	中期 ～ 後期中	中期結果 ～ 後期中	中期 ～ 後期中	中期結果 ～ 後期中	中期 ～ 後期中	後期 結果	合計 取捨 後期中	近代	不明	合計
遺 土 遺 構	西暦 表示 日付																
	西暦 表示 日付																
堅穴住 居 跡	前期																
	後期																
アラスコ 土 坑	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																
	後期																
西暦 表示 日付	前期																

表Ⅰ-2 土器・土製品集計表

	II群		III群		IV群		V群		土製品					陶磁器	合計
	IIa期	IIb期	IIIa期	IIIb期	IVa期	IV2	Va期	Vb期	土偶	ミコトピア	土製内器	焼成粘土	土製品		
竪穴住居跡		2,407	44,070	159,033	38,363	109			2	10	25	73	23		244,115
フラスコ状土坑		16,823	7,643	1,003	6		67				3	23	2		25,570
柱状土坑		517	785	959	409								2		2,672
その他の土坑		937	1,281	1,483	13						1	2			3,717
焼土		10	76	192								23	2		303
焼土遺構・包埋層	499	61,303	63,514	135,017	98,585	262	7	4	5	34	267	23	32		359,552
合 計	499	81,997	117,369	297,687	137,376	371	74	6	15	63	388	52	32		635,929

表Ⅰ-3 石器・石製品・骨角器等集計表

分 類		竪穴式住居	土坑	焼土	礫集中	石棒ピット	盛土遺構・包埋層	合 計
分 類	石 器	石鏃	519	107	1		833	1,460
		石槍	102	32			197	331
		ナイフ	15				26	41
		つまみ付きナイフ	78	29			226	333
		石錐	276	27			504	807
		スクレイパー	2,553	251	1		3,952	6,757
	石 器	筒状石器	33	6			79	118
		両面調整石器	118	23			269	410
		礫器・石核	19	4			76	99
		石核	531	68			1,060	1,659
		Rフレイク	999	112			2,528	3,639
		Uフレイク	3,056	200	1		5,328	8,585
	剥片	72,100	20,390	110	7	150,686	243,293	
	石 器	石斧	218	37			449	704
		石のみ	11	1			26	38
		石鋸	12	5			28	45
		たたき石	1,647	304	2	1	3,039	4,993
		凹み石	245	35		1	323	604
		扁平打製石器	608	91			901	1,600
すり石		259	33			421	713	
北海道式石冠		37	19			73	129	
礫石		250	19			389	658	
石錘		43	10			77	130	
台石		86	12	2		173	273	
石皿		138	24			124	286	
有孔礫・有意の礫		65	13	1		108	187	
加工痕のある礫	227	49		1	434	711		
被熱礫	549	84			3,222	3,855		
原石	1,003	385		6	1,255	2,649		
礫	183,474	36,774	193	107,944	352,728	681,113		
石製品		459	42	1		719	1,224	
骨角器		1	1			1	3	
金属器						6	6	
繊維製品		1					1	
合 計		269,732	59,187	312	107,960	3	530,260	967,454

II 幸連5遺跡の位置と環境

1 幸連5遺跡の位置と地質・地形

幸連5遺跡の所在する木古内町は、西は上ノ国町、南は知内町、北は厚沢部町、東は北斗市にそれぞれ隣接している。北側及び西側の内陸部は、桂岳・梯子岳・瓜谷山・尖岳・袴腰岳などの500～800mの山地となっている（図Ⅰ-1-上）。南側及び東側は津軽海峡を挟んで下北半島、津軽半島があり、調査地点からでも晴れた日であれば対岸がはっきり見えるような距離である。

幸連5遺跡は、北海道最南端・白神岬から北東約41.5km、函館山の麓・立待岬から西南西約20.5kmに位置する。立地は北海道南部津軽海峡に面する中段段丘上（標高20～22m）の平坦面である（図Ⅰ-1-下）。

遺跡の立地する海岸段丘は、西側を幸連川、東側を無名の沢に開析され、海岸線に向かって舌状となる。段丘上は、図Ⅱ-3の空中写真を見ると、少なくとも昭和23年までは畑地として利用されていたらしい。畝は傾斜に沿って東西方向に向いていた。地元の方の話では、調査区の地点は、ブラウによる耕起はなされず、人力での耕起であった。そのため遺跡の遺存状況が極めて良好であった。表土除去後にはその畝の様子がみられた（写真図版Ⅱ-1）。その後、昭和30年代以降の「拡大造林政策」によりスギが植林され、現在に至る。

周辺の海岸段丘は、北斗市富川より知内町森越まで連続するが、遺跡から見て東側の橋興川を境に北東部は5段の段丘がひな壇状に発達しているのに対し、西南部では2段しかないが、奥行きが広がっている。

遺跡の西側を南流する幸連川は、流路延長8km程度である。河口から約2.3km上流では黒色ピッチ質の油調があるらしい。河床には主にシルト岩・泥岩の偏平な円礫がみられた。幸連川河口に近づけないため、参考に橋興川河口の様子を示した（写真図版Ⅱ-2）。幸連5遺跡が形成された段丘と幸連川による沖積低地とは急崖によって画されており、その成因は断層によるものである。ほか茂辺地川・大釜谷川・亀川・大平川なども断層によって生じた地形を河川が流路としたものである。なお、遺跡東側の無名の沢に面する調査中の壁面にはカワセミが営巣し、子育てしていた。

海岸は、木古内町札苅以東北斗市富川以西間は平磯（写真図版Ⅱ-3）、それより東西は主に砂浜となっている。なお、河川の河口周辺は礫浜ないし砂浜である。

地質環境を概観すると、遺跡周辺は新第三紀中新世に堆積したシルト岩・泥岩層・硬質頁岩層などからなる木古内層・厚沢部層（Ym・As）がある。山地には中生代



写真図版Ⅱ-1 近代の畑の畝跡

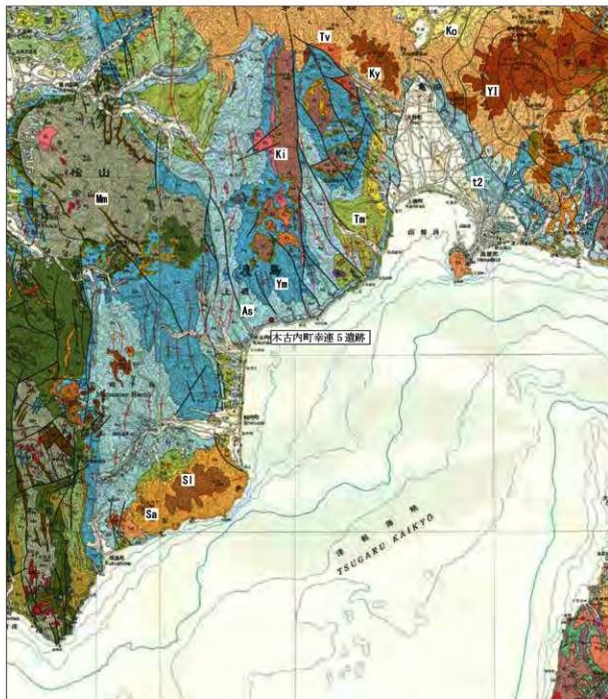


写真図版Ⅱ-2
橋興川河口



写真図版Ⅱ-3 木古内漁港（札苅地区）東側の平磯

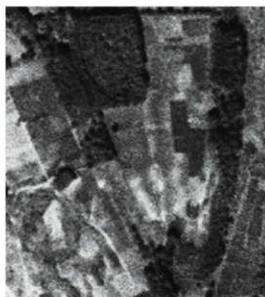
の粘板岩・千枚岩・砂岩・チャート・石灰岩からなる上磯層群（K i）がある。調査区で確認された段丘砂礫層にはその影響か、珪質頁岩やチャート円礫などが含まれた。また古い岩体から洗い出された化石マキヤマ・ナタニイも多く含まれ、段丘砂礫層由来土を含む土層水洗の残渣から多く検出された。なお、大平川上流には硫化鉄鉱床があり、顔が描かれた三角形石製品の顔料の由来物かもしれない。



図Ⅱ-1 遺跡の位置と周辺の地質

（地質調査所昭和59年発行 1：200,000地質図 函館及び渡島大島の一部に加筆した）

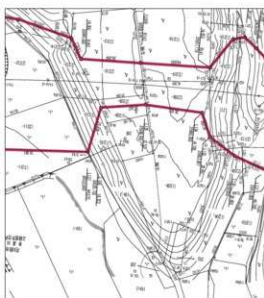
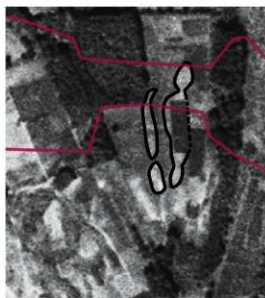
（凡例） t 2：低位段丘堆積物、As：厚沢部層など、Ym：木古内層など、Yl：横津岳溶岩、Ky：木地挽山溶岩、S1：輝石安山岩溶岩、Sa：知内火山岩類・函館山火山岩類、Tm：館層など、Ki：上磯層群など、Mm：松前層群



USA/M1153・CA16 (1948/08/27)



USA/R250・CE94 (1948/04/23)



図Ⅱ-2 空中写真に現れた幸連5遺跡のソイルマーク



写真図版Ⅱ-4 調査区のソイルマーク

1948年に撮影された空中写真を見ると、畑地において暗色部と白色部がみられる。左が8月、右が4月で、8月の方で明瞭に差がみえる。下に今回の調査開始時、表土除去直後の写真に示したが、盛土遺構部分が褐色を呈しており、それ以外の部分は黒色～暗褐色を呈していた。したがって、空中写真で見える白色部分は盛土遺構の主な構成土質であるローム質土を反映したと理解することができる。つまり、盛土遺構のソイルマークと考えられる。



図Ⅱ-3 (1) 幸連5 遺跡周辺の空中写真の変遷 (1)



図Ⅱ-3 (2) 幸連5遺跡周辺の空中写真の変遷 (2)

2 幸連5遺跡周辺の遺跡

木古内町内で登載されている遺跡は、令和4（2022）年現在62か所である。そのうち、34遺跡の調査がなされている（表Ⅱ-1）。地形区分からは北斗市富川～木古内町木古内までが海岸に面した段丘上に立地する遺跡群として捉える事が可能である（図Ⅱ-4、表Ⅱ-2）。

旧石器文化期は、4遺跡から細石刃石器群が確認された。

縄文文化早期前葉は遺物のみ確認。堅穴住居跡は、早期中・後葉は5遺跡で検出、早期中葉は釜谷で12軒、早期後葉は4遺跡で1～6軒検出。前期前半は1遺跡で1軒検出。前期後半は22遺跡で検出、館野6、釜谷、釜谷5、大平では30軒以上検出。中期前半は21遺跡で検出、幸連5遺跡では21軒以上検出。中期後半は19遺跡で検出、館野、館野2、幸連5、新道4は28軒以上検出。後期前葉は住居跡検出遺跡が26遺跡、館野、茂辺地4で14軒以上検出。後期中葉の検出例はない。後期後葉では5遺跡で検出、矢不來7、札羽7、新道4が8軒以上。晩期の検出例は少ない。晩期前葉は墓の検出例が大釜谷3、札羽が多いが、中・後葉は住居跡・土坑とも少ない。前葉～中葉の大規模な「捨て場」が札羽7で検出されている。

続縄文期は前半期の茂別以外に遺構検出例ない。擦文期は大平・矢不來3で住居跡が6軒以下検出。中世並行期は館跡が2遺跡で知られる。近世並行期は畑跡が3遺跡、建物2遺跡で検出された。

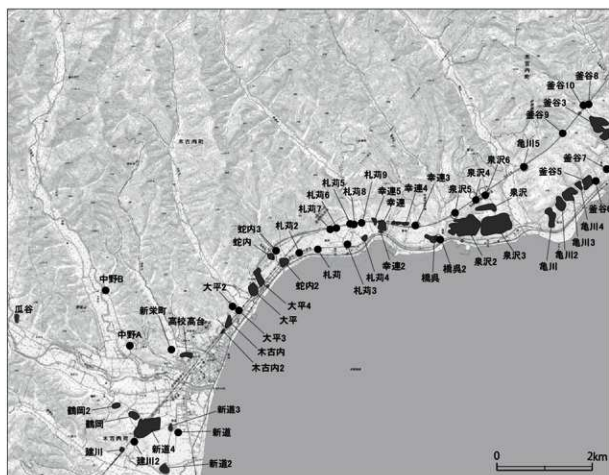
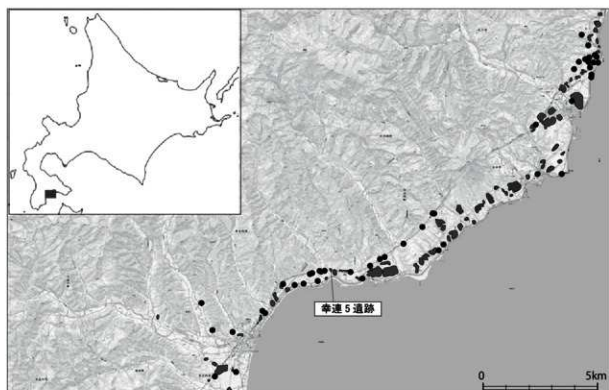
幸連5遺跡の遺物出現率（出土遺物点数÷調査面積）は600とほかの遺跡と比べものにならない出現率であり、幸連5と同レベルの館跡は646であった。幸連5の遺構出現率（検出住居跡÷検出土坑数÷調査面積）も26.4％とほかの遺跡とは比べものにならない出現率であった（表Ⅱ-2）。（福井）

表Ⅱ-1（1）木古内町域の遺跡（1）

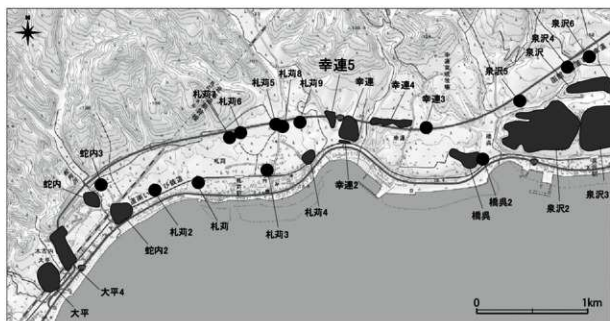
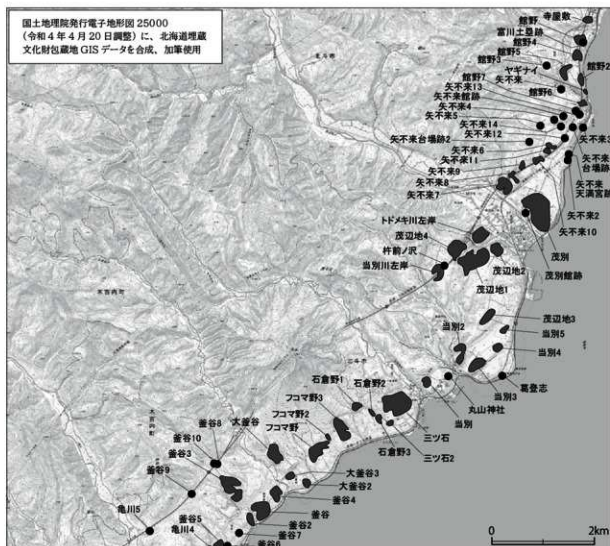
no.	登録番号	名称	標記	時代	所在地	立地	標高 (m)	調査
1	B-05-015	大釜谷2遺跡	遺物包含地	縄文（前・中・後）	木古内町大字釜谷14-2,14,22,23-1,2,24-1	海岸段丘（M1区）	15～26	
2	B-05-047	大釜谷3遺跡	集落跡	縄文（前・中・後・晩期）	木古内町大字釜谷44,45-1,2,3,33-1	海岸段丘（M2区）	14～36	2001町教委
3	B-05-002	大釜谷遺跡	遺物包含地	縄文（中・後葉）	木古内町大字釜谷55-1,55,56-2～5,61-1 ～4,115-1,4-8,12-18	海岸段丘（M1区）	45～60	
4	B-05-058	釜谷10遺跡	遺物包含地	縄文（後期）	木古内町大字釜谷29-43	海岸段丘（H2区）	77～84	2016道博文
5	B-05-051	釜谷8遺跡	遺物包含地	縄文（早・中・後・晩期）	木古内町大字釜谷29-43	海岸段丘（H2区）	81～85	2011～12道博文
6	B-05-052	釜谷9遺跡	遺物包含地	縄文	木古内町大字釜谷29-55	海岸段丘（H2区）	95～105	
7	B-05-036	釜谷3遺跡	遺物包含地	縄文（後期）	木古内町大字釜谷29-43,30-37	海岸段丘（M1区）	50～60	
8	B-05-037	釜谷4遺跡	遺物包含地	縄文（早・前期・中・後期）	木古内町大字釜谷38-1,34-1,41～44,45-1,53-1,7-7,10,148	海岸段丘（M2区）	25～26	1990町教委
9	B-05-005	釜谷遺跡	集落跡	縄文（早・前・中・後葉・晩期）、擦文	木古内町大字釜谷29-15,27～34,36～39,55,56,57-1,2,18～44,45-1,46,47,49,79,72 ～18,80～82,93-1～4,94～97,99～102,104,106,107,108-1,2,109,111-1,2,132～114,116～118	海岸段丘（M2・3区）	18～22	1991～93町教委
10	B-05-016	釜谷2遺跡	遺物包含地	縄文	木古内町大字釜谷15-1,2,15,157,158,160,161,162,1,163,1,165,167	海岸段丘（M2・3区）	13～22	
11	B-05-046	釜谷7遺跡	遺物包含地	縄文	木古内町大字釜谷178,180	海岸段丘（M2区）	22	
12	B-05-045	釜谷6遺跡	遺物包含地	縄文	木古内町大字釜谷198-1,2,205,207-1,2,208,209,260-1	海岸段丘（M2区）	16	
13	B-05-044	釜谷5遺跡	集落跡	縄文（早・前・中・後・晩期）	木古内町大字釜谷210,212-1～5,214～217,226～228,229～237,238-1,4～10,239,241,243,246,248,260,250	海岸段丘（M2区）	20～30	1993町教委
14	B-05-054	亀川5遺跡	遺物包含地	縄文（後・晩期）	木古内町大字亀川107,109,2,207-2	海岸段丘（H2区）	78～82	2014道博文
15	B-05-043	亀川4遺跡	遺物包含地	縄文	木古内町大字亀川101,113-2～3,110-110,119,120,124,126	海岸段丘（M2区）	11～27	
16	B-05-040	亀川3遺跡	集落跡	縄文（早・前・中・後期）	木古内町大字亀川101,113-4～21,24～30,32～34～37,107-111～117,185,195～197,199	海岸段丘（M2区）	20～30	1995町教委
17	B-05-039	亀川2遺跡	集落跡	縄文（後・晩期）	木古内町大字亀川103-3,523,41～49,196～198,199-190～193	海岸段丘（M2区）	27～30	1995町教委
18	B-05-038	亀川1遺跡	遺物包含地	縄文（晩期）	木古内町大字亀川109-8,1421,75-79～86,110	海岸段丘（M2区）	16～40	
19	B-05-061	泉沢4遺跡	遺物包含地	縄文（早・後期）	木古内町大字二乃谷54-96～186～191,204	海岸段丘（M1区）	46～48	2015～16道博文
20	B-05-053	泉沢4遺跡	遺物包含地	縄文	木古内町大字二乃谷2,39～4,188	海岸段丘（M1区）	45	
21	B-05-055	泉沢5遺跡	遺物包含地	縄文（早・中・後期）	木古内町大字二乃谷424-5,43-2,47-2,48-5,4,50,53,59	海岸段丘（M1区）	26～36	2014道博文
22	B-05-006	泉沢遺跡	遺物包含地	縄文	木古内町大字二乃谷4-9,10～12～16～14,15-1	海岸段丘（M1区）	40	

表Ⅱ-1 (2) 木古内町域の遺跡 (2)

No.	登録番号	名称	種類	時代	所在地	立地	標高 (m)	調査
23	B-05-042	泉沢3遺跡	遺物包含地	縄文(前期)	本吉内町字二乃島4-2449-9・18-72 94-25-56-39-22・118-129・237・437・ 137・180-8・9・13宇島474,248,267,261, 252,1406,618,619・5412,513,514,517-471,475	海岸段丘 (M1・2面)	21~26	1996年教委
24	B-05-041	泉沢2遺跡	縄文(中・後・ 晩期)、弥生	縄文(前期)	本吉内町字二乃島1-5-5-122-3・43 2-6-10-12・114-1・2062・143・114・154-16 宇島476・1485・1483,513,518・572,577・2338 1345,5617,1371・1375・2375・1579,206,561・4 1267-694,596・610,608,608・1	海岸段丘 (M1・2面)	7~37	1998~2001年教委
25	B-05-034	横濱2遺跡	遺物包含地	不明	本吉内町字横濱73,28,29・13,32,31	海岸段丘 (M1面)	5	
26	B-05-017	横濱遺跡	遺物包含地	縄文(前期)	本吉内町字横濱1-1,宇島387・180 1-7	海岸段丘 (M1面)	20	
27	B-05-059	幸達3遺跡	遺物包含地	縄文(中・後期)	本吉内町字幸達10-23-53,51・2・6-1485 54,宇島387・5-7	海岸段丘 (M1面)	20~28	2015道庁文
28	B-05-060	幸達4遺跡	集落跡	縄文(前・中・後期)	本吉内町字幸達10-13111・4122・9,13,17 5・5,126-2・13・14	海岸段丘 (M1面)	20~28	2015~16道庁文
29	B-05-018	幸達遺跡	遺物包含地	縄文(中・後期)	本吉内町字幸達74・3-8	海岸段丘 (M1面)	24~29	2017~18道庁文
30	B-05-033	幸達2遺跡	遺物包含地	不明	本吉内町字幸達75-247,188,190・1	海岸段丘	5	
31	B-05-062	幸達5遺跡	集落跡	縄文(前・中・後期)	本吉内町字幸達706,279,290,370,212,123・219	海岸段丘 (M1面)	20~22	2016~19道庁文
32	B-05-057	礼毛9遺跡	遺物包含地	縄文(前期)	本吉内町字礼毛765・4766	海岸段丘 (M1面)	4~5	
33	B-05-056	礼毛8遺跡	遺物包含地	-	本吉内町字礼毛722・1・2733・5・6・7	海岸段丘 (M1面)	11~14	2014道庁文
34	B-05-048	礼毛5遺跡	遺物包含地	旧石器、縄文(前、 後期)	本吉内町字礼毛968,615,626,2437・5,630・1 約20枚	海岸段丘 (M1面)	15~20	2011・17道庁文
35	B-05-049	礼毛6遺跡	集落跡	縄文(中・後期)	本吉内町字礼毛763,737・2,316・4・1	海岸段丘 (M1面)	17~24	2013道庁文
36	B-05-050	礼毛7遺跡	集落跡	縄文(前期)	本吉内町字礼毛7676	山地斜面	15~37	2013道庁文
37	B-05-032	礼毛4遺跡	遺物包含地	不明	本吉内町字礼毛779,1302・1・3,68,245・1	海岸段丘 (M1面)	10	
38	B-05-031	礼毛3遺跡	遺物包含地	不明	本吉内町字礼毛961,686	海岸段丘 (M1面)	10	
39	B-05-004	礼毛遺跡	集落跡	縄文(前・後・中期)	本吉内町字礼毛731・1・314・1・12,76,76,117 一ツ山142・1,128,284・1・9・4,10,102,201・2 131,102・104,129,102・102,364・307,380・3 601,403・1405・405・408,1447・1	海岸段丘 (M1面)	5~10	1971~73昭和記念館, 1973年教委,1985道 庁文
40	B-05-030	礼毛2遺跡	遺物包含地	不明	本吉内町字礼毛559・147,742,483	海岸段丘 (M1面)	10	
41	B-05-020	蛇門3遺跡	遺物包含地	縄文(後・晩期)	本吉内町字礼毛533,534・2~4	海岸段丘 (M1面)	20	
42	B-05-008	蛇門遺跡	集落跡	縄文(前・中・後期)	本吉内町大字平660・1・6・7	海岸段丘 (M1面)	17~21	2000年教委
43	B-05-019	蛇門2遺跡	遺物包含地	縄文(前・中・後、 晩期)	本吉内町字礼毛1481,541,541,541,541, 541,541,541 - 541,541 - 541,541,541,541, 541,541,541 - 405,408,1447・1	海岸段丘 (M1面)	8~12	2009~11道庁文
44	B-05-029	大平4遺跡	集落跡	縄文(早・前・中、 後、晩期)	本吉内町大字平440・18・25-27・33・76- 78-82-96・102・108・123・124・125・ 127・134・140・142・144・154・157・159・160 161・168・171・174・177・180・187・189	海岸段丘 (M1面)	7~24	2009~10・12~14 道庁文
45	B-05-007	大平遺跡	集落跡	縄文(前・中・後、 晩期)、弥生、中世	本吉内町大字平443・3・6-16,684	海岸段丘 (M1面) 段丘上	3~20	2009~11・13道庁文
46	B-05-021	大平2遺跡	遺物包含地	縄文(後・晩期)	本吉内町大字平内79・1・4,85・2・10	海岸段丘 (M1面)	11~12	
47	B-05-022	大平3遺跡	遺物包含地	縄文(中期)	本吉内町大字平30・1	海岸段丘 (M1面)	5~6	
48	B-05-003	本吉内遺跡	縄文(早・前・中、 後期)	本吉内町大字本吉内51・7637,473・1・13, 13,1・1・13,17・1	海岸段丘 (M1面)	6~12	2010~11道庁文	
49	B-05-028	本吉内古志遺跡	集落跡	縄文(前・中・後期)	本吉内町字本吉内4,456・1・6-8,459 1,460・1・28・18	海岸段丘 (M1面)	5~9	2010~11道庁文
50	B-05-023	森谷2遺跡	遺物包含地	縄文(後・晩期)	本吉内町字本吉内14・14	海岸段丘 (M1面)	15	
51	B-05-009	新栄町遺跡	遺物包含地	縄文(後・晩期)	本吉内町字本吉内762・4・2・5・5・146	海岸段丘 (M1面)	10~20	
52	B-05-013	中野B遺跡	遺物包含地	縄文	本吉内町字中野400・4・5・8	河原段丘	20~25	
53	B-05-012	中野A遺跡	遺物包含地	縄文	本吉内町字中野400	河原段丘	15~20	
54	B-05-014	谷添遺跡	遺物包含地	縄文	本吉内町字谷添79,134・3・5-7	河原段丘	20~25	
55	B-05-024	網走遺跡	遺物包含地	縄文	本吉内町字網走76,77,141・4,62・3・11・13 -12,64・1・7	海岸段丘 (M1面)	20	
56	B-05-025	網走2遺跡	遺物包含地	縄文(前・中・後、 晩期)、越後	本吉内町字網走441,130,7・3・5・17・17 1357・1・2,3・1	海岸段丘 (M1面)	15~18	1988~89年教委
57	B-05-027	網走3遺跡	集落跡	旧石器、縄文(早、 前・中・後・晩期)、 越後(前期)	本吉内町字網走19-946-13-25-2000-20・5 5,623・10・11(網走)3・3・9・15・66・68・74・ 84・87・88・90・201・204・227・227・228・126 126・147・68・129・428・129・129・207・207・208	海岸段丘 (M1面)	13~33	1984~86、2013 道 庁文
58	B-05-010	新道3遺跡	遺物包含地	縄文(中・後期)	本吉内町字新道13-14-306・127-127,63 -127・175・206・206・210・205・202・366・306	海岸段丘 (M1面)	16~21	1996年教委
59	B-05-001	新道遺跡	遺物包含地	縄文	本吉内町字新道105・1・2・106,64・1 5・7・8・12,105・1・13,107・2・10	海岸段丘 (段丘)	8~10	
60	B-05-011	新道2遺跡	集落跡	縄文(前期)	本吉内町字新道104・2・4106・3,106,3,111 1・2・4・6・8・8・13・15・17・21・21・26 31・36・39・41-42,113・12・15,16,17・1	海岸段丘 (M1面)	6~10	1998~2002年教委
61	B-05-035	藤川1遺跡	遺物包含地	縄文(前・中、後・ 晩期)	本吉内町字藤川136・4・1・10,60・1・2・ 4・8・79,617・13,115・4・4・5・10	海岸段丘 (M1面)	18~20	1985~86道庁文
62	B-05-026	藤川2遺跡	遺物包含地	縄文(早・前・中、 後期)	本吉内町字藤川138・1・18・26	海岸段丘 (M1面)	15~17	1984道庁文



図Ⅱ-4 (1) 幸連5遺跡周辺の遺跡 (1)



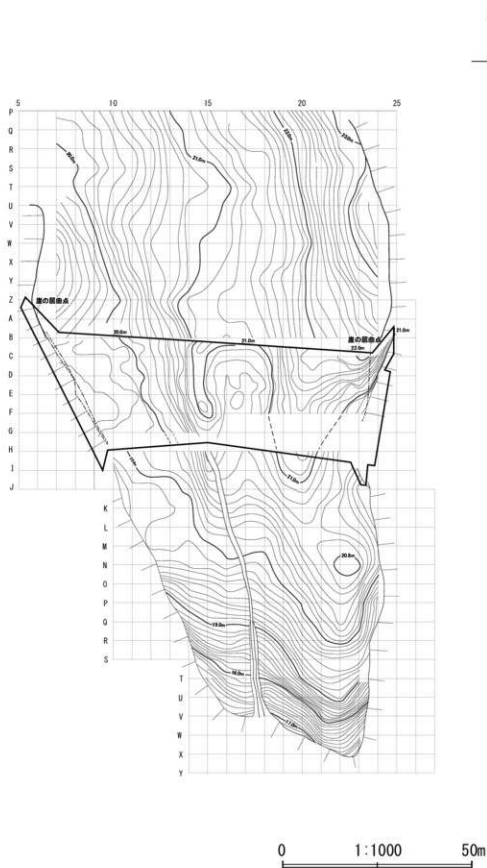
図Ⅱ-4 (2) 幸連5遺跡周辺の遺跡 (2)

16

（本誌巻の「労働と生活」欄）「建文」など新しい「建文」

表Ⅱ-2 上磯地塊山地東・南麓の遺跡群(2)

[illegible]



図Ⅱ－5 幸連5遺跡周辺の地形

Ⅲ 調査の方法

1 調査範囲と調査区の設定

遺跡の位置と調査範囲は図Ⅲ-1・2に示した。

調査区の設定は、調査予定範囲の中央を通る本線の基準線上のSTA30000を基準に、東西南北に5m毎の方眼で設定した(図Ⅲ-1)。各グリッドは図Ⅲ-1の「Z10」のようにアルファベットと数字の組み合わせで呼称した。

基準杭の座標と、その東西延長となる杭の世界測地系に基づく平面直角座標は、第XⅠ系で次の通りである。

E 15 (STA30000)	X = -254998.283	Y = 18994.354		
			北緯 41° 42' 14.83355"	東経 140° 28' 41.62264"
E 8	X = -254998.283	Y = 18959.354		
			北緯 41° 42' 14.83655"	東経 140° 28' 40.10868"
E 24	X = -254998.283	Y = 19039.354		
			北緯 41° 42' 14.82968"	東経 140° 28' 43.56915"

2 発掘調査の方法

表土除去・測量杭打設

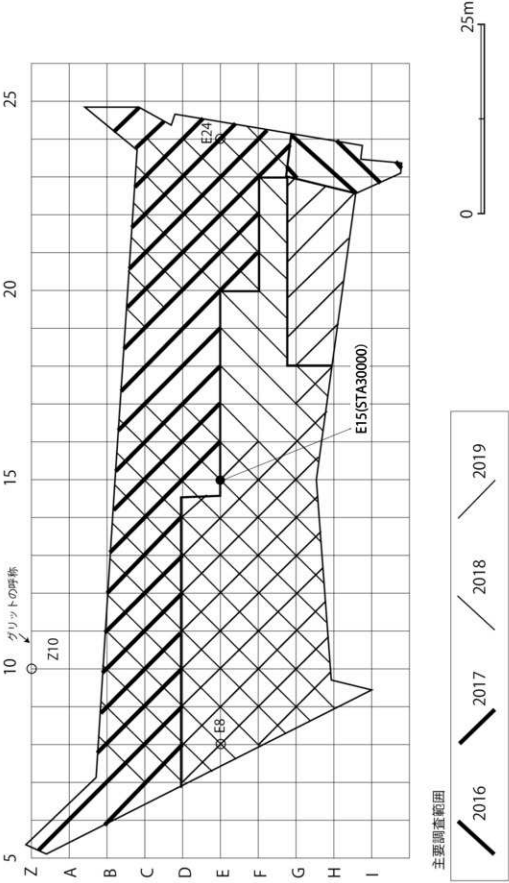
調査に先立ち、表土除去を行った。表土は全体に約10cm堆積しており、その部分を建設機械により除去した。表土除去後に、測量杭の打設を行った。

盛土調査(平成28(2016) 年)

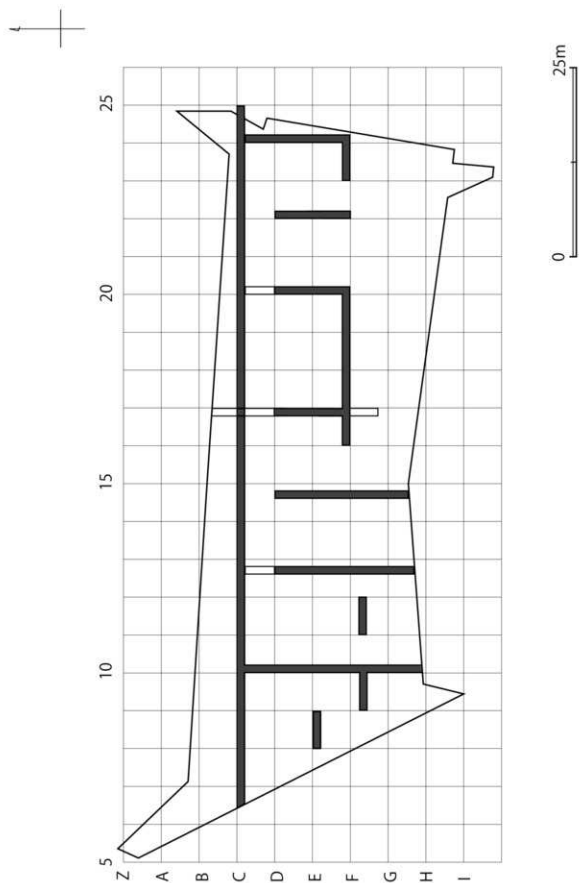
調査区東側斜面部分の一部の調査を先行して行った。表土直下に盛土層が確認されたが、調査範囲が61㎡と狭く、斜面という事もあって、スコップでの掘削を主とした。

盛土調査(平成29(2017) 年～令和元(2019) 年)

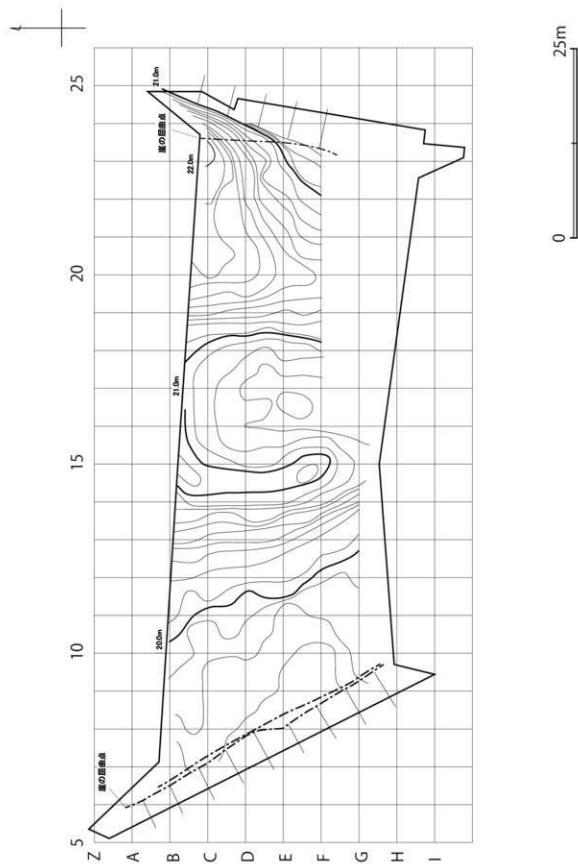
表土(Ⅰ層)を除去前段階で、地形の凹凸が確認され、盛土遺構の存在が想定された。そこで、調査区を東西に横断するトレンチをCラインに設定した。またそれに直交するように土手状に伸びる高まり部分、その間の溝状の窪み部分、その両外側に約10m間隔で二本のトレンチを設定した。さらに東西方向のEライン、Fラインに部分的にトレンチを設定した(図Ⅲ-2)。トレンチを掘り進めいくと、盛土層がある部分では土器片を主体とした多量の遺物が出土した。また、自然堆積の黒色土が認められず、全面的に人為堆積土で覆われている事が分かった。そこで人為堆積土をグリッド単位で掘り下げていった。人為堆積土は、最終的に盛土層と遺構の覆土層からなることが判明するが、掘削時は全てを盛土層として掘り下げていった。段丘上の盛土層は土層断面と地形面の凹凸によってその範囲を設定した。斜面側の盛土層は平成28年度の調査で明らかになっており、前期、中期、後期の盛土層が重複堆積していた。包含される土器と、層相により盛土1～3として掘り下げた。



図Ⅲ-1 グリッド設定と調査進行図



図Ⅲ-2 2017年度トレンチ設定図



図Ⅲ-3 墓土除去後の地形

遺構調査(平成29(2017)年～令和元(2019)年)

上記トレンチ調査によって、堅穴住居跡、フラスコ状土坑などが複雑に重複していることが判明した。このトレンチ調査によって、平成29(2017)年5月中旬と比較的早い段階で盛土遺構と堅穴住居跡、土坑の分布傾向や床面・底面深度をつかむことができた。その状況に則り、複雑に重複した遺構覆土を含む人為堆積土を掘り下げながら、掘り込む形の遺構：堅穴住居跡、土坑の検出を行った。

堅穴住居跡は、複雑に重複し、さらに埋められた例が多かったため、多くの場合平面での範囲確認は困難であった。また、拡張改築がなされた結果、床面に複数の炉跡、周溝、柱穴が残されていた。そのために、トレンチで床面まで掘り下げても、重複なのか、拡張結果なのか、判断が難しい場合が多かった。自然堆積の黒色土の広がりによってある程度住居跡範囲が確認できたものは、トレンチで範囲を確認し、ベルトを残しながら掘り下げることができた。しかし、ほとんどの堅穴住居跡では、複数のサブトレンチを掘り下げ、断面で範囲を確認しながら掘り広げるといった方法を採用した。また、複数の住居を1軒として調査を進め、途中で気づいた例が複数あり、その場合は枝番をふることで対応した。また同一の住居を別の名を付して調査を進めた結果、最終的に1軒と認識した場合もある。拡張なのか重複なのか明確でない場合は①、②のようにそれぞれ認識できる範囲を示した例もある。

土坑は、フラスコ状土坑・柱穴・その他の土坑があったが、数が多く、混乱を避けるため調査時は区別しなかった。検出した時点で半載して、確認した。フラスコ状土坑の場合、掘り込み面が全体の削平行為によって変動した影響で、底面のレベルに大きく差があった。また、重複も著しく、ブドウの房のような平面状態になっている地点もあった。

焼土は、確認した時点で半載し、記録したが、焼土ブロックの集合といった異地性焼土の多くは、焼土として認定せず、一般土層と同様に扱った。集石も多数確認されたが、土坑の上面のものや、住居覆土のものとして記録した場合がほとんどである。

遺物の取り上げ

包含層・盛土遺構の遺物は、遺跡名・発掘区・層位・日付を記録し、適当なまとまりごとに取り上げた。個体の形状を伴った土器や、明確な石器などはその単位で取り上げた。遺構出土の遺物、ならびに正立・倒立状態、埋設状態で出土した個体土器については、状況に応じて実測図を作成、標高等の記録を取って取り上げた。微細遺物の密集部分では遺物を土壌ごと採取して、自然乾燥させた後に、浮遊水洗選別を行った。(福井)

3 整理の方法

(1) 土器の整理

1次整理作業：取り上げた遺物は、原則として以下の作業工程で整理を行った。

遺構・包含層(盛土遺構含む)それぞれの「遺物取り上げ台帳」、および「土壌水洗サンプル取り上げ台帳」を作成し、これをもとに水洗、乾燥、分類、注記、点数集計等の作業を進めた。注記の内容は、幸連5遺跡を「コ5」と略記し、その後に遺構名、グリッド名、層位の順に記した。注記するスペースのない、小さな遺物については省略した。遺構名、グリッド、層位、点数、分類名、日付などの遺物の出土の情報は「遺物カード」に記入し、遺物とともにビニール袋へ入れ、収納した。カードの情報は遺構ごと、分類ごとの情報を集計し、最終的な遺物台帳を作成した。

2次整理作業：高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査の着手時期が最も遅かった本遺跡では、整理期間が十分に確保できない可能性があったため、平成29年度以降の

調査では、現地で復元可能な状態で出土した遺物は先行して水洗を実施し、台帳化後、量がまとまり次第本部へ運搬し、注記、接合、復元を行ない、いつでも実測ができる状態にした。発掘調査期間が延びた平成30年度の整理体制も、同事業にかかる他遺跡の整理作業が先行しており、出土遺物の図化作業の遅延が懸念されたため、実測の外部委託、3Dスキャナーの導入、画像合成の3次元化ソフトの導入をおこない、実測作業の効率化はかり、復元資料の図化を進めた。(土肥)

(2) 石器等の整理

取り上げた石器は現地で水洗後、1次分類を行って器種および石材別に分類した。遺構出土のものは遺構別、盛土遺構・包含層出土のものは調査区別に、剥片石器・石製品と礫石器に分けて遺物番号を付与し、遺構名・調査区・層位・分類名・石材名・日付などとともに記載した遺物台帳を作成した。また、遺跡名・遺構名・調査区・層位・遺物番号・分類名・石材名・日付などを記した遺物カードを作成して遺物とともにチェック付きポリ袋に収納した。石器には注記が可能なものについては白のポスターカラーで裏面に遺跡の略号(コ5)、遺構名もしくは調査区、層位、遺物番号を記入したのちニス塗っている。

(例) 遺構:コ5、H-1、フクド1、20

盛土遺構・包含層:コ5、C15、モリ土1、20

整理作業において遺物の2次分類を行い、遺構の床面・底面出土遺物や完形品、石製品を中心に選抜し、手書きによる原寸実測を行った。これをスキャナーで取り込み、パソコン上で描画ソフト(Adobe illustrator)によってデジタルトレースして版下を作成した。現場で作成した手書きの遺物台帳は、整理作業において表計算ソフト(Microsoft Excel)を用いてデジタル化して石器の管理、集計に利用し、集計表や分布図を作成している。

石器の収納は、掲載・未掲載で分け、遺構については遺構別、盛土遺構・包含層については器種別に、プラスチック製コンテナに収納した。各々のコンテナには掲載・未掲載、遺跡名・遺構名・調査区・分類名・収納番号を記したシールを貼り、収納台帳を作成している。(酒井)

(3) 骨角器・動植物遺存体等の整理

調査中に目についた骨角器や動物骨、炭化物は直接採取したが、土層中に炭化物や焼骨片が多く含まれる場合は土層ごと取り上げ、土壌サンプルとして取り上げた。取り上げた土壌は、浮遊水洗選別を行った。選別後は、動物骨、炭化材、炭化種実、土器、石器に大別した。

骨角器は動物骨の分類過程で認識された。分類を行い、全点図示した。

植物遺存体は、2016・2017年度分は、1次分類からバリノサーヴェイに委託した(第XⅢ章第6節参照)。2018・2019年度分は、1次分類をしたのちに、詳細な同定が必要なものについてはパレオ・ラボに委託した(第XⅢ章第7節参照)。ほかに、火災住居や炉跡などに残された炭化材は適宜部分的にサンプリングし、樹種同定を行った。

動物遺存体は、1次分類をしたのちに、詳細な同定が必要なものについてはパレオ・ラボに委託した(第XⅢ章第11・12節参照)。(福井)

4 幸連5遺跡の基本層序

調査区は、北東-南西側方向へ、緩やかに傾斜した段丘面である(図Ⅲ-3)。基本土層は、調査区全域で大きく変化していないとみられるが、縄文時代前期後葉～後期前葉の間に繰り返された遺構掘削によってほとんどで人為改変を受けており、連続した自然堆積は認められなかった。むしろソフトーム層～縄文期堆積の黒色土が調査区の範囲内にほぼ認められないほどの人為改変がなされたのが本調査区の堆積の特徴である。竪穴住居跡覆土がすべて埋められた状態の場合、表土層直下に遺構覆土が堆積しており、また盛土層も表土層直下で検出された(写真図版Ⅲ-1はB13・14区付近)。



写真図版Ⅲ-1 竪穴住居跡・土坑・盛土遺構・削平凹地の堆積状況

なお、段丘西側の段丘崖は断層由来であり、急崖となっている。それに伴い、段丘側でも小断層が生じており、竪穴住居跡H-17壁面で確認された(写真図版Ⅲ-2)。それにより段丘面が同じく削平されているが西側ではローム層がより厚く確認された。しかし、遺構床面などで段差を確認できなかったことから、断層活動は少なくともハードローム層下部堆積後、縄文時代前期後葉までの間に生じたものと推測される。



写真図版Ⅲ-2 竪穴住居跡壁面の断層

土層の記載には、『土壌調査ハンドブック』(日本ペトロロジー学会編2000)を参考にし、土色、土性、粘着性、堅密度、含有物とその含有率について記載した。土色については『新版標準土色帖』(小山・竹原2004)を用いた。

I 層 表土：近代の耕作による攪乱、戦後に植林された杉林による堆積。黒褐色(7.5 YR 3/1)。炭化材片・ローム粒僅かに含む。遺物を少量含む。層厚10cm前後。調査前に重機により剥土。

II 層 黒色土～黒褐色土：縄文時代後期前葉以降の集落廃絶後の堆積。竪穴住居跡の窪みや風倒木痕の窪みでは40～60cmの厚さが確認されたが、平坦部では層厚10cm前後であった。窪みで細分される場合(写真図版Ⅲ-3はH-2覆土の自然堆積部分)は、下記の通り。

・II-1層：黒色(10YR2/1)。層厚10cm前後。



写真図版Ⅲ-3 II層堆積状況

- ・Ⅱ-2層：灰褐色（7.5YR4/2）。クラック入る。層厚15cm前後。
- ・Ko-d（胸ヶ岳d降下軽石層）。1640年降下。白色でⅡ-2層に斑状に含まれる。
- ・Ⅱ-3層：黒色（10YR2/1）。層厚10cm前後。
- ・Ⅱ-4層：黒褐色（10YR3/2）。地点により間にさらに黒色層挟む（写真図版Ⅲ-3中央矢印）。層厚10cm前後。
- ・Ⅱ-5層：黒色（10YR2/1）。層厚5cm前後。
- ・B-Tm：白頭山苦小牧火山灰層。10世紀降下。にぶい黄褐色（10YR4/3）～にぶい黄橙色（10YR6/3）。サラサラ。層厚5cm前後。
- ・Ⅱ-6層：褐色（7.5YR4/3）。粘質土。乾燥するとクラックが入る。層厚10cm前後。H-66覆土ではこの層を突き抜けた湧水痕跡が確認された（写真図版Ⅲ-4にみえる円形同心円状の砂質堆積）。

段丘上ではB-Tm下位の黒色土層は認められなかった。前期の斜面盛土には黒色土が含まれるため、少なくとも縄文時代早期以降前期後葉までは黒色土が堆積したとみられるので、前期後葉時点で全面的に削平されたと推測される。以後B-Tm堆積後まで黒色土の堆積がなされなかったと推測され、これは剥土によって集落廃絶後も植生が長期間再生しなかったためとも考えられるが、その原因は明確ではない。なお札幌地域などでは縄文後期前葉～B-Tm堆積までは焼土に類似した暗赤褐色土の堆積が確認され、広範囲にわたり特異な堆積状況であったのかもしれない。プラントオパール分析（第XⅢ章9節）の結果を参照すると、遺跡形成時の堆積：遺構覆土や盛土層にはプラントオパール含有量が極めて少ないが、盛土層上面～B-Tm層にかけてはネザサ節型、ササ属型などが増加する。これは遺跡形成時削平などにより下草も生えない状況であったものが、放棄後に笹原に遷移した状況を示すと考えられる。ところがB-Tm降下後ササ属型とネザサ節型は、上位層に向かって減少傾向を示し、代わってキビ族とウシクサ族が増加傾向を示している。つまり、イヌビエやススキなどが増加した可能性が推測される。



写真図版Ⅲ-4
竪穴住居跡床面に残る湧水痕

盛土層：主要な遺物包含層。段丘上の土手状盛土は、縄文時代



写真図版Ⅲ-5 土手状盛土層断面



写真図版Ⅲ-6 斜面盛土層断面

中期末葉～後期前葉の遺物、斜面盛土は、縄文時代前期後葉～中期中葉の遺物を包含する。

・土手状盛土層：上層が、V層のローム由来のいぶい褐色土(7.5YR5/4)～いぶい黄褐色土(10YR4/3)。下層が、遺物を多く含む灰褐色土(7.5YR4/2)～暗褐色土(10YR3/3)(写真図版Ⅲ-5はH-131、P-483部分)。いずれも僅かに炭化材片・ローム粒を含む。層厚10～70cm前後。土手状盛土以外の部分のうち、堅穴住居跡・フラスコ状土坑集中域は、盛土層の堆積を含む遺構覆土が堆積したが、その上部は掘り下げ調査時には区分不能であったことから盛土層として遺物を取り上げた。

・斜面盛土層(中期)：主に褐色土(7.5YR4/3)～いぶい黄褐色土(10YR4/3)からなる二次堆積土。層厚30～80cm前後(写真図版Ⅲ-6は北側Cライン)。

・斜面盛土層(前期)：Ⅱ層黒色土より明るい色調の暗褐色土(10YR3/3)の間に黒褐色土(10YR3/2)を挟む二次堆積土。層厚20～30cm前後(写真図版Ⅲ-6は北側Cライン)。

・斜面整地層：主にいぶい黄褐色土(10YR4/3)からなる二次堆積土。層厚10～30cm前後(写真図版Ⅲ-6は北側Cライン)。

・整地層：中央削平遺構上面で確認された。褐色土(10YR4/4)。層厚10～20cm前後。下位層境界にロームブロックが散在する(写真図版Ⅲ-7はC17杭付近)。



写真図版Ⅲ-7 整地層断面

Ⅲ層 漸移層：いぶい黄褐色(10YR4/3)。西側斜面際でのみ確認された。層厚10cm前後。

Ⅳ・Ⅴ層 ローム層：段丘砂礫層堆積後の更新世の風成層。

・Ⅳ層(ソフトローム層)：いぶい褐色土(7.5YR5/4)～明褐色土(7.5YR5/6)。層厚30cm前後。幸運遺跡での堆積状況からすると50cm前後堆積していた可能性もあり、ほとんどが遺跡形成期に削平されたとみられる。

・Ⅴ-1層(ハードローム層)：明褐色土(7.5YR5/6)～橙色(7.5YR6/6)。層厚40cm前後。

・Ⅴ-2層(粘土層)：橙色(7.5YR6/6)～いぶい褐色土(7.5YR5/4)。粘性の強い土層が1～2層堆積。層厚15cm前後。



写真図版Ⅲ-8 ローム層断面

Ⅵ層 段丘砂礫層：明黄褐色(10YR7/6)～橙色(7.5YR7/6)～いぶい褐色土(7.5YR5/4)。上位に砂礫層があり(地点により明瞭でないこともあった)、それより下位は砂質部分と粘土質部分の互層。軟質頁岩礫を多数含む(写真はP-477付近)。頁岩礫はより下層の第三紀頁岩層由来とみられる。



写真図版Ⅲ-9 段丘砂礫層断面

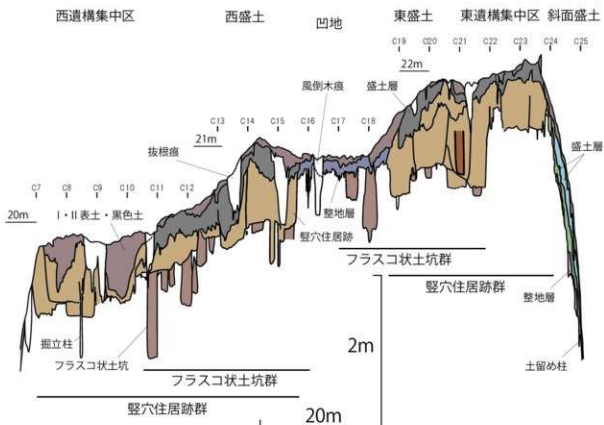
調査区土層堆積模式図(図Ⅲ-4)は、Cライン土層断面をもとに作成しているため、スケールを付した。土層堆

積状況は、地点によって複雑であるが、この断面によって、おおよその堆積順を表現することができている。また、別に堆積状況模式図(図Ⅲ-5)、遺構覆土堆積状況模式図(図Ⅲ-6)も示した。

調査区では縄文時代前期前葉に最初の人為痕跡が確認されたが、遺物が出土したのみである。その後、時間をおいて、縄文時代前期後葉から集落が営まれるようになった。調査区からはフラスコ状土坑群が2列確認され、恐らくその両外側に住居群が形成されたと推測している。また、この段階で段丘面の大規模な削平が繰り返行われたらしく、同時期のフラスコ状土坑の底面レベルに著しい差が生じている。削平は全面のほか、特にフラスコ状土坑群列の間に集中し、道路様の溝状窪みとなった。この段階の削平土は、調査区東側斜面に堆積された黒色土由来の盛土層にされたとみられるが、それだけでは説明がつかないので、他の地点へも堆積されたと推測される。その後、中期前葉までフラスコ状土坑群が継続的に形成され、同様にその両外側に住居群が形成されたと推測される。この段階でも段丘面の削平はすすめられたとみられ、東側斜面にはローム質土主体の盛土層が確認される。中期中～後葉には、東西段丘縁に住居群が構築された。中期末葉から後期前葉には段丘面に2条の土手状盛土が堆積され、それを前後する住居やフラスコ状土坑、掘立柱建物も構築された。後期前葉ののち、晩期の遺物が僅かに認められたが、それを最後に目立った人為痕跡は残されず、窪みには粘質の褐色土が堆積した。その後、黒色土の堆積は認められなかったが、10世紀にB-Tmが降下すると黒色土の堆積が再開される。1640年には、Ko-dが降下し、その上にさらに黒色土が堆積した。なお、Ko-d下位層準で耕作が認められ、畝間は東西方向を向いていた(断面図P・Q)。Ko-d上位黒色土上部は、耕作によって攪乱され、I層として認識された。この耕作は戦後少なくとも昭和23年まで行われていたが、地元の方の話によるとトラウは利用されず人力によるもので、ジャガイモなど栽培された。その後恐らく昭和30年代にスギの植林がなされ、現在に至る。

(福井)

23m



図Ⅲ-4 調査区土層堆積模式図

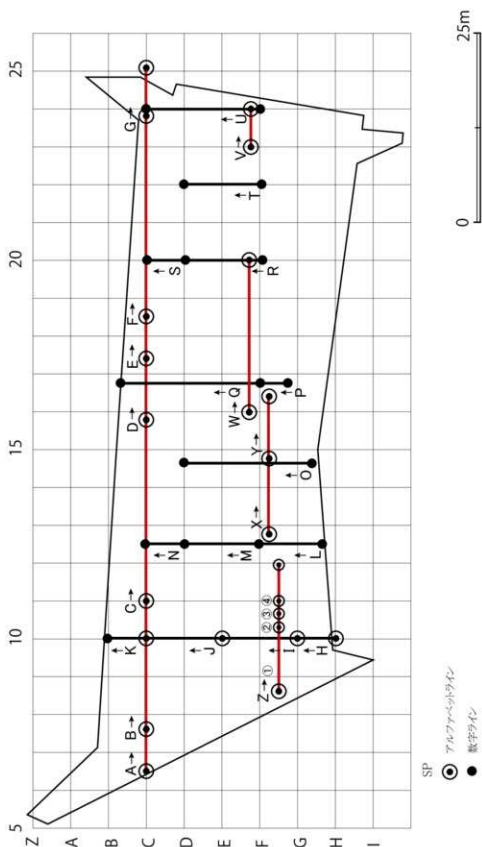
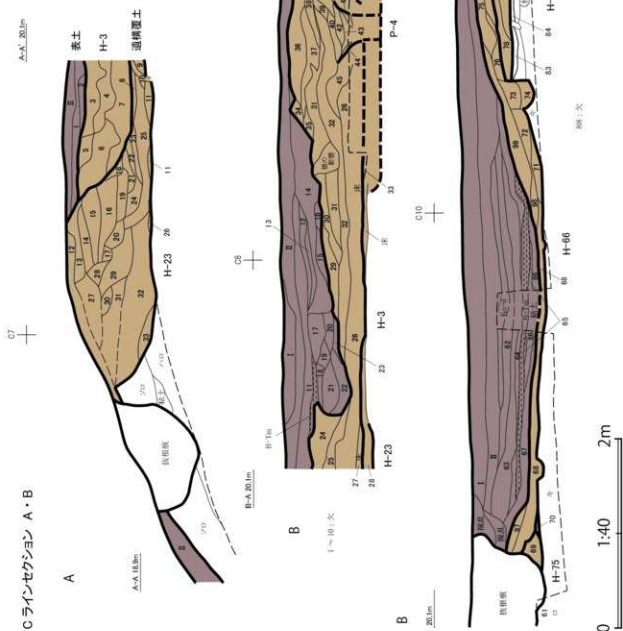
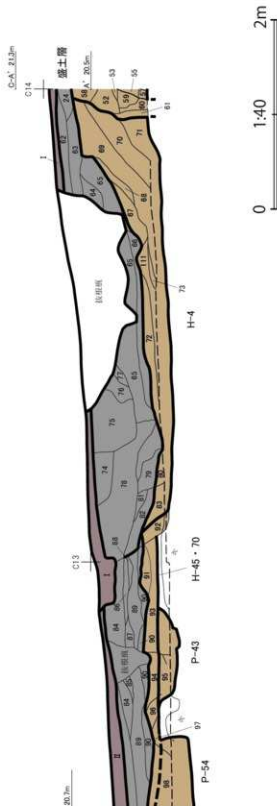
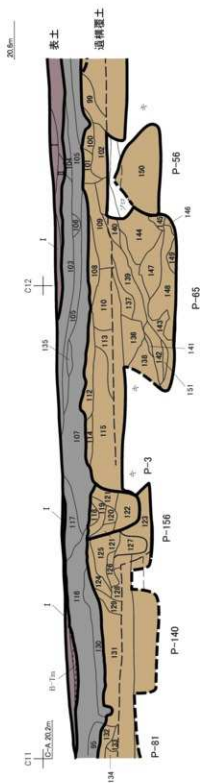


図 7-7 土層断面図の実測位置

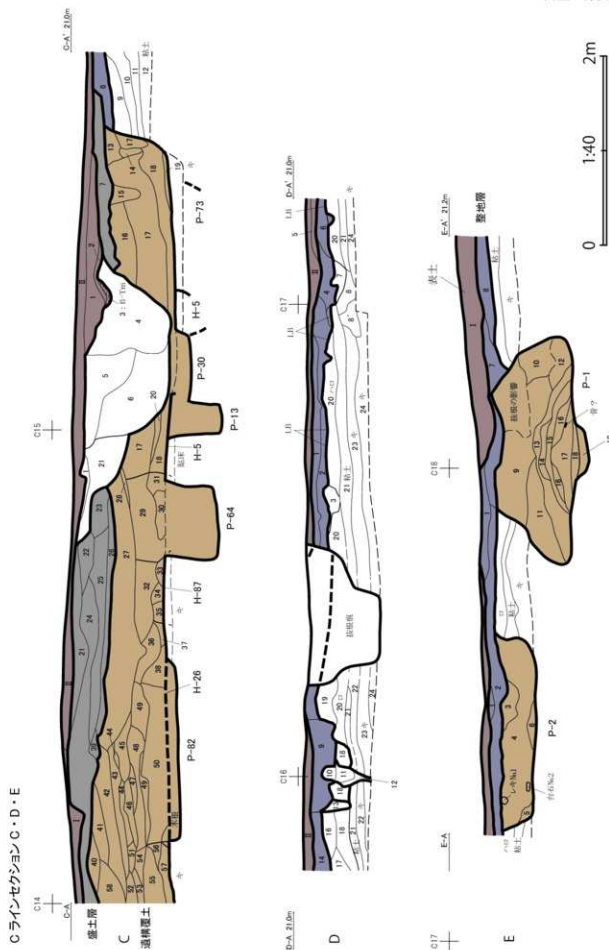


CラインセクションC

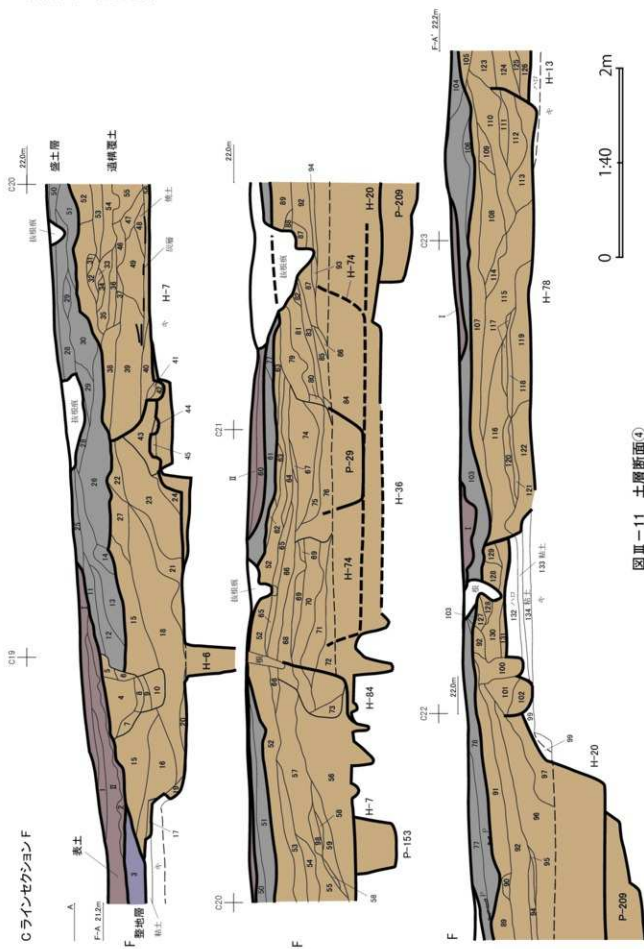
木古内町 幸速5遺跡



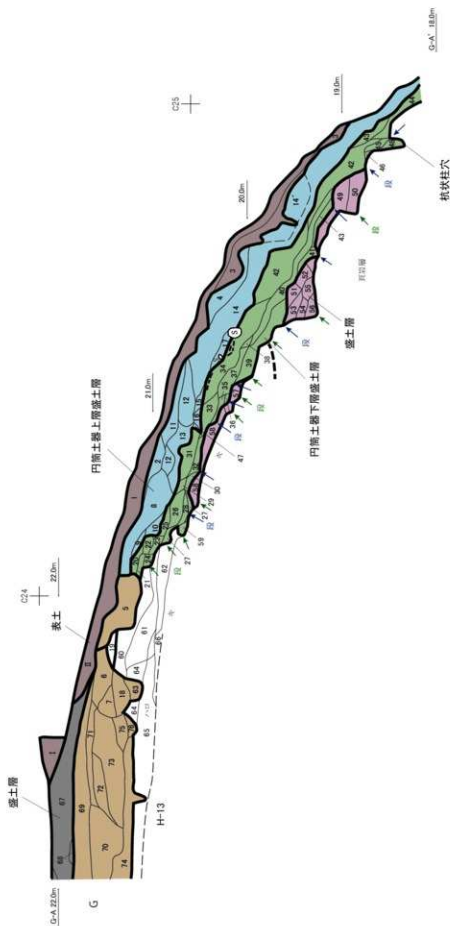
図Ⅱ-9 土層断面②



図Ⅲ-10 土層断面③

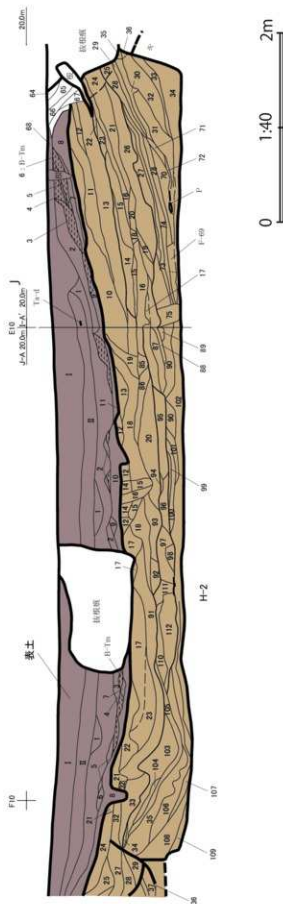
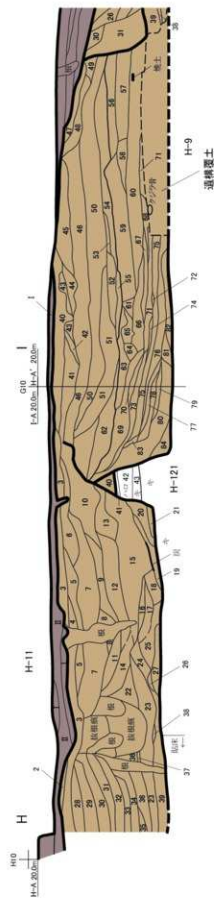


Cラインセクション G



図Ⅳ-12 土層断面⑤

10 ラインセクション H ~ J



図Ⅱ-13 土層断面⑥

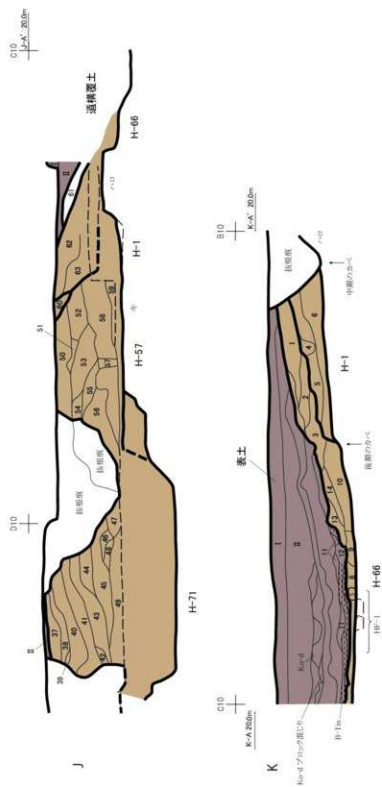
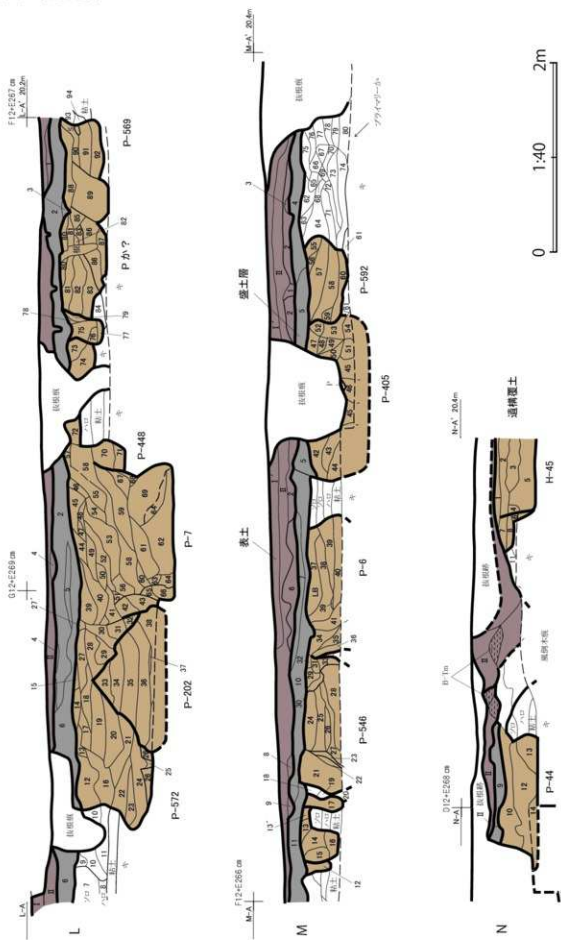
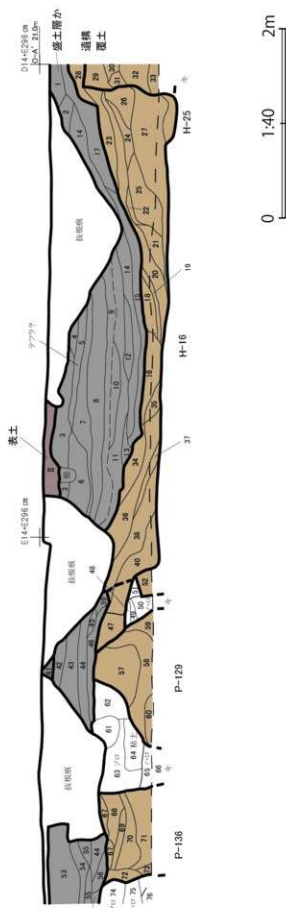
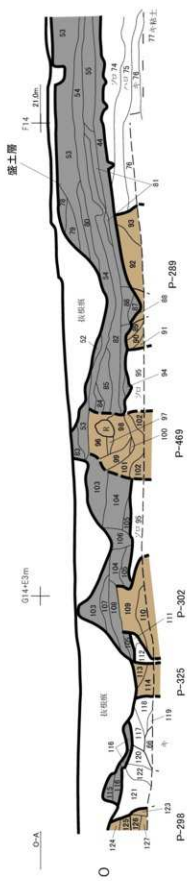


図 14-14 土層断面 ⑦

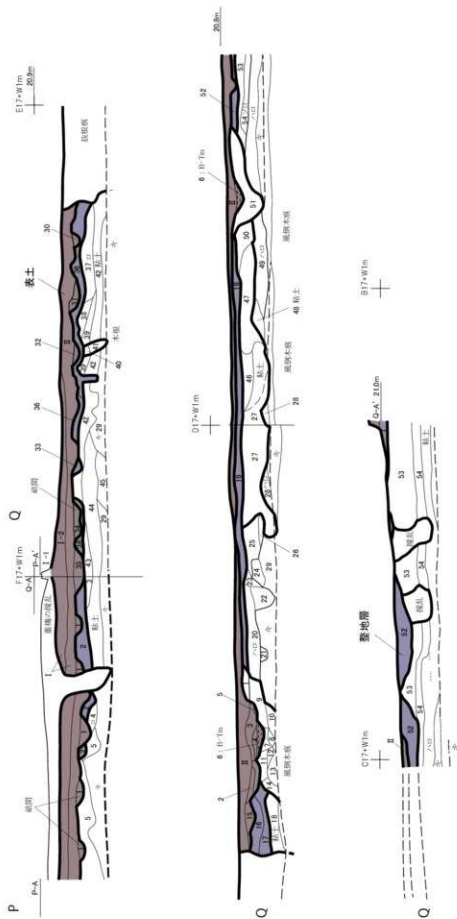


図Ⅻ-15 土層断面⑧

14.3 ラインセグメンション

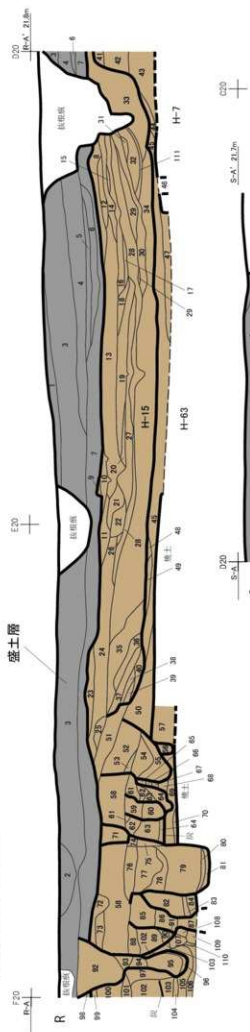


図Ⅲ-16 土層断面⑨

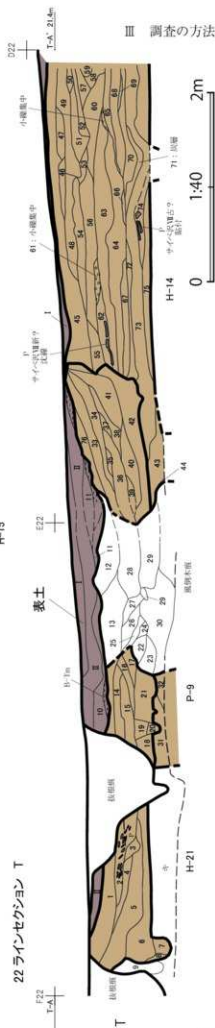


図Ⅲ-17 土層断面⑩

20 ラインセクション R・S



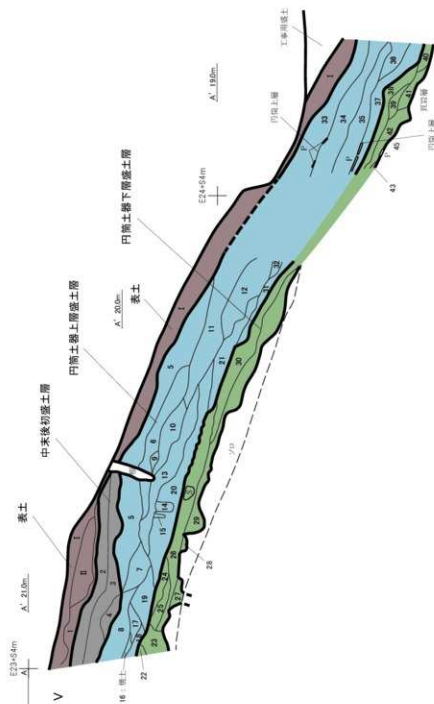
22 ラインセクション T



III 調査の方法

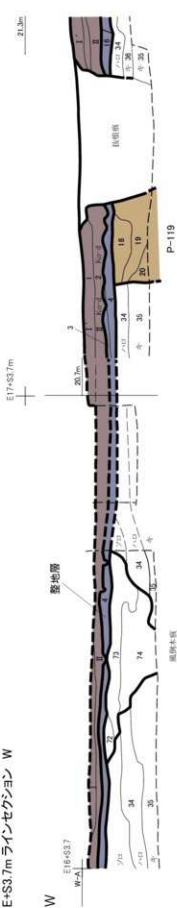
図Ⅲ-18 土層断面①

E+S4 ラインセクション V

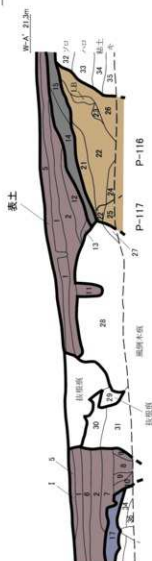


図Ⅲ-20 土層断面⑬

E+S3.7m ラインセクション W

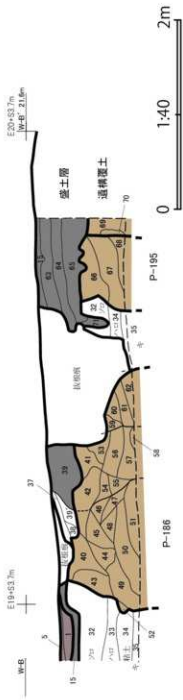


E18+S3.7m



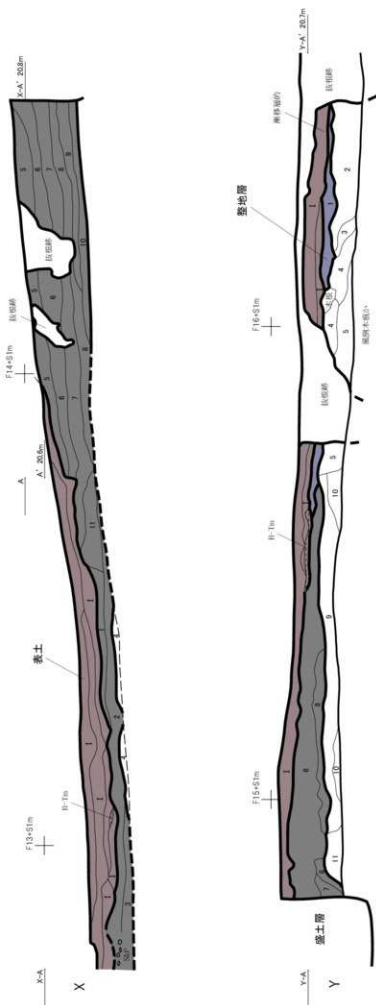
E18+S3.7m

E20+S3.7m W-E



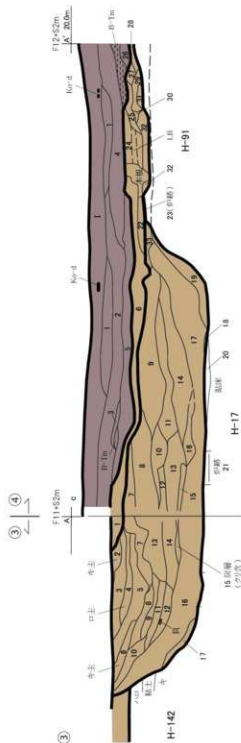
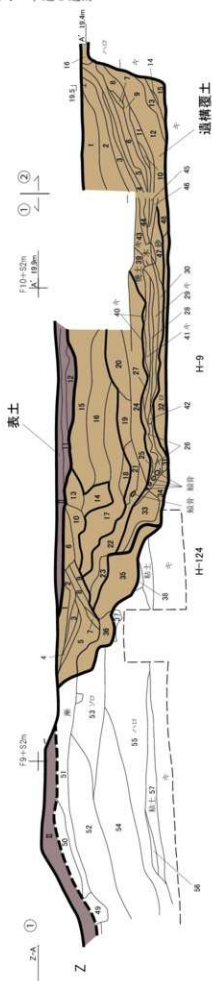
図Ⅱ-21 土層断面⑭

F+S1m ラインセクション X・Y



図Ⅲ-22 土層断面⑮

F+S2m ラインセクション Z①~④



0 1:40 2m

図Ⅲ-23 土層断面⑥

表Ⅱ-1 土層断面①注記

A						
No	土色	結核・土性	堅硬度	混入物	備考	
1	黒褐色	7.5YR 3/2 細 砂壤土	堅	すこぶる型	ローム粒 2%	
2	黒褐色	7.5YR 3/2 細 砂土	堅	すこぶる型	ローム粒 1%	上より明
3	灰褐色	7.5YR 4/2 細 壤土	すこぶる型	ローム粒・ロームブロック小・中・度小 15%	ボウボツ	
4	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 壤土	すこぶる型	ローム粒・ロームブロック中・度小 15%		
5	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅	すこぶる型	ローム粒・度小 3%	
6	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅	すこぶる型	ローム粒・度小 3%	
7	にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 壤土	すこぶる型	ローム粒・度小・砂利 10%		
8	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	堅	すこぶる型		上層粘土 粘りローム
9	にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂土	堅	すこぶる型		
10	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	ロームブロック大・度小 50%		
11	にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂土	すこぶる型			粘り度
12	黒褐色	7.5YR 3/2 細 砂土	堅	ローム粒 2%		
13	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	やや軟	度小 1%		
14	灰褐色	10YR 3/3 細 砂土	すこぶる型	ローム粒・度小 2%		
15	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	堅	度小・ローム粒・砂利 5%		
16	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	堅	度小・中・ローム粒・砂利 3%		上より明
17	褐色	10YR 3/3 細 砂土	堅	度小 5%		
18	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	砂利 3%		ローム主
19	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	ローム粒・度小 10%		
20	褐色	7.5YR 4/2 細 砂土	堅	度小・中・ローム粒 7%		
21	灰褐色	7.5YR 4/2 細 砂土	やや軟	度小・ローム粒 3%		
22	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	堅	度小・ローム粒 3%		
23	灰褐色	7.5YR 4/2 細 砂土	堅	度小・ローム粒 3%		
24	褐色	10YR 3/3 細 砂土	堅	度小・ローム粒 5%		
25	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	ローム粒 2%		
26	褐色	5YR 4/6 細 砂土	すこぶる型	砂利・堆積物 20%		ローム主
27	褐色	10YR 3/3 細 砂土	堅	ローム粒・砂利 3%		
28	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅	ローム粒・砂利 2%		
29	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	軟	度小・ローム粒・砂利 5%		ローム主
30	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	軟	度小 1%		
31	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	堅	度小・中 2%		
32	褐色	7.5YR 4/4 細 砂土	堅	砂利・度小・中 10%		
33	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	堅	ローム粒・ロームブロック大 7%		
B 中1-10次層						
No	土色	結核・土性	堅硬度	混入物	備考	
11	黒褐色	10YR 3/2 細 砂土	軟			
12	褐色	10YR 3/3 細 砂土	堅			
13	灰褐色	10YR 3/3 細 砂土	すこぶる型			よくしまる
14	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	度小・ロームブロック中 2%		
15	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	ロームブロック大・度小 10%		
16	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅	度小・ローム粒 1%		
17	褐色	10YR 3/3 細 砂土	堅	度小 1%		
18	黒褐色	10YR 3/2 細 砂土	すこぶる型	ローム粒 1%		土層含む
19	褐色	10YR 3/2 細 砂土	すこぶる型	ローム粒・度小 7%		よくしまる
20	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅	ローム粒・度小 1%		ローム主・土層含む
21	褐色	10YR 3/3 細 砂土	すこぶる型	ローム粒・度小・ロームブロック中 15%		よくしまる
22	黒褐色	10YR 3/2 細 砂土	すこぶる型	度小・中・ロームブロック中 10%		
23	黒褐色	10YR 3/2 細 砂土	堅	ローム粒小・度小 1%		
24	黒褐色	10YR 3/2 細 砂土	すこぶる型	ローム粒小・度小 15%		よくしまる
25	褐色	10YR 3/3 細 砂土	すこぶる型	ロームブロック小・度小 10%		よくしまる
26	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅	ロームブロック中・小・度小・度大 15%		
27	黒褐色	10YR 3/2 細 砂土	すこぶる型	ロームブロック中・大・度小 50%		よくしまる
28	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	度小 2%		ロームブロック主
29	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅	度小 1%		ローム主
30	灰黄褐色	10YR 4/4 細 砂土	堅	ロームブロック小・度小 3%		
31	褐色	10YR 4/4 細 砂土	堅	度小 1%		ローム主
32	褐色	10YR 3/3 細 砂土	堅	度小・ロームブロック中・ローム粒 10%		
33	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	ロームブロック大 50%		上部1センチにVI層由来の二次堆積主
34	褐色	10YR 4/4 細 砂土	堅			ローム主
35	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅			ローム主
36	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅	ロームブロック小・度小 5%		ローム主
37	褐色	10YR 3/3 細 砂土	すこぶる型	ローム粒・度小 7%		よくしまる
38	黒褐色	10YR 3/2 細 砂土	すこぶる型	度小・中・ローム粒 7%		
39	褐色	10YR 3/3 細 砂土	すこぶる型	ローム粒・度小 15%		よくしまる
40	褐色	10YR 3/3 細 砂土	堅	ローム粒・度小 15%		
41	褐色	10YR 3/3 細 砂土	すこぶる型	ローム粒・度小 30%		
42	黒褐色	10YR 3/2 細 砂土	堅	ローム粒・度小・度大 40%		
43	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅			ローム主
44	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅	ロームブロック大・度小 30%		
45	褐色	7.5YR 4/4 細 砂土	すこぶる型	度小 1%		ローム主
46	褐色	10YR 3/2 細 砂土	堅	度大 15%		
47	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	VI層由来中・度小・ロームブロック小 15%		ローム主・よくしまる
48	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	VI層由来ブロック大・度小・度大 30%		ローム主・よくしまる
49	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	度小・中・ローム粒 15%		よくしまる
50	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	ロームブロック大・度小・中 50%		よくしまる
51	にぶい褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	度小・度大 3%		よくしまる
52	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	堅	ロームブロック中・度大・度小 20%		ローム主
53	褐色	10YR 3/3 細 砂土	すこぶる型	ロームブロック小・度小 10%		よくしまる
54	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	度小・ロームブロック小・中 15%		よくしまる
55	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	度小・中・ロームブロック中 15%		よくしまる
56	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	堅	ロームブロック 40%		よくしまる、VI層由来の二次堆積主
57	褐色	7.5YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	度小・ロームブロック小 40%		よくしまる
58	にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂土	すこぶる型	ロームブロック 50%		よくしまる
59	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	堅	度小・ロームブロック中 5%		
60	にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂土	すこぶる型	ロームブロック大・度小 50%		
61	にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂土	すこぶる型	ロームブロック大・度小 2%		粘土質
62	褐色	10YR 3/3 細 砂土	堅			
63	灰褐色	10YR 2/2 細 砂土	堅			
64	黒褐色	10YR 3/1 細 砂土	軟			

表Ⅱ-2 土層断面①②③注記

No.	土色	結核	土性	堅密度	置入物	備考
65	黒褐色	7.5YR	3/2	細 砂壤土	堅	備考
66	灰褐色	7.5YR	4/2	細 礫土	堅	B-Tm下部
67	灰褐色	7.5YR	4/2	細 礫土	堅	粘土
68	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	底小・ローム粒 3%
69	褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	すこぶる堅	底小 1%
70	ぶい褐色	7.5YR	5/3	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック 50%
71	灰褐色	7.5YR	4/2	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来ブロック 25%
72	暗褐色	10YR	3/3	細 礫土	すこぶる堅	底小・ローム粒 2%
73	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 礫土	堅	ロームブロック 小 1%
74	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来ブロック 50%
75	黒褐色	7.5YR	3/2	細 砂壤土	堅	
76	暗褐色	10YR	3/3	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック 小 2%
77	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	底小・ローム粒 3%
78	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	ローム粒 3%
79	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	ローム粒 2%
80	暗褐色	10YR	3/3	細 砂壤土	すこぶる堅	
81	褐色	7.5YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック 小 2%
82	褐色	10YR	4/4	細 礫土	すこぶる堅	ローム粒・底小 7%
83	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来ブロック最大 30%
84	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	底り床か
85	褐色	7.5YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	粘土質、底り床か
86	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	底小・ローム粒 7%
87	褐色	7.5YR	4/4	細 礫土	堅	底小・ローム粒 7%
88	次層					ボソボソ
89	褐色	10YR	4/4	細 砂壤土	すこぶる堅	ロームブロック 小 1%
90	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	ローム粒 3%
91	暗褐色	10YR	3/3	細 礫土	堅	底小 2%
92	褐色	7.5YR	4/4	細 礫土	すこぶる堅	底小・底土粒 2%
93	灰褐色	7.5YR	4/2	細 礫土	すこぶる堅	底小・ローム粒 7%
94	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	底小・ローム粒 3%
95	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 砂壤土	すこぶる堅	ローム粒・底小 7%
96	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック 小・底小
97	褐色	7.5YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	ローム粒・底小 2%
98	灰褐色	7.5YR	4/2	細 礫土	堅	ローム粒・底小 3%
99	暗褐色	7.5YR	3/3	細 礫土	すこぶる堅	底小・ロームブロック 中 2%

C

No.	土色	結核	土性	堅密度	置入物	備考
1	暗褐色	10YR	3/3	細 砂壤土	やや軟	ローム粒・底小 5%
2	黒褐色	10YR	2/2	細 砂壤土	やや軟	ロームブロック大・極大・底小 7%
3	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 礫土	やや軟	
4						B-Tm 埋込層、B-Tm底じる
5	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック中・底小 10%
6	褐色	7.5YR	4/4	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック大・極大・底小 10%
7	暗褐色	10YR	3/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来ブロック中・底小 7%
8	褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック 3%
9	暗褐色	7.5YR	5/6	細 礫土	すこぶる堅	底小 2%
10	暗褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック大・極大 50%
11	暗褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック大 25%
12	暗褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	すこぶる堅	
13	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来 1%
14						
15	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来 1%
16	暗褐色	7.5YR	5/6	細 礫土	すこぶる堅	
17	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	底小・VI層由来 2%
18	褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック 5%
19	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	堅	VI層由来・底小 5%
20	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	底小・底土粒・底中 3%
21	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	底小・ロームブロック 中 2%
22	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 砂壤土	すこぶる堅	ローム粒・底小 7%
23	ぶい黄褐色	10YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	ローム粒・底小 5%
24	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	ローム粒・底小 5%
25	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	底小 2%
26	ぶい黄褐色	10YR	4/3	細 砂壤土	すこぶる堅	ローム粒・底小 3%
27	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来・底小 15%
28	暗褐色	7.5YR	4/3	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来ブロック大 50%
29	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来ブロック大・底中 20%
30	ぶい褐色	7.5YR	6/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来・ロームブロック最大 50%
31	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック最大・底小 50%
32	ぶい褐色	7.5YR	6/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来ブロック大 15%
33	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック大・極大 50%
34	褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	やや軟	ロームブロック最大 25%
35	褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	すこぶる堅	
36	暗褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	すこぶる堅	底小 1%
37	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	底小・VI層由来ブロック大 20%
38	暗褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック大・VI層由来ブロック大・底小 50%
39	暗褐色	7.5YR	4/4	細 砂壤土	すこぶる堅	底小 1%
40	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来・底中 15%
41	暗褐色	7.5YR	4/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来・底小 3%
42	暗褐色	7.5YR	4/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来ブロック中・VI層由来・底小 7%
43	暗褐色	7.5YR	4/3	細 砂壤土	すこぶる堅	底中・底小 5%
44	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来・底小 3%
45	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	底小・VI層由来 3%
46	暗褐色	7.5YR	4/3	細 礫土	堅	底小・ローム粒 15%
47	暗褐色	7.5YR	6/6	細 砂壤土	すこぶる堅	VI層由来 3%
48	暗褐色	7.5YR	5/6	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来・底小 7%
49	暗褐色	7.5YR	7/6	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック大・極大 10%
50	暗褐色	7.5YR	6/6	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来ブロック大・極大 15%
51	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	VI層由来 3%
52	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	ロームブロック 7%
53	灰褐色	7.5YR	4/2	細 砂壤土	堅	底小・中・底土粒・VI層由来 10%
54	暗褐色	7.5YR	5/6	細 礫土	堅	
55	ぶい褐色	7.5YR	5/4	細 礫土	すこぶる堅	ローム主
56	暗褐色	7.5YR	7/6	細 礫土	堅	砂質

表Ⅱ-3 土層断面②③注記

No.	土色	7.5VR	土性	堅密度	透入物・透入率	備考
57	ぶいれ褐色	7.5VR 16/4	細 粘土	堅	透小 1%	
58	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小へ中 3%	やや砂質
59	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	堅	透小、VI層由表校、透小へ中 3%	
60	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	やや軟	透小、VI層由表校、透小へ中 10%	
61	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小へ中 25%	ボソボソ
62	褐色	7.5VR 4/3	細 砂土	すこぶる堅	ローム校 15%	
63	褐色	7.5VR 4/4	細 砂土	すこぶる堅	透小、ローム校、透小へ中 2%	
64	褐色	7.5VR 4/3	細 砂土	すこぶる堅	透小 1%	
65	褐色	7.5VR 4/4	細 砂土	すこぶる堅		ローム主
66	褐色	7.5VR 4/3	細 粘土	堅	透小へ中、ローム校、透小へ中 20%	
67	褐色	7.5VR 4/3	細 粘土	やや軟	透小、ローム校、透小へ中 10%	
68	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 25%	
69	褐色	7.5VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	透小、VI層由表校 15%	
70	褐色	7.5VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	透小、VI層由表校、VI層由表校、透小へ中 20%	
71	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	透小へ中、透小へ中、透小へ中 10%	
72	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 30%	
73	褐色	7.5VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	透小へ中 7%	
74	褐色	7.5VR 4/4	細 砂土	すこぶる堅	透小、ローム校、透小へ中 7%	
75	褐色	7.5VR 4/3	細 砂土	すこぶる堅	透小、ローム校、透小へ中 7%	
76	褐色	10VR 3/3	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、ローム校、透小へ中、透小へ中 15%	
77	ぶいれ黄褐色	10VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 40%	
78	褐色	10VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	透小、ローム校、透小へ中、透小へ中 10%	
79	ぶいれ黄褐色	10VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	透小、ローム校、透小へ中、透小へ中 9%	
80	褐色	10VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小へ中、透小へ中 20%	
81	褐色	10VR 4/4	細 粘土	堅	ローム校、透小 10%	
82	褐色	10VR 4/4	細 粘土	堅	透小へ中 20%	
83	褐色	7.5VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	透小、ローム校、透小へ中、透小へ中 30%	
84	褐色	10VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、VI層由表校、透小 7%	
85	ぶいれ黄褐色	10VR 4/3	細 粘土	堅	VI層由表校 5%	
86	ぶいれ黄褐色	10VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校 5%	
87	褐色	10VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校 7%	ボソボソ
88	ぶいれ黄褐色	10VR 6/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小へ中、透小へ中 50%	
89	褐色	10VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小 15%	
90	ぶいれ黄褐色	10VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小 7%	
91	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校 3%	
92	ぶいれ黄褐色	10VR 4/3	細 砂土	すこぶる堅	VI層由表校、VI層由表校、透小へ中、透小へ中 50%	
93	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小 3%	
94	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	透小 1%	ローム主
95	褐色	7.5VR 4/4	細 粘土	堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 50%	
96	褐色	10VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 50%	
97	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 50%	
98	褐色	7.5VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小へ中、透小へ中 50%	
99	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 3%	
100	褐色	7.5VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 3%	
101	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 3%	
102	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 2%	ローム主より明
103	黄褐色	7.5VR 2/2	細 砂土	堅	ローム校 3%	
104	黄褐色	7.5VR 3/2	細 砂土	堅	ローム校 3%	
105	黄褐色	10VR 3/3	細 砂土	すこぶる堅	ローム校 3%	
106	黄褐色	10VR 3/3	細 砂土	すこぶる堅	ローム校 3%	B-1m通じる
107	黄褐色	10VR 3/3	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 30%	
108	褐色	7.5VR 4/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 50%	
109	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 30%	
110	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	透小、透小へ中、透小へ中 2%	ローム主
111	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校 10%	
112	褐色	7.5VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、ローム校、透小 3%	
113	褐色	7.5VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	透小へ中、ローム校、透小 3%	
114	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中 30%	
115	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、ローム校、透小 10%	
116	褐色	7.5VR 4/3	細 砂土	すこぶる堅	ローム校 15%	
117	褐色	7.5VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	ローム校 5%	より明
118	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小 15%	
119	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、ローム校、透小 20%	
120	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、VI層由表校、透小 30%	
121	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	堅	ローム校、透小へ中、VI層由表校、透小、透小へ中 40%	
122	黄褐色	7.5VR 3/3	細 粘土	堅	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 50%	
123	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 15%	
124	ぶいれ褐色	7.5VR 5/3	細 砂土	すこぶる堅	VI層由表校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 5%	
125	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小 3%	
126	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校 1%	ローム主、より明
127	黄褐色	7.5VR 6/6	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 25%	
128	褐色	7.5VR 6/6	細 粘土	堅	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 25%	VI層由表主砂質
129	黄褐色	7.5VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	透小、透小へ中、透小へ中、透小へ中 20%	
130	黄褐色	10VR 3/2	細 粘土	すこぶる堅	透小、透小へ中、透小へ中、透小へ中 20%	
131	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、ローム校、透小、透小へ中 15%	
132	ぶいれ黄褐色	10VR 4/3	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 3%	
133	褐色	7.5VR 6/6	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 20%	
134	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	透小、ローム校 2%	ローム主
135	黄褐色	10VR 3/3	細 砂土	堅	ローム校 2%	
136	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校 2%	
137	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	透小 2%	ハードロームの二次堆積、マンガン鉱あり
138	ぶいれ褐色	7.5VR 6/4	細 粘土	すこぶる堅		粘土の二次堆積
139	灰褐色	7.5VR 4/2	細 粘土	すこぶる堅	透小へ中、ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 1%	
140	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	透小、透小へ中、透小へ中、透小へ中 50%	
141	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 50%	
142	褐色	7.5VR 4/3	細 粘土	やや軟	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 30%	
143						
144	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	やや軟	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 50%	灰層、門下層土器含む
145	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 25%	
146	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	すこぶる堅	VI層由表校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 50%	
147	ぶいれ褐色	7.5VR 6/4	細 粘土	すこぶる堅		ローム主
148	黄褐色	7.5VR 5/6	細 粘土	すこぶる堅		ローム主
149	黄褐色	7.5VR 6/4	細 粘土	すこぶる堅		VI層主
150	ぶいれ褐色	7.5VR 6/4	細 粘土	すこぶる堅	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 50%	
151	ぶいれ褐色	7.5VR 5/4	細 粘土	堅	ローム校、透小へ中、透小へ中、透小へ中 40%	

表Ⅱ-4 土層断面③④注記

No.	土質	10YR	色	結核	土性	硬密度	測定法	備考
1	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細	砂壤土	堅	すこぶる型	土層1にロームブロックขนาดใหญ่存在
2	褐色	10YR	4/6	細	砂土	堅	すこぶる型	ロームブロック最大 30%
3	黄褐色	10YR	5/6	細	砂土	堅	すこぶる型	ロームブロック最大 10%
4	にぶい黄褐色	10YR	5/4	細	砂土	堅	すこぶる型	
5	黄褐色	10YR	5/2	細	砂土	堅	すこぶる型	ロームブロック大・ローム塊 2%
6	褐色	10YR	4/4	細	砂土	堅	すこぶる型	
7	黄褐色	10YR	5/6	細	砂土	堅	すこぶる型	シルト質粒 1%
8	にぶい黄褐色	10YR	5/4	細	砂土	すこぶる型		
9	黄褐色	10YR	5/2	細	砂土	すこぶる型		
10	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細	砂土	すこぶる型		土層9より暗色、ボクボクしている
11	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細	砂土	堅	すこぶる型	シルト質
12	にぶい黄褐色	10YR	5/4	細	砂土	堅	すこぶる型	土層11と間隔5ボクボク状硬風化
13	黄褐色	10YR	6/6	細	砂土	すこぶる型	土層21・22ブロック 30%	硬風化
14	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	ロームブロック 15%	硬風化
15	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	硬風化
16	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	ロームブロック最大 30%	土層14より暗色土
17	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	ロームブロック最大 30%	土層14より暗色土
18	褐色	7.5YR	6/6	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	ボクボクしているロームブロックの 硬風化土
19	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	土層24の最大ブロック 30%	自然堆積
20	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	土層24の最大ブロック 50%	
21	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	シルト質粒 10%	
22	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	土層24の最大ブロック 50%	
23	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	シルト質粒 10%	
24	黄褐色	2.5Y	7/4	粗	砂土	堅	すこぶる型	硬風化の注意、硬風化層、自然堆積

No.	土質	10YR	色	結核	土性	硬密度	測定法	備考
1	黄褐色	10YR	3/3	細	砂土	堅	すこぶる型	硬風化 1%
2	褐色	7.5YR	4/3	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
3	褐色	7.5YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	ややボツボツ、P-2層主
4	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	しる、P-2層主
5	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	しる、P-2層主
6	褐色	7.5YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	P-2層主
7	褐色	7.5YR	4/3	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	ややボツボツ
8	褐色	7.5YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
9	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	しる、P-1層主
10	褐色	7.5YR	6/6	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	ややボツボツ、P-1層主
11	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	しる、P-2層主
12	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	P-1層主
13	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	P-1層主
14	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	しる、P-1層主
15	黄褐色	7.5YR	4/2	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	P-1層主
16	黄褐色	7.5YR	6/6	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	しる、P-1層主
17	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	硬風化の二次堆積、P-1層主
18	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	硬風化の二次堆積、P-1層主
19	黄褐色	10YR	6/6	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	硬風化の二次堆積、P-1層主

No.	土質	10YR	色	結核	土性	硬密度	測定法	備考
1	黄褐色	10YR	2/2	細	砂土	堅	ローム塊 2%	備考
2	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細	砂土	堅	硬風化 1%	
3	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	8-1m深じり
4	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
5	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
6	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
7	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
8	黄褐色	7.5YR	4/2	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
9	黄褐色	7.5YR	4/2	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
10	褐色	7.5YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
11	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
12	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
13	褐色	7.5YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
14	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
15	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
16	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
17	黄褐色	7.5YR	5/6	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
18	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
19	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
20	にぶい黄褐色	10YR	6/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
21	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
22	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
23	褐色	7.5YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
24	にぶい黄褐色	10YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
25	にぶい黄褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
26	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
27	褐色	10YR	4/6	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
28	黄褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
29	にぶい黄褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
30	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
31	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
32	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
33	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
34	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
35	褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
36	黄褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
37	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
38	黄褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
39	黄褐色	10YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
40	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
41	黄褐色	7.5YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
42	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
43	黄褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
44	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	
45	褐色	7.5YR	4/4	細	砂土	すこぶる型	硬風化 1%	

品名	仕様	単位	数量	納入先	備考
45 土色	7.5YR 4/3	個	1	土色	ロームプロック中へ大・V11面由来プロック中 30%
46 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	V11面由来プロック中へ大・ロームプロック中へ大 30%
47 褐色	7.5YR 4/4	個	1	褐色	
48 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	V11面由来プロック中・V11面由来表・ローム表 15%
49 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	
50 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	V11面由来表・表小 15%
51 土色	7.5YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・表小 15%
52 土色	7.5YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・ロームプロック中 15%
53 土色	10YR 4/3	個	1	土色	ローム表・ロームプロック中 10%
54 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・表小 5%
55 土色	7.5YR 4/4	個	1	土色	V11面由来プロック中へ大・V11面由来表・表小・土色プロック中 10%
56 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	V11面由来プロック中へ大 30%
57 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	V11面由来表・土色 5%
58 褐色	7.5YR 4/3	個	1	褐色	V11面由来表・V11面由来プロック中へ大・表小 15%
59 土色	7.5YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・表小 15%
60 褐色	10YR 3/3	個	1	褐色	ローム表 5%
61 褐色	10YR 3/3	個	1	褐色	ローム表・表小 3%
62 土色	10YR 4/2	個	1	土色	ローム表・表小 2%
63 褐色	10YR 3/3	個	1	褐色	ローム表・表小 1%
64 褐色	10YR 3/3	個	1	褐色	ローム表・表小 3%
65 土色	10YR 4/3	個	1	土色	ローム表・表小 5%
66 土色	10YR 5/4	個	1	土色	V11面由来表・ローム表・表小 5%
67 土色	10YR 4/3	個	1	土色	ロームプロック中へ大・V11面由来表・表小 30%
68 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	V11面由来表・表小・V11面由来プロック中 7%
69 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	V11面由来表・表小 3%
70 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・土色プロック中へ大・ロームプロック中へ大・表小 30%
71 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・V11面由来プロック中へ大・ロームプロック中へ大・表小・土色へ大 40%
72 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	V11面由来表・V11面由来プロック中へ大・ロームプロック中へ大・表小・土色へ大 50%
73 褐色	10YR 4/3	個	1	褐色	ローム表・表小・土色へ大 15%
74 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・表小 15%
75 褐色	10YR 3/3	個	1	褐色	V11面由来表・ローム表・表小 25%
76 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・ローム表・表小 15%
77 土色	10YR 4/3	個	1	土色	ローム表・表小 7%
78 褐色	10YR 3/3	個	1	褐色	ローム表・表小 7%
79 土色	10YR 4/3	個	1	土色	ローム表・V11面由来表・表・土色 10%
80 土色	10YR 5/4	個	1	土色	ロームプロック中へ大・表小 40%
81 土色	10YR 5/4	個	1	土色	ローム表・V11面由来表・表・土色 20%
82 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	V11面由来表・表小 30%
83 褐色	10YR 3/2	個	1	褐色	表へ中・ローム表・ロームプロック中へ大 30%
84 褐色	10YR 4/4	個	1	褐色	表へ中・ロームプロック中へ大 40%
85 土色	10YR 5/4	個	1	土色	ロームプロック中へ大・V11面由来プロック中へ大・表小 50%
86 褐色	7.5YR 6/6	個	1	褐色	表小 1%
87 土色	10YR 5/3	個	1	土色	V11面由来表・表小・ロームプロック中へ大 50%
88 土色	10YR 4/2	個	1	土色	V11面由来表・表小 25%
89 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・ローム表・表小 25%
90 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・ローム表・表小 15%
91 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・ローム表・表小 20%
92 土色	10YR 5/4	個	1	土色	V11面由来表・ローム表・表小・V11面由来プロック中へ大・ロームプロック中へ大・表へ中 30%
93 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・表小 7%
94 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	V11面由来表・表小 3%
95 褐色	7.5YR 4/3	個	1	褐色	V11面由来表・表小 3%
96 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・ローム表・表小 7%
97 褐色	7.5YR 4/4	個	1	褐色	V11面由来プロック中へ大・V11面由来表・表小へ大 20%
98 褐色	7.5YR 4/4	個	1	褐色	ロームプロック中へ大・V11面由来プロック中へ大・表小 10%
99 褐色	7.5YR 5/6	個	1	褐色	
100 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	表小 3%
101 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	表小・V11面由来表へ大・表小 7%
102 土色	7.5YR 6/4	個	1	土色	V11面由来表へ大・ロームプロック中へ大・表小 5%
103 土色	7.5YR 5/3	個	1	土色	ローム表 5%
104 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	ローム表・表小 1%
105 土色	7.5YR 4/3	個	1	土色	ローム表・表小 10%
106 灰褐色	10YR 4/2	個	1	土色	ローム表・表小 15%
107 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・ローム表・表小 15%
108 土色	10YR 4/3	個	1	土色	V11面由来表・ローム表・表小・V11面由来プロック中へ大 20%
109 土色	10YR 4/4	個	1	土色	V11面由来プロック中へ大・表小・ローム表 15%
110 褐色	7.5YR 4/3	個	1	褐色	V11面由来プロック中へ大・表小・土色・ローム表・V11面由来表 15%
111 土色	7.5YR 5/3	個	1	土色	土色プロック中へ大・ロームプロック中へ大・表小へ中 30%
112 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	V11面由来プロック中へ大・ロームプロック中へ大・表小へ中 20%
113 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	V11面由来プロック中へ大・ロームプロック中へ大・表へ中 30%
114 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	V11面由来プロック中へ大 40%
115 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	V11面由来表・ローム表・表小へ大・V11面由来プロック中へ大 20%
116 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	ローム表・V11面由来表・表小へ中・V11面由来プロック 15%
117 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	表小・土色 2%
118 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	ローム表・ロームプロック中へ大・表小・V11面由来プロック 25%
119 土色	7.5YR 6/6	個	1	土色	ロームプロック中へ大・表小・V11面由来プロック 20%
120 褐色	7.5YR 4/3	個	1	褐色	ローム表・表小 10%
121 土色	7.5YR 4/4	個	1	土色	ロームプロック中へ大・表小へ中・V11面由来表・ローム表 20%
122 土色	7.5YR 4/3	個	1	土色	ローム表・V11面由来表・表小 15%
123 土色	7.5YR 4/3	個	1	土色	土色プロック中へ大・V11面由来プロック中へ大・表へ中・ローム表・V11面由来表 40%
124 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	ローム表・表小 20%
125 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	ローム表・ロームプロック中へ大・表小 20%
126 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	ローム表・表小 5%
127 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	土色プロック中へ大・ロームプロック中へ大・表小 5%
128 土色	7.5YR 4/3	個	1	土色	ロームプロック中へ大・表小 20%
129 褐色	7.5YR 5/6	個	1	褐色	
130 褐色	7.5YR 5/6	個	1	褐色	
131 土色	7.5YR 4/3	個	1	土色	
132 土色	7.5YR 4/3	個	1	土色	
133 褐色	7.5YR 6/6	個	1	褐色	
134 土色	7.5YR 5/4	個	1	土色	

表Ⅱ-6 土層断面⑤⑥注記

No	土名	10VR	3/2	結核	土性	堅固度	混入物	備考
1	黒褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小5%	褐色
2	暗褐色	10VR	3/5	砂	砂	堅	ローム粒小1%	褐色、黒褐色、土層
3	黒褐色	10VR	2/2	砂	砂	堅	ローム粒小1%	褐色
4	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小、灰1%	黄色土
5	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小1%	土層サンプル
6	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小、礫中・灰小10%	黄色土、平場の住居盛り上げ土
7	褐色	10VR	4/6	砂	砂	堅	ローム粒小、礫小・中5%	灰層中、灰層大混入、黄色土、平場の住居盛り上げ土
8	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小、灰層小、岩片小1%	黄色土、平場の住居盛り上げ土
9	黒褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小1%	黄色土、土層サンプル
10	灰黄褐色	10VR	4/2	砂	砂	堅	ローム粒小、ロームブロック中・大3%	黄色土
11	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小1%	黄色土
12	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小、礫中3%	黄色土
13	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小、礫中3%	黄色土、土層より土色明るい
14	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小、灰小、礫中3%	黄色土、14：3/3暗褐色
15	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小、灰小10%	黄色土
16	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小、灰小10%	黄色土
17	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小、灰小・中、礫中10%	黄色土、灰サンプル
18	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ロームブロック大・ローム粒小、礫小7%	黄色土、平場の住居盛り上げ土、ボソボソしている
19	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小、岩片小1%	黄色土、土層サンプル
20	暗褐色	10VR	3/1	砂	砂	堅	ローム粒小1%	黄色土
21	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小2%	黄色土
22	暗褐色	10VR	3/1	砂	砂	堅	ローム粒小、灰小2%	黄色土
23	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小5%	黄色土
24	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小5%	土層より土色明るい黄色土
25	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小2%	黄色土
26	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小2%	黄色土
27	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ロームブロック大・礫大・ローム粒小1%	黄色土
28	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ロームブロック大・ローム粒小20%	黄色土
29	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小、礫中3%	黄色土
30	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小、礫小5%	黄色土、灰サンプル
31	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小3%	黄色土
32	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ロームブロック・ローム粒10%	黄色土
33	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小15%	黄色土
34	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小・ロームブロック大15%	黄色土、灰サンプル、土層混入1%
35	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小3%	黄色土
36	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小3%	黄色土
37	暗褐色	10VR	3/1	砂	砂	堅	ローム粒小1%	黄色土
38	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小3%	黄色土
39	灰黄褐色	10VR	4/2	砂	砂	堅	ローム粒小15%	黄色土
40	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小2%	黄色土
41	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	土層サンプル、礫大・礫大25%	黄色土
42	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小、ロームブロック大・灰小10%	黄色土
43	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小、礫小10%	黄色土
44	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小、礫小10%	黄色土
45	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	シルト・ローム粒小・礫小・大20%	黄色土
46	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小2%	黄色土
47	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小5%	黄色土
48	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小	黄色土、土層サンプル
49	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小・シルト・シルト・礫大・礫大15%、下層30%	黄色土、土層サンプル
50	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	ローム粒小・シルト・シルト・礫大・礫大15%、下層15%	黄色土、土層サンプル
51	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ロームブロック大・礫大10%	黄色土、土層サンプル
52	暗褐色	10VR	4/4	砂	砂	堅	礫中7%	黄色土、土層サンプル
53	暗褐色	10VR	7/6	砂	砂	堅	灰層・礫層・シルト・シルト・礫層・下層30%	黄色土、土層サンプル
54	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	シルト・礫層・礫中・礫中30%	黄色土、土層サンプル
55	暗褐色	10VR	3/3	砂	砂	堅	シルト・礫層・礫中・礫中15%	黄色土、土層サンプル
56	暗褐色	10VR	3/2	砂	砂	堅	ローム粒小・礫中・シルト・礫中15%	黄色土、土層サンプル
57	灰黄褐色	10VR	4/2	砂	砂	堅	ローム粒小・礫中・シルト・礫中・中10%	黄色土、土層サンプル
58	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	シルト・礫中3%	黄色土、土層サンプル
59	暗褐色	10VR	4/4	砂	砂	堅	シルト・礫中15%	黄色土、土層サンプル
60	暗褐色	10VR	4/6	砂	砂	堅	ロームブロック大・礫中2%	黄色土、土層サンプル
61	暗褐色	7.5VR	4/4	砂	砂	堅	ロームブロック大2%	黄色土、土層サンプル
62	暗褐色	10VR	4/4	砂	砂	堅	ロームブロック大3%	黄色土、土層サンプル
63	暗褐色	7.5VR	5/6	砂	砂	堅	ロームブロック大・灰2%	黄色土、土層サンプル
64	暗褐色	7.5VR	5/6	砂	砂	堅	ロームブロック大3%	黄色土、土層サンプル
65	暗褐色	7.5VR	5/6	砂	砂	堅	ロームブロック大7%	黄色土、土層サンプル
66	にじみ黄褐色	10VR	5/4	砂	砂	堅	礫中・礫大7%	黄色土、土層サンプル
67	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小、礫中7%	黄色土、土層サンプル
68	灰黄褐色	10VR	4/2	砂	砂	堅	ローム粒小、礫中・灰小15%	黄色土、土層サンプル
69	暗褐色	7.5VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小・礫中・灰小15%	黄色土、土層サンプル
70	褐色	7.5VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小・礫中・灰小15%	黄色土、土層サンプル
71	暗褐色	7.5VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小・礫中・灰小15%	黄色土、土層サンプル
72	にじみ褐色	7.5VR	5/4	砂	砂	堅	ローム粒小・礫中・灰小15%	黄色土、土層サンプル
73	暗褐色	7.5VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小・礫中・灰小15%	黄色土、土層サンプル
74	暗褐色	7.5VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小・礫中・灰小15%	黄色土、土層サンプル
75	暗褐色	7.5VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒小・礫中・灰小15%	黄色土、土層サンプル
76	暗褐色	7.5VR	4/2	砂	砂	堅	ローム粒小・礫中・灰小15%	黄色土、土層サンプル

H 車46以降は1の注記を参照のこと

No	土名	10VR	3/2	結核	土性	堅固度	混入物	備考
1	黒褐色	10VR	2/2	砂	砂	堅	ローム粒2%	黄色土
2	にじみ黄褐色	10VR	5/4	砂	砂	堅	ローム粒3%	黄色土
3	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	ローム粒3%	黄色土
4	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	灰小・ローム粒3%	黄色土
5	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	礫小・中7%	黄色土
6	にじみ黄褐色	10VR	5/4	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土
7	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土
8	褐色	10VR	4/4	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土
9	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土
10	にじみ黄褐色	10VR	4/3	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土
11	暗褐色	7.5VR	4/4	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土
12	暗褐色	7.5VR	4/4	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土
13	にじみ褐色	7.5VR	5/4	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土
14	褐色	7.5VR	4/4	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土
15	にじみ褐色	7.5VR	5/4	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土
16	暗褐色	7.5VR	4/2	砂	砂	堅	礫小・中10%	黄色土

表Ⅱ-7 土層断面⑥注記

No.	土色	結核	土質	堅硬度	混入物	備考
17	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂壤土	堅	炭小・ロームブロック極大 30%	
18	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂壤土	堅	炭小 3%	
19	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂壤土	堅	炭小 3%	ローム主
20	褐色	7.5YR 4/4	前 砂壤土	軟	炭小 2%	
22	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂壤土	堅	炭小 2%	VI層由来の二次堆積主
23	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂壤土	すこぶる堅	炭小 1%	
24	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂壤土	すこぶる堅	炭小 2%	よくしまる
25	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂壤土	すこぶる堅	炭小 1%	
26	黄褐色	7.5YR 3/1	前 砂土	すこぶる堅	ローム極大 15%	
27	褐色	7.5YR 6/6	前 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	よくしまる
28	にぶい黄褐色	10YR 5/4	前 砂土	堅	礫小〜大 5%	
29	にぶい黄褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	よくしまる
30	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	炭小〜大・礫小〜大 10%	
31	灰褐色	7.5YR 4/2	前 砂土	堅	炭小〜大・礫小 7%	
32	にぶい黄褐色	10YR 5/4	前 砂土	堅	礫小〜中・VI層由来礫中 10%	主層7に似る
33	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	ローム主
34	灰褐色	7.5YR 4/2	前 砂土	すこぶる堅	炭小〜大 7%	
35	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	
36	明褐色	7.5YR 5/6	前 砂土	すこぶる堅	炭小〜礫大 3%	
37	明褐色	7.5YR 4/2	前 砂土	堅	炭小 3%	
38	灰褐色	7.5YR 4/2	前 砂土	堅	炭小 3%	
39	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	堅	炭小〜中 2%	
40	明褐色	7.5YR 4/3	前 砂土	堅	ローム粒・炭小 5%	
41	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	結り固
42	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅		ハナドロ〜ローム層
43	明褐色	7.5YR 5/6	前 砂土	すこぶる堅		ハナドロ〜ローム層

No.	土色	結核	土質	堅硬度	混入物	備考
1	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	堅		
2	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	堅		
3	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	堅	炭中 2%	
4	黄褐色	10YR 2/3	前 砂土	堅	炭中 20%	
5	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	堅	炭中 1%	
6	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	堅		
7	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	堅		
8	黄褐色	10YR 3/3	前 砂土	堅	炭小・ローム粒 1%	
9	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	堅		
10	黄褐色	10YR 4/2	前 砂土	すこぶる堅		
11	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	すこぶる堅		
12	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒 2%	
13	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒 1%	
14	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒 1%	よくしまる
15	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒 5%	ローム主
16	黄褐色	10YR 3/3	前 砂土	堅		
17	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	堅	ロームブロック中・炭小〜中 7%	ボツボツ
18	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 15%	ボツボツ
19	黄褐色	10YR 3/1	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 3%	
20						
21	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒 3%	
22	黄褐色	10YR 3/3	前 砂土	堅	ローム粒・炭小〜中 15%	
23	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒 5%	
24	黄褐色	10YR 4/2	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小〜中 10%	
25	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒・ロームブロック中 3%	
26	黄褐色	10YR 3/2	前 砂土	堅	炭小〜中・ローム粒 20%	
27	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	堅	ローム粒・炭小・ロームブロック中 15%	
28	黄褐色	10YR 4/2	前 砂土	すこぶる堅	炭小〜大・ローム粒 20%	
29	にぶい黄褐色	10YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒・ローム粒 50%	
30	灰黄褐色	10YR 4/2	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 10%	
31	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来ブロック中・炭小 10%	
32	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来中・ローム粒 3%	
33	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	炭小〜中・ローム粒 3%	
34	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来粒 10%	
35	褐色	7.5YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来粒・炭小 15%	
36	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	炭小 7%	
37	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	炭小〜中・ロームブロック中 20%	ローム主
38	褐色	7.5YR 6/6	前 砂土	すこぶる堅	炭小・ロームブロック・VI層由来ブロック極大 50%	ローム主
39	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来礫中〜大・炭小 10%	
40	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	炭小・VI層由来砂約 7%	
41	にぶい黄褐色	10YR 3/3	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来砂約 3%	より明
42	にぶい黄褐色	10YR 3/4	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来砂約 7%	
43	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	堅	VI層由来砂約 5%	
44	にぶい黄褐色	10YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来砂約 10%	
45	明黄褐色	10YR 6/6	前 砂土	すこぶる堅	礫小〜大 20%	
46	黄褐色	10YR 4/2	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来中・炭小 10%	VI層由来の二次堆積主
47	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来砂約 15%	
48	にぶい黄褐色	10YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	炭小〜中 2%	
49	黄褐色	10YR 3/3	前 砂土	すこぶる堅	炭小〜大・ローム粒・礫小 10%	
50	褐色	7.5YR 6/6	前 砂土	すこぶる堅	炭小・ローム粒・礫小 15%	
51	明褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来粒・炭小 7%	より明
52	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来粒・炭小 7%	
53	にぶい褐色	7.5YR 5/6	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来粒 50%	
54	明褐色	7.5YR 5/6	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来粒・炭小・礫大 7%	
55	にぶい黄褐色	10YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来ブロック極大 40%	
56	にぶい黄褐色	10YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来粒・ロームブロック中・炭小 7%	
57	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小〜中 5%	
58	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅		ローム主
59	褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来ブロック・ロームブロック極大・炭小〜中 15%	
60	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	堅	炭小・ローム粒 3%	
61	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	堅	VI層由来ブロック中 3%	
62	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	炭小・VI層由来粒 3%	
63	明褐色	7.5YR 5/6	前 砂土	堅	ロームブロック極大 50%	
64	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	すこぶる堅	VI層由来粒 30%	
65	褐色	7.5YR 6/6	前 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	ローム主
66	黄褐色	7.5YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	炭小〜中・VI層由来粒・VI層由来ブロック極大 7%	
67	褐色	7.5YR 4/3	前 砂土	堅	炭小〜中・VI層由来粒 5%	より明
68	にぶい褐色	7.5YR 5/4	前 砂土	やや軟	ローム主	
69	褐色	7.5YR 4/3	前 砂土	すこぶる堅	炭小・VI層由来粒 3%	よくしまる

表Ⅱ-8 土層断面⑥⑦⑧記

No.	土色	層厚	土質	原位置	埋入物・埋入率	備考
70	黄褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	灰小～中 3%	
71	黄褐色	7.5YR 3/3	砂	砂	灰小～中 10%	
72	褐色	7.5YR 6/6	砂	砂	灰小	
73	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	灰小～中、VI層由来ブロック最大 50%	
74	黄褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	灰小～中、VI層由来ブロック最大 10%	
75	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	灰小、VI層由来ブロック中、灰小 2%	ローム主
76	黄褐色	7.5YR 4/2	砂	砂	灰小～中、VI層由来ブロック中、10%	
77	にじみ褐色	7.5YR 5/3	砂	砂	灰小 2%	
78	黄褐色	7.5YR 4/2	砂	砂	灰小～中 7%	
79	にじみ褐色	7.5YR 5/3	砂	砂	灰小 3%	
80	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	灰小～中、VI層由来、灰小～中 7%	
81	黄褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	灰小～中、VI層由来ブロック最大 50%	
82	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	灰小～中、VI層由来ブロック最大、灰小 10%	
83	褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	灰小 2%	
84	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	灰小～中、VI層由来中～大 10%	ボツボツ
85	黄褐色	7.5YR 3/2	砂	砂	灰小～中、ローム材、灰小 15%	
86	黄褐色	10YR 3/2	砂	砂	ローム材、ロームブロック～極大、ローム材 30%	ローム主、上面1cm厚層
87	黄褐色	7.5YR 5/6	砂	砂	灰小、粘土質 5%	
88	黄褐色	7.5YR 3/2	砂	砂	ローム材 3%	
89	黄褐色	7.5YR 5/6	砂	砂	灰小 2%	ローム主
90	黄褐色	7.5YR 3/3	砂	砂	灰小～中、ローム材、ロームブロック～中 30%	
91	黄褐色	10YR 3/2	砂	砂	ローム材、灰小 10%	
92	黄褐色	10YR 3/2	砂	砂	ローム材、粘土質、灰小 10%	
93	黄褐色	7.5YR 5/3	砂	砂	ローム材、灰小～中 15%	
94	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	灰小 5%	ローム主
95	褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	VI層由来、ローム材、灰小 15%	
96	褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	ローム材、ロームブロック～極大、ローム材、灰小～中 50%	
97	黄褐色	7.5YR 4/2	砂	砂	灰小、ロームブロック～大 25%	
98	褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	ローム材	ローム主
99	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材	ローム主
100	黄褐色	7.5YR 3/2	砂	砂	ローム材、灰小 15%	
101	黄褐色	7.5YR 5/6	砂	砂	ローム材	ローム主
102	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	VI層由来、灰小 5%	ローム主
103	褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	灰小～中、ロームブロック中 15%	
104	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材	VI層由来の二次埋戻主
105	褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	灰小～中 7%	
106	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	VI層由来、灰小 30%	
107	黄褐色	7.5YR 4/2	砂	砂	灰小 15%	
108	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	灰小～中、VI層由来、灰小 5%	
109	褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	灰小～中 3%	
110	黄褐色	7.5YR 4/2	砂	砂	ローム材、ロームブロック～極大、灰小 40%	
111	黄褐色	7.5YR 3/2	砂	砂	ローム材、灰小、粘土質 15%	
112	褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	ローム材、ロームブロック～極大、灰小～中、ローム材 50%	

No.	土色	層厚	土質	原位置	埋入物	備考
1	黄褐色	10YR 3/2	砂	砂	ローム材 3%	
2	黄褐色	10YR 3/3	砂	砂	ローム材 3%	
3	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	灰小、ローム材 1%	B-1m直下
4	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	粘土質、ローム材 1%	土層より明瞭
5	黄褐色	10YR 3/3	砂	砂	ローム材 1%	B-1m直下
6	にじみ黄褐色	10YR 6/3	砂	砂	ローム材	→5/3ににじみ黄褐色、B-1m
7	黄褐色	10YR 3/4	砂	砂		
8	黄褐色	10YR 3/3	砂	砂		
9	黄褐色	10YR 3/2	砂	砂	ローム材 2%	
10	黄褐色	10YR 3/2	砂	砂	灰小～中、ローム材、ロームブロック中 7%	上より明瞭
11	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	ローム材、灰小 15%	ロームブロック最大部分にあり
12	にじみ黄褐色	10YR 5/4	砂	砂	灰小 2%	ローム主
13	黄褐色	10YR 4/2	砂	砂	ローム材、灰小～中 15%	
14	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	灰小、ローム材、ロームブロック～極大 30%	
15	黄褐色	10YR 4/2	砂	砂	ローム材、ロームブロック最大、灰小～中 50%	
16	黄褐色	7.5YR 4/2	砂	砂	ローム材、ロームブロック最大、灰小～中、ローム材 40%	ボツボツ
17	黄褐色	7.5YR 4/2	砂	砂	ローム材、ロームブロック最大、灰小 40%	
18	黄褐色	10YR 3/3	砂	砂	ローム材、灰小 7%	
19	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	ローム材、ロームブロック最大 50%	
20	黄褐色	10YR 3/3	砂	砂	灰小～中 10%	ボツボツ
21	黄褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	ローム材、ローム材、灰小～中 10%	
22	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	灰小 2%	
23	黄褐色	10YR 4/2	砂	砂	灰小、粘土質、ローム材 10%	
24	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	ローム材、ローム材、灰小 30%	
25	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	ローム材、ローム材、灰小～中 25%	
26	黄褐色	10YR 4/2	砂	砂	灰小～中、ローム材、ローム材 20%	ボツボツ
27	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	灰小 3%	ローム主
28	黄褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	灰小～中、ローム材、ローム材 15%	ボツボツ
29	黄褐色	7.5YR 6/6	砂	砂	ローム材、ローム材、灰小 3%	ローム主
30	黄褐色	7.5YR 4/2	砂	砂	ローム材、ローム材、灰小 20%	ボツボツ
31	黄褐色	7.5YR 6/6	砂	砂	ローム材、ローム材、灰小 15%	ローム主
32	黄褐色	7.5YR 6/6	砂	砂	ローム材、ローム材、灰小 15%	ボツボツ
33	黄褐色	7.5YR 5/6	砂	砂	ローム材、ローム材、灰小 1%	ローム主
34	にじみ黄褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材、ローム材、灰小～中 50%	
35	黄褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材 1%	ボツボツ
36	にじみ黄褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材 1%	ボツボツ
37	黄褐色	10YR 3/3	砂	砂	ローム材、ローム材 3%	
38	黄褐色	10YR 3/2	砂	砂	ローム材、ローム材 2%	
39	黄褐色	7.5YR 5/6	砂	砂		黄褐色土
40	褐色	7.5YR 4/3	砂	砂	灰小、ローム材 1%	
41	にじみ黄褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材 5%	ローム主
42	にじみ黄褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材 5%	上より明瞭
43	にじみ黄褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材 5%	粘土質、上より明瞭
44	にじみ黄褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材 1%	粘土質、上より明瞭
45	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	ローム材、ローム材 7%	
46	褐色	7.5YR 6/6	砂	砂	ローム材 1%	ローム主
47	にじみ黄褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材 1%	
48	にじみ黄褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材、ローム材、灰小 3%	
49	にじみ黄褐色	7.5YR 5/4	砂	砂	ローム材、灰小 5%	ローム主、上より明瞭
50	にじみ黄褐色	10YR 5/4	砂	砂	ローム材、灰小 15%	
51	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	砂	ローム材、ローム材 3%	

表Ⅱ-9 土層断面⑦⑧注記

No	土色	層位	土性	堅硬度	混入物	備考
52	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂壤土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 15%	
53	にじみ黄褐色	10VR	5/4 細 砂壤土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 15%	
54	にじみ黄褐色	10VR	5/3 細 砂壤土	すこぶる堅	VI層由来ブロック類大 50%	
55	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂壤土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 10%	
56	にじみ黄褐色	75VR	5/4 細 砂壤土	すこぶる堅	炭小・ローム粒・VI層由来砂粒 15%	
57	褐色	75VR	4/3 細 砂壤土	すこぶる堅	ロームブロック大・炭小・ローム粒 30%	
58	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 3%	
59	明褐色	75VR	5/6 細 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	
60	にじみ黄褐色	10VR	5/4 細 砂壤土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 10%	
61	にじみ黄褐色	10VR	5/4 細 砂壤土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 2%	
62	にじみ黄褐色	10VR	5/3 細 砂壤土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 3%	
63	にじみ黄褐色	10VR	5/4 細 砂壤土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 15%	
64	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂壤土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 10%	ややボソボソ
65	にじみ黄褐色	10VR	5/4 細 砂壤土	すこぶる堅	繊維小・炭小 2%	
66	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂壤土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 10%	
74	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 5%	上より明
75	灰褐色	75VR	4/2 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 5%	
69	赤褐色	5VR	4/6 細 砂土	堅		異所性粘土
70	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂壤土	すこぶる堅	粘土ブロック小・炭小・ローム 5%	ローム主
71	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	VI層由来粒・炭小・ロームブロック小 10%	
72	褐色	75VR	4/2 細 砂土	堅	炭小・ローム・ロームブロック小 7%	
73	黄褐色	75VR	4/2 細 砂土	堅	炭小・ローム・ロームブロック小 10%	
74	褐色	75VR	4/3 細 砂土	堅	炭小・粘土粒・VI層由来粒 3%	ローム主
75	灰褐色	75VR	4/2 細 砂土	堅	炭小・ローム・ロームブロック・VI層由来ブロック類大・ローム粒 30%	

No	土色	層位	土性	堅硬度	混入物	備考
1	にじみ黄褐色	10VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 7%	
2	にじみ黄褐色	10VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 1%	
3	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 3%	
4	にじみ黄褐色	10VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 10%	
5	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 5%	透気集中層
6	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 15%	上より明
7	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒 5%	粘土
8	灰褐色	75VR	4/2 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒 1%	粘土・水洗層様。床面で湧水大。HP1土層下にも5cm程度様
9	褐色	75VR	4/3 細 砂土	やや軟	ローム粒 1%	
10	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 7%	
11	黄褐色	10VR	3/2 細 砂土	やや軟		自然環境
12	黄褐色	10VR	4/2 細 砂土	すこぶる堅		B-Tmに近
13	褐色	75VR	4/3 細 砂土	堅	ローム粒 2%	
14	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂土	堅	ローム粒 2%	

No	土色	層位	土性	堅硬度	混入物	備考
1	褐色	10VR	3/3 細 砂土	すこぶる堅	炭小	
2	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 5%	粘土層
3	にじみ黄褐色	10VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	炭小・ローム粒・ローム粒 3%	
4	黄褐色	10VR	3/2 細 砂土	堅		粘土層
5	黄褐色	10VR	3/2 細 砂土	堅		粘土層
6	黄褐色	10VR	3/3 細 砂土	堅	炭小・ローム粒 3%	
7	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	
8	明褐色	75VR	5/6 細 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	
9	明褐色	10VR	3/2 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒 1%	
10	褐色	75VR	4/4 細 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	
11	明褐色	75VR	5/6 細 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	VI層由来の二次堆積主
12	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	炭小・ローム・ローム粒 5%	
13	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒大・炭小 40%	
14	赤褐色	5VR	4/6 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒大・粘土・ローム粒大・炭小 50%	
15	明褐色	10VR	3/3 細 砂土	堅	炭小・粘土 5%	
16	明褐色	75VR	5/6 細 砂土	すこぶる堅	炭小・粘土・ローム粒 3%	
17	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅	炭小・粘土・ローム粒 3%	ローム主
18	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	上層ローム・ローム粒大・炭小 25%	
19	褐色	75VR	4/3 細 砂土	堅	ローム・ローム粒大・炭小 15%	ローム主
20	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅		
21	にじみ黄褐色	75VR	5/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒大・炭小 30%	
22	にじみ黄褐色	75VR	5/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒大・炭小 20%	
23	にじみ黄褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒大・炭小 50%	
24	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒大・炭小 3%	
25	褐色	75VR	4/4 細 砂土	堅	ローム・ローム粒大 40%	
26	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅		ローム主
27	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	粘土粒・ローム粒・炭小 15%	土層27 は25%
28	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒大・炭小 10%	
29	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	VI層由来ブロック小 7%	
30	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	
31	明褐色	10VR	3/2 細 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	よくしまるローム主
32	褐色	75VR	4/4 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒大・炭小 40%	
33	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅		ローム主
34	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	堅	VI層由来ブロック小 5%	ローム主
35	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅		VI層由来の二次堆積主
36	褐色	75VR	4/4 細 砂土	堅	炭小・ローム・ローム・ローム粒大 10%	
37	にじみ褐色	75VR	6/4 細 砂土	堅		VI層由来の二次堆積主
38	褐色	75VR	4/3 細 砂土	堅	炭小・ローム・粘土・ローム粒 15%	
39	褐色	75VR	4/4 細 砂土	堅	粘土・炭小 5%	
40	褐色	75VR	4/4 細 砂土	堅	粘土・炭小 3%	
41	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒大・炭小 10%	上より明る
42	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅		ローム主・ローム・ローム粒の集合
43	褐色	75VR	4/4 細 砂土	すこぶる堅		ローム主
44	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅		
45	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	炭小 2%	
46	にじみ黄褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅		
47	にじみ黄褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	
48	にじみ黄褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅		ローム主
49	にじみ黄褐色	75VR	5/3 細 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	
50	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	炭小・粘土・ローム粒 30%	
51	褐色	75VR	4/3 細 砂土	すこぶる堅	ローム・ローム粒・炭小 50%	
52	にじみ褐色	75VR	5/4 細 砂土	すこぶる堅	炭小 1%	

表Ⅱ-10 土層断面⑥注記

No	土色	結核	土性	堅硬度	混入物	備考
53	明褐色	7.5YR	5/6	細 硬土	すこぶる堅	ローム主
54	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	堅	
55	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ローム主
56	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック極大・炭小50%
57	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭小1%
58	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ローム主
59	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ローム主
60	灰褐色	7.5YR	4/2	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック極大・炭小50%
61	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ローム主
62	明褐色	7.5YR	5/6	細 硬土	堅	ローム主、ややボソボソ
63	灰褐色	7.5YR	4/2	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック極大50%
64	灰褐色	7.5YR	4/2	細 硬土	軟	ロームブロック中～大・炭小50%
65	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ローム主
66	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ローム主、よくしまる
67	明褐色	7.5YR	5/6	細 硬土	堅	ローム主
68	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	堅	ローム主
69	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ローム主
70	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ローム主、ブロックの集合
71	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	
72	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	より細い
73	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	堅	炭小1%
74	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭小・ロームブロック大7%
75	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭小・ロームブロック中2%
76	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	炭小3%
77						より細い VI層由来の二次堆積主
78	灰褐色	7.5YR	4/2	細 硬土	すこぶる堅	炭小2%
79	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	炭小1%
80	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック中～極大25%
81	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック中2%
82	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	炭小・ロームブロック中2%
83	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	炭小1%
84	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック極大50%
85	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	堅	炭小1%
86	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	炭小1%
87	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	堅	VI層由来ブロック極大50%
88	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭小3%
89	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	堅	炭小1%
90	明褐色	7.5YR	5/6	細 硬土	すこぶる堅	炭小1%
91	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭小1%
92	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭小1%
93	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	炭小・ロームブロック中1%
94	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	炭小1%

No	土色	結核	土性	堅硬度	混入物	備考
1	黄褐色	10YR	2/2	細 硬土	堅	シルト粒小～中5%
2	黄褐色	10YR	3/2	細 砂土	堅	シルト粒中・炭粒小～小・ローム粒7%
3	褐色	10YR	3/2	細 砂土	堅	
4	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	ローム粒3%
5	暗褐色	10YR	3/3	細 硬土	すこぶる堅	ローム粒・ロームブロック3%
6	黄褐色	10YR	3/2	細 砂土	軟	
7	暗褐色	10YR	3/3	細 硬土	すこぶる堅	ローム粒2%
8	暗褐色	10YR	3/3	細 砂土	堅	
9	暗褐色	10YR	3/3	細 砂土	すこぶる堅	
10	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック中・炭小・ローム粒3%
11	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細 砂土	すこぶる堅	炭・ロームブロック小・ローム粒3%
12	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭粒小・ローム粒5%
13	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	ローム粒2%
13	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	炭粒小2%
14	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ローム粒・炭粒小3%
15	褐色	10YR	4/4	細 硬土	すこぶる堅	VI層由来炭小中・炭粒小7%
16	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック大・シルト炭粒大・炭小30%
17	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭粒小中・ロームブロック小～大・ローム粒10%
18	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細 硬土	堅	ロームブロック大25%
19	にぶい黄褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	堅	ロームブロック大15%
20	にぶい黄褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック大10%
21	黄褐色	10YR	3/3	細 硬土	すこぶる堅	ローム粒・炭小3%
22	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック大～極大・炭小50%
23	にぶい黄褐色	10YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭粒大・ロームブロック中25%
24	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	ローム粒・炭小・ロームブロック中7%
25	黄褐色	7.5YR	4/4	細 硬土	すこぶる堅	炭粒小中・ロームブロック大・炭小～極大25%
26	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	ロームブロック極大・炭中50%
27	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	ロームブロック小～極大・炭小・炭主ブロック中40%
28	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	ロームブロック中～大・炭小中～25%
29	黄褐色	10YR	3/4	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック中～大30%
30	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック100%
31	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック大～極大50%
32	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック中15%
33	黄褐色	7.5YR	4/4	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック中～大50%
34	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック中・炭小中7%
35	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	炭小中10%
36	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	シルト粒小～極大25%
37	黄褐色	7.5YR	4/3	細 砂土	すこぶる堅	炭粒小・ロームブロック中～極大10%
38	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック大～極大・炭小中30%
39	明褐色	7.5YR	5/6	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック大～極大・炭小大30%
40	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	炭粒小中・ロームブロック中～極大・シルト粒中10%
41	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	VI層由来炭中・炭小15%
42	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	炭粒小・ロームブロック大5%
43	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック大～極大15%
44	褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭粒小1%
45	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	炭粒小1%
46	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	ロームブロック大～極大20%
47	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	ロームブロック中～大20%
48	黄褐色	7.5YR	4/4	細 硬土	堅	ロームブロック中3%
49	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック極大30%
50	にぶい褐色	7.5YR	5/4	細 硬土	すこぶる堅	ロームブロック極大・炭粒小50%
51	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	すこぶる堅	炭小1%
52	黄褐色	7.5YR	4/3	細 硬土	堅	ロームブロック大～極大20%

表Ⅱ-11 土層断面⑧⑨注記

No.	土質	結核	土性	堅硬度	混入物	備考
53	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂礫土	ローンプロック大～特大・炭粉小40%
54	褐色	10YR	4/3	弱	すこぶる堅	炭粉小
55	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	砂土	炭小・ローンプロック中 3%
56	にぶい褐色	7.5YR	6/4	弱	砂礫土	炭粉小1%
57	褐色	7.5YR	6/6	弱	すこぶる堅	炭粉小1%
58	褐色	7.5YR	6/6	弱	すこぶる堅	炭粉小1%
59	褐色	7.5YR	7/6	弱	すこぶる堅	ローンプロック特大 20%
60	褐色	7.5YR	7/6	弱	砂礫土	
61	にぶい褐色	7.5YR	6/4	弱	すこぶる堅	VI層由来砂質部分の二次堆積
62	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	砂土	ほぼパードローム
63	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	すこぶる堅	ローンプロック中・炭小1%
64	褐色	10YR	4/4	弱	砂土	ローンプロック中・炭小3%
65	にぶい褐色	7.5YR	6/4	弱	砂土	ローンプロック大～特大 30%
66	明褐色	7.5YR	5/6	弱	すこぶる堅	ローンプロック大～特大 55%
67	褐色	7.5YR	6/6	弱	砂土	ローンプロック中 3%
68	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	
69	明褐色	7.5YR	5/6	弱	砂土	ローンプロック特大 50%
70	褐色	7.5YR	6/6	弱	砂土	
71	明褐色	7.5YR	5/6	弱	砂土	炭小1%
72	明褐色	7.5YR	5/6	弱	砂土	VI層由来の二次堆積
73	褐色	7.5YR	6/6	弱	砂土	VI層由来の二次堆積
74	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	すこぶる堅	ローンプロック特大・炭小10%
75	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂礫土	ローンプロック特大7%
76	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂礫土	ローンプ・炭小3%
77	明褐色	7.5YR	5/6	弱	砂土	ローンプロック特大15%
78	明褐色	7.5YR	5/6	弱	すこぶる堅	炭小1%
79	褐色	7.5YR	6/6	弱	すこぶる堅	ローンプロック特大25%
80	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	すこぶる堅	ローンプロック大 30%

N

No.	土質	結核	土性	堅硬度	混入物	備考
1	明褐色	10YR	3/3	弱	砂礫土	
2	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	すこぶる堅	ローンプ・炭小3%
3	褐色	10YR	4/4	弱	砂礫土	ローンプ・炭小2%
4	褐色	10YR	4/4	弱	砂土	ローンプ・炭小10%
5	にぶい褐色	7.5YR	6/4	弱	砂土	ローンプ・炭小30%
6	褐色	10YR	4/4	弱	砂土	ローンプ・炭小50%
7	明褐色	10YR	3/3	弱	砂礫土	VI層由来砂 2%
8	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	砂礫土	VI層由来砂・炭小3%
9	明褐色	10YR	3/3	弱	砂土	ローンプ・炭小7%
10	褐色	7.5YR	4/4	弱	砂礫土	炭小・ローンプ・炭小7%
11	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂礫土	
12	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小・ローンプ・炭小中～中 3%
13	褐色	7.5YR	4/3	弱	やや軟	炭小中～中 2%
14	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	すこぶる堅	ローンプ・炭小・ローンプ・炭小中～中 20%

O

No.	土質	結核	土性	堅硬度	混入物	備考
1	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂礫土	炭小1%
2	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	すこぶる堅	炭小・ローンプ 1%
3	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂礫土	炭小1%
4	褐色	7.5YR	4/4	弱	砂土	ローンプ・炭小中 30%
5	褐色	7.5YR	4/4	弱	砂土	炭小1%
6	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂土	炭小・ローンプ・炭小特大 20%
7	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂土	炭小・ローンプ・炭小 15%
8	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂礫土	炭小中～中 1%
9	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂土	炭小1%
10	褐色	7.5YR	4/4	弱	砂土	ローンプ・炭小中 3%
11	明褐色	7.5YR	5/6	弱	砂土	炭小2%
12	明褐色	7.5YR	5/6	弱	砂土	炭小・ローンプ・炭小中 1%
13	褐色	7.5YR	4/4	弱	砂土	
14	明褐色	7.5YR	6/6	弱	すこぶる堅	
15	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂礫土	炭小2%
16	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂土	炭小中～中 5%
17	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小中～中・ローンプ・炭小小 7%
18	明褐色	7.5YR	5/6	弱	砂土	炭小中～中 15%
19	明褐色	7.5YR	4/2	弱	砂土	炭小中～中 15%
20	褐色	7.5YR	6/6	弱	砂土	炭小中～中 2%
21	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小1%
22	明褐色	7.5YR	5/6	弱	砂土	炭小中～中・ローンプ 7%
23	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小1%
24	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	ローンプ・炭小特大 50%
25	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	VI層由来砂・炭小中 20%
26	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小中～中 1%
27	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小1%
28	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小1%
29	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小1%
30	褐色	10YR	4/4	弱	砂土	炭小1%
31	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小1%
32	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小1%
33	明褐色	7.5YR	6/6	弱	砂土	ローンプ・炭小中 40%
34	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂土	炭小中～中 7%
35	褐色	7.5YR	6/6	弱	砂土	ローンプ・炭小中～大 50%
36	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小中 3%
37	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小2%
38	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	ローンプ・炭小中～大・炭小 10%
39	黄褐色	7.5YR	5/2	弱	砂土	炭小1%
40	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	
41						
42	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	炭小中～中 1%
43	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂土	炭小1%
44	明褐色	10YR	3/2	弱	砂土	ローンプ・炭小 7%
45	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂土	ローンプ・炭小小・炭小1%
46	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂土	VI層由来砂・炭小小・炭小7%
47	明褐色	7.5YR	5/6	弱	砂土	
48	明褐色	7.5YR	6/6	弱	砂土	炭小中～中 1%
49	褐色	7.5YR	6/6	弱	砂土	炭小中～中 1%
50	褐色	7.5YR	6/6	弱	砂土	炭小中～中 1%
51	明褐色	7.5YR	5/6	弱	砂土	炭小中～中 1%

表Ⅱ-12 土層断面⑨⑩記載

No.土層	結核土質	堅硬度	透入物	備考
52 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	鉄	ボロボロ
53 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	サシこぶ型	ローム粒・炭小 2%
54 にぶい褐色	7.5YR 5/3 砂	硬土	サシこぶ型	炭・VI層由来炭小 2%
55 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	サシこぶ型	VI層由来炭 3%
56 黒褐色	7.5YR 3/1 砂	硬土	サシこぶ型	ローム粒・炭土粒・炭小 30%
57 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	サシこぶ型	ローム・炭土粒・炭小 10%
58 にぶい褐色	7.5YR 6/4 砂	硬土	サシこぶ型	炭小・VI層由来炭 3%
59 褐色	7.5YR 4/4 砂	硬土	鉄	炭小・炭小 2%
60 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	サシこぶ型	炭土ブロック小・炭小・炭小 5%
61 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	サシこぶ型	炭小 1%
62 明褐色	7.5YR 5/6 砂	硬土	サシこぶ型	ローム・VI層由来ブロック大 2%
63 褐色	7.5YR 6/6 砂	硬土	サシこぶ型	ローム・炭土・炭小 20%
64 褐色	7.5YR 4/4 砂	硬土	サシこぶ型	ローム・炭土・炭小 15%
65 褐色	7.5YR 6/6 砂	硬土	サシこぶ型	VI層由来炭・炭小 3%
66 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	サシこぶ型	VI層由来炭・炭小 3%
67 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	サシこぶ型	炭小 1%
68 褐色	7.5YR 6/6 砂	硬土	サシこぶ型	VI層由来炭・VI層由来炭大 3%
69 褐色	7.5YR 6/6 砂	硬土	サシこぶ型	VI層由来炭・VI層由来炭大 15%
70 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	サシこぶ型	VI層由来炭 2%
71 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	サシこぶ型	VI層由来炭・VI層由来ブロック大・炭大 30%
72 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	鉄	炭小 1%
73 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	鉄	VI層由来炭・VI層由来ブロック大 2%
74 明褐色	7.5YR 6/6 砂	硬土	サシこぶ型	ローム・炭土・炭小 15%
75 褐色	7.5YR 6/6 砂	硬土	鉄	炭小 2%
76 褐色	7.5YR 6/6 砂	硬土	鉄	炭小 2%
77 褐色	7.5YR 5/4 砂	硬土	サシこぶ型	炭小 1%
78 褐色	10YR 4/4 砂	砂土	サシこぶ型	ローム主
79 褐色	7.5YR 4/3 砂	砂土	サシこぶ型	ローム主
80 褐色	7.5YR 4/3 砂	砂土	サシこぶ型	ローム主
81 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	ローム主
82 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	炭小 1%
83 にぶい黄褐色	10YR 4/3 砂	砂土	サシこぶ型	ローム粒・炭小 3%
84 褐色	7.5YR 4/4 砂	砂土	サシこぶ型	ローム・炭土・炭小 3%
85 褐色	10YR 4/6 砂	砂土	サシこぶ型	炭小 2%
86 黒褐色	10YR 3/2 砂	砂土	鉄	ローム粒・炭小 15%
87 黒褐色	10YR 3/1 砂	砂土	サシこぶ型	ローム粒・炭土・炭小 15%
88 にぶい黄褐色	10YR 4/3 砂	砂土	鉄	ローム粒 7%
89 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	鉄	炭小 2%
90 明褐色	7.5YR 5/6 砂	砂土	鉄	VI層由来炭小 10%
91 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	鉄	ローム・炭土・炭小 3%
92 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	炭小・炭土・炭小・ローム・炭小 5%
93 褐色	7.5YR 6/6 砂	砂土	サシこぶ型	炭小・ローム粒 5%
94 褐色	10YR 4/4 砂	砂土	サシこぶ型	ローム・炭土・炭小 50%
95 明褐色	7.5YR 5/6 砂	砂土	サシこぶ型	ローム・炭土・炭小 15%
96 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	鉄	炭小 1%
97 褐色	7.5YR 4/3 砂	砂土	サシこぶ型	ローム粒 3%
98 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	VI層由来炭・炭小 5%
99 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	VI層由来炭・炭小 3%
100 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	VI層由来炭・炭小 3%
101 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	VI層由来炭・炭小 5%
102 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	VI層由来炭・VI層由来炭大・炭中 10%
103 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	炭小 2%
104 褐色	7.5YR 4/3 砂	砂土	鉄	炭小・ローム粒 2%
105 褐色	7.5YR 4/3 砂	砂土	サシこぶ型	炭小 1%
106 褐色	7.5YR 4/3 砂	砂土	サシこぶ型	ローム・炭土・炭小 5%
107 明褐色	7.5YR 5/6 砂	砂土	サシこぶ型	VI層由来炭・炭小 3%
108 褐色	7.5YR 6/6 砂	砂土	サシこぶ型	VI層由来炭・炭小 5%
109 褐色	7.5YR 4/4 砂	砂土	鉄	VI層由来炭・炭小 3%
110 明褐色	7.5YR 5/6 砂	砂土	サシこぶ型	ローム・炭土・炭小 10%
111 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	鉄	炭小 1%
112 明褐色	7.5YR 5/6 砂	砂土	鉄	炭小 1%
113 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	炭小 1%
114 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	炭小 1%
115 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	炭小 1%
116 褐色	7.5YR 4/3 砂	砂土	鉄	炭小・ローム粒 2%
117 明褐色	7.5YR 5/6 砂	砂土	鉄	ローム・炭土・炭小 10%
118 褐色	7.5YR 6/6 砂	砂土	鉄	炭小 1%
119 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	鉄	炭小 1%
120 明褐色	7.5YR 5/6 砂	砂土	鉄	炭小 1%
121 褐色	7.5YR 4/4 砂	砂土	鉄	VI層由来炭・炭小 3%
122 明褐色	7.5YR 5/6 砂	砂土	鉄	炭小 1%
123 明褐色	7.5YR 5/6 砂	砂土	鉄	炭小 1%
124 褐色	7.5YR 4/3 砂	砂土	サシこぶ型	VI層由来炭小 2%
125 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	炭小・VI層由来炭小 3%
126 褐色	7.5YR 6/6 砂	砂土	サシこぶ型	炭小 1%
127 褐色	7.5YR 6/6 砂	砂土	サシこぶ型	炭小 1%

P

No.土層	結核土質	堅硬度	透入物	備考
1 黒褐色	10YR 3/2 砂	砂土	サシこぶ型	ローム粒 15%
2 褐色	10YR 4/4 砂	砂土	鉄	古い鉄釘
3 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	漆喰層の
4 にぶい褐色	7.5YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	ツブツブ状
5 にぶい黄褐色	10YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	炭小・ローム粒 3%

Q

No.土層	結核土質	堅硬度	透入物	備考
1 黒褐色	10YR 3/2 砂	砂土	サシこぶ型	ローム粒小・ローム・炭土・炭小 20%
2 黒褐色	10YR 2/2 砂	砂土	サシこぶ型	ローム粒小 15%
3 黒褐色	10YR 2/2 砂	砂土	サシこぶ型	ローム粒小 15%
4 黒褐色	10YR 2/2 砂	砂土	サシこぶ型	ローム粒小 15%
5 にぶい黄褐色	10YR 4/3 砂	砂土	鉄	VI層由来ブロック 50%
6 明褐色	10YR 3/3 砂	砂土	鉄	ローム粒小・炭小 5%
7 褐色	10YR 3/2 砂	砂土	サシこぶ型	ローム粒小・炭小 5%
8 黒褐色	10YR 2/2 砂	砂土	鉄	炭小・炭・ローム粒 3%
9 にぶい黄褐色	10YR 4/3 砂	砂土	鉄	VI層由来ブロック 50%
10 にぶい黄褐色	10YR 6/4 なし	砂土	サシこぶ型	炭小 1%
11 にぶい黄褐色	10YR 5/4 砂	砂土	サシこぶ型	ローム・炭土・炭小 5%

表Ⅱ-13 土層断面⑩⑪注記

No.	土名	層厚	土質	状態	侵入物	備考
8	明黄褐色	10YR 7/6	砂	硬	炭・V層由来ブロック 50%	遺土層
9	明黄褐色	10YR 6/6	砂	硬	V層由来ブロック 50%以上	遺土層
10	黄褐色	10YR 5/6	砂	硬	すこぶる型 V層由来ブロック 50%	遺土層
11	褐色	10YR 4/4	砂	硬	シルト・泥片・礫・ローム粒中 5%	遺土層
12	にじみ黄褐色	10YR 6/6	砂	硬	すこぶる型 ロームブロック 10%	遺土層
13	明黄褐色	10YR 6/6	砂	硬	すこぶる型 V層由来ブロック 50%	遺土層
14	明黄褐色	10YR 6/6	砂	硬	すこぶる型 礫小 5%	遺土層
15	灰褐色	10YR 4/2	砂	硬	すこぶる型 ローム粒微小 3%	遺土層
16	にじみ黄褐色	10YR 6/6	砂	硬	すこぶる型 ロームブロック太・中・大 10%	遺土層
17	褐色	10YR 4/4	砂	硬	ロームブロック太以上 10%	遺土層
18	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型	プライマリー?
19	明黄褐色	7.5YR 5/6	砂	硬	すこぶる型	モザイク層地層
20	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	炭片 2%	
21	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型 V層由来ブロック 30%	
22	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型 下層V層由来ブロック・シルト粒 20%	
23	褐色	7.5YR 7/6	砂	硬	すこぶる型 炭小 1%	
24	明褐色	7.5YR 6/8	砂	硬	すこぶる型	プライマリー
25	褐色	7.5YR 6/8	砂	硬	すこぶる型 炭小 1%	
26	褐色	7.5YR 7/6	砂	硬	すこぶる型 V層由来ブロック 50%	
27	明褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型 炭小 1%	
28	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型	
29	明黄褐色	10YR 7/6	砂	硬	すこぶる型 V層由来ブロック 50%	
30	明褐色	10YR 3/3	砂	硬	ローム粒微小 7%	地の範囲
31	黄褐色	10YR 3/2	砂	硬	ローム粒微小 7%	地の範囲
32	明褐色	10YR 3/3	砂	硬	ローム粒微小 3%	地の範囲
33	黄褐色	10YR 3/2	砂	硬	ローム粒微小 2%	地の範囲
34	灰褐色	10YR 4/2	砂	硬	ローム粒微小 2%	地の範囲
35	黄褐色	10YR 3/2	砂	硬	ローム粒微小 5%	地の範囲
36	褐色	7.5YR 4/4	砂	硬		
37	褐色	7.5YR 6/8	砂	硬		
38	明褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型	
39	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型	
40	にじみ黄褐色	10YR 5/4	砂	硬		ソボロ伏層
41	灰褐色	10YR 4/2	砂	硬	すこぶる型 タロボクブロック 30%	ソボロ伏層
42	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型	ソボロ伏層
43	明褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型	プライマリー
44	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型	プライマリー
45	明褐色	7.5YR 5/6	砂	硬	すこぶる型 V層由来ブロック 7%	プライマリー
46	褐色	7.5YR 5/6	砂	硬		
47	明褐色	7.5YR 15/6	砂	硬	やや軟	V層由来砂層の再堆積
48	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬		V層下部の砂色粘土
49	褐色	7.5YR 7/6	砂	硬	すこぶる型	ハードローム層
50	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬		
51	褐色	7.5YR 4/3	砂	硬	炭小・ローム粒 2%	
52	灰褐色	7.5YR 3/3	砂	硬	ローム粒 2%	
53	褐色	7.5YR 4/4	砂	硬	ロームブロック中・大・特大 15%	
54	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型 ハードロームブロック中・大 30%	

No.	土名	層厚	土質	状態	侵入物	備考
1	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	硬	すこぶる型 ローム粒 7%	遺土層
2	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	すこぶる型 ロームブロック中 30%	埋戻し?
3	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	すこぶる型 炭小 3%	
4	にじみ褐色	7.5YR 4/4	砂	硬	すこぶる型 炭小・V層由来・炭小・特大 5%	
5	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	硬	すこぶる型 炭小・ローム粒 5%	
6	褐色	7.5YR 4/3	砂	硬	ローム粒・V層由来・炭小 2%	
7	褐色	7.5YR 4/3	砂	硬	すこぶる型 炭小・中・V層由来・ローム粒 7%	上より明
8	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	すこぶる型 炭小 3%	ローム系
9	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	すこぶる型 ロームブロック太 40%	
10	明褐色	10YR 3/3	砂	硬	ローム粒 3%	
11	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	硬	すこぶる型 ローム粒・炭小 5%	
12	褐色	7.5YR 4/3	砂	硬	すこぶる型 炭小・特大 1%	
13	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	すこぶる型 炭小・中・ロームブロック太 5%	
14	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	炭小・中 7%	ローム系
15	灰褐色	7.5YR 4/2	砂	硬	炭小 1%	
16	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	硬	炭小 1%	
17	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小 1%	ローム系
18	明褐色	10YR 3/3	砂	硬	炭小・中 3%	
19	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	硬	すこぶる型 炭小・ローム粒 3%	
20	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	硬	炭小・ローム粒 3%	上より明、ローム系
21	褐色	7.5YR 4/3	砂	硬	炭中・ローム粒 2%	
22	褐色	7.5YR 4/3	砂	硬	炭小・ローム粒 5%	
23	にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂	硬	炭小・大・ローム粒・V層由来・炭小・特大 7%	
24	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・ローム粒・V層由来 10%	
25	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭中・ローム粒・V層由来 10%	上より明
26	灰褐色	7.5YR 4/2	砂	硬	すこぶる型 ロームブロック中・大 50%	部分的にV層由来ブロック太 30%
27	灰褐色	7.5YR 4/2	砂	硬	炭小・中 3%	
28	明褐色	10YR 3/2	砂	硬	炭小・特大 15%	
29	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・ローム粒・炭中・大・V層由来ブロック太 50%	
30	明褐色	10YR 3/3	砂	硬	炭小・ローム粒・炭中・大・V層由来ブロック太 20%	
31	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・ローム粒 20%	ローム系
32	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・ローム粒 2%	ローム系
33	褐色	7.5YR 4/3	砂	硬	炭小・ローム粒 5%	
34	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・大・ローム粒・V層由来・炭小・特大 20%	
35	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・ローム粒・V層由来 10%	
36	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭中・ローム粒・V層由来 10%	
37	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・ローム粒 2%	上より明
38	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・ローム粒 2%	上より明、ローム系
39	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・中・ロームブロック小 3%	上より明
40	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小 3%	
41	褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	炭小 1%	ローム系
42	褐色	10YR 4/4	砂	硬	炭小 1%	
43	褐色	7.5YR 4/3	砂	硬	炭小・ローム粒・V層由来・炭小・特大 15%	
44	褐色	7.5YR 4/3	砂	硬	炭小・ローム粒・V層由来・炭小・特大 20%	
45	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・ローム粒・V層由来・炭小 15%	よくしまる
46	明褐色	7.5YR 6/6	砂	硬	炭小・ローム粒・V層由来・炭小・特大 10%	よくしまる、上より明
47	にじみ褐色	7.5YR 5/4	砂	硬	炭小・ローム粒・V層由来・炭小・特大 20%	
48	褐色	7.5YR 4/3	砂	硬	炭小・ローム粒・V層由来・炭小・特大 40%	

表Ⅱ-14 土層断面①注記

No.土色	層厚	土質	状態	含水率	透入物	備考
49層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック大・底小±半50%	上より層
50にぶい褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	ロームブロック大・VI層由来ブロック小・底小15%	
51層褐色	10YR 3/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック大・底小±半7%	
52層褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック大・底小±半20%	
53にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	底小1%	ローム主
54層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	底小・ロームブロック小15%	
55層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	底小±半・底上ブロック小・VI層由来ブロック小±半20%	
56層褐色	7.5YR 6/6	細砂土	堅	サニタール	底大・ロームブロック小±半20%	
57にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	ロームブロック大・底小・VI層由来ブロック小±半30%	
58層褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	ロームブロック大・底小・VI層由来ブロック小±半50%	
59層褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	ロームブロック大・底上・底上ブロック小・底上15%	上より層
60にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	底小・ロームブロック小7%	
61にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック小・底小50%	
62にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	ロームブロック・底上ブロック小・VI層由来ブロック小15%	
63にぶい褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	底上ブロック大・底小・ロームブロック・VI層由来ブロック大±半50%	
64にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	底上ブロック大・底中・ロームブロック大±半30%	
65にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	ロームブロック大・底小20%	
66層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	ロームブロック大・底小25%	
67層褐色	7.5YR 6/6	細砂土	堅	サニタール	ハードローム	
68層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	底小・ロームブロック大±半40%	
69にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	底中±大・底上ブロック大7%	
70層褐色	7.5YR 3/2	細砂土	堅	サニタール	底中5%	緑褐色層
71にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック小・底小7%	
72層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック小・底小3%	
73層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック小±半・底小5%	上より層
74層褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック大±半大25%	
75層褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	底小2%	上より層、ローム主
76層褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック大±半大・底小20%	
77層褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック大±半大・底小±半30%	
78にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック小±半大50%	
79にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック大±半大・底小±半40%	
80層褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	底小・VI層由来ブロック小3%	
81層褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック小±半・底小10%	
82にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック小±半大・底小±大・ロームブロック小±半40%	
83にぶい褐色	7.5YR 6/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック大±大・ロームブロック大±大・底小20%	よくしまる
84にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	底小1%	よくしまる、ローム主
85にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック小±半・ロームブロック小±半・底小30%	
86にぶい褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	底小・ロームブロック大±半・底小30%	
87にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来±大40%	ボツボツ
88層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック小±半・底小20%	
89にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック小±半・ロームブロック小±半大・底小±大30%	
90にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	底小2%	よくしまる、ローム主
91層褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック大±大・底小50%	ボツボツ
92層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	ローム大	
93層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	VI層由来・底上・底上10%	
94層褐色	7.5YR 3/2	細砂土	堅	サニタール	底上ブロック大・底小±大・底上10%・ローム大40%	ボツボツ
95層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	底上・底上ブロック大±大・VI層由来±半30%	
96層褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	底上ブロック大・底上±大・底上±大	VI層由来の二次堆積主
97にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来の二次堆積主、102層の底上主、93～95層が剥き出て空間が空いたため	
98層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	VI層由来・底小3%	
99層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	VI層由来・底小7%	上より層
100層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	VI層由来・底小5%	上より層
101層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	VI層由来・底上・VI層由来ブロック大±半25%	
102にぶい黄褐色	10YR 6/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来・底小±大・ロームブロック大±半30%	VI層由来の二次堆積主
103層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	VI層由来・底小±大・ロームブロック大±半30%	
104にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	底小±半・VI層由来ブロック大±半25%	ローム主
105層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	底小±半・VI層由来ブロック大±半25%	VI層由来の二次堆積主
106にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	VI層由来ブロック大±大・底上20%	
107にぶい褐色	7.5YR 5/4	細砂土	堅	サニタール	ハードロームブロック	
108にぶい褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	底上ブロック大7%	ローム主
109層褐色	7.5YR 4/4	細砂土	堅	サニタール	底上±半15%	ローム主
110層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	底上±半15%	ローム主
111層褐色	7.5YR 4/3	細砂土	堅	サニタール	底上±半15%	ローム主

No.土色	層厚	土質	状態	含水率	透入物	備考
1にぶい黄褐色	10YR 6/4	砂	堅	サニタール	ローム大7%	
2層褐色	7.5YR 6/6	砂	堅	サニタール	底小2%	ローム主
3にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	底小・VI層由来±半5%	
4にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	ローム大・底小7%	
5にぶい褐色	7.5YR 4/3	砂	堅	サニタール	ローム大・VI層由来±半3%	上より層
6層褐色	7.5YR 4/2	砂	堅	サニタール	底小・VI層由来・ロームブロック大±半10%	
7にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	ローム大・底小3%	
8層褐色	7.5YR 4/2	砂	堅	サニタール	底小・ローム大7%	
9層褐色	7.5YR 4/3	砂	堅	サニタール	VI層由来・底小7%	
10にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	底小2%	ローム主
11層褐色	7.5YR 4/3	砂	堅	サニタール	ローム大2%	
12層褐色	7.5YR 4/3	砂	堅	サニタール	底上±半・ローム大±半7%	
13にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	VI層由来・ローム大±半7%	ローム主
14にぶい褐色	7.5YR 5/3	砂	堅	サニタール	VI層由来・底小3%	
15層褐色	7.5YR 4/2	砂	堅	サニタール	VI層由来・底小10%	
16にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	底上ブロック大・ロームブロック大・底小15%	
17にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	底小・VI層由来ブロック大±半20%	
18層褐色	7.5YR 6/6	砂	堅	サニタール	VI層由来ブロック大・ロームブロック小15%	
19にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	底小2%	ローム主
20層褐色	7.5YR 4/3	砂	堅	サニタール	VI層由来・ローム大±半15%	
21にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	VI層由来・ローム大±半20%	
22層褐色	7.5YR 4/2	砂	堅	サニタール	VI層由来ブロック大±半・底小20%	
23にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	底上ブロック大・VI層由来ブロック大±大・底上16%	
24にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	VI層由来ブロック大±大・ロームブロック大±半・底小25%	
25にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	VI層由来・底小10%	
26にぶい褐色	7.5YR 5/3	砂	堅	サニタール	VI層由来・底小15%	
27にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	VI層由来・底上・底上ブロック大±半15%	
28層褐色	7.5YR 6/6	砂	堅	サニタール	底小2%	ローム主
29層褐色	7.5YR 6/6	砂	堅	サニタール	底小2%	底上
30にぶい褐色	7.5YR 5/4	砂	堅	サニタール	底小・VI層由来±半10%	

表Ⅱ-15 土層断面①②注記

No.土色	結核・土性	堅密度	透入物	備考
31.にぶい褐色	7.5YR 6/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、減少 15%	
32.にぶい褐色	7.5YR 6/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段 10%	
33.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少、ロームブロック小 10%	
34.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ロームブロック大、VI層由表段 50%	
35.にぶい褐色	7.5YR 5/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、VI層由表段 15%	
36.褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、ローム段 5%	
37.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表ブロック小大、減少 15%	

No.土色	結核・土性	堅密度	透入物	備考
1.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒 3%	
2.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒 3%	
3.黒褐色	10YR 4/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少 2%	土層多く含む、上より順
4.淡黄褐色	10YR 4/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒 5%	上より順
5.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少小 7%	
6.にぶい黄褐色	10YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段中～極大、減少 30%	
7.にぶい黄褐色	10YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段中～極大、40%	
8.褐色	7.5YR 5/6 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段極大 50%	
9.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段極大、VI層由表段、減少 30%	
10.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少 7%	上より順
11.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少 3%	
12.黒褐色	10YR 2/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少小～中、施工段 10%	
13.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、VI層由表段 15%	
14.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、ローム粒 2%	
15.褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少小～中 5%	
16.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少 10%	
17.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、ローム粒 15%	
18.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表ブロック大、VI層由表段、減少 5%	
19.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、ローム粒、減少 3%	
20.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、減少 10%	
21.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ロームブロック中、VI層由表段、減少 15%	
22.にぶい褐色	7.5YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、減少 2%	
23.褐色	7.5YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、減少小～中 10%	
24.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ロームブロック極大 50%	
25.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒 15%	
26.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表ブロック中～極大、減少小～中 50%	
27.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段 5%	
28.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少小～中 7%	
29.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、ロームブロック大、減少小～中 10%	
30.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、ロームブロック極大 50%	ほぼVI層由表の二次堆積 よくしる VI層由表の二次堆積 上より順
31.褐色	10YR 4/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表ブロック極大 50%	
32.にぶい黄褐色	10YR 6/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	サ・ユ・ホ・堅	
33.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒 5%	
34.褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少 15%	
35.褐色	10YR 3/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少 10%	
36.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少 15%	
37.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少 15%	
38.黒褐色	7.5YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、ローム粒 15%	
39.褐色	7.5YR 3/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	施工段 3%	
40.黒褐色	7.5YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、施工段 15%	
41.黒褐色	7.5YR 4/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、減少 15%	
42.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段中～大、減少小～中、ロームブロック小～中 25%	
43.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、ローム粒、VI層由表段 20%	
44.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ロームブロック小、減少 30%	
45.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、VI層由表段中～大、減少 10%	
46.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、ローム粒、施工段、減少 15%	上より順
47.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、ローム粒、施工段、減少 15%	
48.褐色	7.5YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段小～中、VI層由表段、減少 15%	
49.褐色	7.5YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段中～中、VI層由表段、ローム粒、減少 30%	
50.褐色	7.5YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、施工段、減少 15%	上より順
51.褐色	7.5YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、減少小、VI層由表段小～中 15%	上より順
52.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ロームブロック小、VI層由表段、減少 15%	
53.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、減少小、ローム粒 40%	
54.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表ブロック極大 50%	VI層由表の二次堆積土
55.にぶい黄褐色	10YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、減少小、施工段 10%	
56.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、減少小～中、ローム粒 10%	
57.にぶい黄褐色	10YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、VI層由表段小～中、減少 10%	
58.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、VI層由表段 10%	
59.褐色	10YR 4/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、減少 7%	
60.にぶい黄褐色	10YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、ローム粒、減少小～中 30%	
61.にぶい黄褐色	10YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小大 50%	
62.にぶい黄褐色	10YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、ローム粒、減少 25%	砂粒集中 上より順
63.褐色	7.5YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、ローム粒 15%	
64.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、ローム粒 10%	
65.にぶい黄褐色	10YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表ブロック 50%	
66.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表ブロック大、ロームブロック中、減少 40%	
67.にぶい黄褐色	10YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小～極大、ローム粒 20%	
68.褐色	7.5YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表ブロック極大、施工段ブロック小～中、減少小、ローム粒 50%	
69.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少 7%	ローム主
70.褐色	7.5YR 4/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、ローム粒 10%	
71.褐色	7.5YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小～中 7%	皮膚あり
72.明褐色	7.5YR 5/6 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小 5%	ローム主
73.褐色	7.5YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小～極大、ロームブロック小～極大 15%	
74.褐色	7.5YR 4/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、ローム粒 7%	
75.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、ローム粒、減少 30%	
76.黒褐色	10YR 3/2 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒 3%	
77.にぶい褐色	7.5YR 5/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表ブロック極大、減少 50%	

No.土色	結核・土性	堅密度	透入物・透入率	備考
1.黒褐色	10YR 1/1 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒 3%	
2.にぶい黄褐色	10YR 4/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、VI層由表段、減少 15%	
3.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	VI層由表段、減少 3%	
4.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	減少小、ローム粒 15%	
5.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、VI層由表段、減少 15%	
6.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、VI層由表段、減少 15%	
7.にぶい黄褐色	10YR 4/3 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、VI層由表段、減少 10%	上より順
8.褐色	7.5YR 4/4 細 砂壤土	サ・ユ・ホ・堅	ローム粒、VI層由表段、減少 7%	

表Ⅲ-16 土層断面⑫注記

工番	材料	仕様	取付	取付位置	取付方法	備考
9	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少10%
10	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少3%
11	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少15%
12	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
13	10-3-1黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	ロームブロック、ローム材、減少へ半15%
14	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
15	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少へ大20%
16	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材、ローム材、減少15%
17	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材、ローム材、減少20%
18	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材、ローム材、減少15%
19	10-3-1黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	ロームブロックへ増大、減少へ半40%
20	10-3-1黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少15%
21	10-3-1黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少15%
22	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、ロームブロックへ半、VI面由米材、減少15%
23	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
24	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
25	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少15%
26	10-3-1黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少10%
27	10-3-1黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少へ大、ロームブロック中10%
28	10-3-1黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	ロームブロック、減少15%
29	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材10%
30	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少へ大15%
31	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
32	10-3-1黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、ロームブロック大1%
33	10-3-1黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少へ大10%
34	10-3-1黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少へ半10%
35	10-3-1黄緑色	10VR 2/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
36	10-3-1黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、ロームブロック大15%
37	10-3-1黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、ロームブロック大3%
38	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
39	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少15%
40	10-3-1黄緑色	10VR 4/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少5%
41	10-3-1黄緑色	10VR 5/6	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
42	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
43	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	減少、ローム材5%
44	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少15%
45	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少15%
46	10-3-1黄緑色	10VR 4/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少20%
47	10-3-1黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少15%
48	10-3-1黄緑色	10VR 2/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材5%
49	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少5%
50	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少1%
51	10-3-1黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
52	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材、ローム材10%
53	10-3-1黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材、ローム材、ロームブロック増大10%
54	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ロームブロック大20%
55	黄緑色	10VR 1/3	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
56	黄緑色	10VR 2/1	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
57	黄緑色	10VR 1/3	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
58	黄緑色	10VR 1/3	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
59	黄緑色	10VR 2/2	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
60	黄緑色	10VR 1/3	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
61	10-3-1黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材1%
62	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材3%
63	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材3%
64	黄緑色	10VR 4/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
65	黄緑色	10VR 4/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少5%
66	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少7%
67	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
68	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少10%
69	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少5%
70	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少7%
71	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材、VI面由米減少へ半15%
72	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材、ローム材3%
73	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少3%
74	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少へ大10%
75	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少10%
76	黄緑色	10VR 2/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材2%
77	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少5%
78	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材、ローム材15%
79	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材7%
80	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、アール大、ローム材15%
81	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材7%
82	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材10%
83	黄緑色	10VR 4/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少、VI面由米材15%
84	黄緑色	10VR 4/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少、VI面由米材15%
85	黄緑色	10VR 4/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少、VI面由米材10%
86	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少7%
87	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材3%
88	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少5%
89	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材3%
90	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少2%
91	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材3%
92	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材3%
93	10-3-1黄緑色	10VR 5/4	鉄	砂壁土	鉄	ローム材、VI面由米材、減少10%
94	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、減少10%
95	黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材3%
96	黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材、ローム材15%
97	黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
98	黄緑色	10VR 1/3	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
99	黄緑色	10VR 2/1	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
100	黄緑色	10VR 1/3	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
101	黄緑色	10VR 1/3	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
102	黄緑色	10VR 1/3	鉄	砂壁土	鉄	ローム材3%
103	黄緑色	10VR 3/2	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材10%
104	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少10%
105	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材7%
106	10-3-1黄緑色	10VR 4/4	鉄	砂壁土	すべり型	VI面由米材3%
107	10-3-1黄緑色	10VR 4/3	鉄	砂壁土	すべり型	ローム材、VI面由米材、減少10%

表Ⅲ-18 土層断面⑭⑮注記

[illegible]

No.	土名	粘性	土性	堅固度	埋入物	備考
1	濃い黄褐色	10YR	4/3	弱	砂礫土	ローム径 1%
2	黄褐色	10YR	4/4	弱	砂礫土	ローム径 1%
3	黄褐色	7.5YR	5/4	弱	砂礫土	ローム径 2%
4	褐色	7.5YR	4/3	弱	土	すこぶる弱
5	暗褐色	7.5YR	5/6	弱	砂礫土	すこぶる弱 灰小 1%
6	黄褐色	7.5YR	5/4	弱	土	すこぶる弱 灰小 1% ローム土ブロック 1%
7	黄褐色	7.5YR	6/6	弱	土	すこぶる弱 灰小 1%
8	褐色	7.5YR	4/3	弱	土	すこぶる弱 灰小 1% 灰黄褐色ブロック 2%
9	濃い黄褐色	7.5YR	5/4	弱	土	すこぶる弱 灰黄褐色ブロック 2%
10	黄褐色	7.5YR	6/2	弱	土	すこぶる弱 灰小 1% ローム径、ロームブロック大 10%
11	黄褐色	7.5YR	6/4	弱	土	すこぶる弱 灰小 1% ローム径

No	主色	粘性土質	堅固度	掘入物	備考
1	褐色	10VR 4/4	固 砂壤土	すこぶる堅	硬質的
2	暗褐色	7.5VR 5/6	固 壤土	堅	ロームセ
3	褐色	10VR 4/6	固 壤土	すこぶる堅	粘層白ブロック中へ大 10%
4	暗褐色	7.5VR 5/6	固 壤土	すこぶる堅	ソフトロームの

表Ⅱ-19 土層断面⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

No.	土層	土質	堅固度	混入物	備考
5	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂壤土	すこぶる灰	ハードローム的。粘土
6	黄褐色	10YR 4/4	弱 砂壤土	すこぶる灰	灰層由来5%
7	黄褐色	75YR 5/6	弱 砂壤土	すこぶる灰	灰層由来5%
8	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 壤土	すこぶる灰	灰層由来2%
9	黄褐色	75YR 5/6	弱 壤土	すこぶる灰	灰層由来3%
10	黄褐色	75YR 5/6	弱 壤土	すこぶる灰	灰層由来3%
11	黄褐色	75YR 6/6	弱 砂壤土	すこぶる灰	灰層由来3%

No.	土層	土質	堅固度	混入物	備考
1	1に3に黄褐色	10YR 4/3	弱 砂壤土	灰・砂・灰5%	
2	黄褐色	10YR 3/2	弱 砂土	灰	砂中～灰大2%
3	1に3に黄褐色	10YR 4/3	弱 砂壤土	灰	砂中2%
4	黄褐色	10YR 3/3	弱 砂壤土	灰	砂中5%
5	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂壤土	灰	灰小・砂大・粘土小・砂土小7%
6	黄褐色	75YR 3/2	弱 砂壤土	灰	砂大～砂大7%
7	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂壤土	すこぶる灰	砂大～灰大15%
8	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂壤土	すこぶる灰	灰小～中・砂中5%
9	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂壤土	すこぶる灰	灰層由来大・砂中5%
10	黄褐色	10YR 3/3	弱 砂土	灰	砂大7%
11	黄褐色	10YR 3/3	弱 砂土	灰	砂大3%
12	1に3に黄褐色	10YR 4/3	弱 砂土	すこぶる灰	砂中～灰大3%
13	1に3に黄褐色	10YR 4/3	弱 砂壤土	すこぶる灰	
14	1に3に黄褐色	10YR 5/4	弱 砂土	灰	
15	1に3に黄褐色	10YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	砂中・灰小～中15%
16	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂壤土	すこぶる灰	
17	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂壤土	すこぶる灰	砂中～砂大・灰小5%
18	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	砂中7%
19	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂土	すこぶる灰	砂中～灰大10%
20	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	灰	灰中・ロームブロック特大50%
21	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰小～中・粘土ブロック特大10%
22	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	粘土ブロック小・灰小・ロームブロック大15%
23	1に3に黄褐色	10YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	ロームブロック特大・灰小～中50%
24	黄褐色	75YR 6/6	弱 砂壤土	灰	ロームブロック特大・灰小～中50%
25	黄褐色	10YR 3/3	弱 砂土	しょう	灰中3%
26	1に3に黄褐色	10YR 4/3	弱 砂土	しょう	灰中3%
27	黄褐色	10YR 4/2	弱 砂土	灰	
28	1に3に黄褐色	10YR 4/3	弱 砂土	灰	灰小1%
29	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂土	灰	灰小1%
30	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂土	灰	
31	1に3に黄褐色	10YR 4/3	弱 砂土	しょう	
32	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	灰	灰小1%
33	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰小・粘土・灰大7%
34	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	灰	灰小～中7%
35	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰小～中5%
36	黄褐色	75YR 4/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰小～中・ロームブロック中～特大20%
37	黄褐色	75YR 4/2	弱 砂土	すこぶる灰	灰小・ロームブロック大7%
38	黄褐色	75YR 6/6	弱 砂土	すこぶる灰	灰小1%
39	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂土	灰	灰小～大・粘土ブロック・灰層由来20%
40	黄褐色	75YR 3/1	弱 砂土	すこぶる灰	灰小～大・ローム大40%
41	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂土	すこぶる灰	灰小・ローム大
42	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂土	すこぶる灰	灰小・灰層由来2%
43	黄褐色	75YR 5/6	弱 砂土	すこぶる灰	灰小～中・黄褐色ブロック25%
44	黄褐色	75YR 6/6	弱 砂土	すこぶる灰	ローム大
45	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂土	すこぶる灰	黄褐色
46	黄褐色	75YR 6/6	弱 砂土	すこぶる灰	灰小・ローム大10%
47	黄褐色	75YR 6/6	弱 砂土	すこぶる灰	灰小1%
48	1に3に黄褐色	10YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来ブロック小～中・灰小25%
49	黄褐色	10YR 3/2	弱 砂土	灰	
50	黄褐色	10YR 3/2	弱 砂土	灰	
51	1に3に黄褐色	10YR 4/3	弱 砂土	灰	
52	黄褐色	75YR 5/6	弱 砂土	すこぶる灰	
53	黄褐色	75YR 6/6	弱 砂土	すこぶる灰	
54	黄褐色	75YR 5/6	弱 砂土	すこぶる灰	
55	黄褐色	75YR 6/6	弱 砂土	すこぶる灰	
56	黄褐色	75YR 5/6	弱 砂土	すこぶる灰	
57	1に3に黄褐色	75YR 6/4	弱 砂土	すこぶる灰	

No.	土層	土質	堅固度	混入物	備考
1	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来ブロック中～大・灰層由来5%・灰小20%
2	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来5%・灰小7%
3	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂土	すこぶる灰	灰小～大・灰層由来30%
4	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰小・灰層由来5%
5	黄褐色	75YR 2/1	弱 砂土	すこぶる灰	灰層小大40%
6	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰小～中3%
7	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	
8	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来5%
9	黄褐色	75YR 4/3	弱 砂土	すこぶる灰	灰小～大・灰層由来15%
10	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来5%
11	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来5%
12	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来ブロック小～大・灰小30%
13	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰小～中・灰層由来3%
14	黄褐色	75YR 6/6	弱 砂土	すこぶる灰	
15	黄褐色	10YR 1/6	弱 砂土	土層13のブロック40%	
16	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来5%・灰小3%

No.	土層	土質	堅固度	混入物	備考
1	1に3に黄褐色	10YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰小・灰層由来2%
2	黄褐色	10YR 6/6	弱 砂土	すこぶる灰	
3	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来ブロック小・灰小15%
4	1に3に黄褐色	75YR 6/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰小1%
5	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	灰	灰小・灰層由来ブロック小7%
6	黄褐色	10YR 5/6	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来ブロック小～大・灰小10%
7	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰層由来ブロック小5%
8	黄褐色	75YR 6/6	弱 砂土	灰	灰小・ロームブロック小10%
9	1に3に黄褐色	75YR 5/3	弱 砂土	灰	灰小～中・灰層由来7%
10	1に3に黄褐色	75YR 5/4	弱 砂土	すこぶる灰	灰小・灰層由来ブロック小3%

表Ⅱ-20 土層断面⑩注記

No.	土名	結核	土性	堅固度	混入物	備考
11	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	底小・VI層由来砂・砂土ブロック5%
12	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	底小・VI層由来ブロック7%
13	褐色	7.5VR	5/6	弱	硬土	底小・VI層由来ブロック5%
14	明褐色	7.5VR	5/6	弱	硬土	底小7%
15						
16	褐色	7.5VR	6/6	弱	硬土	VI層由来ブロック小・中25%
17	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	ロームブロック小・大・VI層由来ブロック小・底小50%

Z ⑩

No.	土名	結核	土性	堅固度	混入物	備考
1	黒色	10VR	12/1	弱	砂土	自然堆積
2	黒褐色	10VR	13/2	弱	砂土	自然堆積
3	黒色	10VR	13/1	弱	砂土	自然堆積
4	黒褐色	10VR	13/2	弱	砂土	自然堆積
5	褐色	7.5VR	4/3	弱	硬土	ややボソボソ、H-91層主
6	褐色	7.5VR	4/3	弱	硬土	ロームブロック中30%
7	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	底小・ロームブロック小7%
8	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	底小・中・VI層由来由来砂小10%
9	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	ロームブロック大・底小50%
10	褐色	7.5VR	6/6	弱	硬土	ロームブロック大50%
11	褐色	7.5VR	6/6	弱	硬土	ローム主、H-17層主
12	褐色	7.5VR	6/6	弱	硬土	ローム主、H-17層主
13	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	底小・VI層由来由来砂小10%
14	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	底小7%
15	黒褐色	7.5VR	3/1	弱	硬土	ローム主、H-17層主
16	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	ロームブロック大・底小50%
17	明褐色	7.5VR	5/6	弱	硬土	H-17層主
18	高層褐色	10VR	4/2	弱	硬土	VI層由来の二次堆積主、ボソボソ、H-17層主
19	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	底小1%
20	褐色	7.5VR	6/6	弱	硬土	底小1%
21	赤褐色	2.5VR	4/6	弱	硬土	底小・VI層由来由来砂小10%
22	褐色	7.5VR	4/3	弱	硬土	底小・VI層由来由来砂小10%
23	赤褐色	5VR	4/6	弱	砂土	底小・VI層由来由来砂小10%
24	褐色	7.5VR	4/3	弱	硬土	底小・VI層由来由来砂小10%
25	褐色	7.5VR	4/3	弱	硬土	ロームブロック大15%
26	黒褐色	7.5VR	3/2	弱	硬土	ロームブロック大50%
27	高層褐色	7.5VR	4/2	弱	硬土	H-91層主
28	高層褐色	7.5VR	4/2	弱	硬土	H-91層主
29	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	H-91層主
30	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	H-91層主
31	褐色	7.5VR	4/3	弱	硬土	H-91層主
32	にぶい褐色	7.5VR	5/4	弱	硬土	H-91層主
33	明褐色	10VR	13/1	弱	砂土	H-91層主

5 遺物の分類

(1) 土器

土器は大きな区分である時期ごとの特徴から、便宜的に縄文時代早期に属する資料をⅠ群とし、以下順に前期をⅡ群、中期をⅢ群、後期をⅣ群、晩期をⅤ群、続縄文時代をⅥ群、擦文時代相当のものをⅦ群、とし、各群にアルファベットの小文字を組み合わせ、前半（a類）、後半（b類）、あるいは前葉（a類）、中葉（b類）、後葉（c類）に分類した。

Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器群

- a類：貝殻条痕文、貝殻腹縁文などが施される
- b類：燃糸文、組紐圧痕文、絡条体圧痕文、貼付文、縄文等の施されるもの

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器群

- a類：縄文の施された丸底・尖底を特色とするもの。春日町式など
- b類：円筒土器下層式に相当するもの

Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器群

- a類：円筒土器上層a・b式・サイベ沢Ⅶ式・見晴町式に相当するもの
- b類：榎林式・大安在B式・ノダツⅡ式などに相当するもの

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群

- a類：煉瓦台式・天祐寺式・トリサキ式・白坂3式に相当するもの。
- b類：ウサクマイC式、手稲式、ホッケマ式併行に相当するもの
- c類：堂林式・三ツ谷式・湯の里3式に相当するもの

Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器

- a類：大洞B・BC式・上ノ国式に相当するもの
- b類：大洞C₁式・C₂式、聖山Ⅰ、Ⅱ式に相当するもの
- c類：大洞A・A'式に相当するもの

Ⅵ群 続縄文時代に属する土器群

Ⅶ群 擦文時代に属する土器群

具体的に一覧表で使用した型式名は、縄文時代前期前半はⅡ群a類の春日町式、前期後半はⅡ群b類の円筒下層b式、円筒下層c式、円筒下層d式、中期前半はⅢ群a類の円筒上層a式、円筒上層b式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式、中期後半はⅢ群b類の榎林式、大木8b式、大安在B式、最花式、ノダツⅡ式、後期前葉はⅣ群a類の煉瓦台式、大木10式、天祐寺式、晩期中葉はⅤ群b類で聖山Ⅰ式である。

表中では型式名の後に（新）、（古）という表記を付した。これは同型式内での新旧をあらわすものとした。

また、表中では中期前半に別けた、サイベ沢Ⅶ式・見晴町式を中期中葉と表記している。幸連5遺跡では、円筒下層や上層式の遺構をサイベ沢Ⅶ式期の遺構が大きく破壊する状況がみられ、ここに時期区分の転機があるように考えた。（土肥）

(2) 土製品

土製品には「土偶」、「斧状土製品」、「環状土製品」が出土したが、とくに名前の無いものは「土製品」とした。また、ここでは包含層から出土した器高が7cm未満のミニチュア土器や、異形土器の破

片なども掲載した。このほかの土製品の大半は土器片を再利用したもので、それらには、縄文時代前期前葉の「土器片錘」やその加工途中の「土器片錘未完成品」、土器片を再加工した「土器片利用の装飾品」、土器片を三角形に加工した「三角土製品」、土器片を円形に加工し、中央に穿孔を加えた「土製円盤」、石鋸などで切断しようとした痕跡がのこる土器片を「切断痕のある土器片」がある。

(土肥)

(3) 石器・石製品

石器は下記を用いて分類している。

剥片石器：石鏃、石槍、ナイフ類、つまみ付ナイフ、石錐、スクレイパー、筧状石器、両面調整石器、Rフレイク、Uフレイク、剥片

礫石器：石斧、石のみ、たたき石、凹み石、扁平打製石器、すり石（北海道式石冠）、砥石、石鋸、石錘、礫器・石核、台石、石皿、有孔礫、有意の礫、加工痕のある礫、礫

石製品：異形石器、つまみ付ナイフミニチュア、嘴状石器、有孔石製品（玉類・垂飾など）、石製模造品、岩偶、加工痕のあるもの、軽石製石製品、線刻礫、石冠様石器、側縁有溝石器、石刀、青竜刀形石器、石棒、三角形石製品、板状石器、三脚石器（三角形板状石器）

各分類に細分が必要な場合は、表Ⅲ－21のように行い、掲載一覧表に記号を用いて細分類を記載した。スクレイパーが縦型で直線状の刃部と内彎する刃部のあるものは2 b c、つまみ付ナイフが縦型の片面調整で刃部のみ調整されているものは1 a ②、すり石の北海道式石冠で握部のみに敲打による調整があるものは1 b、などというように記載している。

(酒井)

表Ⅲ-21 石器細分類表

石 器	形状		基部形状	
	1	有茎	a	平基
			b	凸基
	2	無茎	a	平基
			b	凹基
	3	尖基	a	柳葉形
			b	木葉形
			c	変形
	4	円基	a	柳葉形
			b	反曲形
破片				

石 槍	形状		基部形状	
	1	有茎	a	平基
			b	凸基
	2	無茎	a	平基
			b	凹基
	3	尖基		
	4	円基		
5	つまみ部あり			
破片				

石 鏃	形状		調整	
	1	棒状	a	片面調整
	2	網片の一部	b	両面調整
	3	石鏃状	c	片面全面・断面・刀部のみ
	4	その他	d	両面調整・調整なし
破片				

スクレイパー	形状		刀部	
	1	縦型	a	外弯月
	2	横型	b	直月
	3	円形	c	内弯月
	4	不定形	d	狭入
	破片		e	顕微鏡状
			f	その他
			g	下端

直立石器	形状	
	1	楕形
	2	反曲形
	3	楕円形
	4	有茎
破片		

石斧、石のり	形状		刀部	
	1	短楕形	a	片月
	2	楕形	b	両月
	破片		c	欠損
			d	不明

たたき石	形状		敲打部	
	1	扁平	a	端部・内部
	2	棒状	b	側縁
	3	円・楕円	c	平面
	4	その他	d	全面
	破片			

扁平打製石器	形状		端部打ち欠き	
	1	半円状調整	a	あり
	2	長方形調整	b	なし
	3	原石		
破片				

青銅刀形石器	形状	
	1	鋸のあるもの
	2	鋸のないもの
	3	刀間の未発達なもの
	4	未成品
破片		

すり石	形状・すり面位置		調整	
	1	北海道式石冠	a	全面
			b	側部
			c	側部と上端部
			d	断面
	2	扁平状の側縁	a	あり
			b	なし
			3	横の平面
			4	円・楕円・菱形
			5	断面三角形の稜
6			半円状の磨れ面	
7	稜の端部			
破片				

三脚石器 (三角形板状石器)	断面形状		刀部	
	1	反るもの	a	内弯あり
			b	直線のみ
	2	平らなもの	a	内弯あり
			b	直線のみ
破片				

IV 幸連5遺跡の遺構の概要

1 概要

縄文時代の盛土遺構3か所、竪穴住居跡135軒、フラスコ状土坑218基、柱穴状土坑266基、その他の土坑104基、焼土44か所、小礫集中4か所を検出した。舌状の段丘中央部には削平による浅い帯状の削平凹地があり、その両側に盛土遺構、遺構集中部が残されていた。削平凹地中央には土坑など掘り込む形の遺構は残されていなかった。盛土遺構は、段丘上に中期末葉～後期前葉の土手状盛土2条が堆積していた。別に東側斜面に前期後葉～中期中葉の斜面盛土が堆積しており、一部で東盛土の盾状部分と重複した。段丘上の土手状盛土の下位ないしその両外側には、掘り込む形の遺構：竪穴住居跡・各種土坑が集中していた。掘り込む形の遺構は、フラスコ状土坑群、竪穴住居跡群に大きく分けられる。フラスコ状土坑群は、多くが前期後葉～中期前葉のものとみられ、削平凹地を挟むように分布していた。竪穴住居群は、削平凹地を除き、東西斜面際まで分布していた。

2 時期別遺跡形成過程

竪穴住居跡、墓を含む土坑、盛土遺構、「個体土器」出土状況の各変遷を検討した結果、大きく三段階の変遷過程が推定された。

(1) 縄文文化前期後葉～中期中葉 多・密なフラスコ状土坑、竪穴住居？、斜面盛土、削平凹地

この時期の集落は、道路状の削平凹地を挟んで、両側にフラスコ状土坑が構築され、その外側に竪穴住居が配置されたとみられるが、後世削平されたか竪穴住居跡は少ない。また、東側斜面には盛土層が残された。

① 縄文文化前期後葉：円筒土器下層c・d式 多・密なフラスコ状土坑、斜面盛土、削平凹地

東側斜面に、黒色土を基質とする斜面盛土が堆積していた。斜面盛土は、階段状になっている部分も確認されたことから、貼り付ける様に堆積させたものと考えられた。

この時期には調査区全面の自然堆積した黒色土が削平されたとみられる。段丘上の自然堆積や、この時期のフラスコ状土坑の覆土に黒色土が認められず、斜面盛土にだけ黒色土が含まれていたためである。また、段丘面中央には遺構を掘り込まない浅い帯状の削平凹地が設定されたとみられる。

土坑は、フラスコ状土坑が多数確認された。分布は削平凹地の両外側に、西側崖線に並行するように密に構築されていた。底面に溝、窪みが残されるものがあり、溝は十字、直線、Y字状、L字状のものがあつた。

② 縄文文化中期前葉：円筒土器上層a・b式 少数の竪穴住居、多・密なフラスコ状土坑、斜面盛土、削平凹地

東側斜面に、斜面盛土が堆積していた。斜面盛土は、ローム質土を基質とするもので、前期同様、斜面に沿うように堆積していた。調査区南東部では、段丘礫層に浅い溝を波状にいくつも削り、その上に盛土が形成されていた。その地点の盛土層自体も波打っており、ほかにはない状況であった。なお、斜面盛土の土質や、前期のフラスコ状土坑の一部が下部しか遺存していない状況などから、段丘面の削平は、この時期も引き続き行われた可能性が高い。

竪穴住居跡は、西遺構集中区で1軒、東遺構集中区で3軒確認されたがいずれも断片的である。中期中・後葉の住居構築に伴って削平された可能性も高い。

土坑は、フラスコ状土坑が多数確認されたが、上層a式期が主体らしい。分布は、削平凹地の両外側で前期と違い、東側崖線に並行するように、密に構築されていた。覆土下部でクジラ肋骨・大型炭灰化材が出土した例があつた。

(2)〔縄文文化中期中・後葉：サイベ沢Ⅶ式・見晴町式・榎林式・大安在B式〕多・密な竪穴住居、削平凹地

この時期の集落は、幅広い削平凹地を挟んで、両側に竪穴住居が配置された。長軸方向が南北方向に揃っており、海側の傾斜方向へ入り口を向けていたとみられる。

竪穴住居跡は、東西遺構集中区で、複雑に重複して、多数確認された。形態はⅠ類：平面隅丸方形で埋燵炉+地床炉ないし地床炉のみをもち、やや端に寄る先端ピットを持つもの、Ⅱ類：平面卵形で先端ピットと方形石囲炉をもつものがあり、前者が古く、後者が新しい。大中小あり、大型は長軸10m前後、小型は長軸3m前後であった。別に超大型例もあった。石囲炉は円形と方形があった。改築などによって石を抜かれた石囲炉跡に砂利が残されているものもあった。住居跡は、著しく重複するだけでなく、床を繰り返し貼って改築したもの、炉・先端ピットを移設して増築したものもみられた。掘り込みの深さも多く様で、重複も深く深く行う場合と、埋めながら浅く浅く行う場合、水平にずれる場合があった。また、火災住居も確認された。

竪穴住居跡の覆土は、ローム質土の偽礫や風化シルト岩の礫を含み、屋根土の可能性のある覆土下部、遺物を多く含む暗色層や、炭層やローム質土層の互層などの盛土層的な人為堆積である覆土上部に分けられた。この時期の人為堆積は、竪穴住居跡の窪みを溢れない程度であったとみられる。そのために、盛土遺構が顕在化しなかったと考えられた。なお、最後に放棄されたと思われる竪穴住居跡の上部には、窪みが残り、B-Tm層以降の黒色土が堆積していた。遺物は、住居覆土上部～中部で多く確認された。個体状態の土器が多く、漆入り搬入土器もあった。石製品も多く、大小の石棒のほか、顔を描いたとみられる三角形石製品が確認された。住居覆土や柱穴覆土に炭化したクリが多く含まれた例、アワビやクボガイ類とみられる貝が含まれる例、クジラの骨が残された例があった。

(3)〔縄文文化中期末葉～後期前葉：ノダツⅡ式・煉瓦台式・天裕寺式〕散在する竪穴住居、2条の土手状盛土、掘立柱建物跡、削平凹地

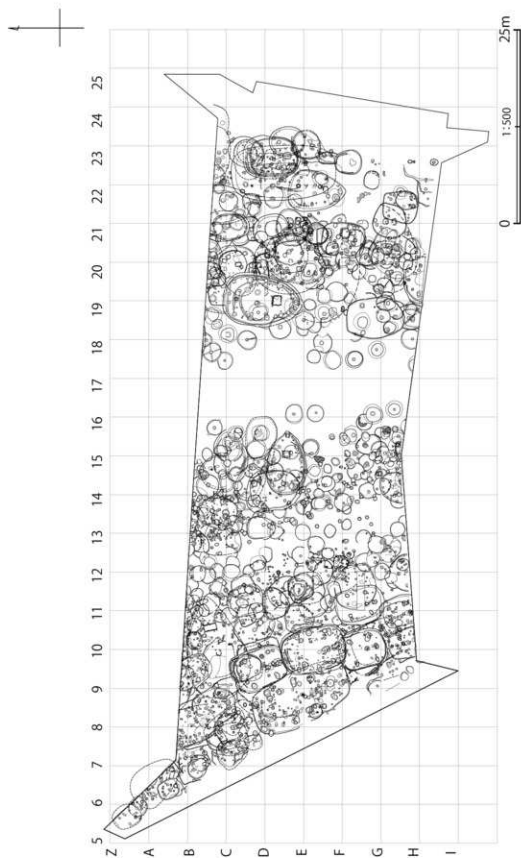
この時期の集落は、浅い溝状の削平凹地を挟んで、両側に土手状の盛土遺構と掘立柱建物配置された。竪穴住居はその両外側に散在し、長軸方向は揃わなくなった。

2条ある土手状盛土遺構からは土器や石器のほか、小礫集中、焼土が検出された。また、東側遺構集中区の盛土遺構、西側遺構集中区の遺構覆土上部に、土器を中心とした多量の遺物が出土した。石製品では、青竜刀形石器が目立った。

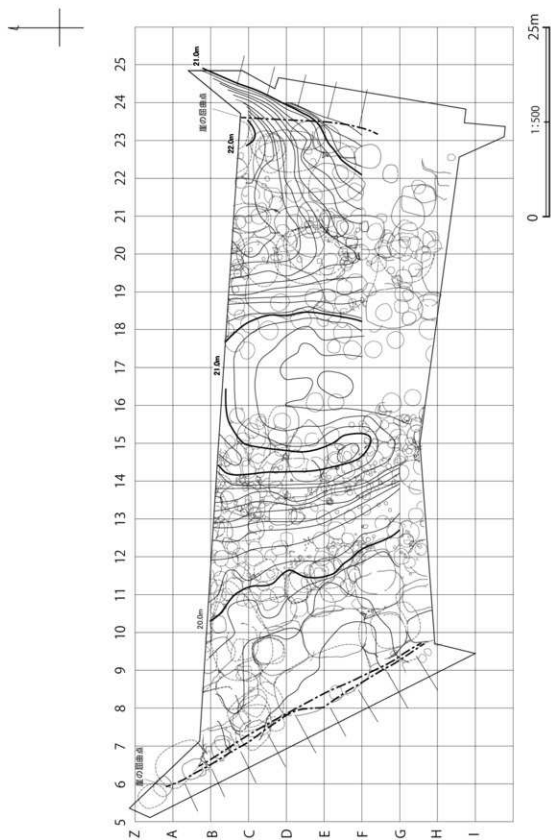
竪穴住居跡は、東・西側遺構集中区で検出された。Ⅱ類：平面卵形で先端ピットと方形石囲炉をもつもの、Ⅲ類：円形～楕円形の浅い掘り込みに円形の石囲炉をもつものがあり、前者が古く、後者が新しい傾向がある。平面卵形住居には、長軸南北方向のほか、東西方向で、東側に入り口を向けたとみられるもの、長軸南北方向で北側に入り口を向けていたとみられるものも検出された。Ⅲ類にはⅡ類の大型竪穴住居の窪みを掘り込んで構築されたものもあった。なお、その竪穴住居跡の石囲炉の焼土を切るように湧水痕跡が確認された。Ⅱ類の大型住居跡からは四隅に羽を付け、焼成面を砂利敷きとする大型石囲炉が確認された。

土坑は、東盛土を掘り込む例が確認された。掘立柱建物跡とみられる太い柱穴も確認された。明確な遺物を伴わないが、切りあい関係からこの頃と推測された。最終的に年代測定結果からもその解釈は支持された。

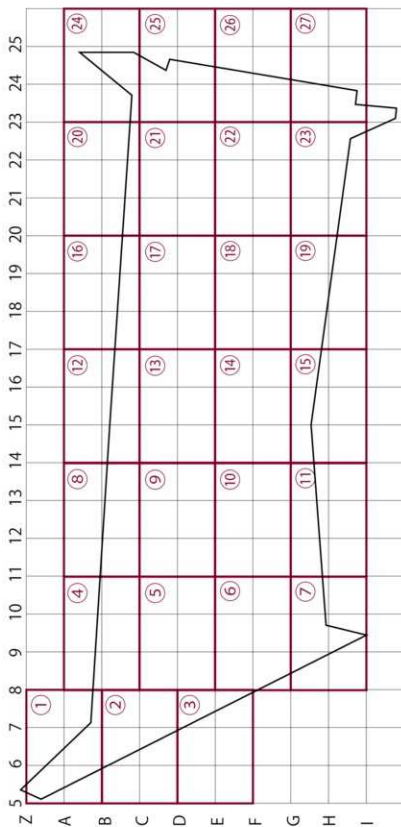
幸連5遺跡の特徴は、削平凹地が縄文時代前期後葉に設定され、その東西に遺構群が形成される配置が、後期前葉まで継続する点にある。したがって、前期後葉以降後期前葉に至るまで利用の多寡はあるものの、断絶期はないものと考えられる。また、調査区での縄文時代における削平深度が、ほぼ全域においてハードローム層中部に深に及んでいる点も、他の遺跡ではまずみることができない。遺構・遺物の多さも含め、津軽海峡沿岸における長期継続拠点集落の代表的な遺跡として、位置づけられるものである。(福井)



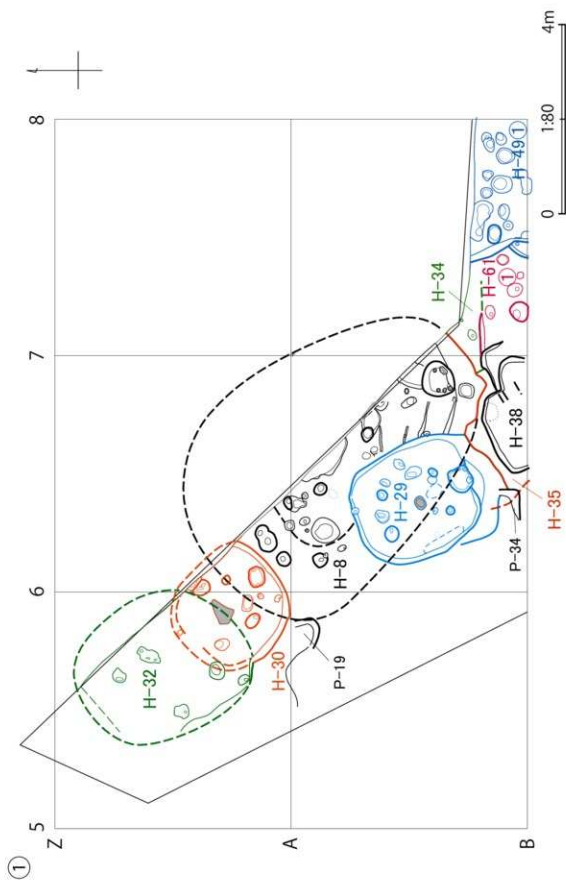
図Ⅳ-1 遺構位置図 (1 : 500)



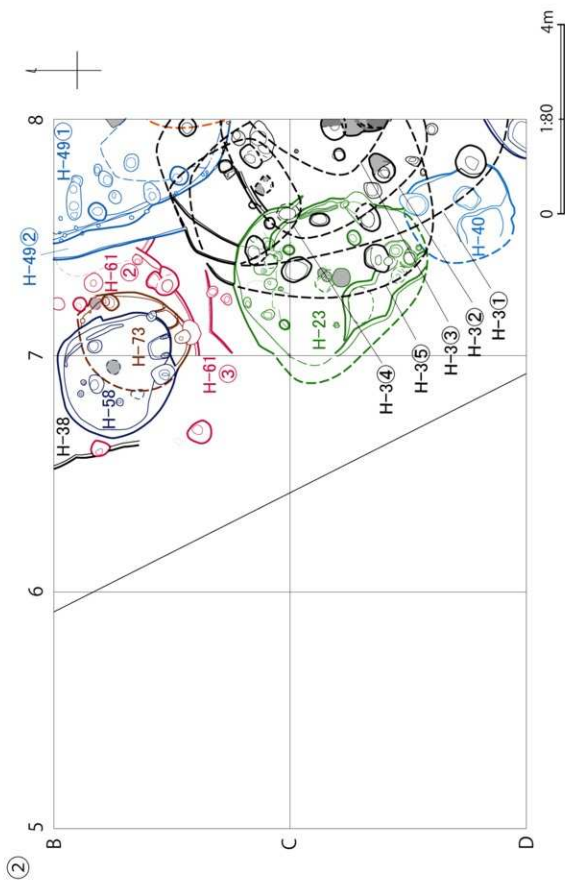
図N-2 遺構位置図 (等高線あり)



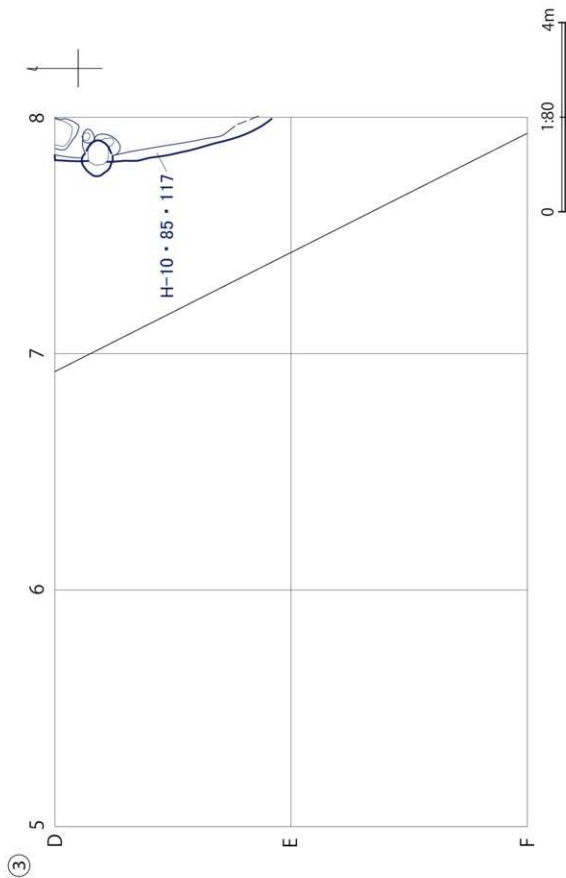
図IV-3 遺構位置図 (1:80) 索引



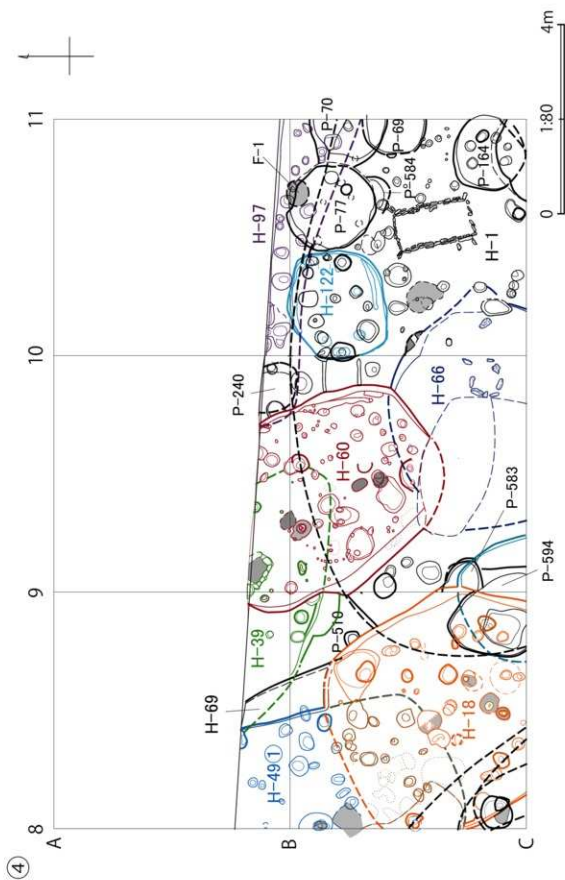
図Ⅳ-4 遺構位置図 (1) : Z・A 5~7区



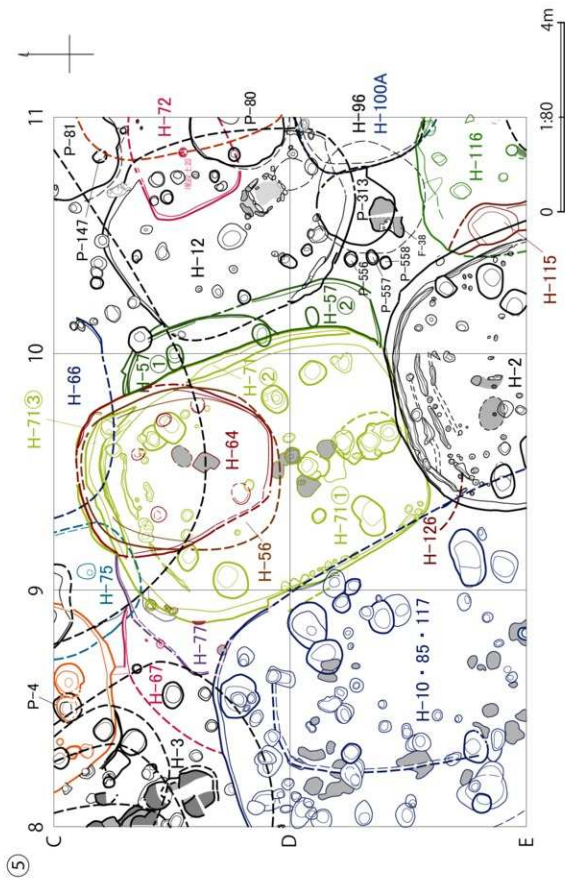
図Ⅳ-5 遺構位置図 (2) : B・C 5~7区



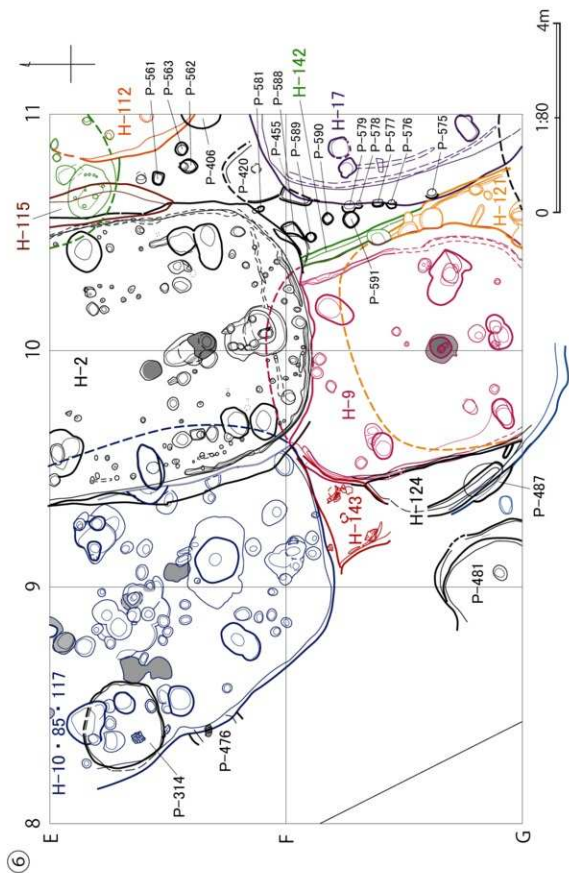
図Ⅳ-6 遺構位置図 (3) : D・E 5～7区



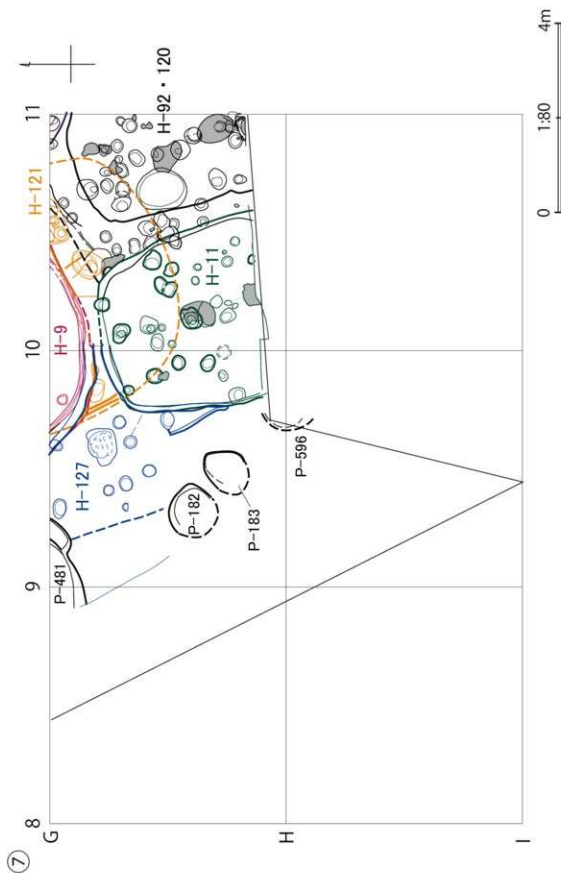
図IV-7 遺構位置図 (4) : A・B 8~10区



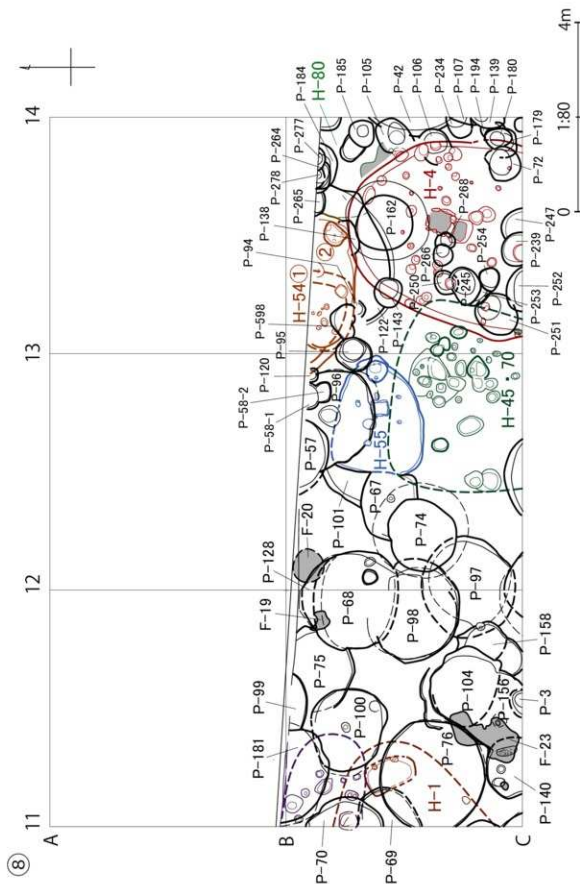
図Ⅳ-8 遺構位置図 (5) : C・D 8~10区



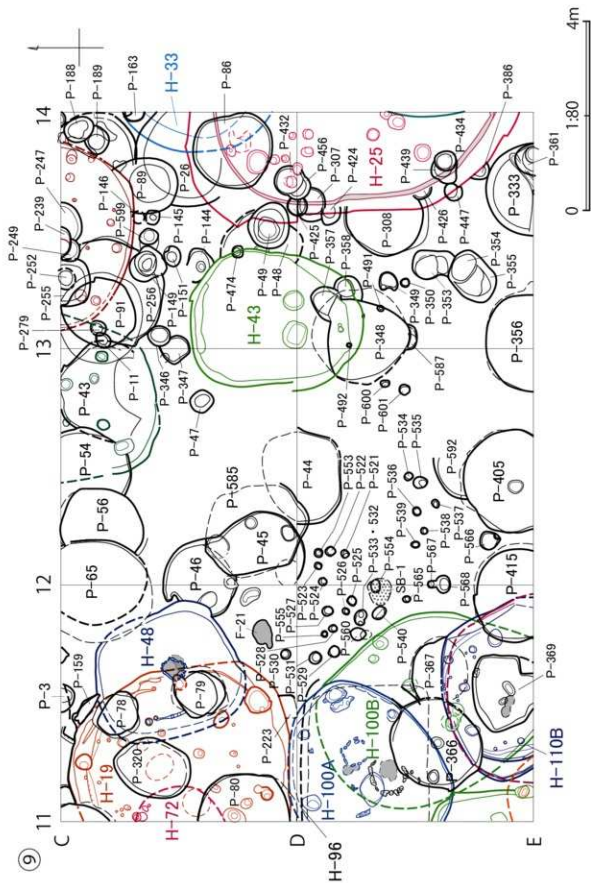
図Ⅳ-9 遺構位置図 (6) : E・F 8~10区



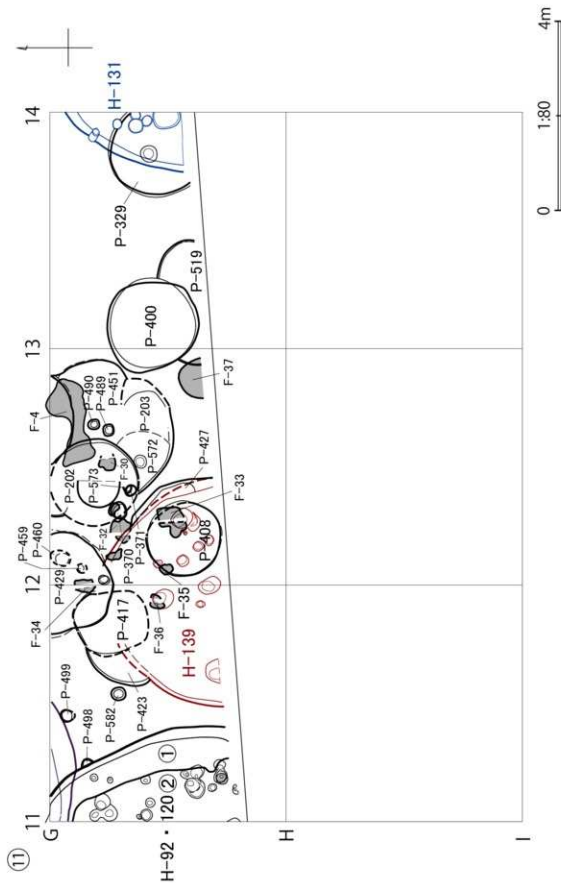
図Ⅳ-10 遺構位置図 (7) : G・H 8~10区



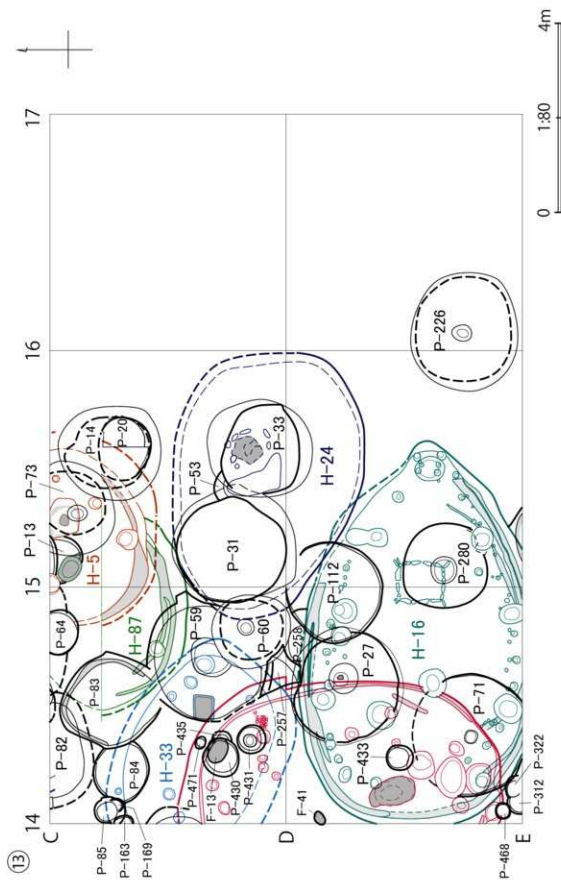
図Ⅳ-11 遺構位置図 (8) : A・B11~13区



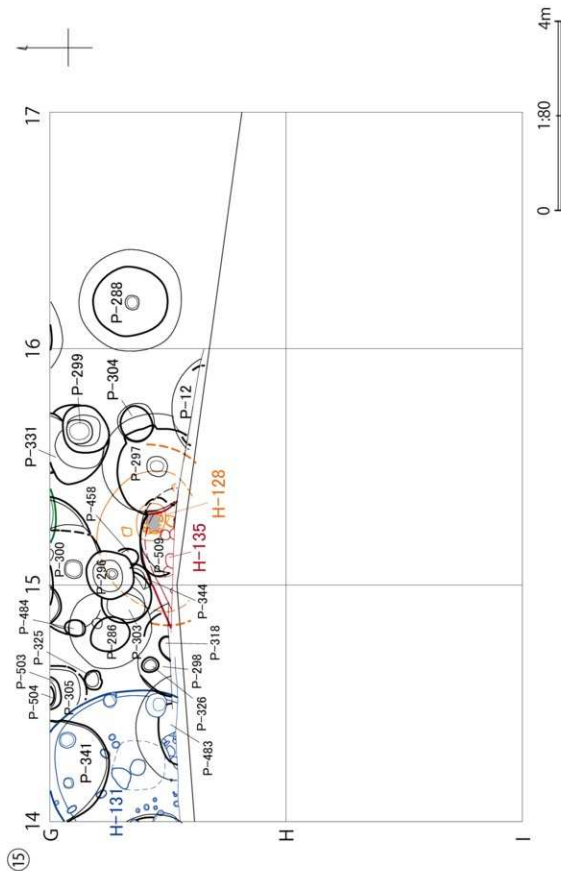
図Ⅸ-12 遺構位置図 (9) : C・D11~13区



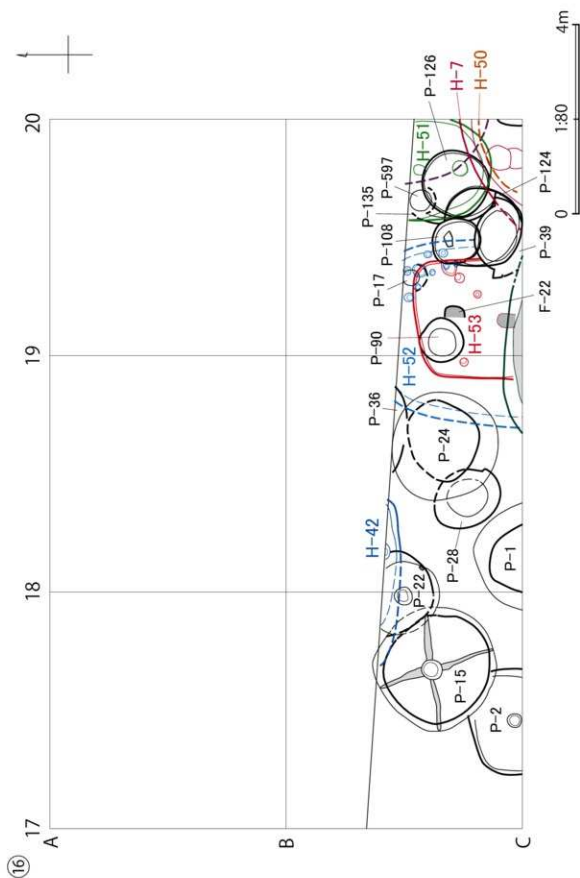
図Ⅳ-14 遺構位置図 (11) : G・H11~13区



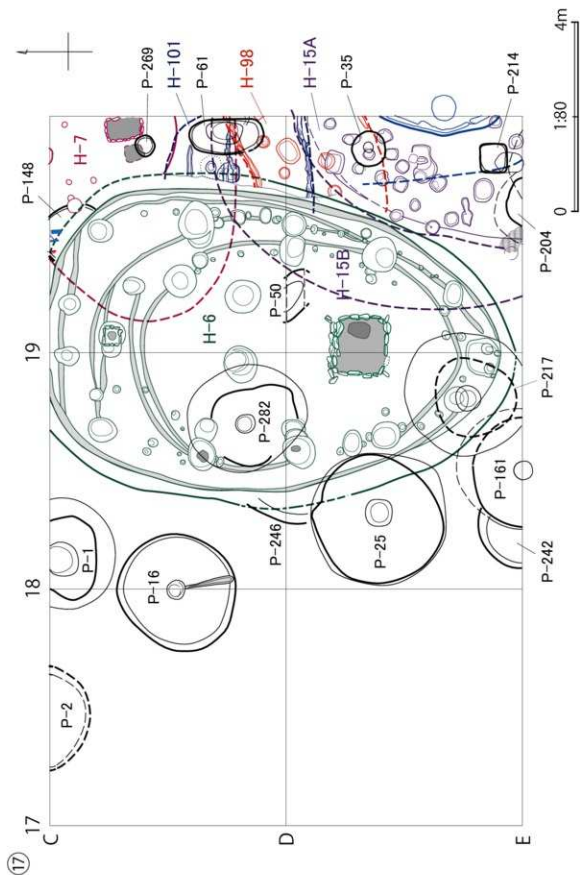
図Ⅳ-16 遺構位置図 (13) : C・D14~16区



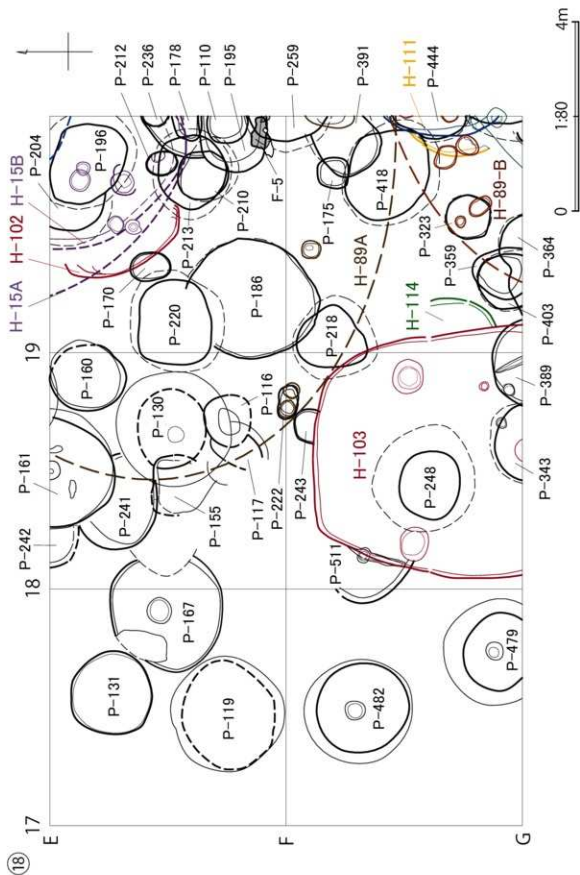
図Ⅳ-18 遺構位置図 (15) : G・H14~16区



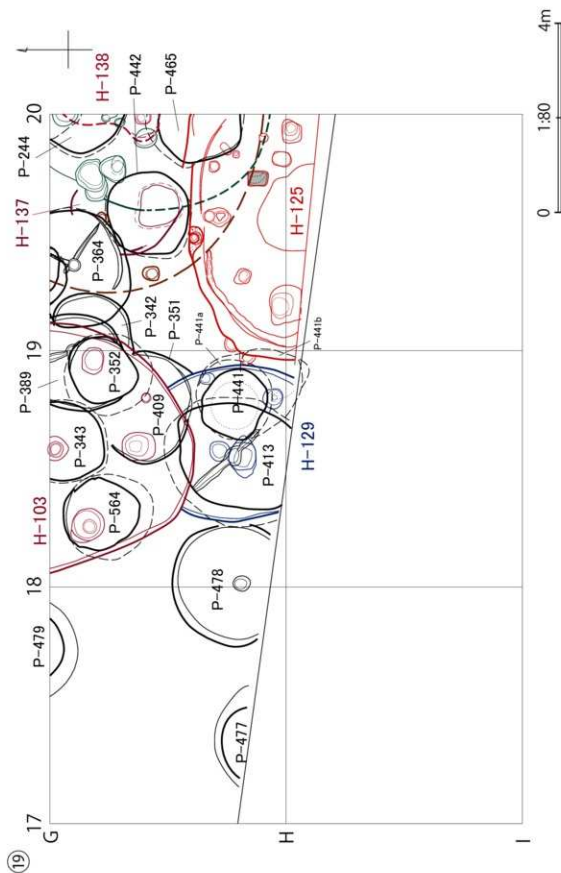
図Ⅳ-19 遺構位置図 (16) : A・B17~19区



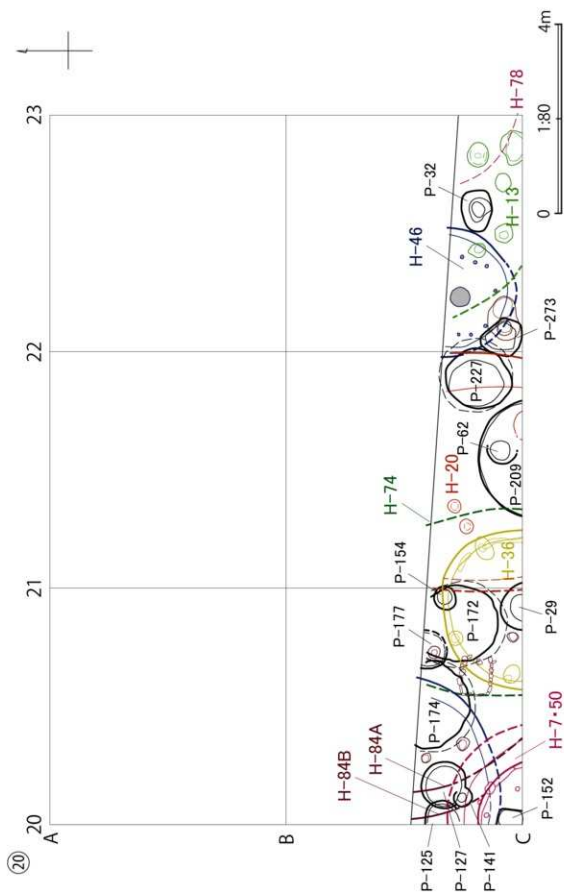
図Ⅳ-20 遺構位置図 (17) : C・D17~19区



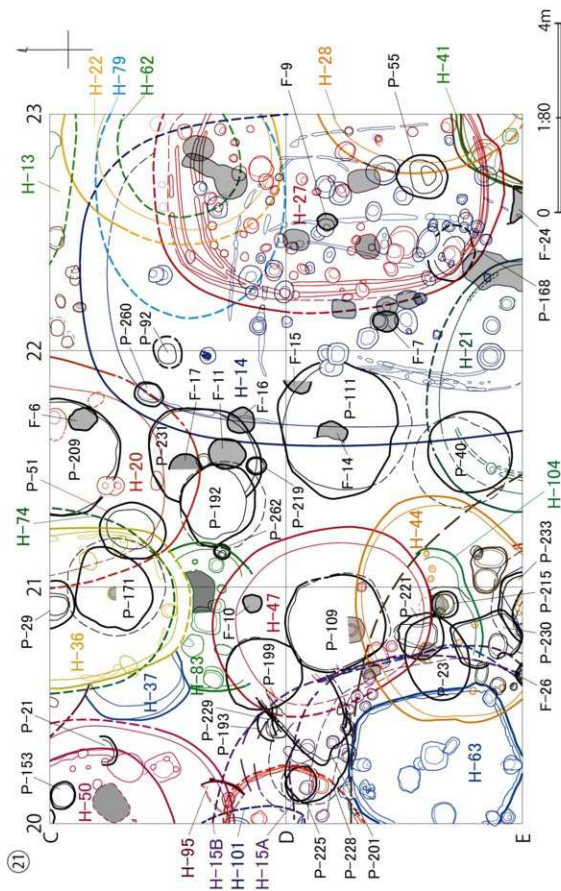
図Ⅳ-21 遺構位置図 (18) : E・F17~19区



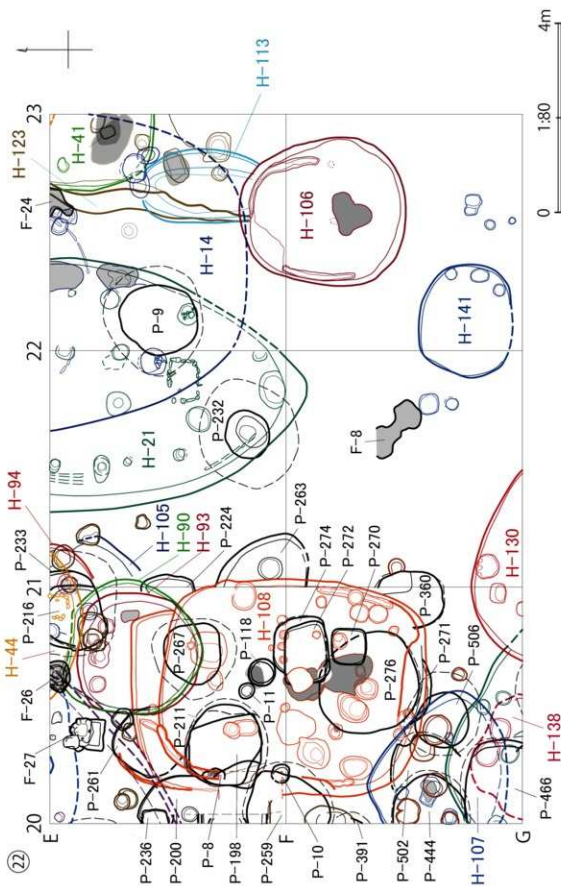
図Ⅳ-22 遺構位置図 (19) : G・H17~19区



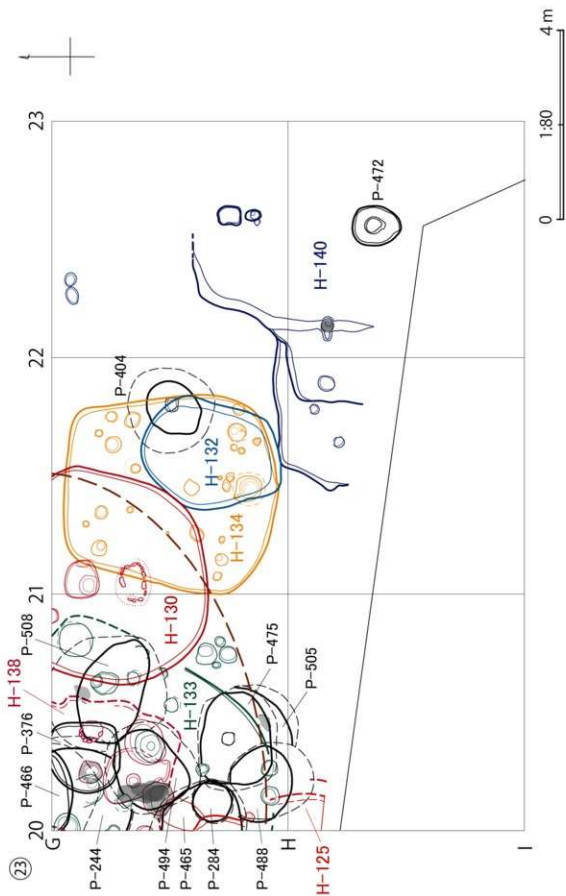
図Ⅳ-23 遺構位置図 (20) : A・B20~22区



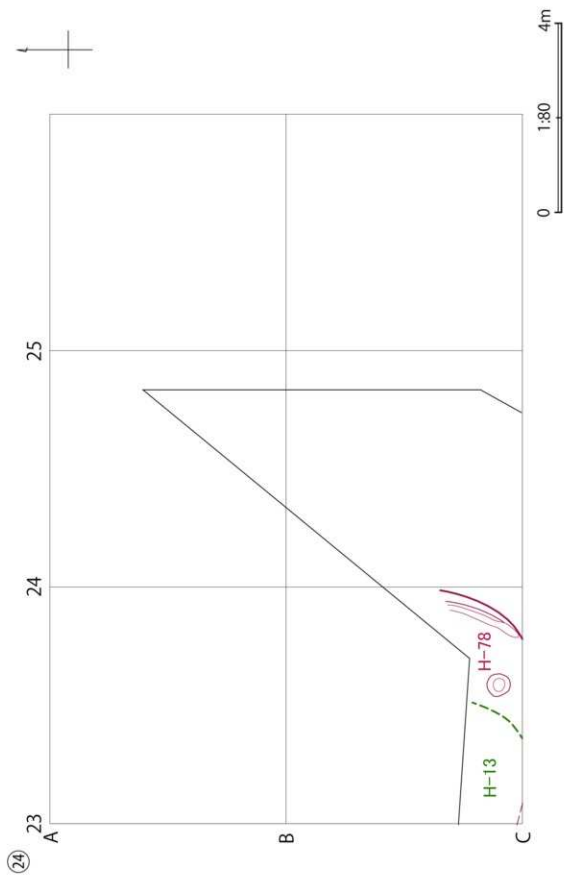
図N-24 遺構位置図 (21): C・D20~22区



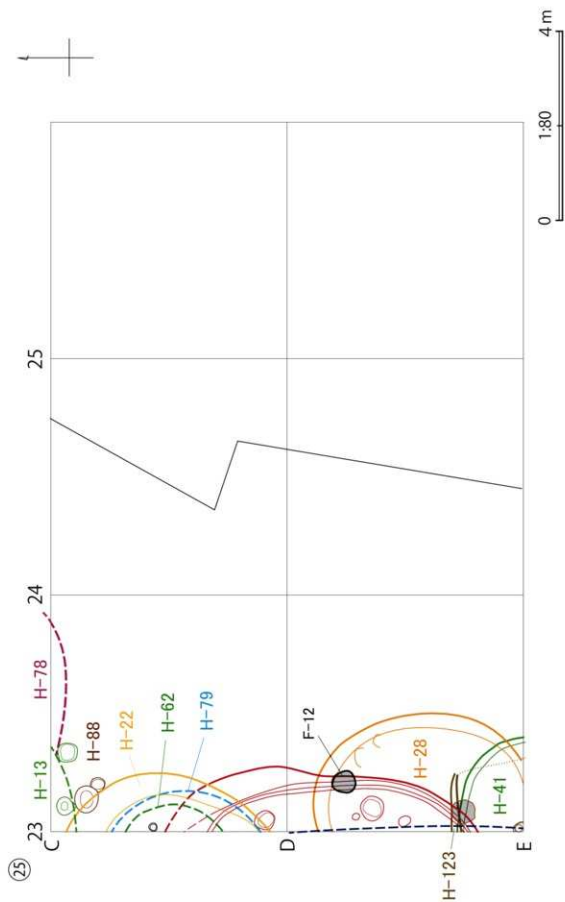
図Ⅳ-25 遺構位置図 (22) : E・F 20~22区



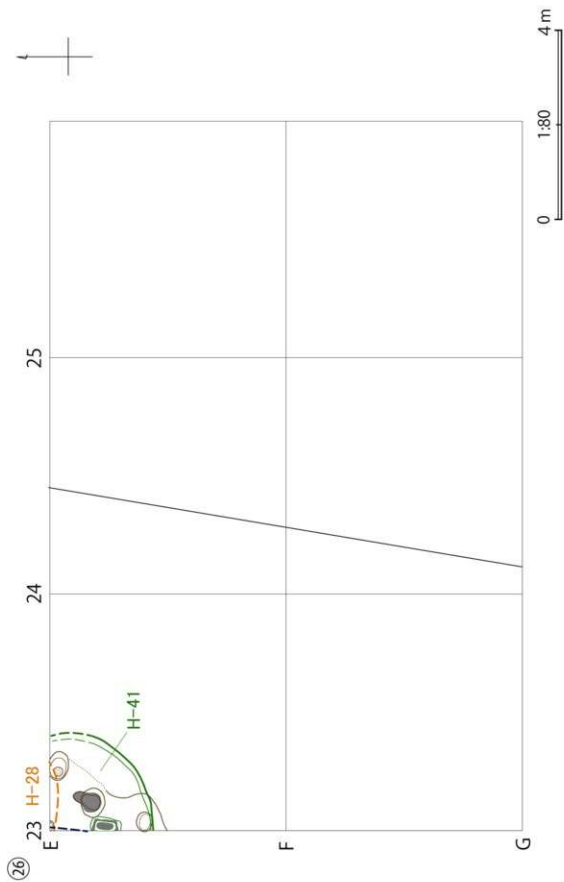
図Ⅳ-26 遺構位置図 (23) : G・H 20~22区



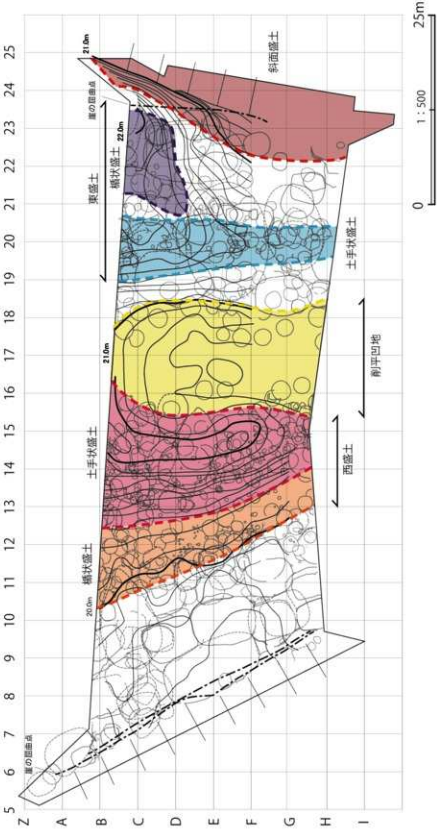
図Ⅳ-27 遺構位置図 (24) : A・B 23～25区



図Ⅳ-28 遺構位置図 (25) : C・D 23~25区



図Ⅳ-29 遺構位置図 (26) : E・F 23~25区



図Ⅳ-30 盛土遺構・削平凹地位置図

V 幸連5遺跡の西側遺構群

1 西側遺構群の概要（図V-1～7）

削平凹地を調査区中央で確認した。整地層の可能性のある土層が認められたが、削平以外の造作はみられず、堅穴住居跡や土坑などが残されなかった。これより西側を西側遺構群とした。西側遺構群では、盛土遺構1条（西盛土）、堅穴住居跡75軒、土坑436基（うちフラスコ状土坑133基、柱穴状土坑239基、その他の土坑64基）、焼土28か所などを検出した。

各遺構は、縄文時代前期後葉～後期前葉のものである。時期が明確なものは、前期後葉：フラスコ状土坑53基、柱穴状土坑9基、その他の土坑6基、中期前葉：堅穴住居跡1軒、フラスコ状土坑41基、柱穴状土坑25基、その他の土坑8基、中期中葉：堅穴住居跡7軒、フラスコ状土坑5基、柱穴状土坑8基、その他の土坑3基、中期後葉：堅穴住居跡47軒、フラスコ状土坑6基、柱穴状土坑31基、その他の土坑15基、後期前葉：盛土遺構1条、堅穴住居跡4軒、柱穴状土坑2基。焼土はおおむね中期後葉～後期前葉とみられる。

盛土遺構は西側遺構群を削平凹地より区画するように土手状に残されていた。B15杭～H15杭のラインにピークの軸をもちながら、幅7m前後で堆積していた。

堅穴住居跡は、大きくはⅠ類：隅丸方形～長楕円形、Ⅱ類：卵形、Ⅲ類：不整な円形～楕円形に区分可能であった。おおむねⅠ類はサイベ沢Ⅶ式～榎林式期、Ⅱ類は大安在B式～煉瓦台式期、Ⅲ類は中期前・中葉ないし煉瓦台式～天祐寺式期に属するとみられる。

土坑は、調査時は区別せずに連番としたが、掲載にあたってはフラスコ状土坑、柱穴状土坑、その他の土坑に分けて掲載した。したがって、土坑番号が飛び飛びとなっている。柱穴状土坑には、未確認の堅穴住居跡由来のものほか、掘立柱建物跡を構成したものも含まれる。掘立柱建物跡はⅣ章でまとめて記載する。

焼土は、盛土層や堅穴住居覆土中で確認した。

各遺構出土遺物のうち、土器・土製品は第3分冊土器編、石器・石製品は第4分冊石器編、骨角器・動物遺存体・植物遺存体は第5分冊骨角器等・動植物遺体・分析・総括編で詳述してある。遺構編では、その記載に基づき、遺構調査時の所見も踏まえて、概要を記した。

時期については、円筒土器下層c～d式が出土した場合は前期後葉、円筒土器上層a～b式中期前葉、サイベ沢Ⅶ式・見晴町式中期中葉、榎林式・大安在B式・ノダツⅡ式中期後葉、煉瓦台式・天祐寺式を後期前葉とした。遺構図面に出土状況を示した土器は1/8とした。なお遺物は、住居跡床面や土坑底面ではなく、覆土中位からまとも出土する状況がほとんどであった。そのため、遺物のまとまりは、廃棄の段階でのまとまりを示している。

（福井）

2 盛土遺構・削平凹地（図Ⅲ-8～12・15～22・24、図Ⅳ-30）

盛土遺構・削平凹地については東側遺構群もここでまとめて記載する。なお、遺物取り上げ時の都合上、調査では盛土遺構の範囲以外の地点でも、掘り穿まれた遺構と認識されるまでは盛土層出土として5cmごとに①・②・③として取り上げたため、必ずしも盛土遺構に含まれない可能性もあるし、各盛土遺構名を付しても取り上げられていない。各盛土遺構への帰属は図V-30の分布範囲を参照していただければと思う。帰属しない場合は、下位に存在する堅穴住居跡覆土などとみなせる。平面

では分別表示が困難であるための措置であるので、ご了承願いたい。

西盛土 (図Ⅲ-8・9・10・15・16・22、図Ⅳ-30)

位置 B～G 13・14 立地 標高24.4～25.6mの平坦地

規模 確認長約30m以上×確認幅約30m×厚さ0.3～0.7m

確認・調査 表土除去前の段階で、地表面に土手状の盛り上がりを確認した。調査初年度の平成28年度には東側斜面で斜面盛土を確認していたこと、試掘調査で確認している状況などから、土手状盛土の存在を想定した。そこで、平成29年度は調査区全域にトレンチを設定して、盛土遺構・堅穴住居などの堆積状況を把握することとした。その結果、西側遺構群では14～15ライン間に沿うように土手状盛土が堆積していることが確認された。また横の拡がり、Cラインで11ライン～15・16ラインの間に及んだとみられる。表土除去後に地形面測量を行っていたため、トレンチにより断面観察と、図作成を行ってから、順次グリッドごとに掘り下げることにした。Cラインの11～12・13の間ラインでは薄く桶状に黄褐色土層が堆積している状況が確認され、遺物が散在していた。堆積の拡がり、土手状盛土の西側に認められた。土手状盛土の堆積は大きくは上部が黄褐色土、下部が暗褐色土からなるもので、その下位から堅穴住居跡やフラスコ状土坑の構築を確認した。また盛土層を切る明確な遺構は認識されなかった。

土層 主に遺構覆土からなる人為的堆積上に、暗褐色土層が堆積し、その上位に黄褐色土が堆積しているのが特徴。少なくともH-5・16（ノダップⅡ式）・25（大安在B式）・26（煉瓦台式）覆土上位を覆っていた。

遺物出土状況 土器、剥片石器、礫石器、自然礫などが集中的に含まれていた。土器は、個体の状態は少なく、破片の状態で散乱的な出土状況であった。黄褐色土層では小礫が集中的に検出された。直径50cmほどの円盤状のほか、面状に広がる例もあった。特徴的な遺物として、三脚石器や板状石器が多く含まれたほか、E 14区では大安在B式土器片と共に刀部突出形石刀が暗褐色土層から出土した。

時期 出土した遺物から、堆積初期は出土土器から中期後葉（大安在B式）の可能性があるが、主には縄文時代後期前葉（煉瓦台式～天祐寺式）に堆積したとみられる。（福井・酒井）

東盛土 (図Ⅲ-11・12・18・21、図Ⅳ-30)

位置 B～H 19～23 立地 標高21～22mの平坦地

規模 確認長約23m以上×確認幅約18m×厚さ0.4～0.7m

確認・調査 表土除去前の段階で、地表面に土手状の盛り上がりを確認した。調査初年度の平成28年度には東側斜面で斜面盛土を確認していたこと、試掘調査で確認している状況などから、土手状盛土の存在を想定した。そこで、平成29年度は調査区全域にトレンチを設定して、盛土遺構・堅穴住居などの堆積状況を把握することとした。その結果、東側遺構群では20ラインに沿うように土手状盛土が堆積していることを確認した。また横の拡がり、Cラインで19ライン～23・24ラインの間に及び、部分的に東斜面盛土と重複し盛土層1とした場合がある。表土除去後に地形面測量を行っていたため、トレンチにより断面観察と、図作成を行ってから、順次グリッドごとに掘り下げることにした。東盛土は、Cラインでは20～24ラインでは薄く桶状に暗褐色土層が堆積している状況が確認され、多数の遺物が含まれていた。堆積の拡がり、Dラインよりも北側に認められた。土手状盛土の堆積は大きくは上部が黄褐色土、下部が暗褐色土からなるもので、その下位から堅穴住居跡やフラスコ状土坑の構築を確認した。盛土層を切る明確な遺構はいくつか認められた。

土 層 主に遺構覆土からなる人為的堆積上に、暗褐色土層が堆積し、その上位に黄褐色土が堆積しているのが特徴。少なくともH-36・74（榎林式）、6（太安在B式）、7（ノダツII式）覆土上位を覆っていた。

遺物出土状況 土器、剥片石器、礫石器、自然礫などが集中的に含まれていた。桶状盛土部分の暗褐色土層では、土器は半個体の破片が潰れた状態のほかは、破片の状態で散乱的な出土状況であった。また礫も散在しており、小礫集中も点在していた。

時 期 出土した遺物から、縄文時代後期前葉（煉瓦台式）とみられる。（土肥・福井）

斜面盛土（図Ⅲ-12・19・20・24、図Ⅳ-30）

位 置 A～I 22～25 **立 地** 標高21.5～18mの斜面

規 模 確認長約45m以上×確認幅約10m以上×厚さ1～1.2m

確認・調査 調査初年度の平成28年度には東側斜面で斜面盛土を確認した。調査区の延長部分の斜面は下半分が工事工程の関係で既に埋められていたが、その南北の調査区外の斜面を見ても低地面まで堆積していることを確認したため、できうる範囲で調査を行った。トレンチにより断面観察と、図作成を行ってから、順次グリッドごとに掘り下げることにした。

土 層 斜面盛土は大きく2層に分かれ、上部が円筒土器上層式の盛土層2で、ローム質土を基質とし、斜面に沿うように堆積していた。下部が円筒土器下層式期の盛土層3で、黒色土を基質とし、やはり斜面に沿うように堆積していた。下面が階段状になっている部分も確認されたことから、貼り付ける様に堆積させたものと考えられた。調査区南東部では、基盤面を浅い溝を波状にいくつも削り、その上に盛土が形成されていた。その地点の盛土層自体も波打っており、ほかにはない状況であった。なお、斜面際では東盛土と部分的に重複していた。

遺物出土状況 土器、剥片石器、礫石器、自然礫などが集中的に含まれていた。上部では破片状態の土器が多かったが、下部では比較的個体状態を保った土器が多かった。なお、G・H・I 23・24には前期前葉土器がまとまって出土しており、廃棄層が存在した可能性がある。また、特徴的な遺物として、長野県産黒曜石製の石鎌が含まれていた。

時 期 出土した遺物から、縄文時代前期中葉～中期中葉とみられる。（土肥・福井）

削平凹地（図Ⅲ-10・17・21・22、図Ⅳ-30）

位 置 B～G 15～18 **立 地** 標高19.7～19.9mの平坦地

規 模 確認長約30m以上×確認幅約15m

確認・調査 表土除去前の段階で、地表面に遺物の窪みを確認した。そこで、平成29年度は調査区全域にトレンチを設定して、盛土遺構・堅穴住居などの堆積状況を把握することとした。その結果、16～18ライン間に沿うように大きく削平されていることを確認した。表土除去後に地形面測量を行っていたため、トレンチにより断面観察と、図作成を行ってから、順次グリッドごとに掘り下げることにした。

土 層 V層ハードローム層下部まで削平されており、その上部に全体に10～15cmの整地層とみられる土層が堆積していた。遺物はほとんど含まれておらず、その下位からはいくつかフラスコ状土坑が検出されたが、東西土手状盛土下位よりもその密度は低いものであった。

時 期 17ラインには遺構が検出されず、その東西にフラスコ状土坑群がみられることから、縄文時代前期後葉には構築が開始されたと推測される。また、削平凹地に近接するフラスコ状土坑は

坑底近くまで削平されることから、削平は継続的に行われ、中期前葉、後葉、そして後期前葉でも意識した遺構構築がなされたとみられる。(福井)

3 堅穴住居跡 (図V-2・3・8~222、表V-1)

堅穴住居跡は、①縄文時代に窪みとして残された結果、自然堆積層が堆積したことによる黒色土の広がりが「落ち込み」として認識できたもの、②ほかの堅穴住居跡の掘り上げ土や盛土層、盛土層に類似する人為堆積土などによって覆われたため、単純には掘り込み範囲を確定できなかったものがあつた。

各住居跡は限られた範囲で拡幅改築や重複が繰り返されたことによって複雑に削平・重複しあい、床面が一部しか残らないもの、柱穴しか残らないものなど、堅穴住居跡として認識しきれないものも多くある。

覆土は土層細別とは別に、おおむね自然堆積層 (I・II層)、覆土上層、覆土下層に区分できた (中太線で区分したものもある)。覆土上層は、堅穴住居跡を覆う盛土層に相当する人為堆積層で土器を主体とする遺物が多量に含まれる例があつた。堆積状況として、褐色土主体の当遺跡での「盛土層」的な堆積、暗褐色土とにぶい黄褐色土の互層からなる堆積の二種類が認識された。覆土下層は、角礫状の偽礫 (ローム層や段丘礫層由来土ブロック) を多く含むもので、屋根を覆っていた住居構造物 (屋根土) が主な由来と考えられる。こちらは遺物を含む量は極めて少なかった。

断面図の一部には、略記を入れた場合がある。その意味は以下の通りである。ソロ: ソフトローム (IV層)、ハロ: ハードローム (V層)、粘土: ハードローム下部の粘土層 (V層下部)、キ: 黄色段丘砂礫層 (VI層)、ロ: ローム土 (IVないしV層由来)、アン: 暗褐色土。

H-1 (図V-8~16、表V-1)

位置 B・C 8~11 立地 標高196~198m付近の平坦地

平面形 卵形 (II類) 長軸方向 東西 規模 (13.0) × (7.8) × 0.5m

確認・調査 平成29年度に表土除去後メイントレンチを掘削した結果、II層黒色土の広がりを検出した。その範囲を確認するためB・C 9・10グリッドを掘り下げ、楕円形の住居と認識して掘り下げた。掘り下げる過程で、方形石囲炉が検出され、東側に壁が伸びることが判明し、結果的に卵形住居と認識した。また当初は、H-1の1軒と考えていたが、床面に達したところ、中央が一段落ちくぼんでおり、円形の石囲炉が検出されたため、卵形住居の窪みを切るように、後期前葉の円形住居が構築されたと考えられた。そこで、新たに確認した住居跡をH-66とした。したがって、H-66覆土の遺物はH-1として取り上げてしまっているの、注意が必要である。ただ、大半の覆土遺物は出土状況からH-1のものである。大方の調査は平成29年度に終了したが、全体写真のために石囲炉は令和元年度まで残した。最終的に、炉石等除去後、見逃した柱穴がないか精査し、調査終了とした。

覆土 自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。なお、覆土上層は、H-66部分とその周縁部に分かれる。覆土上層の周縁部が、H-1の元々の覆土上層とみられ、にぶい黄褐色土の人為堆積層中に、主に土器片からなる遺物が多量に含まれた。覆土下層は、壁際に環状に堆積しており、屋根土由来とみられ、にぶい黄褐色土~褐色土からなる。なお、覆土上層上位の自然堆積層には、上部から駒ヶ岳Dテフラ、白頭山テフラの堆積が認められた。白頭山テフラの上位は黒色土が堆積したが、下位は暗褐色粘質土で水成堆積とみられた。この粘質土は、H-66石囲炉上面に堆積するもので、焼土を切る湧水痕も確認されたことから、H-66廃絶後間もなく湧水、堆積したものと

と推測される。

形態 先端ビット、突起を持つ石囲炉をもった卵形住居。覆土上位からの掘り込み（H-66）、構築以前の遺構の存在（H-12・18・57・60・64・71・75・77・122・164、P-69・70・76・77・81・584）の存在から柱穴の確認はやや困難であった。傾向としては、明瞭な支柱穴が構築されるのではなく、掘り込み径20cmほどの程度の柱が壁際に約2m間隔に並ぶ状況であったとみられる。壁の立ち上がりも、それ以前の遺構の存在から明瞭ではなかった。石囲炉のほかに、焼土が2か所、部分的ながら2条の周溝を検出したため、2回以上の増床改築がなされたものとみられる。

付属遺構 HF：3か所確認された。

HF 1は、竪穴住居長軸に直行する方向に長軸を持つ長方形の石囲炉。長さ1.65m、幅0.9m。四隅に突起を持ち、被熱面には砂利を敷いたため、焼土は明確に確認されなかった。砂利は偏平な直径1.5～1cm以下のもの。石囲いは、各辺、方角により多彩に礫の配置や石材を変えており、かつ規則性がみられることから、東西南北をさらに各二分割するような意識的配置がなされたものと推測される。なお、燃料材とみられる炭化材1点の樹種同定を行ったところ、コナラ属コナラ節であった。以下に各辺の炉石配置状況を記す。

- ・東側：全て安山岩で、長手が上に向くように配する。南半分は二重ながら互い違いに礫を配する。北半分は並行に二重にした組が少しずつずらして配してあった。
- ・南側：斜めに礫を配する特徴がある。東側は、全て安山岩で、小口方向を上に向けた礫の間に長手方向を上に向けた礫を斜めに入れる。西側は、長手方向を上に向けた礫を斜めに二つ並べる。ここでは安山岩と青色砂岩を使用する。
- ・西側：中央に1個の礫を配し、それより南北は二重の配列にしている。北側は、一番北側で外側の礫が粘板岩である以外は安山岩。南側は、中央外側が青色砂岩、南側外側が珪化岩である以外は安山岩。珪化岩は大きいものを使用するため、内側の礫は2個を配する。
- ・北側：全て安山岩で、西側の1点を除き小口を上に向けて礫を入れる。西側の1点も、礫自体は長手を上に向けるものの、小口を上に向けた礫が2点あるようにも見えるひょうたん型の礫を使用している。

- ・北側突起：各2個からなる。
- ・南側突起：各1個からなる。

HF 2・3は床面で確認された焼土。入り口とみられる先端ビットと、石囲炉HF 1の延長線上に位置するため、増床改築前の炉跡の可能性が高い。

HP：80基をHPとした。HP 2は先端ビットで、内部には一対の小穴が確認された。入り口構造に起因するものとみられる。時間的な問題と、下位に存在した遺構の関係で、ほとんどの支柱穴を調査時に認定できなかった。ただ、配置と規模からHP 4・10・15・19・20・26・31・49のほか、H-64 HP 1・5、H-75 HP 1として調査したものなども支柱穴とみられる。またH-60範囲内にもH-1支柱穴が2基含まれると想定される。なお、HP 73～80はHF 1の下位より検出したため、増床前のものと考えられる。

周溝：部分的ながら北側で2条確認した。

遺物出土状況 覆土上層から多量の遺物が出土した。断面A-A'土層19や、断面D-D'土層4・5のような暗色層に多く含まれた。土器は破片状態が多かった。なお、礫や石器も散在状態であった。覆土下部から珧状耳飾片が出土したが、縄文前期後葉のものとみられ、混入の可能性が高い。土壌をフローテーション選別したところ、HF 1ではサケ属椎骨片18点、HF 2ではサケ属椎骨片2点が検

出された。

時 期 出土土器（煉瓦台（古）式）と住居形態から縄文時代後期前葉である。HF 1の年代測定結果は、 $3899 \pm 25\text{yrBP}$ (IAAA-201097)であった。出土遺物と整合性もあるが、今回測定した年代値の中で最も新しく、調査時には当初H-66 HF 1をH-1 HF 1と認識していたため、試料誤認の可能性もある。（福井）

H-2（図V-17～26、表V-1）

位 置 D～F 9・10 **立 地** 標高192～196m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形（I類） **長軸方向** 南北 **規 模** (8.8)/8.3×(6.2)/5.6×0.7m

確認・調査 表土除去後メインレンチを掘削した結果確認した。その範囲を確認するためD・E 9・10グリッドを掘り下げたところ、楕円形のII層の広がりを確認した（平成29年度）。メインベルトで土層の記録を取ったのち、I～II層を除去した。その後、サブベルトを残しながら覆土を掘り下げた。覆土上層からは個体土器を含む多量の遺物が含まれた。遺物取り上げ後、床面までの掘り下げを平成30年度に行った。調査工程上、柱穴や焼土の調査は令和元年度に行った。

覆 土 自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、下部より暗褐色粘土、B-Tm（白頭山苦小牧火山灰）、黒褐色土～暗褐色土、Ta-d（樽前d火山灰）を含む黒褐色土、耕作土からなるものであった。覆土上層の上半部は、半個体の大安在B式土器多く含む層で、灰褐色土～黒褐色土であった。覆土上層の下半部は、榎林（新）式土器を含む層で、にぶい褐色土（黄褐色系）と灰褐色土（黒褐色土系）の互層であった。両者の間には部分的に掘り上げ土とみられる段丘礫層由来土が山状に堆積していた（断面B-B'の28層）。覆土下層は、壁際に堆積しており、屋根土由来とみられる。ロームないし段丘礫層主体で、橙色土～にぶい褐色土からなる。偽礫（ロームブロック）を多く含む層もある。

形 態 先端ビット、地床炉をもった隅丸方形住居。主柱穴は6本（HP 1・4・8・19・22・33）とみられる。壁の立ち上がりは、明瞭で、段丘礫層を70cm以上掘りこんでいる。地床炉は2か所残り、ほかに焼土が1か所確認された。周溝も部分的ながら4条検出したことから、3回の増床改築がなされたものとみられる。増床改築は全体に外側へ広げるもので、特に先端ビット側で大きく広げたものとみられる。また、初期構築時の主柱穴は4本（HP 5・13・17・23）と考えられる。

付 属 遺 構 HF：4か所確認された。

HF 1は、炭層に焼土ブロックが混じるもので、薄い灰褐色土を挟んで上下に堆積していた。なお、燃料材とみられる炭化材1点の樹種同定を行ったところ、コナラ属コナラ節であった。

HF 2は、炭層に焼土粒が混じるもので、ローム主体のにぶい褐色土で蓋がされていた。

HF 3・4は、床面で確認された焼土。HF 4は北側床面で検出されたもので、補助的なものとみられる。

HP：152基をHPとした。ほかに壁面に2基確認された。HP 24・51は先端ビットで、内部にそれぞれ一対の小穴を確認した。入り口構造に起因するものとみられる。HF 1・3に対応するものとみられる。HP 26・30も先端ビットとみられ、HF 2に対応するとみられる。床面西側のHP 22・23・8・5・4、床面東側の1・13・52・33・17・18・19は主柱穴とみられる。1か所に2～3本同規模の柱穴がみられたのは、改築に伴うものと考えられる。

周溝：壁際に1周するもののほか、別に短辺で明瞭なものを2～3条、部分的なものを1条確認した。

遺物出土状況 覆土上層上面では土器片と礫などが散乱状態で出土した。また大型クジラ類椎骨（現状

の大きさ、幅約19cm、幅約16cm、厚さ約14cm)も検出された。覆土上層上半部では大安在B式土器が半個体状態でまとまって出土する状況が確認された。さらに覆土上層下半部では榎林(新)式土器が個体状態で潰れて複数まとまって出土する状況がみられた。このように、この住居跡では一型式では埋めきらず、一段階新しい時期にも埋められたが、それでも窪みとして残されていた。土壌をフローテーション選別したところ、覆土中位焼土からはサケ属椎骨片3点、ブリ属歯骨片1点、メバル科?椎骨片1点、板鰐類椎骨片3点、HF1からはサケ属椎骨片14点が検出された。なお、この住居から出土した大安在B式土器4点と榎林式土器1点(掲載番号54・58・64・90・135)の土器胎土残存脂質分析を行った。結果、2点は海棲生物主体、2点は海棲生物と反芻動物の混合、1点は反芻動物主体の煮炊きを行ったと推測される。

時 期 出土遺物(榎林(新)式)と住居形態から榎林式期・縄文時代中期後葉である。HF1の年代測定結果は、4406±26yrBP (IAAA-201098)と、中期中葉サイベリツ式相当の年代で一段階古く出た。場合によっては、中期中葉の住居跡床面に重複するように中期後葉の住居が構築されたのかもしれない。(福井)

H-3 (図V-27~36、表V-1)

位 置 B・C7・8 **立 地** 標高194~198m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形 (I類) **長軸方向** 南北 **規 模** (7.6)×(5.5)×0.7m

確認・調査 表土除去後メンテナンスを掘削した結果、確認した。その範囲を確認するためB7・8グリッドを掘り下げたところ、半円状にII層の広がりを確認した。当時、Dラインより北を優先的に調査する工程であったため、C7・8グリッドでは範囲を想定して、ベルトを残しながら掘り下げた。しかし、H-49との重複部分は風倒木による攪乱で不明瞭であった。また、周囲はほぼすべてでほかの住居と重複しており、断面以外での壁の検出はごく一部に限られた(平成29年度)。調査工程上、柱穴の一部や焼土の調査は平成30年度・令和元年度に行った。

覆 土 自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、下部より暗褐色粘土、B-Tm(白頭山苦小牧火山灰)、黒褐色土、Ta-d(樽前d火山灰)を含む黒褐色土、耕作土からなるものであった。覆土上層は、褐色土(黄褐色系)と灰褐色土~暗褐色土(黒褐色土系)の互層であった。覆土下層は、屋根土由来とみられる。ロームと段丘礫層の混土で、橙色土~にぶい褐色土からなる。偽礫を多く含む特徴がある。

形 態 最終的には先端ビット、地床炉をもった隅丸方形住居で、主柱穴は6本あったとみられる。ただ、激しい重複により、壁の立ち上がりは部分的にしか確認できなかった。床面には複数の地床炉、焼土を確認したことから6軒の住居が重複ないし拡幅したものと思われる。

H-3-①: 最も新しいとみられる住居跡。地床炉(HF1A・1B・2)を使用した住居で、主柱穴は6本とみられる。ローム層を掘りこんで、ローム層最下部を床面としている。炉跡が3基重複したため、2回の増床改築がなされたとみられる。

H-3-②: 地床炉(HF3・4・5)をもった住居で、主柱穴は4本とみられる。壁は残されていないが、部分的に確認した周溝はこの住居に伴うものとみられる。炉跡が3基重複したため、2回の増床改築がなされたとみられる。

H-3-③: 浅い先端ビット(HP19)、埋炭炉、地床炉(HF7)をもつ住居とみられた。小型で四本主柱穴とみられる。

H-3-④: ①の壁の北側に部分的な立ち上がりが見られた。HF9に対応するとみられる。

H-3-⑤:①の壁の北側に部分的な立ち上がりが見られた。HF 6に対応するとみられる。

H-3-⑥:HF 8に対応する住居が存在したものとみられる。

付属遺構 HF:11が所確認した。

HF 1 Aは、焼土の上に、ローム粒・焼土粒・焼け骨が混じる炭層が堆積していた。焼土の下位に浅いピットがあり、覆土には貼りロームを挟んで上下に炭層が2層あった。

HF 1 Bは、焼土からなる。

HF 2は、薄い褐色土を挟んで焼土が2面あり、各焼土上には炭層が堆積していた。

HF 3は、焼土の上に、焼土ブロック・炭化材小片・焼け骨が混じる土層が堆積していた。

HF 4は、焼土からなる。

HF 5は、褐色土を挟んで炭層が2面あり、下位に大型ピットを確認した。

HF 6は、焼土の下位に大型ピットを確認した。

HF 7は、貼り粘土を挟んで上下に焼土を確認した。その下位ではHPを確認した。

HF 8は、焼土の下位に大型ピットを確認した。

HF 9は、床面よりわずかに上位で確認した焼土。

埋燬炉は、覆土に焼土粒を含む土層が堆積していた。

HP:30基をHPとした。HP 19は、埋燬炉に隣接したもので、H-3-③の先端ピットとみられる。

HP 3・12・H-18HP 13・H-49HP 26・H-23HP 8・16はH-3-①、HP 5・18・32・H-23HP 25はH-3-②、HP 23・24・H-18HP 1・10はH-3-③、HP 28・H-23HP 7はH-3-④、HP 6・9・H-23HP 18・19はH-3-⑤の主柱穴と想定される。

周溝:H-3-②にともなう部分的なものを1条確認した。

遺物出土状況 覆土上層下位(断面B-B'の土層47相当)から大安在B式土器片や礫が集中して出土した。土器はまとまって出土する傾向があった。土壌をフローテーション選別したところ、HF 1からサケ属椎骨片1点、HF 1 Aからサケ属椎骨片1点、ニシン科椎骨片1点、HF 2からサケ属椎骨片1点が検出された。

時期 出土遺物(大安在B式)と住居形態から大安在B式期・縄文時代中期後葉である。覆土下部出土炭化材の年代測定結果は 4140 ± 20 yrBP (PLD-44895)とやや古い。 (福井)

H-4 (図V-37~40、表V-1)

位置 B・C 13 **立地** 標高20.3m付近

平面形 楕円形~卵形 (Ⅱ類) **長軸方向** 南北 **規模** $5.25/4.98 \times 4.25/3.90 \times 0.788$ m

確認・調査 Cライン東西トレンチの調査中に壁面の立ち上がりを検出したことから、堅穴住居跡であることを確認した。Cラインおよび南北にベルトを設定して掘り進めたところ、床面および壁面、石囲炉(HF 1・2)、HP 46基を検出した。石囲炉が作り替えられていることや柱穴の配列などから、少なくとも2回は改築が行われていると考えられる。

古い順に①HP 2・6・9・11・44を主柱穴とし、石囲炉(HF 2)をもつ堅穴住居跡である。未確認の柱穴があるが、6本もしくは7本柱の堅穴住居と考えられる。②HP 3・19・24・25・27・31・44を主柱穴とし、石囲炉(HF 2)をもつ堅穴住居跡である。未確認の柱穴があるが、8本柱の堅穴住居と考えられる。③HP 1・4・6・7・8・10・14・19を主柱穴とし、HP 45が先端ピット、HP 21・32が中央ピット、石囲炉(HF 1)をもつ堅穴住居跡である。未確認の柱穴があるが、10本柱の堅穴住居と考えられる。HF 1、HF 2出土の炭化物を用いて、放射性炭素年代測定を行った。

H F 1が $4,000 \pm 30\text{yrBP}$ 、H F 2が $4,040 \pm 30\text{yrBP}$ の測定結果を得ており、40年前後の時期差があることが推定できる。

覆 土 覆土は、12層に分層できた。覆土1～6層は盛土遺構の堆積土、覆土7～9層は自然堆積、覆土10層は屋根土の崩落土、覆土11層は壁面崩落土、覆土12層は貼床である。床面には炭化物が散見される。5層からは土器が多く出土している。

形 態 楕円形～卵形の堅穴住居跡である。石囲炉（H F 1・2）が床面中央のやや北側に確認されている。H F 1がH F 2の北側をわずかに切って作られており、石囲炉の長軸方向がやや東側に傾いていることから、改築の際に長軸をやや東側に傾けたと考えられる。

付 属 遺 構 H F：2か所を検出した。

H F 1は、床面中央のやや北側にある石囲炉である。形状は方形で長さ0.64m、幅0.56mである。H P 2を切って作られている。炉石は8点出土しており、北東側の炉石が抜けていることから、9点の炉石で囲われていたと考えられる。炉石のうち2点は砥石片④と石皿片⑦を利用している。石囲炉を作る際に中央を丸く掘り、その周囲を隅丸方形のベンチ状に掘り込んでいる。ベンチの上に炉石を方形に配置して埋め戻して固定し、上面を炉として使用している。炉石は長さ14.57～29.80cm、幅10.36～18.20cm、厚さ4.78～12.81cm、重さ0.93～7.19kgの礫で構成されている。平均は長さ22.23cm、幅14.19cm、厚さ7.27cm、重さ3.17kgで、長さ15～20cm、重さ0.6～2kgの扁平礫が主に使われている。放射性炭素年代測定の結果、 $4,000 \pm 30\text{yrBP}$ の測定値を得ている。

H F 2は、床面中央のやや北側にある石囲炉である。形状は方形で長さ0.48m、幅0.48mである。H F 1に切られており、改築前の炉跡である。炉石はすべて抜き取られているが、炉石を配置していた痕跡が6か所確認でき、おそらく9点ほどの炉石で囲われていたと考えられる。H F 1とは異なり、炉石の部分のみ掘り窪めて炉石を配置したと考えられる。放射性炭素年代測定の結果、 $4,040 \pm 30\text{yrBP}$ の測定値を得ている。

H P：46基を検出した。

H Pの配列から、①のH P 2・6・9・11・44、②のH P 3・19・24・25・27・31・44、③のH P 1・4・6・7・8・10・14・19は住居跡の主柱穴、H P 45は③の先端ビット、H P 21・32は③の中央ビットと考えられる。その他のH Pについては柱穴もしくは杭穴と考えられる。①②③のほかには柱穴の配列を確認できなかったが、改築した際の柱穴である可能性がある。また、床面を精査した際にH Pにできなかった杭穴とみられるものを73基検出している。

遺物出土状況 床面からたたき石・すり石・扁平打製石器が出土している。覆土中からは多くの遺物が出土している。土器（ノダップⅡ式・煉瓦台式）、石鏃やスクレイパー、石斧・有肩打製石斧、たたき石や扁平打製石器、大型の石皿などの石器に加え、異形石器や有孔石製品のほか、三脚石器6点といった石製品が出土している。

時 期 出土遺物（ノダップⅡ式・煉瓦台式）と石囲炉の炭化物で行った放射性炭素年代測定の結果から縄文時代中期末葉～後期初頭と考えられる。（酒井）

H-5（図V-41～42、表V-1）

位 置 B・C 14・15 **立 地** 標高20.3m付近

平面形 円形（Ⅱ類） **長軸方向** 東西 **規 模** $(4.20)/(3.72) \times (3.78)/3.26 \times 0.549\text{m}$

確認・調査 Cライン東西トレンチの調査中に炉跡（H F 1）と壁面の立ち上りを検出したことから、堅穴住居跡であることを確認した。Cラインにベルトを設定し南北にもセクションを設定した。

掘り進めたところ、床面およびHP、周溝を検出した。HF1は焼土を囲うように溝が確認できることから、石囲炉であった可能性がある。北西側はH-26に切られ、南西側はH-87を切って構築されている。

覆 土 覆土は8層に分層した。覆土1・2層は盛土の堆積、覆土3～8層は壁面の崩落土である。
形 態 平面形が円形で、壁面際に周溝の廻る堅穴住居跡である。床面中央やや西側に石囲炉とみられる炉（HF1）を1か所確認している。

付属遺構 HF:1か所を検出した。HF1は、床面中央やや西側に石囲炉とみられる炉跡である。長軸0.80m、短軸0.64mの浅い隅丸方形の掘り込みに、長さ0.64m、幅0.64mの方形に炉石が配置されたとみられる溝跡が検出されている。

HP:6基を検出した。HP2～4は主柱穴と考えられる。

周溝:壁際から1条を検出している。幅6～32cm、深さ3～5cmである。

遺物出土状況 床面から土器（ノグツブⅡ式）、たたき石や扁平打製石器、石棒が出土している。覆土から土器（ノグツブⅡ式）や石鍬やスクレイパー、たたき石や凹み石などの石器が出土している。そのほかに三脚石器が出土している。

時 期 出土遺物（ノグツブⅡ式）と住居形態から縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

H-8（図V-43～46、表V-1）

位 置 Z-A5・6 **立 地** 標高189～193m付近の平坦地

平面形 卵形（Ⅱ類） **長軸方向** 南東北西 **規 模** (7.0)/(6.6)×不明/不明×0.6m

確認・調査 表土除去後、黒色土の広がりを確認した。その範囲を確認するためベルトを残しながらZ-A5・6グリッドを掘り下げた。複雑に重複し、また南西側が斜面際であったため、壁は南東側でのみ確認された。調査区境界中央付近の土層3～6の広がりが自然堆積直下に認められ、調査時はH-31としたが、東側の立ち上がりは不明瞭であったため、風倒木痕の可能性が高いとみている。

覆 土 自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、下部よりクラックの発達する黒褐色土（一部粘土）、B-Tm（白頭山苦小牧火山灰）、黒褐色土～暗褐色土、Ta-d（樽前d火山灰）を含む黒褐色土、耕作土からなるものであった。覆土上層の上半部は黄褐色土～褐色土であった。覆土上層の下半部は黒褐色土～暗褐色土であった。覆土下層は、壁際に堆積しており、屋根土由来とみられる。ロームないし段丘礫層由来の偽礫を多く含む灰褐色～暗褐色土である。

形 態 先端ピット、地床炉をもった卵形住居とみられる。壁の立ち上がりは、南東側で明瞭で、ローム層を65cm程度掘りこんでいる。周溝も部分的ながら4条検出したことから、3回の増床改築がなされたものとみられる。

付属遺構 HF:調査区境界で1か所確認した。間に炭層を挟んで、その上位と下位に薄い焼土が確認された。

HP:24基をHPとした。なお壁外の2基もこの住居由来とした。HP-10・12は先端ピットで、特にHP-12には内部に一对の小穴が3対確認された。入り口構造に起因するものとみられる。HP-1・2・5・6・8・16・23、H-29HP3・6は主柱穴とみられるが、床範囲の半分程度しか調査できていないため、実態は不明確である。

周溝:部分的なものを4条確認した。

遺物出土状況 覆土上層中位（断面A-A'の土層22相当）に礫主体の遺物が集中していた。北東側で大安在B式土器の個体が潰れたような状態でまとまっていた。

時期 出土遺物（大安在B式）と住居形態から大安在B式期・縄文時代中期後葉である。覆土2出土炭化材の年代測定結果は $4235 \pm 20\text{yrBP}$ （PLD-44895）とやや古い。（福井）

H-9（図V-47～55、表V-1）

位置 F・G9・10 **立地** 標高19.3～19.7m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形（I類） **長軸方向** 南北 **規模** (6.2)／(6.1)×(4.9)／4.7×0.8m

確認・調査 平成29年度は、表土除去後10ラインのメイントレンチを掘削した結果、確認した。その際トレンチ調査で、クジラ骨を検出し、保存状態の悪い貝類も確認した。平成30年度は、F9区の南側3m分とG9区について調査を行った。これによって、覆土上層に炭層と状態の悪い貝層が堆積していることが確認され、サンプルを採取しながら掘り下げた。ただ、覆土上層最下層の調査は令和元年度に繰り越した。令和元年度は、F9区南側3m分の覆土最下層のほか、F9区の北側2m分と、F・G10区について調査した。平成30年度同様覆土上層下部に炭層と状態の悪い貝層の堆積を確認したことから、サンプルを採取しながら掘り下げた。覆土をすべて掘削後、柱穴などの調査を行った。

覆土 自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、黒褐色土が僅かに堆積する程度であった。掘り込みがほぼ埋積されていたためとみられる。覆土上層は、周囲の住居掘削時の堀土とみられる堆積、炭化材などが混じる褐色～にぶい黄褐色土の堆積、炭層や貝層を含み褐色土と黒褐色土の互層からなる堆積に三分された。覆土上層下部の炭層は4層堆積していた。なお、炭化材（No1）ほか3点の樹種同定を行ったところ、いずれもクリであった。また、炭化材下の黄褐色土、暗褐色土、貝サンプル土のプラントオパール分析を行った結果、特に暗褐色土でササ属型、キビ族、ネザサ節型、ウシクサ族が多く認められた。これは由来土の影響も考えられるが、堆積時の含有物の影響もあるのではないかとみられる。覆土下層は、褐色～にぶい褐色土で、段丘礫層由来の偽礫を多く含む層が堆積しており、屋根土に関連するとみられる。

形態 先端ビット、地床炉をもった隅丸方形住居。主柱穴は4本とみられる。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂層を90cm程度掘り込んでいる。周溝は1条のみの確認であったが、主柱穴・炉に重複がみられ、外周を拡張するように1回の増床改築がなされたとみられる。

付属遺構 HF：1か所確認した。中央に焼土、周囲に炭層が堆積していた。その下位から掘り込まれた柱穴が確認され、柱穴に切られるように焼土を確認したことから、同一地点で二回炉が構築されたとみられる。

HP：22基をHPとした。HP7・8は先端ビットで、HP7には小穴を確認した。HP1・2・5・6・9は主柱穴で、各柱穴に2基の重複が認められる。

周溝：1条確認し、ほぼ全周していた。

遺物出土状況 覆土上層下部の炭層には貝層が含まれ、土器・石器も多く含まれた。土器も個体で潰れた状態のものが複数あった。現地で確認できた貝類にはアワビ、クボガイ類、エゾキンチャクガイとみられるものがあり、魚類ではタイ科歯骨？、哺乳類では大型クジラ類があった。大型クジラ類の骨は、肋骨片、頭骨とみられるものがあった。炭層の炭化材は、大きなものは柱材由来とみられるものもあったが、多くは幅2～4cm、長さ2～10cmほどの大きさのものであった。

時期 出土遺物（榎林式）と住居形態から榎林式期・縄文時代中期後葉である。覆土中位炭化材（No1）年代測定結果は $4277 \pm 26\text{yrBP}$ （IAAA-201105）、覆土炭化材の年代測定結果は $4300 \pm 20\text{yrBP}$ （PLD-44896）で、整合的である。（福井）

H-10・85・117 (図V-56~71、表V-1)

位置 C~E 7~9 立地 標高19.3m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形 (1類) 長軸方向 南東北西 規模 13.1/12.9×6.7/6.1×0.8m

確認・調査 平成29年度は、Eラインメイントレンチによって、「H-10」を確認した。その後、C 7・8区においてH-3を調査する過程で、立ち上がりを確認し、「H-85」とした。平成30年度は、D 7~9区区分は、「H-85」としてベルトを残しながら掘り下げた。断面観察と床面の周溝から「H-85」の範囲について、A~Cに細分した。即ちAは覆土に段丘砂礫層を含む部分、Bは床面で検出された周溝の範囲、Cは西側の壁の範囲について呼称した。また、「H-10」調査に関連して、E 8区は「H-117」として調査を行った。北東壁に屈曲がみられたためである。令和元年度は、E 8区について「H-10」として掘り下げた。ただしこの段階で、「H-85」と「H-10」とは同一住居であるという見解に至った。また、「H-117」のほとんどの覆土は令和元年度に掘り下げたが、「H-10」と「H-117」の明確な境界は認められず、E 8区の南半より南側を便宜的に「H-117」覆土として掘り下げた。このように、調査時に別の住居として調査したのは、斜面際に位置し、調査工程上、広く面的に調査することがかなわなかったこと、ある程度大きさを想定して調査を進めたことに原因がある。最終的に、主柱穴の並びや地床炉の位置、中央ビットの在り方から「H-85」及び「H-10」、「H-117」は同一住居という見解に至ったが、遺構名ごとに覆土出土という事で取り上げを行った遺物の検出位置の参考となるため、遺構名は削除せず、H-10にH-85・117を含めることとした。

覆土 自然堆積層、覆土に区分可能であった。自然堆積層は、下部より暗褐色粘土、黒褐色土~暗褐色土、Ta-d (樽前d火山灰) を含む黒褐色土、耕作土からなるものであった。覆土は、上部に段丘砂礫層由来土を多く含む掘り上げ土的堆積、中部に遺物を含む黒褐色土による互層的堆積、下部にローム由来土の堆積の順であった。互層的堆積は北半分 (「H-85」エリア)、掘り上げ土的堆積は中央付近 (「H-10」エリア) を堆積の中心となっていた。

形態 地床炉・中央ビットをもつ隅丸長方形。最終的な主柱穴は8本とみられる。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層、段丘砂礫層を70cm以上掘りこんでいる。地床炉は19か所確認されたが、古い周溝に切られるものもあり、同時併存ではない可能性が非常に高い。主柱穴や地床炉、周溝の在り方からすると、最低でも3回の改築がなされたとみられる。最後の③は、H-85HP1・4・18・36・49、H-117HP3・31・42の8本柱で、H-117HP4を先端ビット、H-117HF4を炉としたと推測される。その直前の②は、先端ビット、炉はほぼ同じで、H-117HP1・3、H-85HP5・14・27、H-2HP42の6本を主柱穴にしたと考えられる。またその前には①として、H-85HP22・26・48・55、H-117HP9・14の6本柱で、周溝を持ち、H-117HP2・17を先端ビット、H-10HF6を炉としたものが考えられる。

ほかに同一床面レベルの焼土の存在から小型住居が複数構築された可能性も考えられるが、それ以前に構築され、削平されたものと判断した。

付属遺構 HF: H-85として6か所、H-10として7か所、H-117として4か所確認した。

H-10HF1・2・4・5は、床面に薄い焼土を確認した。HF4の焼土上位には白色粘土 (三和土状) の硬化したものが確認された。分析の結果、段丘砂礫層中の海成粘土であるという結果が出たため、焼土上にそれを塗り付けたとみられるが、硬化した理由は判然としなかった。

H-10HF3は、焼土の上位に白色粘土 (三和土状) が確認された。

H-10HF6・7は、6本セット主柱穴の①に対応する地床炉とみられる。HF6は中央に焼土を切る窪みがあった。あるいは埋塞炉を抜いた跡かもしれない。HF7の焼土は僅かで、炭層が厚く残っ

ていた。

H-85HF1としたものは、覆土で確認されたもの。調査時は、覆土中に床面が存在すると想定していたためHFとした。焼土と炭層がセットで認められ、現地性のものとみられる。

H-85HF2・3・4・6・7・8は、床面に薄い焼土が確認された。HF4・6・8は周溝に切られていた。

H-85HF5は、厚い焼土の下に、段丘砂礫層由来土を挟んで焼焼残渣層が認められた。また、周溝にも切られていた。

H-117HF4は、③・④に対応する地床炉とみられる。厚い焼土が遺される部分と焼焼残渣を含む層が堆積する部分とがあった。焼焼残渣を含む土層中位には薄い炭層を挟むことから、焼土を形成するに至らない燃焼と燃焼面の攪乱が繰り返されたのかもしれない。また、中央にはそれらを切る柱穴が検出された。あるいは埋焼炉を抜いた跡かもしれない。上面の一角には、三和土状の硬化面が確認された。

H-117HF1・2は、床面に厚みのある明瞭な焼土が残されていた。

H-117HF3は、床面で確認された焼土であるが、被熱面が2枚あり、その間にごく薄いローム層が確認された。

HP:調査時にH-117とH-85に便宜的に所属を分けてHP番号を付した。結果、H-85側で67基、H-117側で65基検出した。ここでは、名称を変えずに記載した。

周溝:H-85範囲床面で確認した。

遺物出土状況 覆土上層下部(断面P-P'の土層8相当)から土器が個体状態で潰れたような出土状況で複数出土した。また、H-117HP17覆土から榎林式土器の口縁部破片が出土したが、H-10覆土出土で潰れた状態の土器と接合した。HF4土壌をフローテーション選別したところ、カレイ科椎骨片1、サケ属椎骨片1、ニシン科椎骨片12点、メバル科?椎骨片1点が検出された。

時期 出土遺物(榎林式)と住居形態から榎林式・縄文時代中期後葉である。H-85覆土炭化物層出土炭化材年代測定結果は $4190 \pm 20\text{yrBP}$ (PLD-44910)と整合的だが、H-117覆土下部出土炭化材年代測定結果は、 $4365 \pm 20\text{yrBP}$ (PLD-44915)でやや古い。(福井)

H-11 (図V-72~75、表V-1)

位置 G9・10 **立地** 標高19.5~19.6m付近の平坦地

平面形状 隅丸長方形(Ⅰ類) **長軸方向** 南北 **規模** (3.5)/(3.3)×3.9/3.7×0.9m

確認・調査 平成29年度は、表土除去後10ラインのメイントレンチを掘削した結果確認した。平成30年度は覆土掘り下げを行い、床面を露出させた。令和元年度は炉跡、柱穴など調査を行った。

覆土 自然堆積層、覆土に区分可能であった。自然堆積層は、黒褐色土が僅かに堆積する程度であった。掘り込みがほぼ埋積されていたためとみられる。覆土は、周囲の住居掘削時の掘土とみられる堆積、暗褐色土とにぶい黄褐色土の互層からなる堆積に二分されたが、いずれも覆土上層に相当する堆積であった。覆土上層下部の炭を多く含む暗褐色土層は2層堆積していた。H-11では覆土下層に対応する層は確認できず、ローム土で埋められたものとみられた。

形態 北側の壁が直線的なため、地床炉をもった隅丸方形住居とみられる。主柱穴は不明瞭ながら4本とみられる。壁の立ち上がりは、明瞭で、ローム層・段丘砂層を90cm程度掘り込んでいる。中央に貼ロームで埋められた地床炉があり、それに関連した柱穴4本あることから、1回拡張築造されたとみられる。

付 属 遺 構 HF:3か所確認した。

HF1は、薄い焼土が残されていた。

HF2は、焼土を切るように浅い土坑があり、貼ロームで埋められていた。炉廃絶後に処置が行われたものとみられる。

HF3は、貼ローム上に焼土が残されていた。

HP:29基をHPとした。HP1・12・15は最終主柱穴で、HP3・5・17・20が初期主柱穴とみられる。HP5覆土下部には大型の白色玉髄礫が含まれていた。

遺物出土状況 覆土掘削時、遺物の集中は認識されなかった。遺物自体は、覆土中位の下部暗褐色土中に比較的多く含まれていた。ただし、礫や土器片主体であった。HP2土壌をフローテーション選別したところ、サケ属遊離歯片1点が検出された。

時 期 出土遺物（見晴町式）から縄文時代中期中葉である。覆土下層出土炭化物の年代測定結果は、 $4355 \pm 20\text{yrBP}$ (PLD-44897) で整合的である。 (福井)

H-12 (図V-76~78、表V-1)

位 置 C・D10 **立 地** 標高19.7~19.9m付近の平坦地

平面形 いびつな卵形 (I・II類) **長軸方向** 南東北西 **規 模** $5.3/5.2 \times (3.0)/(2.8) \times 0.5\text{m}$

確認・調査 平成29年度は、Cラインまでを優先的に調査した。上面を盛土層として掘り下げ、住居跡のおおよその範囲を確認した上で、H-12と命名し、ベルトを残しながら覆土を掘り下げた。結果、石囲炉が床面から検出された。平成30年度はD10区の掘り下げを行い、床面全体を露出させた。令和元年度は未調査の柱穴などの調査を行った。

覆 土 上位に自然堆積層が確認されなかった。覆土は、盛土層の堆積、暗褐色土とにぶい黄褐色土の互層からなる堆積に二分されたが、いずれも覆土上層に相当する堆積状態であった。覆土上層下部の遺物を多く含む暗褐色土層は2層堆積していた。なお、H-12では覆土下層に対応する層は確認できなかった。

形 態 石囲炉をもつ卵形住居。主柱穴は4本とみられる。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂層を50cm程度掘り込んでいる。石囲炉に重複して石囲炉跡があり、それに関連したと推測される柱穴が4本あることから、1回拡張改築されたとみられる。

付 属 遺 構 HF:2か所確認された。

HF1は、方形の石囲炉。焼土が明瞭に残されていた。北西側の辺の配列は、中央に赤い安山岩の小口を上に向けて配し、その両側に長手を上を向くよう各1個の礫を配する。東側は青い安山岩、西側は青い砂岩である。ほかの辺は、不規則に抜き取られて、詳細な配置は分からない。ただ、青い砂岩、赤い安山岩を選択している。

HF2は、焼土と礫抜き痕からなる石囲炉跡。

HP:22基をHPとした。HP3・7・9・17は最終主柱穴で、HP2・8・22が初期主柱穴とみられる。HP1は大型であるが、僅かに炭化物を含むローム主体の覆土であることから、埋め戻されたものと推測され、円筒上層式期住居の中央ビットに類似したものである。

周 満 :部分的に1条を確認した。

遺物出土状況 覆土の暗褐色土中に、複数の潰れた個体土器のほか、小礫集中も確認した。

時 期 出土遺物（大安在B式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。 (福井)

H-16 (図V-79~83、表V-1)

位置 D・E 14・15 立地 標高20.4m付近の平坦地

平面形 卵形 (1類) 長軸方向 東西 規模 8.20×7.76×5.24/4.98×0.744m

確認・調査 平成29年度に14ライン南北トレンチを調査中、床面と壁面の立ち上がりを検出したことから、竪穴住居跡であることを確認した。平成30年度に遺構上部の盛土遺構の調査の終了後、東西方向にベルトを設定し、覆土を掘り進めていった。床面中央東側に石囲炉 (HF 1) を確認し、HP 38基、周溝3条を検出した。これにより、HP 21が先端ビット、HP 1・2・3・4・5・6・8・29を主柱穴とする8本柱の卵形の竪穴住居跡であることを確認した。HP 7は中央ビットと考えられるが、住居中央の柱穴であった可能性も考えられる。主柱穴の間には小柱穴が並び、杭跡列も見られる。住居跡東端の壁面と先端ビット (HP 21) の間に小柱穴が2本 (HP 19・20)、HP 21内から4本の小柱穴 (HP 23・25・35・36) が検出され、出入り口構造に起因するものと考えられる。周溝を3条検出している。少なくとも2回の改築を行っていると考えられる。最も内側の周溝から推測すると、最初の構築時は一回り以上小さく、先端ビットのない楕円形の竪穴住居であった可能性がある。1回目の改築時に先端ビットのある卵形の竪穴住居にしたと考えられる。2回目の改築では南北西方向へやや広げたことが伺える。H-16の構築にあたって、西側の約半分ではH-25、さらにP-27・71・112・258・280の上面を削平している。覆土下部から検出した炭化物を用いて放射性炭素年代測定を行い、 $4,150 \pm 30$ yrBPの測定値を得ている。

覆土 覆土は、12層に分けた。覆土1~10層は盛土遺構の堆積、覆土11層は屋根土の崩落土、覆土12層は壁面崩落土と考えられる。覆土7・8層からは遺物が多く出土している。H-16廃絶後に壁面や屋根が崩落し土砂が堆積したのち、窪みになったところに遺物や炭化物を含んだ土砂を入れて埋めていったと考えられる。

形態 床面中央東側に石囲炉 (HF 1) のある卵形の竪穴住居跡である。

付属遺構 HF 1: 1か所を検出した。HF 1は床面中央東側にある石囲炉である。南北にやや長い方形で、四隅から放射状に飾り石が施されている。長さ1.06m、幅0.92mである。石囲炉は炉面部分と炉石を配置する溝を掘り込み、炉石を配置している。炉石は北辺4点、南辺5点、東西辺各4点、北東および北西角の飾り石が各2点、南東および南西角の飾り石が各1点の合計23点で構成されている。北側両角の2点および南辺東側2点の炉石は長辺を縦位置、そのほかの炉石は長辺を横位置にして配置されている。炉石の石材は南辺西側の2点は青色泥岩、そのほかは安山岩である。炉石は長さ12.98~29.00cm、幅7.56~17.90cm、厚さ3.28~8.61cm、重さ0.50~4.85kgの礫で構成されている。平均は長さ20.99cm、幅12.46cm、厚さ5.93cm、重さの2.20kgで、長さ14~25cm、重さ0.5~3kgの扁平礫が主に使われている。

HP: 38基を検出した。HP 1・2・3・4・5・6・8・29は主柱穴、HP 21は先端ビット、HP 19・20・23・25・35・36はHP 21とともに出入り口構造に起因する小柱穴、HP 7は中央ビット、HP 9~18・22・24・26~28・31~34・37・39・40は小柱穴、HP 30・38は柱穴である。このほか29本の杭穴が検出されている。

周溝: 3条を検出した。北東側は確認できなかったが、壁際から検出している。幅5~15cm、深さ2~10cmである。

遺物出土状況 床面から石鏃やたたき石・石鎌などが出土している。覆土中からは多量の遺物が出土している。覆土1~10層は盛土遺構の堆積であり、そこからの出土が大半を占める。土器 (ノグップⅡ式) や、石鏃やスクレイパー、石斧・たたき石・扁平打製石器などの石器が出土している。石製品も出土

しており、石棒やくほみ石状の軽石製石製品が出土している。また、三脚石器が14点出土している。
時 期 出土遺物（ノグツブⅡ式）と住居形態、放射性炭素年代測定の結果から縄文時代中期後葉～末葉と考えられる。（酒井）

H-17（図V-84～87、表V-1）

位 置 E・F・G 10・11 **立 地** 標高19.7～19.8m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形（Ⅰ類） **長軸方向** 南北 **規 模** 64/5.7×5.0/4.0×1.1m

確認・調査 平成29年度は、Fラインより南に2mのアルファベットラインにメイントレンチを設定し掘り下げたところ確認した。平成30年度は覆土の掘り下げを行い、床面全体を露出させた。令和元年度は未調査の炉跡や柱穴の調査を行った。

覆 土 自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。なお覆土上層は、重複するH-91覆土、盛土層の堆積、暗褐色土とにぶい黄褐色土の互層からなる堆積に三分された。覆土上層中部には、その上位に段丘砂礫層由来土層が厚さ10cm程度で広く堆積している部分もあり、周囲の堅穴掘削時の掘り上げ土の可能性もある。覆土上層下部の遺物を多く含む暗褐色土層は2層堆積しており、炭化クリの集中や、残りの悪い貝層ブロックなども確認された。覆土下層は屋根土由来とみられ、段丘砂礫層由来偽礫が多く含まれていた。なお、南側の壁面で段丘砂礫層の断層が確認された。東側上位にローム層が確認されるが、西側では確認されないことから、西側が下方にずれた正断層とみられる。ただ、住居構造に影響を与えていないことから、住居構築以前のものでと推測された。ちなみにこの断層は、遺跡西側・幸連川に面する崖面の由来となる断層と関連するものとみられる。

形 態 先端ビット、地床炉を持った隅丸方形住居。主柱穴は4本。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂礫層を110cm程度掘り込んでいる。西側主柱穴が各2本あることから、1回拡張改築されたとみられる。

付 属 遺 構 HF：地床炉を3か所確認した。

HF1は、床面に露出した段丘砂礫層とその上位の粘土質土壌が被熱して焼土となっていた。

HF2は、床面に露出した段丘砂礫層が被熱し焼土となっていた。

HF3は、主要な炉跡とみられ、焼土と、その周囲の炭層という堆積セットが認められた。焼土の厚さもHF1・2より厚かった。

HP：11基をHPとした。HP2・3・4・5は最終主柱穴で、HP2・3・5・10が初期主柱穴とみられる。HP4からは完形に近い個体土器が横位に埋め込まれていた。住居廃絶に伴うものであろう。HP1は先端ビットで、HP7・11は入り口構造に伴う柱穴と考えられる。

周 溝：西側で部分的に小柱穴列に伴うもの2条確認した。小柱穴列は東側にも一部認められた。

遺物出土状況 覆土の暗褐色土中に、炭化クリ集中や残りの悪い貝層ブロックも確認された。HP4内出土土器掲載No.447（復元No.165）は底が抜かれているが、潰れておらず、埋納当時の状況を残したとみられる。住居廃絶にあたって納められたと考えられる。

時 期 出土遺物（榎林式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。覆土下部出土炭化クリの年代測定結果は、4135 ± 20yrBP（PLD-44899）と整合的である。（福井）

H-18（図V-88～92、表V-1）

位 置 B・C 8 **立 地** 標高19.5～19.3m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形（Ⅰ類） **長軸方向** 南東北西 **規 模** (5.5)/(5.4)×4.7/4.4×0.8m

確認・調査 平成29年度に表土除去後メイントレンチを掘削した結果、検出した。重複住居跡が多いことから、まずB8区を表土直下から40cmほど掘削し、住居範囲を確認して、ベルトを残しながら掘り下げた。ただ、不明瞭な風倒木痕が存在し、H-3と区分できずに掘り下げてしまった。また、H-49覆土との混乱もあるとみられる。

覆 土 自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、一部での確認にとどまった。覆土上層は、重複するH-3覆土、盛土層の堆積、暗褐色土とにぶい黄褐色土の互層からなる堆積に三分された。覆土上層下部では、半個体状態のまとまった土器が複数出土した。

形 態 先端ビット、地床炉を持った隅丸方形住居。主柱穴は4本。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂層を70cm程度掘り込んでいる。焼土が4か所に確認され、うち3か所は並ぶことから、2回拡張改築されたとみられる。

付属遺構 HF：地床炉を4か所確認した。

HF1は、明瞭な焼土で、下位に浅い窪みが確認された。

HF2は、埋竈炉で、さらに柱穴覆土上に薄い焼土が形成されていた。

HF3・4も、柱穴と炉跡が重複したものであったが、先後関係を把握できなかった。

HP：41基をHPとした（HP11欠番）。HP3・17・40、H-49HP51は最終主柱穴で、HP15が先端ビットとみられる。HP2・12・24、H-49HP51が前段主柱穴とみられる。また、埋竈炉に伴う主柱穴にはHP4・20・34・36を想定している。ほかにも多数の柱穴が検出されたが、認識外の重複住居に伴うものとみられる。

遺物出土状況 覆土上層下部から、榎林式（新）の半個体状態でまとまった土器が複数出土した。HP22内部にも土器がまとまって含まれていたが、見晴町式であったため、重複した古い時期の住居の柱穴の可能性が高い。また、南東側壁面の床面から石棒が出土した。ほかにも床面付近で磨製石斧が2点重なった状態で出土した。

時 期 出土遺物（榎林式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。（福井）

H-19（図V-93～95、表V-1）

位 置 C10・11 **立 地** 標高19.7m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形（I類） **長軸方向** 南東北西 **規 模** $4.8/4.4 \times (4.0)/(3.9) \times 0.9$ m

確認・調査 平成29年度に表土除去後メイントレンチを掘削した結果、検出した。重複住居跡が多いことから、残るC10区とC11区西側半分を20cmほど掘削し、住居範囲を確認して、ベルトを残しながら掘り下げた。ただ、H-48との境界を区分できずに一緒に掘り下げてしまった。

覆 土 自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、一部での確認にとどまった。覆土上層は、重複するH-48覆土、盛土層の堆積、暗褐色土とにぶい黄褐色土の互層からなる堆積に三分された。覆土上層下部では、半個体状態のまとまった土器が複数出土した。覆土下層の上位は、屋根土由来の可能性のある褐色土であったが、下位に薄い炭層・焼土層が互層的に堆積しており、あるいは覆土下層とした堆積も覆土上層と同様なものかもしれない。薄い炭層には炭化材の小片は含まれるものの、部材は認められないことから、火災住居ではないとみられる。床面付近で繰り返し燃焼行為が行われたのであろうか。燃焼残流層には、焼けた骨も多く含まれていた。

形 態 先端ビットを持った隅丸方形住居。主柱穴は4本。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂層を50cm程度掘り込んでいる。周溝が2条確認されることから、1回拡張改築されたとみられる。

付属遺構 HF：確認されなかった。あるいは覆土下部中の焼土が地床炉であった可能性もある。

HP：12基をHPとした。HP 1・4・10・12が最終主柱穴で、HP 7が先端ビットとみられる。HP 2・3・6・9が前段階の主柱穴とみられる。

周溝：部分的に西側で2条を確認した。

遺物出土状況 床面付近の炭層から、半個体状態のまとまった土器が複数出土した。H-48と重複しており、一部混在状態で取り上げている可能性がある。

時期 出土遺物（榎林式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。（福井）

H-23（図V-96～98、表V-1）

位置 B・C 6・7 **立地** 標高19.5m付近の平坦地

平面形 楕円形（I類？） **長軸方向** 南東北西 **規模** (4.1)/(4.0)×(3.7)/(3.6)×0.9m

確認・調査 平成29年度に表土除去後Cラインに沿ったメイントレンチを掘削した結果、検出した。その後、ベルトを残しながらC 6・7区を掘り下げたが、重複する住居間の関係は、ローム層を掘りこんでいる段階で認識可能となった。したがって、覆土の遺物は取り上げに際し、混乱している可能性がある。

覆土 自然堆積層、覆土上層に区分可能であった。自然堆積層は、一部での確認にとどまった。覆土上層は、重複するH-3覆土、盛土層の堆積、暗褐色土とぶい黄褐色土の互層からなる堆積に三分された。この住居では、ローム層や段丘砂礫層がブロック状になった偽礫を多く含む覆土下層相当の堆積は認められなかった。

形態 斜面にかかった壁や床面が崩落しているため不明瞭ながら、隅丸方形～長楕円形住居とみられる。主柱穴は4本か。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂層を70cm程度掘り込んでいる。北側の床面で段差を確認したことから、住居が重複しているとみられるが、断面などで明確に認識できなかった。

付属遺構 HF：中央で確認した。窪み内に炭層があり、その上位に焼土が形成されていた。

HP：25基をHPとした。HP 15・21・24が最終主柱穴で、HP 11～13が先端ビットとみられる。主柱穴のもう一本が存在したであろう場所には攪乱があって、確認できなかった。HP 18の覆土には直径0.5～10cmの段丘砂礫層由来とみられる砂利が充填されていた。なお、住居跡中軸上のHP 8・11・16・20などはH-3の主柱穴とみられる。

周溝：部分的に東側で1条を確認した。

遺物出土状況 覆土上層下部から土器が個体状態で数点出土した。また、床面付近でアオトラ石裂石斧3点が向きを揃えて重なって出土した。覆土上部でもアオトラ石裂石斧5点とたたき石1点が重なって向きを揃えて出土した。いずれも埋納されたような状況であった。HP-22覆土には土器片が集中して含まれていた。

時期 出土遺物（榎林式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。覆土出土炭化材の年代測定結果は、4370±20yrBP（PLD-44901）とやや古い。（福井）

H-24（図V-99、表V-1）

位置 C・D 14・15 **立地** 標高20.6m付近の平坦地

平面形 楕円形？（X類） **長軸方向** 東西 **規模** (5.62)/(5.22)×(4.06)/(3.80)×0.240m

確認・調査 C 15区を調査中に石囲炉を検出した。周囲を精査したところ、非常に締まった床面の広がり検出した。Dラインをセクションとして断面を確認したが、明確な壁面の立ち上がりを確認

することはできなかった。地形的な浅い窪みに石囲炉を設置し、住居跡とした可能性が考えられる。

覆 土 覆土は、7層に分けた。覆土1～5層は耕作土で駒ヶ岳d火山灰や白頭山-苦小牧火山灰を含む。覆土6・7層は自然堆積と考えられる。床面は非常に締まって硬くなっており、一部には炭化物が見られる。

形 態 床面中央東側に石囲炉(HF1)のある不整楕円形の堅穴住居跡と考えられる。

付 属 遺 構 HF:1か所を検出した。HF1は床面中央東側にある石囲炉である。炉石はコの字状に7点出土している。炉石の出土していない東側には礫片の集まりが検出されている。炉石の間隔の空いている所にはもともと炉石が存在し、廃棄にあたって抜かれた可能性がある。抜かれた炉石の位置を想定すると、炉跡の形状は一辺1mほどの方形と考えられる。

HP: 検出できなかった。

遺物出土状況 床面からたたき石やすり石などが出土している。覆土からは土器(天祐寺式)、スクレイパーや石斧などの石器が出土している。

時 期 出土遺物と住居形態から縄文時代後期前葉と考えられる。(酒井)

H-25 (図V-100～105、表V-1)

位 置 C・D13・14 **立 地** 標高30.5m付近の平坦地

平面形 楕円形(Ⅱ類) **長軸方向** 南北 **規 模** 7.06/6.44×5.54/4.94×0.946m

確認・調査 平成29年度にC13・14区の調査で半円形の褐色土の広がりを検出した。平成29年度の調査行程の都合により、C13・14区側を先行して調査を行った。そのため、Dラインを東西セクションとした。調査を進めたところ、床面や壁面を検出したことから堅穴住居跡であることを確認した。平成30・令和元年度にD13・14区側の調査を行った。D14区側は上半部をH-16が切っていることから、H-16の調査終了後、南北セクションをやや西側に設定して調査を行った。床面中央南側に地床炉(HF1)、28基のHPを検出した。HP1・3・8・9・11・22・25・26を主柱穴とする8本柱の楕円形の堅穴住居跡である。壁際には周溝が1条めぐり、HP1脇には集石(HS1)を検出した。また、HPの配列から、HP2・6・10・20を主柱穴とする4本柱の堅穴住居跡が想定され、古い住居跡と考えられる。貼床を除去すると243本の杭跡を検出した。直線状に並んでいるものや四角く並んでいるものが確認できる。中央部からは検出していない。HF1から検出した炭化物を用いて放射性炭素年代測定を行い、 $4,220 \pm 30\text{yrBP}$ の測定値を得ている。

覆 土 覆土は、23層に分けた。覆土1・2層は盛土遺構の堆積、覆土3～5層はほかの遺構の掘上土、覆土6～19層は盛土遺構の堆積、覆土20～22層は屋根土の崩落土、覆土23層は壁面崩落土と考えられる。堅穴住居の廃絶後、屋根土が落ちた窪みに遺物を含む土を入れたと考えられる。また、覆土中から出土した炭化種実(クルミ)の放射性炭素年代測定を行ったところ、 $4,175 \pm 20\text{yrBP}$ の測定値を得ている。

形 態 床面中央南側の地床炉(HF1)と先端ビット(HP13)のある、楕円形の堅穴住居跡である。

付 属 遺 構 HF:1か所を検出した。HF1は床面中央南側にある地床炉である。形状は不整楕円形、長さ1.04m、幅0.60mである。中央部には骨片とみられる白色の微細遺物が含まれ、その周囲からは炭化物とともに黒曜石の微細剥片が出土している。放射性炭素年代測定を行い、 $4,220 \pm 30\text{yrBP}$ の測定値を得ている。

HP: 28か所を検出した。HP1・3・8・9・11・22・25・26は主柱穴、HP2・6・10・20は古

い住居の主柱穴、HP 13・14・17・31・34は浅い土坑でHP 13は先端ビットと考えられる。そのほかのHPは柱穴または杭跡と考えられる。HP 12・15・16・27は欠番である。

HS : 1か所検出した。HS 1は床面北東側のHP 1と壁面に挟まれた位置から検出した。長さ4.1~6.4 cm、重さ94~1132 gの亜門~亜角礫が21点、円形に集まった状態で見つかった。青色チャート12点、泥岩4点、安山岩4点、青色片岩1点である。長さ5 cm・重さ60 gほどに大きさが揃っていること、青色の石が多いことから、選択的に集めた可能性が考えられる。

周溝 : 南壁の一部で途切れるが、壁際床面を廻る1条を検出した。幅5~10 cm、深さ2~7 cmである。南東側の一部に0.8 mほどの直線状の溝跡が検出されている。また、貼床除去後に床面東側の周溝よりもやや内側から幅5 cm、深さ2 cmほどの溝跡を検出している。

遺物出土状況 床面から石槍や石錐、たたき石や扁平打製石器などの石器が出土している。覆土中からは多量の遺物が出土している。覆土1~19層は遺構の掘上土や盛土遺構の堆積であり、そこからの出土が大半を占める。土器（大安在B式）、石鏃やスクレイパー、たたき石や扁平打製石器などの石器のほか、石製品も出土しており、とくに三脚石器が25点出土している。

時期 H-16（ノグッブⅡ~煉瓦台式）に切られていること、出土遺物（大安在B式）と住居形態、放射性炭素年代測定の測定値から縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

H-26（図V-106、表V-1）

位置 B・C 14 **立地** 標高20.4 m付近の平坦地

平面形 楕円形？（X類？） **長軸方向** 南北 **規模** (5.40)/(4.94)×(4.50)/(3.96)×0.141 m

確認・調査 C 14区でC ライトレンチ北側ベルトを残して調査中、褐色土の広がりを検出した。南北にもベルトを設定し、掘り進めたところ炉跡（HF 1~3）を検出したことから堅穴住居跡であることを確認した。西側は床面を確認できず掘りすぎてしまった。南側はC ライトレンチによって削平されている。南側が削平されているが、円形~楕円形の堅穴住居跡と考えられる。HF 2の焼土上面に貼床が見られることやHP 1に切られていることから、炉の作り替えが行われたと考えられる。H-5・68のセクションから盛土遺構下位を切って堅穴住居を構築していることがわかっていく。

覆土 覆土は、5層に分けた。1~3層は自然堆積、4・5層は貼床と考えられる。

形態 床面中央東側に石囲炉（HF 1）および地床炉（HF 2）のある円形~楕円形の堅穴住居跡と考えられる。

付属遺構 HF : 3か所を検出した。

HF 1は床面中央東側にある石囲炉である。炉石は北側に3点残っているのみで、そのほかは確認できなかった。炉跡の形状は楕円形、長さ0.50 m、幅0.26 mである。

HF 2はHF 1の北側にある地床炉である。形状は不定形で、長さ0.82 m、幅0.48 mである。焼土上面に貼床が見られることやHP 1に切られていることから、HF 1より古い炉跡である。

HF 3はHF 1の南側にある焼土跡である。被熱面が見られないことから焼土や炭化物の廃棄跡と考えられる。

HP : 3か所を検出した。柱穴と考えられる。

遺物出土状況 床面から搬入品とみられる壺形土器（大木10式）、両面調整石器やたたき石・北海道式石冠が出土している。覆土からは土器（煉瓦台式）、石鏃・スクレイパー、たたき石・大型石皿などの石器が出土している。

時期 H-5（煉瓦台式）・68を切っていること、出土遺物（大木10式並行）と住居形態から

縄文時代中期末葉～後期初頭と考えられる。

(酒井)

H-29 (図V-107～108、表V-1)

位置 A6 立地 標高19.0m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形 (I類) 長軸方向 南東北西 規模 3.2/2.6×2.4/2.2×0.7m

確認・調査 H-8の調査の過程で、床面に他の遺構覆土を検出したため、H-8調査のためのベルトに沿ってサブトレンチを入れ、また直交するようにサブトレンチを入れて、確認した。その後、全体を掘り下げ、床面で柱穴などを調査した。

覆土 覆土下層のみ残る状態で、ローム粒やロームブロックを多く含む褐色～灰褐色土が主体であった。南側壁際には、その下位に三角堆積状の黒褐色土なども確認できた。

形態 先端ビット、埋竈炉を持った隅丸方形住居。主柱穴は4本。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂層を70cm程度掘り込んでいる。南側の床面で段差を確認したことから、住居が重複しているとみられるが、断面などで明確に認識できなかった。

付属遺構 HF:中央で確認した埋竈炉。埋竈の上部に炭層が堆積し、灰褐色土を挟んで、焼土が形成されていた。炭層は埋竈の外側にも広がっていた。隣接するHP9は柱穴というよりも窪みであった。

HP:14基をHPとした。HP2・5・7・10が最終主柱穴で、HP1が先端ビットとみられる。先端ビットにはさらに一対の小柱穴が伴っており、出入口構造によるものとみられる。なお、HP3・4・6・14などはH-8の主柱穴とみられる。

周溝:部分的に1条を確認した。

遺物出土状況 覆土から、見晴町式土器がほぼ完形状態で出土した。HF1土壌をフローテーション選別したところ、サケ属椎骨片7点を検出した。

時期 出土遺物(見晴町式)と住居形態から縄文時代中期中葉である。

(福井)

H-30 (図V-109～110、表V-1)

位置 Z5・6 立地 標高18.4m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形 (I類) 長軸方向 南東北西 規模 (2.4)/(2.2)×(2.2)/(2.0)×0.4m

確認・調査 H-8の調査の過程で、床面に他の遺構覆土を検出したため、調査区境界に沿ってサブトレンチを入れて、確認した。その後、全体を掘り下げ、床面で柱穴などを調査した。

覆土 覆土上層と下層に区分可能であった。覆土上層は褐色土主体で、盛土的な堆積であった。覆土下層は、ロームブロックの偽礫を多く含む土層で、屋根土由来の可能性がある。

形態 先端ビット、埋竈炉を持った隅丸方形住居。主柱穴は2本とみられる。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層を40cm程度掘り込んでいる。

付属遺構 HF:中央で確認した。地床炉と埋竈炉からなる。埋竈炉の炉体土器は底を欠いており、内部の一番底に炭層、その上位に10cmほどの厚さの燃焼残渣を含む埋め戻し土、さらにその上位にローム層主体の埋め戻し土が堆積していた。この状況から、埋竈炉が先に廃用にされ、地床炉が新規の炉として機能した可能性もある。

HP:11基をHPとした。HP6・7が最終主柱穴で、HP1が先端ビットとみられる。先端ビットにはさらに一対の小柱穴が伴っており、出入口構造によるものとみられる。HP2・8は主柱穴の補助とも考えられる。

遺物出土状況 覆土上層から、榎林式土器がまとまって出土した。

時期 埋甕炉（榎林式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。覆土下部出土炭化材の年代測定結果は、 $4375 \pm 20\text{yrBP}$ (PLD-44903) とやや古い。(福井)

H-31 欠番

H-32 (図V-111~112、表V-1)

位置 Z5 **立地** 標高18.4m付近の平坦地

平面形 不明 **規模** (3.3) × (2.2) × 0.3m

確認・調査 H-8の調査の過程で、床面に他の遺構覆土を検出したため、調査区境界に沿ってサブトレンチを入れて確認した。その後、全体を掘り下げ、床面で柱穴などを調査した。

覆土 自然堆積層と覆土上層に区分可能であった。自然堆積層は、風倒木痕とみられ、乾燥するとクラックが発達する土層の堆積が大きく占めていた。覆土上層は上部が褐色土主体で、盛土的な堆積であった。下部は、暗褐色土主体であった。

形態 南側で部分的に壁の立ち上がりを確認できたが、北西側～南西側の壁は斜面際にあたり、崩落しており、南東側はH-30と重複し、床面も連続していた。したがって、形状は不明瞭である。ただ、断面をみると、新旧二つの住居が存在した可能性もある。

付属遺構 HP:5基をHPとしたが、不明瞭であった。

遺物出土状況 覆土から、円筒上層b式土器が出土した。

時期 出土遺物（円筒上層b式）から縄文時代中期前葉である。(福井)

H-33 (図V-113~114、表V-1)

位置 C・D13・14 **立地** 標高20.5m付近の平坦地

平面形 卵形(Ⅱ類) **長軸方向** 東西 **規模** (4.78) / (4.12) × (4.00) / (3.22) × 0.394m

確認・調査 H-25およびC13・14区を調査中、H-25北側壁面に床面を検出した。また、調査区15ライン南北トレンチの西側ベルトで壁面の立ち上りを検出したことから、堅穴住居跡であることを確認した。南側はH-25の調査によって削平してしまった。北側は調査の過程で床面まで掘り下げてしまっている。床面中央東側に長方形の地床炉(HF1)を検出している。HP1を先端ビットとする卵形の堅穴住居跡と考えられる。

覆土 覆土は5層に分けた。覆土1～3層は自然堆積、覆土4・5層は貼床と考えられる。

形態 床面中央東側に地床炉と先端ビットのある、卵形の堅穴住居跡と考えられる。

付属遺構 HF:1か所を検出した。HF1は床面中央東側にある地床炉である。形状は長方形、長さ0.56m、幅0.44mである。床面とは土質が異なることから、浅い掘りこみに小砂利を含んだ土を入れて炉としていたと考えられる。

HP:7か所を検出した。HP1は先端ビットと考えられる。HP2～7は柱穴と考えられる。

遺物出土状況 覆土から石鏃やスクレイパー、たたき石・石錘などの石器のほか、石棒や三脚石器が出土している。

時期 H-25(大安在B式)を切っていることや住居形態から縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

H-34 (図V-115、表V-1)

位置 A 6・7 立地 標高19.5m付近の平坦地

平面形 不明 規模 (0.7)×(2.0)×0.3m

確認・調査 H-8の調査の過程で、床面を検出したため、ベルトを残して掘り下げた。結果、四周を重複した住居に削平されている状況を確認した。

覆土 覆土は、自然堆積層・覆土上層・覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、最上部に黒色土が堆積していた。覆土上層は褐色土主体で、盛土層的な堆積であった。覆土下層は、色調は褐色土主体で変わらないが、ロームブロックがやや多く含まれた。

形態 床面だけの確認で、不明である。床面レベルが浅く、多くの住居に削平されることから、古い段階の住居跡と推測される。このような存在を確認したことから、調査時に認識できなかった堅穴住居跡が複数存在したものとみられる。

付属遺構 HP:1基をHPとしたが、不明瞭であった。

遺物出土状況 北海道式石冠を検出した。

時期 不明であるが、遺物と切りあい関係から縄文時代中期か。(福井)

H-35 (図V-116、表V-1)

位置 A 6 立地 標高19.3m付近の平坦地

平面形 不明 規模 (1.4)×(3.0)×0.3m

確認・調査 H-8・29の調査の過程で、床面を検出したため、H-29との境界に残存した土層を記録した。結果、四周を重複した住居に削平されている状況を確認した。

覆土 覆土下層相当を確認した。色調は褐色土主体で、ロームブロックがやや多く含まれた。

形態 床面だけの確認で、不明である。床面レベルが浅く、多くの住居に削平されることから、古い段階の住居跡と推測される。少なくともH-34・P-34よりは新しいとみられる。このような存在を確認したことから、調査時に認識できなかった堅穴住居跡が複数存在したものとみられる。

付属遺構 HP:H-8 HP 13はこの住居のHPであった可能性が高い。

時期 不明であるが、切りあい関係から縄文時代中期か。(福井)

H-38 (図V-117、表V-1)

位置 A・B 6・7 立地 標高19.4m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形 (1類) 長軸方向 南東北西 規模 (1.3)/(1.2)×(2.7)/(2.5)×0.5m

確認・調査 A・B 6・7区は、住居跡の存在がうかがわれたが、斜面際であり、さらに調査区境界もあったことから、ベルトを残しながら掘り下げていった。その過程で、床面を検出したため、残っていた土層を記録した。結果、南東側を重複した住居に削平されている状況を確認した。

覆土 断面では3~4棟の重複が認識されたが、古い住居の床面に僅かに貼り床して構築していたために、掘り下げ時には認識しきれなかった。土層1・2・10は覆土上層、土層5・6・7・8・9・12・14は覆土下層としてよいとみられる。

形態 部分的な確認で、不明である。4軒が重複したものを1軒としている可能性が高い。床面レベルが浅く、多くの住居に削平されることから、古い段階の住居跡と推測される。少なくともH-34・35・61よりは新しいとみられる。このような存在を確認したことから、調査時に認識できなかった堅穴住居跡が複数存在したものとみられる。

付 属 遺 構 認識できなかった。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土した。

時 期 切りあい関係から縄文時代中期か。覆土出土炭化材の年代測定結果は、 4415 ± 20 yrBP (PLD-44904) である。 (福井)

H-39 (図V-118~119、表V-1)

位 置 A・B 8・9 **立 地** 標高19.7~19.8m付近の平坦地

平面形 卵形 (Ⅱ類) **長軸方向** 南東北西 **規 模** (5.4) × (3.0) × 0.8 m

確認・調査 平成29年度、A・B 9区を掘り下げたところ、ローム層を掘りこむ「落ち込み」によって確認した。調査の過程で、隣接するH-60より新しいものであったことが判明するが、一緒に掘り下げてしまった。また、H-1との関係も確認しきれなかった。ただ、石囲炉部分はH-60覆土直上に焼土として確認できたので、明確に認識できた。

覆 土 自然堆積層と覆土に区分可能であった。自然堆積層は、H-60と重複した部分は、H-39廃絶後に掘りだされたためかB-Tmの堆積が認められた。それ以外は調査区境界に接していたこともあって、表土の堆積だけ確認された。覆土は、ローム土主体の土層6を挟んで、下位はにぶい褐色土主体、上位はにぶい黄褐色土主体であった。

形 態 石囲炉をもつ卵形住居。主柱穴の本数は不明。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層を40~80cm程度掘り込んでいる。記録写真を見ると、先端ピットが存在した辺りに窪みが確認される。

付 属 遺 構 HF:石囲炉1か所が確認された。方形の石囲炉であるが、礎は全て取り除かれていた。

HP:5基をHPとした。HP 1・5、H-60 HP 4が主柱穴の一部とみられる。

遺物出土状況 覆土下位から複数の個体土器を確認した。掲載Na678 (復元Na793) の胎土からはエゾバフンウニの殻・棘片の空隙を確認した。殻片などは焼成で粉末化し、圧痕も肉眼では認識不能であった。検出はX線CT装置による。

時 期 出土遺物 (大安在B式) と住居形態から縄文時代中期後葉である。 (福井)

H-40 (図V-120、表V-1)

位 置 C 7 **立 地** 標高19.2m付近の平坦地

平面形 隅丸方形? (Ⅰ類) **長軸方向** 南東北西 **規 模** $2.2/2.0 \times (1.9)/(1.8) \times 0.4$ m

確認・調査 平成29年度H-23調査の過程で認識した。したがって、覆土の遺物は取り上げに際し、混乱している可能性がある。

覆 土 灰褐色土の土層4のほかは、褐色~にぶい褐色土が堆積していた。

形 態 隅丸方形とみられるが、西側は斜面にかかり崩落している。床面が不安定で、明瞭な貼床が認められなかった。また、明確な柱穴も認められなかった。したがって、住居跡ではないのかもれない。

付 属 遺 構 HP:2基のくぼみがみとめられた。

遺物出土状況 覆土の灰褐色土中に、複数の個体土器を確認した。

時 期 出土遺物 (見晴町式) から縄文時代中期中葉である。 (福井)

H-43 (図V-121~122、表V-1)

位 置 C・D 12・13 **立 地** 標高20.0m付近の平坦地

平面形 卵形(Ⅱ類) **長軸方向** 南北 **規模** 3.7/3.2×2.8/2.6×0.6m

確認・調査 平成29年度C12・13区を掘り下げる過程で、ローム層を掘りこんだ「落ち込み」を確認し、ベルトを残して掘り下げた。平成30年度D12・13区を調査して完掘した。

覆土 自然堆積層・覆土上層・覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、耕作土が堆積している程度であった。覆土上層は、盛土層的な堆積で、褐色〜にぶい褐色土であった。覆土下層は、段丘砂礫層ブロックによる偽礫を多く含んでおり、土層根起源と推測した。

形態 卵形で南側床面に炭層が堆積した窪みを検出し、炉跡とみられる。先端ピットは、存在したであろう部分に古い時期の土坑が重複しており、認識することができなかった。また、明確な柱穴も検出できなかった。

付属遺構 HF：炭層を持つ窪みが1か所確認した。

HP：1基のくぼみがみとめられた。

周溝：部分的に1条を確認した。

遺物出土状況 覆土の灰褐色土中に、複数の個体土器を確認した。

時期 出土遺物(ノダップⅡ式)と住居形態から縄文時代中期後葉である。(福井)

H-45 (・70) (図V-123~124、表V-1)

位置 B・C12・13 **立地** 標高20.0m付近の平坦地

平面形 いびつな卵形(Ⅰ・Ⅱ類) **長軸方向** 南北 **規模** (4.5)×(3.5)×0.4m

確認・調査 平成29年度C12区を掘り下げる過程で、ローム層を掘りこんだ落ち込みを確認し、H-45と命名した。その後、ベルトを残して掘り下げた。その広がりには、B・C12・13区で確認されたと考え、面での確認を行ったが、より新しいH-4・55に北側と東側を削平され、さらにより古いフラスコ状土坑、風倒木痕の落ち込みに惑わされて、範囲を確認することができなかった。しかし、調査を進める中で、柱穴の集中と床面を確認したため、その地点をH-70として調査を進めた。室内整理の段階で、柱穴の配置によって、H-45とH-70は一連のものと考えられたことから、H-70を欠番とし、H-40に統合することとした。

覆土 自然堆積層・覆土上層・覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、耕作土が堆積している程度であった。覆土上層は、盛土層的な堆積で、褐色〜にぶい褐色土であった。覆土下層は、段丘砂礫層ブロックによる偽礫を多く含んでおり、土層根起源と推測した。

形態 壁の立ち上がりを南西側のごく一部でしか確認できなかったため、明確ではないが、柱穴の配置から卵形を呈したとみられる。炉跡は確認できなかったが、柱穴は多く検出できた。北東側に集中することから、あるいは未確認の住居跡と重複した可能性が非常に高い。

付属遺構 HP：H-45として6基、H-70として29基の柱穴を確認した。H-45HP1・2、H-70HP2・18が主柱穴とみられる。H-70HP4・8・19・22もいずれかの住居の主柱穴を構成したものとみられる。

時期 不明ながら、住居形態から縄文時代中期後葉か。(福井)

H-48 (図V-125~126、表V-1)

位置 C11 **立地** 標高19.7m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形(Ⅰ類) **長軸方向** 南東北西 **規模** 3.0/2.7×(2.7)/(2.4)×0.5m

確認・調査 平成29年度に表土除去後メンテナンス掘削した結果、H-19を検出した。重複住

居跡が多いことから、残るC10区とC11区西側半分を20cmほど掘削し、住居範囲を確認して、ベルトを残しながら掘り下げた。その結果、H-48を確認した。ただ、H-19との境界を区分できずに一緒に掘り下げてしまった部分もある。

覆 土 自然堆積層、覆土に区分可能であった。自然堆積層は、一部での確認にとどまった。覆土の上位（土層1～3）は盛土層的、下位は覆土上層的で、主に暗褐色土とにぶい黄褐色土の互層からなる堆積が主体であった。ただ、土層14・21はロームブロックや段丘砂礫層ブロックの偽礫を多く含み、覆土下層적ではあった。

形 態 石囲炉を持った隅丸方形住居。柱穴は確認できなかった。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂礫層を50cm程度掘り込んでいる。

付属遺構 HF：石囲炉を確認した。方形で、長さ0.5m、幅0.4m。石囲いは、北西側と南東側に長手を上に向けた礫を配し、ほかは小口方向を上に向けて礫を配する。礫質は、1点が頁岩のほかは、安山岩であった。13とした礫は浮いており、炉に関連するものでない可能性が高い。軸が住居形態と平行していない。なお、隣接するP-79上位に出来た窪みに向かって炭を埋めたいらしい。

HP：確認できなかった。

周溝：部分的に1条を確認した。

遺物出土状況 覆土から、半個体状態のまとまった土器が複数出土した。HF1土壌をフローテーション選別したところ、サケ属椎骨片1点を検出した。

時 期 出土遺物（大安在B式）から縄文時代中期後葉である。覆土下部出土炭化材の年代測定結果は、 $4145 \pm 20\text{yrBP}$ (PLD-44906) とやや古い。（福井）

H-49（図V-127～134、表V-1）

位 置 A・B7・8 **立 地** 標高192～194m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形（I類） **長軸方向** 南北 **規 模** $(5.7) \times 4.8 / 4.6 \times 0.8\text{m}$

確認・調査 表土除去後メイントレンチを掘削した結果H-3を確認した。その範囲を確認するためB7・8グリッドを掘り下げたところで確認した。ただ、H-3との重複部分は風倒木による攪乱で不明瞭であった。調査工程上、柱穴の一部や焼土の調査は平成30・令和元年度に行った。

覆 土 自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、耕作土が最上面を覆う程度であった。覆土上層の上半部は、盛土層的で、褐色土～にぶい褐色土であった。覆土上層の下半部は、覆林式土器を含む層で、にぶい褐色土（黄褐色系）と灰褐色土（黒褐色土系）の互層であった。平成29年度調査時は、壁面で2枚の床があるとして、H-81・82を命名したが、不明確なため、欠番とした。覆土下層は、屋根土由来とみられる。ロームないし段丘礫層のブロックからなる偽礫を多く含み、にぶい褐色土からなる。

形 態 地床炉をもった隅丸方形住居。主柱穴は6本とみられる。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂礫層を50cm以上掘りこんでいる。地床炉は中央に1か所。西側に一段浅い床面を検出し、調査時は一連のものとして掘り上げたが、実際は古い住居の残片とみられるので、枝番を付した。

付属遺構 HF：1か所確認した。焼土自体の規模は小さく、その上位に燃焼残渣が残された状態であった。

HP：54基をHPとした。範囲で、任意にH-49HPとH-18HPに振り分けたので、ほかにH-18HP1・2・5・6・7・35も床面範囲に存在している。ただ、主柱穴は、HP10・20・24・30・48とみられる。北西側に柱穴が集中している地点は、H-61床面範囲にまでまたがって存在したと

みられる住居の柱穴。ただし、床面を確認できなかったため未命名のままにしてある。東側の柱穴の集中地点は、H-69の柱穴が含まれると考えている。

遺物出土状況 覆土上層下半部黒褐色土系土層から人の顔が描かれた三角形石製品が出土した。特別な出土状況ではなく、土器片や礫に混じった状態であった。出土時、作業員は形状を見て「ビザが出た」と評した。また、榎林式土器がまとまって出土した。掲載No.739は、一見横転状態の土器が潰れたような出土状態に見えたが、破片の向きをみると、胴下部では上下方向に直行する向きとなっていたことから、おおまかに割って、敷き並べたものとみられた。なお、その直下には線刻がある円盤状石製品(6)を検出した。両者は関連して置かれたものと推測される。

時期 出土遺物(榎林式)と住居形態から縄文時代中期後葉である。床面出土炭化材の年代測定結果は、4290±20yrBP(PLD-44907)とやや古い。(福井)

H-54 (図V-135~136、表V-1)

位置 B13 **立地** 標高20.2m付近の平坦地

平面形 卵形(Ⅱ類) **長軸方向** 南東北西 **規模** (2.4)×(1.2)×1.1m

確認・調査 B12区を掘り下げていったところ、「落ち込み」を確認した。当初はH-55との重複を想定したが、重複は土坑とであった。調査区境界にあたったため、ベルトを残さないで掘り下げ、土層堆積は調査区境界面で記録した。

覆土 自然堆積層、盛土層、覆土に区分可能であった。自然堆積層は、耕作土の下位に灰黄褐色土が堆積していた。この土壌は、縄文後期以降B-Tm降灰までに堆積したことが他の地点で確認されている。土手状盛土遺構の裾部分にあたることから、耕作の影響を受けずに残ったものとみられる。盛土層は、15ラインをピークに、土手状に堆積していたが、H-54上位はその西側にあたり、緩やかに傾斜を示す状況であった。ほかの地点で、盛土層は、上部が黄褐色土、下部が暗褐色土の傾向があったが、この段面では土層4・6が下部の暗褐色土層とみられる。覆土の上半部は、炭混じり層とローム主体層の互層堆積がみられた。覆土の下半部は、部分的に炭混じりの暗褐色土層を挟むものの、大半はにぶい褐色土であった。土層21・35が覆土下層的で、段丘砂礫層由来ブロックを多く含んでおり、一段階新しい住居と2軒に分けられる。

形態 先端ビットをもった卵形住居とみられるが、部分的で規模など不明。調査時西側は土坑と重複していると認識していたが、精査の結果2軒の重複と考えられた。

付属遺構 HP:2基をHPとした。HP2は先端ビットで、内部に一对の小穴を確認した。入り口構造に起因するものとみられる。

遺物出土状況 覆土上層と床面付近から土器片が出土している。

時期 出土遺物(煉瓦台式)と住居形態から縄文時代後期前葉である。(福井)

H-55 (図V-137、表V-1)

位置 C・D9・10 **立地** 標高19.6m付近の平坦地

平面形 卵形(Ⅱ類) **長軸方向** 東西 **規模** 2.5/2.4×(1.8)/(1.8)×0.5m

確認・調査 B12東側に東西にベルトを残しながら掘り下げたところ「落ち込み」を確認した。フラスコ状土坑の密集地点であったため、段丘砂礫層を掘りこんだ状況が確認されたのち、直交するベルトを残し、床面まで掘り下げた。

覆土 覆土上層と覆土下層に区分可能であった。覆土上層上半部は盛土層で、下半部は炭層

を挟む互層的な堆積であった。覆土下層は、段丘砂礫層ブロックによる偽礫を含んでいた。

形態 先端ビット・石囲炉をもつ卵形住居。柱穴は不明瞭であったが、石囲炉はしっかりとしていた。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂層を50cm程度掘り込んでいる。

付属遺構 HF：1か所確認した。

HF1は、方形の石囲炉。焼土が明瞭に残されていた。北側の辺の配列は、中央に安山岩の長手を上にしたもの両側に小口を上に向けた安山岩を配する。東側は北側に白い玉髄、南側に青い安山岩の長手を上に配する。西側は北側に長い黄褐色の珪質岩、南側にやや短い安山岩の長手を上に配する。南側は、西側に長手を上に向けた安山岩、東側に小口を上に向けた青色砂岩を2個配している。

HP：2基をHPとした。HP2は先端ビットで入り口構造に伴う小柱穴を2個確認した。柱穴が不明瞭であった。

周溝：部分的に1条を確認した。

遺物出土状況 礫のほか、先端ビットなどに土器片が含まれていた。

時期 出土遺物（ノダツブⅡ式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。（福井）

H-56（図V-138～139、表V-1）

位置 C9 **立地** 標高192m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形（Ⅰ類） **長軸方向** 南北？ **規模** (42)／3.4×－／3.0×0.3m

確認・調査 H-1床面のうち、C9区の風倒木痕南側に「落ち込み」が確認されたので、H-1輪郭部分とそれに直行するベルトを残しながら掘り下げた。床面中央に貼り床が認められ、地床炉も確認されたため、住居と認定したが、入れ子状に構築された住居で、壁は不明瞭であった。

覆土 におい褐色土と黒褐色土の互層的な堆積であった。

形態 不明瞭で正確な形状は不明であるが、中央に地床炉をもつことから、隅丸方形住居と考えられる。

付属遺構 HF：地床炉1か所を確認した。

遺物出土状況 貼り床の上位から個体土器が潰れた状態で出土した

時期 出土遺物（大安在B式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。（福井）

H-57（図V-140～141、表V-1）

位置 C・D9・10 **立地** 標高196m付近の平坦地

平面形 隅丸方形か（Ⅰ類） **長軸方向** 南東北西か **規模** 5.5／5.4×(0.9)／(0.8)×0.5m

確認・調査 10ラインのメインセクションで確認した。平成29年度、メイントレンチの掘削によって、大半の覆土を掘り下げてしまったが、トレンチ底面に現れた「落ち込み」によって認識した。平成29年度は調査工程の都合でDラインより北側のグリッドを優先で調査したことと、周辺住居との重複関係が不明で南側にH-57の壁の立ち上がりを想定した。南側の立ち上がりは、令和元年度の調査を行ったが、調査時は一連のものとした。整理時に、精査したところ、床面に差が確認されたことから、2軒の住居跡を同一住居として調査したことが判明した。そこで、新しいとみられる北側に床面がある住居をH-57①、古いとみられる南側に床面がある住居をH-57②とした。

覆土 H-57①の覆土は、H-1・71に切られて、僅かに確認される状況であった。黄色系のにおい褐色土、明褐色土が堆積していた。ローム質土で、炭片が混入する程度であるので、速やかな埋め土の可能性がある。全体にはローム質土基調であった。H-57②の覆土は、覆土上層と覆土下

層に区分可能であった。覆土上層は、にぶい褐色土と橙色土の互層的な堆積であった。覆土下層は、段丘砂礫層ブロックによる偽礫を含む橙色土層であった。

形態 断片的で正確な形状は不明であるが、HP 1・2の規模の類似から、H-57②は隅丸方形の住居であった可能性が考えられる。H-57①はそれより新しいとみられるため住居形式からすると、規模の小さな隅丸方形を呈したと推測される。

付属遺構 HP: 3基をHPとした。HP 1・2は主柱穴とみられる。

時期 住居形態から縄文時代中期後葉・榎林式とみられる。(福井)

H-58 (図V-142~143、表V-1)

位置 B 6・7 **立地** 標高196m付近の平坦地

平面形 卵形か (I・II類) **長軸方向** 南東北西? **規模** 2.8/2.6×2.4/2.1×0.5m

確認・調査 B 6・7区はH-38が存在するものとして、ベルトを残しながら掘り下げた。周囲の住居と重複が著しく、明確な関係を把握できなかったが、のちにH-61とする覆土を含め掘り下げたところ、さらに「落ち込み」を確認した。上部ベルトの記録後掘り下げた結果、H-38床面のローム層で「落ち込み」を検出し、住居跡と認定し、ベルトを残して掘り下げた。

覆土 上位層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。覆土上層は、にぶい褐色土と褐色土の互層的な堆積であった。覆土下層は、ロームブロックによる偽礫を含んでいた。上位層は、調査時はH-58の掘り込みを確認できなかった部分で、H-61覆土とも関連するが、新旧関係は不明。最上位の自然堆積層は、溜みが埋まった堆積状況であり、風倒木痕と認識した。

形態 地床炉と先端ピットが確認されるが、形態が重んでおり、卵形を呈したのか、隅丸方形に近かったのか、判断しにくい。小型であるためとみられるが、過渡的なものかもしれない。

付属遺構 HF: 地床炉が確認され、厚さ3cmほどの薄い焼土が残されていた。

HP: 8基をHPとした。主柱穴はHP 1のほかは、細いHP 2・3・7が候補になる。HP 4・6は重複した住居由来の主柱穴とみられる。HP 5は先端ピットで、内部に一对の小穴が確認された。入り口構造に起因するものとみられる。

周溝: 部分的に1条を確認した。

遺物出土状況 覆土上部から個体土器(786)が出土したが、ただ潰れたのではなく、半割状態で表面を上にして二枚重ねた状態であった。覆土中位からは特異な石製品が出土した。一見、北海道式石冠を上下かつぶしたような形態にみえるが、側縁有溝石器の変異形と考えられる。

時期 出土遺物(大安在B式)と住居形態から縄文時代中期後葉である。覆土出土炭化材の年代測定結果は、 $4200 \pm 20\text{yrBP}$ (PLD-44908)とやや古い。(福井)

H-60 (図V-144~145、表V-1)

位置 A・B 8・9 **立地** 標高196m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形 (I類) **長軸方向** 南東北西 **規模** (5.2)/(5.1)×(4.0)/(3.6)×0.8m

確認・調査 平成29年度、H-1調査時点で、ローム層を掘りこんだ落ち込みを確認した。さらに、A・B 9区を掘り下げる過程で、隣接するH-39より古いものであったことが判明するが、一緒に掘り下げてしまった。床面から、多くのHPも検出したが、住居自体の掘り込みが明瞭な割に、主柱穴の判別が困難であった。

覆土 上位層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。覆土上層は、にぶい褐色土と灰褐色

土の互層的な堆積であった。覆土下層は、ロームブロックや段丘砂礫層ブロックによる偽礫を含んでいた。上位層は、H-1やH-39の覆土にあたる。最上位の自然堆積層は、より新しいH-1・39の覆土の上位に堆積していた。

形態 先端ビット、地床炉を持った隅丸方形住居（H-60-①）。主柱穴は判然としないが、壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂礫層を70cm程度掘り込んでいる。HF3の存在から、HP2を先端ビットとするもう一段古く、小型の住居があったとみられる（H-60-②）。

付属遺構 HF：地床炉を3か所で確認した。

HF1は、窪みに燃焼残渣が堆積していた。

HF2は、薄い焼土を伴うもので、上面に炭層が覆っていた。

HF3は、柱穴と炉跡が重複したものであったが、HPが新しいとみられる。周辺にローム土の貼り土を確認し、その上面に焼土を確認した。

HP：25基をHPとした。ほかに細かい柱穴を複数確認した。HP20は先端ビットで、内部に一对の小穴を確認した。入り口構造に起因するものとみられる。HF3との関係から、HP2も先端ビットであった可能性が高い。

周溝：部分的に1条を確認した。

遺物出土状況 覆土上層から個体状態の土器が潰れて複数出土した。

時期 出土遺物（榎林（新）式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。（福井）

H-61（図V-146～148、表V-1）

位置 A・B6・7 **立地** 標高194m付近の平坦地

平面形 不明 **規模** (5.0)×(4.0)×0.3m

確認・調査 A・B6・7区は、住居跡の存在がうかがわれたが、斜面際であり、さらに調査区境界もあったことから、ベルトを残しながら掘り下げていった。その過程で、床面を検出したため、残っていた土層を記録した。結果、部分的に床面を確認した。

覆土 重複著しく、覆土と認識可能だったのは僅かであった。それでも、偽礫の含有量から覆土上層・覆土下層に区分可能であった。

形態 床面と柱穴を認識しただけなので、住居形態は不明。H-49との関係は断面図では切られているが、写真で再検討すると実際にはより新しかったようである。またH-58・73よりは新しい。壁の立ち上がりは重複により不明瞭。床面はローム層中に構築されている。床面に段差が確認され、主柱穴とみられるものも複数あるから、少なくとも3軒以上に分離可能と推測される。

付属遺構 HF：地床炉を1か所で確認した。

HP：16基をHPとした。HP2・9・13・14のほか、H-49HP10・18・23・H-73HP1、H-PHP3・5、H-58HP4・6はそれぞれ主柱穴のセットと推測する。

周溝：部分的に2条を確認した。直交することから、拡張ではない、構築過程の異なる住居のものとみられる。

遺物出土状況 覆土上部から大安在B式土器が個体状態で出土している。そのうちの一つは、一見個体土器が潰れた状態で出土したようであったが、上面と下面で共に表面を上に向けて重ねて置かれた状態で出土した。

時期 出土遺物（大安在B式）から縄文時代中期後葉である。（福井）

H-64 (図V-149~151、表V-1)

位置 C9 立地 標高19.0m付近の平坦地

平面形 隅丸方形(1類) 長軸方向 南東北西 規模 4.3/4.1×3.5/3.2×0.3m

確認・調査 H-1床面のうち、C9区の風倒木痕南側に落ち込みを確認したので、H-1輪郭部分とそれに直行するベルトを残しながら掘り下げた。その結果H-56を検出したが、まだその下位に住居の存在がうかがわれたので、ベルトはそのままに掘り下げていった。結果、炭化材が多量に検出され、火災住居であることが判明した。入れ子状に構築された住居で、壁は不明瞭であったものの、炭化材の分布範囲からおおよその住居壁面を認定できた。

覆土 上位層・覆土上層・覆土下層に区分可能であった。覆土上層は、H-56構築時の埋め土主体で、ロームや段丘砂礫層主体であった。覆土下層は、基本的にロームブロックや段丘砂礫層ブロックの礫層を多く含む屋根土由来のものであったが、火災住居であったことから、焼土や炭化材が多く含まれた。また、詳細に観察した結果、以下のような堆積過程を推測できた。①床面に、薄く、境界不明瞭な炭化物が堆積する。②やや大型の炭化材(幅4.5cm、幅10cm・長さ30センチ以上など)、小型の炭化材(幅1.5~2cmの小片が散在)、炭化物ブロックのほか、焼土ブロックが堆積する。焼土ブロックは、赤褐色部分、暗褐色部分、黒褐色部分、炭片混じり覆土下層が斑状になる部分もある。③炭化材の少ない覆土下層が堆積する。壁際では、中に幅5cmないし8cmの材が交差し、組み合わせるような状態で確認された。④幅4.5cm、長さ10cm程度の炭化材、2~3cmの炭化材小片が斑状に混ざる覆土下層が堆積。上部に焼土ブロックを混じる部分があった。なお、これら炭化材のうち20点の樹種同定を行ったところ、19点がクリで、1点がヤナギ属であった。また、炭化材№19下の土のプラントオパール分析を行った結果、ササ属型・キビ族のほかネザサ節型、ウシクサ族が認められた。これは由来土の影響も考えられるが、堆積時の含有物：屋根材の影響もあるのではないかと推測している。

この堆積過程は、以下のような火災・崩落過程を示していると推測している。①火災を起こすための持ち込まれた初期部材(草本か)、②火災によって、内側の部材が燃焼し落下、屋根土も部分的に焼土化しながら落下、③構造が限界を超えて屋根土が崩落、④崩れなかった部材のうち炭化した部分が、崩れなかった屋根土と共に徐々に堆積。ある程度した段階で、打ち崩されたか。

形態 地床炉をもつ隅丸方形住居とみられるが、やや歪んでいる。主柱穴とみられる窪みが4基確認されたが、いずれも窪み程度のものであった。ただし、輪郭の外側に焼土や炭化材が入り込んでいたため、火災時に存在した柱であることは確実とみられる。本住居のような小型の場合は、柱を掘りこむことなく、構築していたことを示す例と考えられる。壁の立ち上がりは、断面でみる限り明瞭。北側の段丘砂礫層を掘りこむ部分も明瞭である。地床炉は中央に1か所。炭層主体で、焼土自体の形成は薄い。

付属遺構 HF：地床炉を1か所で確認した。

HP：5基をHPとした。HP1~4が主柱穴と推測する。

遺物出土状況 覆土から火災時の炭化構築材と共に、炭化した状態の「織物」製品を検出した。二本Z捻りのやや太い糸を基本とし、バリエーションとして細い糸が少しある。また、一部に三本捻りの糸も含まれる。さらに不明瞭ながら「繊維製品№9」(X章参照)にみられるようなさらに太い糸も含まれている。したがって、糸の太さで模様をなしていたと推測される。経糸は密に編まれていないことから、伸縮性の必要な製品、例えば袋のようなものであった可能性もある。糸の最小単位はテープ状の「ヘギ」を撚ったもので、ニレ科の樹皮を使用したものである。「織物」は複数の面があり、1枚ものならば4枚以上に折り畳まれた状態であった。

時期 出土遺物（榎林式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。覆土出土炭化繊維の年代測定結果は、 $4165 \pm 20\text{yrBP}$ (PLD-41778) で、総合的である。（福井）

H-65 欠番

H-66 (図V-152~155、表V-1)

位置 B・C 9・10 **立地** 標高192m付近の窪地

平面形 楕円形 (X類) **長軸方向** 東西 **規模** (5.0) × (4.2) × 0.3m

確認・調査 平成29年度に表土除去後メインレンチを掘削した結果、Ⅱ層黒色土の広がりを検出した。その範囲を確認するためB・C 9・10グリッドを掘り下げたところ、卵形の住居H-1であることを確認した。当初は、H-1の1軒と考えていたが、床面に達したところ、中央が一段落ちくぼんでおり、円形の石囲炉が検出されたため、卵形住居の窪みを切るように、後期前葉の楕円形住居H-66が構築されたと考えられた。したがって、H-66覆土の遺物はH-1として取り上げてしまっているため、注意が必要である。大方の調査は平成29年度に終了したが、全体写真のために石囲炉は令和元年度まで残した。最終的に、炉石等除去後、見逃した柱穴がないか精査し、調査終了とした。

覆土 覆土は、自然堆積層、覆土、下位層に区分可能であった。なお、覆土は、H-66部分とその周縁部に分かれる。周縁部上位層は、H-1の覆土上層とみられ、にぶい黄褐色土の人為堆積層中に、主に土器片からなる遺物が多量に含まれた。下位層は、H-1覆土下層である。なお、自然堆積層には、上部から胸ヶ岳Dテフラ、白頭山テフラの堆積が認められた。白頭山テフラの上位は黒色土が堆積したが、下位は暗褐色粘質土で水成堆積とみられた。この粘質土は、H-66石囲炉上面に堆積するもので、焼土を切る湧水痕も確認されたことから、H-66廃絶後間もなく湧水、堆積したものと推測される。

形態 先端ビット？、石囲炉をもった楕円形住居。明瞭な柱穴は確認できなかった。壁の立ち上がりも明瞭ではなかった。

付属遺構 HF:1か所確認した。方形の石囲炉で、長さ0.8m、幅0.7m。石囲は半分程度抜き取られていた。廃絶に伴うものであろう。残った礫は、横手の配置を主とするが、奥壁中央は立っていた。焼土は発達しておらず、焼土ブロック混じりの燃焼残渣が認められた。

HP:4基をHPとした。HP1は先端ビットとみられる。

遺物出土状況 遺物はほとんど認められなかった。ただし、H-66が切っているH-1覆土上層からは煉瓦台式土器が多量に出土しているため、それよりも新しい可能性が高い。

時期 H-66より古いH-1出土遺物（煉瓦台式）と住居形態から縄文時代後期前葉である。なおH-1HF1の年代測定結果は、 $3899 \pm 25\text{yrBP}$ (IAAA-201097) であった。今回測定した年代値の中で最も新しく、調査時には当初H-66HF1をH-1HF1と認識していたため、試料誤認の可能性もある。（福井）

H-67 (図V-156、表V-1)

位置 C 8 **立地** 標高193m付近の平地

平面形 不明 **規模** (3.2) × (1.4) × 0.4m

確認・調査 平成29年度H-3とH-64の調査が進行し、その間の手付かずの部分掘り下げたところ、北側に壁を持つ住居の存在が認識されたため、ベルトを残しながら掘り下げた。H-3との関

係は不明瞭であったが、H-85、H-77より新しいことが判明した。

覆 土 褐色土主体で、下部に黒褐色土層が一枚入り、部分的にその上位にローム主体層が入ることで、互層の堆積に類似した状況がみられた。黒褐色土層より上部は盛土層の、より下部は覆土下層のな色調を呈していた。

形 態 重複著しく断片的で不明。焼土としたものも、位置的にこの住居の所屬としたもの。所屬したであろう柱穴も不明瞭である。ただし、掘り込みは明瞭で、ローム層を40cmほど掘りこんでいる。

付 属 遺 構 HF：2か所地床炉を確認した。

HP：6基をHPとした。

遺物出土状況 覆土上層からまとまった土器が出土している。また、円筒土器片もみられた。

時 期 出土遺物（複林式）から縄文時代中期後葉である。（福井）

H-68（図V-157、表V-1）

位 置 B14 **立 地** 標高20.4m付近

平面形 不明 **長軸方向** 不明 **規 模** $-/-\times-/-\times 0.4\text{m}$

確認・調査 B14区を調査中、地床炉（HF1）を検出した。周囲を精査したところ、床面と思われる硬化した範囲を検出した。このことから、竪穴住居であることを確認した。調査範囲北側壁面を精査したところ、東側は盛土遺構で壁の立ち上がりは確認できなかった。北側の大部分は調査範囲外、南側はH-5に削平されてしまっている。

覆 土 覆土は、1層である。自然堆積と考えられる

形 態 切り合いや削平によって上端・下端を検出できなかったため、形状は不明である。

付 属 遺 構 HF：1か所を検出した。HF1は地床炉である。形状は不定形、長さ0.64m、幅0.42mである。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時 期 H-80を切り、H-5（煉瓦台式）や盛土遺構に切られていることから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

H-69（図V-158、表V-1）

位 置 A・B8 **立 地** 標高18.9m付近の平坦地

平面形 不明 **規 模** $(1.2)\times(0.9)\times 0.2\text{m}$

確認・調査 平成29年度H-39とH-49の調査が進行し、H-49の範囲と認識しながら掘り下げていったところ、調査区境界の断面で床に段差がある事を確認し、別な住居として認定した。なお床面の大半は掘削時に誤って掘り下げてしまった。

覆 土 褐色土主体。部分的にローム層主体層も入る。

形 態 重複著しく断片的で不明。所屬したであろう柱穴も不明瞭である。ただし、掘り込みは明瞭で、ローム層・段丘砂礫層を20cmほど掘りこんでいる。壁の状況やH-49・18に遺される柱穴の状況から、あるいはH-69はH-49②と同一住居の可能性も考えられる。

付 属 遺 構 未確認

時 期 他遺構との関係から縄文時代中期か。（福井）

H-71 (図V-159~165、表V-1)

位置 C・D 8・9・10 立地 標高19.7m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形 (I類) 長軸方向 南東北西 規模 6.9/6.4×5.3/4.9×12m

確認・調査 平成29年度表土除去後にメイントレンチを掘削した結果、確認した。重複するH-57・64の調査ののちに、範囲が確定した。平成30年度、Cラインを優先的に調査し、H-2調査終了後Dラインを調査した。調査工程上、柱穴や焼土の調査は令和元年度に行った。

覆土 自然堆積層、覆土に区分可能であった。自然堆積層は、下部より暗褐色粘土、B-Tm (白頭山苦小牧火山灰)、黒褐色土～暗褐色土、Ta-d (樽前d火山灰) を含む黒褐色土、耕作土が確認された。ただし、この状況はDライン断面 (E-E') でみられた風倒木の窪み部分に限られ、ほかでは10cmほどの堆積であった。覆土上層は、にぶい褐色土 (黄褐色系) と灰褐色土 (黒褐色土系) の互層であった。互層堆積は、上部では厚さがあるが、下部では薄層の繰り返しとなっていた。なお、Dラインの断面にL字状堆積を示す部分があり、より新しい住居の立ち上がりの可能性も考えたが、その内外での堆積状況に類似点が多いことから、上位の風倒木に伴う攪乱と考えた。覆土下層は段丘砂礫層ブロックの偽礫を多く含む層で、屋根土由来とみられる。

形態 先端ビット、地床炉をもった隅丸方形住居。主柱穴は4本 (HP 1・2・12・14) とみられる。壁の立ち上がりは、明瞭で、段丘砂層を50cm以上掘りこんでいる。地床炉は4か所確認された。周溝も部分的ながら2条検出したことから、2回以上の増床改築がなされたものとみられる。また、北側と東側の壁には段差がみられ、さらに一段階古い住居 (H-71③) を壊して構築したものとみられる。旧主柱穴も4本 (HP 3・13・29・33) とみられる。

付属遺構 HF: 4か所確認した。

HF 1は、燃焼残渣層に焼土ブロックが混じるもので、その周囲に僅かに焼土が残されていた。

HF 2・3は、床面に形成された焼土。

HF 4は、炭層と焼土があり、その下位の窪みに焼土の再堆積層を確認した。

HP: 34基をHPとした。HP 21・22は先端ビットで、HP 21にはHP 24・26という一対の小穴が確認された。入り口構造に起因するものとみられる。HP 27・31も状況から、古い先端ビットとみられる。覆土には燃焼残渣が多く含まれていた。HP 1・2・12・14は主柱穴とみられる。HP 14には2本同規模の柱穴がみられ、改築に伴うものと考えられる。HP 3・13は同規模で、HP 29・33とともに主柱穴を構成した可能性がある。

周溝: 北辺に部分的に2条確認した。また、西側では柱穴列を確認した。

遺物出土状況 覆土上層から個体土器が潰れた状態で複数出土した。互層堆積のうち黒褐色系土に含まれていた。

時期 出土遺物 (榎林式) と住居形態から縄文時代中期後葉である。覆土下部出土炭化材の年代測定結果は、4205 ± 20yrBP (PLD-44909) で、整合的である。 (福井)

H-72 (図V-166、表V-1)

位置 C 10 立地 標高19.2m付近の平坦地

平面形 隅丸長方形 (I類) 長軸方向 東北東西南西 規模 (2.3) × 2.1/1.9 × 0.2m

確認・調査 H-12・19調査完了後、床面で他の遺構覆土を確認した。ほかにもフラスコ状土坑が確認され、規模から土坑を想定して半載、土層断面記録後掘り下げた。その後、床面で埋焼炉を確認したため、住居と認定した。

覆 土 覆土下層相当の堆積を確認し、段丘砂礫層ブロックによる偽磔を多く含んでいた。
形 態 埋甕炉をもった隅丸方形住居。主柱穴は確認できなかった。壁の立ち上がりは、明瞭で、段丘砂層を20cm以上掘りこんでいる。ただ、床面が傾斜していた。H-19による掘り込みの影響かもしれない。

付 属 遺 構 埋甕炉：焼土は確認できなかった。覆土からオニグルミ核片4点がフローテーション選別によって得られた。

HP：5基をHPとした。ただ、主柱穴とみられるものは確認できなかった。

時 期 埋甕（榎林式）から縄文時代中期後葉である。（福井）

H-73（図V-166、表V-1）

位 置 B・6・7 **立 地** 標高196m付近の平坦地

平面形 ゆがんだ楕円形（I類） **長軸方向** 南西北東？ **規 模** 23/21×(1.1)×0.2m

確認・調査 H-58調査終了後、東側に他の遺構覆土が残されていることを認識した。H-61 H F 1とともに断面観察可能な状態まで掘り下げた結果、別な住居の存在を認識した。

覆 土 覆土下層が認識され、ロームブロックによる偽磔を含んでいた。

形 態 先端ピットが確認されるが、形態が歪んでおり、卵形を呈したのか、隅丸方形に近かったのか、判断しにくい。小型であるためとみられるが、過渡的であるのかもしれない。

付 属 遺 構 HP：3基をHPとした。HP 1は明瞭に掘りこまれたものであるが、当住居に関連あるかは不明。HP 3は先端ピットとみられ、内部に一对の小穴が確認された。入り口構造に起因するものとみられる。

時 期 H-73（大安在B式）に切られ、住居形態も類似することから縄文時代中期後葉・榎林式である。（福井）

H-75（図V-167、表V-1）

位 置 B・C 8・9 **立 地** 標高192m付近の平坦地

平面形 隅丸方形か（I類） **長軸方向** 南東北西 **規 模** (2.5)×2.5/21×0.2m

確認・調査 H-18調査終了後、他の遺構覆土が残されていることが認識された。サブトレンチで確認した結果、別な住居の存在を認識した。

覆 土 覆土下層が認識され、ロームブロックによる偽磔を含んでいた。

形 態 H-18・64・71・77と重複したため、部分的な検出であるが、隅丸方形の可能性が高い。床面レベルも浅いので、比較的古い住居とみられる。

付 属 遺 構 HP：1基をHPとした。HP 1は明瞭に掘りこまれたものであるが、当住居に関連あるかは不明。あるいは、H-18 HP 17とセットになる可能性もある。

時 期 出土遺物（見晴町）と住居形態から縄文時代中期中葉である。（福井）

H-77（図V-168、表V-1）

位 置 C 8・9 **立 地** 標高191m付近の平坦地

平面形 不明 **長軸方向** 南東北西 **規 模** (2.2)×(3.2)×0.2m

確認・調査 H-67・71調査終了後、「落ち込み」が残されていることを認識した。サブトレンチで確認した結果、別の住居の存在を認識した。

覆 土 ぶい褐色の覆土で、ロームブロックによる偽礫を少量含んでいた。

形 態 H-71・85と重複したため、部分的な検出であるが、隅丸方形の可能性が高い。H-3・67と床面レベルに近い。

付属遺構 HP:1基をHPとした。ほかに、H-71HP29・30としたものも、この住居のHPの可能性はある。

時 期 H-67(榎林式)より古いことから縄文時代前期後葉～中期中葉か。(福井)

H-80 (図V-169、表V-1)

位 置 B13・14 **立 地** 標高20.5m付近の平坦地

平面形 不明 **長軸方向** 不明 **規 模** $-/-\times-/-\times 0.263\text{m}$

確認・調査 B13・14区の盛土遺構の調査を終了し清掃したところ、H-4に切られた焼土を検出した。周辺を精査したところやや締まった床面と調査区北側壁面に住居の壁の立ち上がりを確認した。そのため、焼土を地床炉(HF1)とした竪穴住居跡として調査を進めることとした。南側はH-4、西側はH-54、上面はH-68に切られている。

覆 土 覆土は、6層に分層できた。覆土1～4層は自然堆積、覆土5・6層は貼床である。覆土1～4層は褐色土で微量の炭化物が含まれる。

形 態 調査の過程で上端・下端を検出できなかったため、形状は不明である。地床炉(HF1)が1か所確認されている。

付属遺構 HF:1か所を検出した。HF1は地床炉である。形状は不定形、長さ0.84m、幅0.32mである。南西側はH-4、東側はP-105に削平されている。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時 期 H-4(煉瓦台式)やP-105(榎林式)に切られていることや住居形態から縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

H-81 欠番 (H-49参照)

H-82 欠番 (H-49参照)

H-87 (図V-170、表V-1)

位 置 B・C18・19 **立 地** 標高20.5m付近

平面形 楕円形? **長軸方向** 東西 **規 模** $(2.00)/-(3.52)\times(1.88)/-(3.20)\times 0.557\text{m}$

確認・調査 H-5を調査中、南北セクションで地床炉を検出した。H-5の炉跡は確認できていたことから、周囲を精査したところ、H-5の周溝と異なる周溝を検出した。当初H-5南側壁面と考えていた部分がH-87壁面であることを確認し、竪穴住居跡であることを確認した。北東側をH-5、北西側をH-26に削平されている。残存部分の状況から、床面東側に地床炉、周溝のある楕円形の竪穴住居跡であると考えられる。

覆 土 覆土は、1層である。埋め戻しと考えられる。

形 態 床面中央東側に地床炉のある、楕円形の住居跡と考えられる。

付属遺構 HF:1か所を検出した。HF1は床面中央東側にある地床炉である。形状は楕円形、長さ0.72m、幅0.44mである。上部はCライントレンチによって一部削平されている。

HP: 1か所を検出した。柱穴と考えられる。

遺物出土状況 床面からすり石と礫が出土している。覆土からは遺物は出土していない。

時期 H-26 (煉瓦台式)、H-5 (ノダップⅡ式) に切られていることから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

H-91・99 (図V-171～173、表V-1)

位置 E・F 11・12 立地 標高19.8m付近の平坦地

平面形 楕円形 (X類) 長軸方向 東西 規模 5.8/5.3×5.4/5.2×0.4m

確認・調査 平成29年度に表土除去後メイントレンチを掘削した結果、床面と地床炉を検出した。平成30年度、その範囲を確認するためF 11・12グリッドを掘り下げたところ、石囲炉を確認した。当初は、H-91とH-99の2軒重複と考えていたが、整理の結果、建て替えある1軒と判断された。

覆土 覆土は、自然堆積層、覆土、下位層に区分可能であった。自然堆積層には、上部から胸ヶ岳dテフラ、白頭山テフラの堆積が認められた。白頭山テフラの上位は黒色土・黒褐色土が堆積したが、下位は褐色土が堆積していた。覆土は、ローム質土主体で、ロームブロックを多く含むものであった。下位層は、H-17覆土である。

形態 石囲炉をもった楕円形住居。明瞭な柱穴は確認されなかった。壁の立ち上がりも明瞭でなかった。石囲炉に隣接して焼土が検出されたため、1回程度建て替えされたとみられる。

付属遺構 HF: 2か所確認された。

HF 1は、円形とみられる石囲炉で、長さ0.9m。石囲は抜き取られていた部分も多いが、小型の円礫が連続して8点配されている状況を確認した。いずれも小型の礫で、数cmの間隔をあけており、長手面を上にした礫が2点隣接したほかは、小口面を上に向けていた。礫質は、安山岩、砂岩、粘板岩、頁岩。焼土はやや厚く、上位に炭層も残っていた。なお、三角形石製品が被熱した状態で炭層に伴った。

HF 2は、焼土のみ確認されたもので、HF 1と隣接していた。当初はF-8として調査した。

HP: 22基をHPとしたが、この住居に伴うものというよりは、東に隣接したエリアに存在したであろう住居のものとみられる。

遺物出土状況 覆土下層から土器片が散在的に出土している。見晴町式と大安在B式がある。

時期 出土遺物 (大安在B式) と住居形態から縄文時代中期後葉である。覆土下部出土炭化材の年代測定結果は、4120±20yrBP (PLD-44911) で、整合的である。(福井)

H-92・120 (図V-174～183、表V-1)

位置 F・G 10・11 立地 標高19.3～19.5m付近の平坦地

平面形 ①隅丸方形? (I類?)、②隅丸方形? (I類?) 長軸方向 南東北西

規模 (4.5)/(4.2)×(4.3)/(4.1)×0.7m

確認・調査 平成30年度黒色土の広がり認められるG 10区について、メインベルトを残しながら掘り下げたところ「落ち込み」を検出した。その後覆土を掘り下げた結果、床面中央にさらに「落ち込み」が確認された。中途の床面に柱穴も確認したことから、入れ子状に重複した住居と認識されたが、調査時はベンチ状構造のある住居が最も古いものという認識で調査を進めた。令和元年度は、床面中央の落ち込みの調査を進めた。結果、一段深い床面から埋差炉を検出した。そのため、小さく古い住居を壊して、新しい住居を構築した結果、ベンチ状に見える入れ子状の重複になったものと理解

した。

覆 土 覆土は、自然堆積層、覆土上層、覆土下層、覆土下位層に区分可能であった。自然堆積層には、白頭山テフラの堆積が認められた。白頭山テフラの上位は黒色土・褐色・灰褐色・黒褐色土が堆積し、下位は粘土質のにおい褐色土が堆積していた。H-92・120①覆土上層は、互層的堆積で、遺物を多く含むものであった。H-92・120①覆土下層は、におい褐色土で、段丘砂礫層由来ブロックの偽礫を多く含み、屋根土由来とみられた。下位層は、H-92・120②覆土で、互層的堆積であった。Ⅱ層、風倒木痕堆積物、覆土のプラントオパール分析を行った結果、覆土に比べ、Ⅱ層と風倒木痕堆積物暗褐色土でササ属型、キビ族、ネザサ節型が多く認められた。これは遺跡形成時削平などにより下草も生えない状況であったものが、放棄後に笹原に遷移した状況を示すと考えられる。このような状況は、B-Tm降下後まで続くが、その後ササ属型とネザサ節型は、上位層に向かって減少傾向を示し、代わってキビ族とウシクサ族が増加傾向を示している。つまり、イヌビエやススキなどが増加した可能性が推測される。

形 態 Ⅰ：埋堑炉をもった住居、Ⅱ：地床炉をもった住居、Ⅲ：石囲炉をもった住居の順で重複している。Ⅰ段階の床は中央で一段深くなっている部分（H-92・120②）で、Ⅱ・Ⅲ段階の床は、Ⅰを埋めて貼り床して構築されている（H-92・120①）。主柱穴は4本柱となるようで、3組に分離可能である。壁の立ち上がりは、H-92・120①・②とも明瞭。最大で段丘砂礫層などを60cm以上掘りこんでいる。

付属遺構 HF：7が所確認した。

HF 1は、Ⅰ段階の地床炉。上下に焼土が重複しており、中位に炭混じりの灰褐色層を挟む。

HF 2は、Ⅱ段階の焼土か。6は二次堆積の異地性焼土、7が現地性焼土。

HF 3は、Ⅲ段階の石囲炉。半分以下の範囲を確認し、残りは調査区外。上下に焼土が重複しており、各焼土の上位に炭層が堆積した。礫質は、チャートと頁岩。いずれも小口を上に向けていた。形状は円形の可能性が高い。

HF 4は、Ⅱ段階の地床炉。HF 1より下位にあり、上位を貼床が覆うため、古いとみられる。焼土は段丘砂礫層まで被熱している。その上位を炭層が覆う。

HF 5は、Ⅱ段階の焼土。貼床が被熱している。

HF 6は、より古い段階の焼土の可能性が高い。H-92・120より古い、H-11より古く、H-121に伴うか、それより古い可能性がある。

HF 7は、Ⅰ段階の埋堑炉。底部まで残す深鉢が埋設されていた。土器内部には、下部に炭主体層、中部に暗褐色土層、上部に薄い炭層と焼土ブロック混じり層のセットが二重に堆積していた。埋設された土器内部には上部と下部に黒色の使用痕跡が残されていた。下部は胴中部～底部付近まで残るので、埋設以前の煮炊きによって残されたコゲと認識された。一方、上部は上端部に幅狭く残る黒色部で、炉として機能した際に付着した煤と認識された。堆積との対応では、上部炭層に対応しており、被熱面上の薪から供給された煤が、地面と接する土器壁に冷やされて付着したものと推測される。

HP：51基をHPとした。H-92 HP 1・2は、H-92・120①床面で検出されたため、Ⅱ・Ⅲ段階の主柱穴とみられる。これに対応するものとしては、H-120 HP 39・47が挙げられる。これらの4本セットの周囲にはH-120 HP 1・2・13・16・22・23・24と主柱穴クラスがあり、位置関係からHF 4の主柱穴と推測される。また、H-120 HP 42～45は、Ⅰ段階の先端ビットに関係するものとみられる。なお、H-120 HP 17・18はⅡ・Ⅲ段階床面上位より掘り込みが確認されたため、H-121のHPであるとみられる。ほかに、H-120 HP 29・30付近や、H-120 HP 26・42付近に柱穴

が集中したが、プランとして把握できなかった住居跡に伴うものと考えられる。

遺物出土状況 自然堆積層直下の覆土上層上部(土層1・2)から破片状態の土器や礫が多く出土した。覆土上層の下部(土層12)では潰れた個体状態の土器が複数検出された。また、小型土器や大型石棒も含まれた。下位層からは目立った遺物は認められなかった。覆土土壌をフローテーション選別したところ、サケ属椎骨片18点が検出された。

時期 H-92・120①は出土遺物(大安在B式)と住居形態から縄文時代中期後葉である。H-92・120②は出土遺物(榎林式)と住居形態から縄文時代中期後葉である。H-92①覆土下部出土炭化材の年代測定結果は、 $4150 \pm 20\text{yrBP}$ (PLD-44912)とやや古い。(福井)

H-96 (図V-184~185、表V-1)

位置 D10・11 **立地** 標高198m付近の平坦地

平面形 楕円形(X類) **長軸方向** 東西? **規模** (2.7)×(4.1)×0.3m

確認・調査 平成30年度黒色土の広がりを確認したD11グリッドについて、ベルトを残しながら掘り下げていったところ、自然堆積層のはは直下より石囲炉の礫上面を検出した。サブベルトを残しながら石囲炉の被熱面まで掘り下げた。掘り込みが極めて浅く、範囲は不明瞭であったが、覆土上位の自然堆積層の堆積状況などからおおよその範囲を判断した。

覆土 覆土は、自然堆積層、覆土に区分可能であった。自然堆積層には白頭山テフラの堆積が認められた。白頭山テフラの上位は黒色土・褐色土・黒褐色土が堆積し、下位は粘土質のにぶい褐色土が堆積した。覆土は黒褐色～暗褐色土で、部分的に遺物を多く含むものであった。

形態 石囲炉をもつ住居。柱穴は確認できなかった。壁の立ち上がりは、全体に不明瞭であったが、北東側では明瞭であった。最大でローム層などを30cm以上掘りこんでいる。

付属遺構 HF:1か所確認した。

HF1は、石囲炉。東側の礫は抜かれていた。礫質は、安山岩を主とし、ほかに青色砂岩、頁岩、赤色珪化岩を使用。西～南側辺は、小口と長手を交互に上へ向けていた。北は長手を上に向けていた。形状は円形の可能性が高い。

遺物出土状況 覆土から散乱状態で遺物が出土した。西側で個体状態に近いものが数点含まれた。

時期 ノダップⅡ式期のH-100Aの上位に位置する。出土遺物は大安在B式を主としたがこの住居以前の可能性もある。住居形態からは縄文時代後期初頭とみられる。(福井)

H-97 (図V-186~187、表V-1)

位置 A・B9~11 **立地** 標高196m付近の平坦地

平面形 不明 **規模** (7.6)×(1.6)×0.4m

確認・調査 平成29年度H-1調査後、住居外北側を掘り下げていったところ多数の柱穴を確認したため、H-97と命名した。一部で、段丘砂礫層を掘りこんだような部分が認められたが、調査区境界断面で観察しても不明瞭であった。

覆土 覆土は、自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。自然堆積層には、耕作によって攪乱された層のみであった。覆土上層は、にぶい黄褐色土主体で、盛土層の堆積。現地性の焼土(土層15)もみられた。また、西側ではさらに深い落ち込み状に堆積していた。覆土下層は、汚れたローム層を特徴とするもので、調査時は、なかなか理解に苦しんだ部分であった。覆土の可能性もあるが、盛土層の可能性も捨てきれない。

形 態 覆土上層下位に焼土が認められる部分と、西側のそれより深い掘り込みで、貼床面が認められる部分の2軒の住居が重複した可能性もあるが、それ以上は不明。

付属遺構 HF：覆土上層下位で1か所確認した。地床炉の可能性もある。

HP：28基をHPとした。覆土に多様性がみられるため、複数の時期のものを一緒に認識してしまったと考えている。ただ、平成29年度調査時は、柱穴の断面記載を諦めて調査を進めていたため、記録できていない。

時 期 切りあい関係から縄文時代中期後葉か。(福井)

H-100 A (図V-188~190、表V-1)

位 置 C・D10・11 **立 地** 標高19.6m付近の平坦地

平面形 卵形(Ⅱ類) **長軸方向** 東北東西南西 **規 模** 4.1/3.9×3.2/3.1×0.3m

確認・調査 平成29年度はC11グリッドH-19壁面において「落ち込み」が確認され、P-162と命名した。平成30年度、D11グリッドを掘り下げる過程で、大きな「落ち込み」を確認し、隣接して複数の住居の重複が想定されたため、ベルトを残しながら「落ち込み」毎に番号を付して掘り下げた。H-96調査後、さらに下位に「落ち込み」を確認した。結果、H-100は2軒に分けられたので、AとBとした。P-162はH-100Aの一角であったので、欠番とした。

覆 土 覆土は、ロームブロックを多く含む褐色土層で、覆土下層に相当する。

形 態 石囲炉、先端ビットを持つ卵形住居。主柱穴は4本とみられる。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層などを40cm以上掘りこんでいる。先端ビット、炉の状況から1回改築されたとみられる。

付属遺構 HF：1か所確認した。方形の石囲炉で、礫質は安山岩を主とする。西側の南側2点が砂岩系、東側の南角がチャートを利用し、南側の礫は抜き取られていた。石囲の外側にも焼土がみられたことから、移設されたとみられる。

HP：6基をHPとした。HP1~4が主柱穴とみられる。HP5・7は先端ビットで、いずれも内部に一对の小ビットが認められ、入り口構造に伴うものとみられる。

遺物出土状況 覆土中に潰れた状態の個体土器が複数含まれた。また、先端ビット(HP1)を覆うように敷かれた土器片が検出された。一見個体土器が潰れたようにみえたが、意図的に割って、様々な向きに敷き詰めてあった(図V-190)。

時 期 出土遺物(ノダツブⅡ式)と住居形態から縄文時代中期後葉である。覆土出土クルミの年代測定結果は、4150±20yrBP(PLD-44913)とやや古いか。(福井)

H-100 B (図V-191~192、表V-1)

位 置 D11 **立 地** 標高19.6m付近の平坦地

平面形 楕円形(Ⅹ類) **長軸方向** 南東北西 **規 模** (3.4)×3.9/3.65×0.2m

確認・調査 平成30年度、D11グリッドを掘り下げる過程で、大きな「落ち込み」を確認したが、隣接して複数の住居の重複が想定されたため、ベルトを残しながら「落ち込み」毎に番号を付して掘り下げた。結果、H-100は2軒に明瞭に分けられたので、AとBとした。ただし、隣接するH-110Aとの境界は不明瞭で、分別できなかった。

覆 土 覆土は、ロームブロックを多く含む褐色土層で、覆土下層に相当する。

形 態 不明瞭ながら楕円形とみられる。主柱穴は1本とみられる。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層などを10cm以上掘りこんでいる。H-100A、110Aに壊されている。

付属遺構 HP:5基をHPとした。主柱穴クラスはHP4・5で、HP4は周囲を粘土で根固めされていた。より古いP-366覆土にあたり、周囲が軟質土壌だったためとみられる。

遺物出土状況 覆土から三角形石製品や土器が散在する程度であった。

時期 H-100Aに切られる。また住居形態から縄文時代中期後葉である。大安在B式か。
(福井)

H-109 (図V-193、表V-1)

位置 E11・12 **立地** 標高19.7m付近の平坦地

平面形 楕円形(X類) **長軸方向** 南東北西 **規模** 3.1/2.85×2.5/2.4×0.2m

確認・調査 平成30年度、E11・12グリッドを掘り下げる過程で、大きな「落ち込み」を確認したが、隣接して複数の住居の重複が想定されたため、ベルトを残しながら「落ち込み」毎に番号を付して掘り下げた。

覆土 覆土は、褐色～にぶい褐色土層主体。壁際にロームブロックや段丘砂礫層ブロックを多く含む土層が見られた。

形態 楕円形。炉は検出できなかった。柱穴は、4本確認したが、2本セットとすると建て替えたのかもしれない。壁の立ち上がりはやや明瞭。周溝の部分的なものがあつた。

付属遺構 HP:5基をHPとしたが、1基は壁外のもので、関係がないかもしれない。HP1~4は同規模で、主柱穴を構成するものと推測される。

遺物出土状況 古式?な青瓦刀形石器が床面壁際から出土した。土器は半完形状態のものが2点あつた。

時期 出土遺物(ノダツブⅡ式)から縄文時代中期後葉である。
(福井)

H-110A (図V-194~195、表V-1)

位置 D・E11 **立地** 標高19.6m付近の平坦地

平面形 隅丸方形(I類) **長軸方向** 南北 **規模** (3.3)×(3.7)×0.2m

確認・調査 平成30年度、D11グリッドを掘り下げる過程で、大きな「落ち込み」を確認したが、隣接して複数の住居の重複が想定されたため、ベルトを残しながら「落ち込み」毎に番号を付して掘り下げた。結果、H-110は上下2軒に明瞭に分けられたので、AとBとした。ただし、隣接するH-100Bとの境界は不明瞭で、分別できなかった。

覆土 覆土は覆土上層と覆土下層に区分可能であった。覆土上層は上部が褐色土、下部が黒褐色土であった。覆土下層はロームブロックを多く含む橙色土層で、屋根土由来とみられる。

形態 不明瞭ながら隅丸方形とみられる。地床炉と先端ビットは確認したが、明確な柱穴は検出されず、壁の立ち上がりもやや不明瞭。地床炉と先端ビットを結ぶラインの北東側で窪みが確認されたが、その下位でP-368を検出した。H-109・112・118に壊されている。

付属遺構 HF:1か所確認した。

HP:1基をHPとした。先端ビットで、内部に小穴を一对検出し、入り口構造に伴うものと推測される。

遺物出土状況 H-112との境界付近の覆土上層に土器が集中していた。個体が潰れたというより、大型の破片がまとまった出土状態であった。床面からは大型石棒も検出した。

時期 出土遺物(大安在B式)から縄文時代中期後葉である。
(福井)

H-110B (図V-196~197、表V-1)

位置 D・E11 立地 標高19.3m付近の平坦地

平面形 楕円形(X類) 長軸方向 南北 規模 3.3/3.1×3.6/3.4×0.2m

確認・調査 平成30年度、D11グリッドを掘り下げる過程で、大きな「落ち込み」を確認したが、隣接して複数の住居の重複が想定されたため、ベルトを残しながら「落ち込み」毎に番号を付して掘り下げた。結果、H-110は上下2軒に明瞭に分けられたので、AとBとした。

覆土 覆土は、覆土上層と覆土下層に区分可能であった。覆土上層は、褐色土であった。覆土下層はロームブロックを多く含むにぶい黄褐色土層で、屋根土由来とみられる。

形態 不明瞭ながら隅丸方形とみられる。地床炉と先端ビットは確認されたが、明確な柱穴は検出されなかった。壁の立ち上がりもやや明瞭。床面中央下位に古い土坑P-369が確認された。なお、周溝が部分的に二重となっていることから、この大きさであっても拡張改築されたものとみられる。

付属遺構 HF:1が所確認された。なお、P-369焼土としたものも、覆土中にみとめられたものであるため、H-110Bに関連した可能性もある。

HP:10基をHPとした。HP1は先端ビットとみられる。ほかに、周溝に沿うように小穴が多数確認された。

周溝:部分的に3条確認した。また、西側では小柱穴列を確認した。

時期 H-110A(大安在B式)に切られることから縄文時代中期後葉である。大安在B式か。覆土下部出土クリの年代測定結果は、 $4610 \pm 20\text{yrBP}$ (PLD-44914) とかなり古いので、P-369由来かも知れない。(福井)

H-112 (図V-198~199、表V-1)

位置 D・E10・11 立地 標高19.5m付近の平坦地

平面形 隅丸方形(I類) 長軸方向 北東南西か 規模 (3.5)×(3.1)×0.3m

確認・調査 平成30年度、E10・11グリッドを掘り下げる過程で、大きな「落ち込み」を確認したが、隣接して複数の住居の重複が想定されたため、ベルトを残しながら「落ち込み」毎に番号を付して掘り下げた。

覆土 覆土は、覆土上層と覆土下層に区分可能であった。覆土上層は、上部が黄色系の褐色土、下部が暗色系の灰褐色土であった。覆土下層は黄色系のロームブロックを含むにぶい褐色土層。さらに壁際のいわゆる三角堆積として、暗色系のにぶい褐色土や褐色土が認められた。

形態 不明瞭ながら隅丸方形とみられる。地床炉があったが、この住居に伴うものか判然としない。主柱穴は不明瞭。壁の立ち上がりはやや明瞭。南側で窪みが確認されたが、その下位に土坑P-394が存在した影響とみられる。H-110A・110B・116より新しい。

付属遺構 HF:1が所確認された。HP1より新しい可能性がある。

HP:9基をHPとした。HP5~9はH-116の周溝に伴う可能性もある。

遺物出土状況 覆土上面近くにやや多く、破片状態の土器などが散在していた。

時期 出土遺物(大安在B式)から縄文時代中期後葉である。(福井)

H-115 (図V-200、表V-1)

位置 E9・10 立地 標高19.5m付近の平坦地

平面形 不明 規模 (4.4)×(0.8)×0.5m

確認・調査 平成30年度、H-2の調査過程で、壁面に大きな落ち込みを確認したため、ベルトを残しながら掘り下げた。

覆 土 覆土は、覆土上層と覆土下層に区分可能であった。覆土上層は、上部が自然堆積の黒色土、下部が暗色系のぶい褐色土であった。覆土下層は黄色系のロームブロック・段丘砂礫層ブロックを含むぶい褐色土層。

形 態 部分的な確認のため不明である。ただ、掘り込みは明瞭なため、榎林式期の可能性が高いとみられる。H-2より古く、H-116より新しい。

付属遺構 HP：認められなかったが、断面を切った部分が窪んでおり、先端ビットであった可能性も否定はできない。

時 期 切りあい関係から縄文時代中期後葉か。(福井)

H-116 (図V-201~202、表V-1)

位 置 D・E 10・11 **立 地** 標高19.5m付近の平坦地

平面形 隅丸方形 (I類) **長軸方向** 北東南西 **規 模** (4.0)/(3.7)×(3.1)/(3.3)×0.45m

確認・調査 平成30年度、E 10・11 グリッドを掘り下げる過程で、大きな「落ち込み」を確認したが、隣接して複数の住居の重複が想定されたため、ベルトを残しながら「落ち込み」毎に番号を付して掘り下げた。

覆 土 覆土は、覆土上層相当を確認した。覆土上層相当は、中部にⅦ層由来礫を多く含み、ほかの住居掘削時の掘り上げ土により埋められたものと考えられる。それより上部と下部はローム層主体による埋め土であろう。

形 態 先端ビット、埋壺炉を持った隅丸方形住居。主柱穴は2~3本。壁の立ち上がりは明瞭で、ローム層・段丘砂礫層を45cm程度掘り込んでいる。

付属遺構 HF：中央で確認した。埋壺炉。埋壺上部に炭層が堆積し、焼土層が形成されていた。また隣接して炭層と焼土層もみられた。

HP：10基をHPとした。HP 7は先端ビットとみられる。先端ビットにはさらに一対の小柱穴が伴っており、出入り口構造によるものとみられる。HP 1・6が主柱穴とみられるが、位置的にHP 5と組みあって三本柱主柱穴もありうる。H-112 HP 5~9はH-116の周溝の伴う可能性もある。

遺物出土状況 覆土中位から円環状石製品が出土した。

時 期 出土遺物(榎林式)と住居形態から縄文時代中期後葉である。(福井)

H-118 (欠番)

H-119 (欠番)

H-121 (図V-203~205、表V-1)

位 置 F・G 9・10 **立 地** 標高19.8m付近の平坦地

平面形 隅丸方形 (I類) **長軸方向** 北東南西 **規 模** (4.0)×5.3/5.2×0.3m

確認・調査 平成29年度、メイントレンチでH-9・11に挟まれて残ろうじて残る床面を確認した。令和元年度、H-9の調査の進展を待って、その周囲を掘り下げた。

覆 土 覆土は、黄色系でぶい褐色土~褐色土が堆積していた。偽礫は含まれなかったため、

埋め土を主体とすると考えられる。

形 態 不明瞭ながら隅丸方形とみられる。主柱穴は4本とみられ、HP4のほか、H-11 HP5、H-9 HP4・20が対応するとみられる。HP6・7は先端ビットであろうか。壁の立ち上がりはやや明瞭。H-9・11・120より古い。

付属遺構 HP：13基をHPとした。HP4・7・10は主柱穴クラスである。対応関係は、HP4にH-11 HP5、H-9 HP4・20が対応するとみられる。

周溝：部分的に2条を確認した。

時 期 不明ながら、見晴町式期のH-11に切られることと、住居形態から縄文時代中期中葉か。
(福井)

H-122 (図V-206、表V-1)

位 置 B10 **立 地** 標高19.3m付近の平坦地

平面形 隅丸方形 (I類) **長軸方向** 東西 **規 模** 2.3/2.2×2.1/1.9×0.2m

確認・調査 平成29年度、H-1調査終了後床面で「落ち込み」が複数確認した。同年度いくつか調査したところ、いずれもフラスコ状土坑であった。平成30年度、H-122に相当する「落ち込み」の調査を行ったが、当初はその大きさから土坑と認識していた。完掘後、底面を精査したところ、周溝、柱穴を確認したため、住居と認識することとなった。

覆 土 覆土は、黄色系で橙色土が堆積していた。偽礫は含まれなかったため、埋め土を主体とすると考えられる。

形 態 不明瞭ながら隅丸方形とみられる。HP1としたものが炉跡で、埋甕を抜き取った跡かかもしれない。柱穴はH-1床面で確認されたものに紛れて不明瞭であった。HP5は先端ビットであろうか。壁の立ち上がりは明瞭。H-1より古い。

付属遺構 HP：5基をHPとした。いずれも不明瞭である。

周溝：部分的に途切れるものの1条を確認した。

時 期 不明ながら、煉瓦台式期のH-1に切られることと、住居形態から縄文時代中期か。
(福井)

H-124 (図V-207～208、表V-1)

位 置 F9 **立 地** 標高19.0m付近の平坦地

平面形 不明 **長軸方向** 南東北西か **規 模** (3.0)×(1.8)×0.3m

確認・調査 平成29年度、メイントレンチでH-9に削平されるものの、かろうじて残る床面を確認した。平成30年度、H-11の調査とともに、掘り下げた。令和元年度は床面の精査を行った。

覆 土 覆土は、黄色系でにぶい褐色土～褐色土が堆積していた。偽礫は含まれなかったため、埋め土を主体とすると考えられる。

形 態 不明瞭ながら隅丸方形とみられる。柱穴は確認できなかった。壁の立ち上がりは明瞭。周溝も確認した。H-9より古い。

付属遺構 周溝：部分的に1条を確認した。

時 期 不明ながら榎林式期のH-9に切られることから縄文時代中期か。
(福井)

H-126 (図V-209、表V-1)

位置 D9 立地 標高19.2m付近の平坦地

平面形 不明 規模 (0.5) × (0.2) × 0.3m

確認・調査 令和元年度、H-10・117の完掘後、H-2・71との間に段丘砂礫層部分が島状に残った。その前段階で、断面を記録していたため、かろうじて残った立ち上がり部分をH-126と認識することにした。

覆土 覆土は、上部が暗色系の暗褐色土、下部は黄色系のにぶい褐色土層であった。

形態 全体に不明確。

付属遺構 確認されなかった。

時期 不明ながら複林式期のH-10・85・117を切ることから縄文時代中期後葉か。(福井)

H-127 (図V-210~211、表V-1)

位置 F・G9 立地 標高19.8m付近の斜面際

平面形 不明 規模 (5.7) × (3.8) × (0) m

確認・調査 令和元年度、H-9・11・121・124に隣接する斜面際部分を精査したところ、かろうじて残る床面に炉跡と柱穴を確認した。

覆土 覆土は僅かに残っていた程度、黄色系でにぶい褐色土が堆積していた。偽礫を含んだため、屋根土由来の可能性はある。

形態 西側は斜面のため崩落しており、東側はH-9・11・121・124に削平されるため、広がりや形態などは全く不明である。H-9・11・121・124より古いとみられる。

付属遺構 HF:1 1か所確認した。被熱した小礫集中、黄白色粘質土の貼り付けを確認した。焼土は黄白色粘質土の下位で確認した。周囲は貼り床されていた。なお、燃料材とみられる炭化材1点の樹種同定を行ったところ、ブナ属であった。

HP:11 基をHPとした。深いものが多かったが、HP3・6が位置的には主柱穴であったとみられる。

遺物出土状況 確認時は床面に達していたが、その上位を盛土層として掘削しており、その層準から潰れた個体土器が出土した。

時期 H-127上位の盛土層とした堆積から、中期中葉サイベツⅦ式の完形土器2点が出土しており、恐らくこれらが覆土中遺物と考えられるため、中期中葉である。(福井)

H-128 (図V-212、表V-1)

位置 G14・15 立地 標高20.0m付近の平坦地

平面形 不明(楕円形?) 長軸方向 東西? 規模 (4.12) × - / (3.00) × (2.46) / 0.579m

確認・調査 G14・15区の盛土の調査を終了し清掃したところ、調査区南壁際から石囲炉(HF1)を検出した。周囲の精査および調査区南壁面の断面に壁面の立ち上がりを検出したことから、堅穴住居跡であることを確認した。HF1の検出面まで調査が進んでいたことから、住居の上端は削平してしまい、下端については貼床および土質の硬化が見られた範囲を床面とした。

覆土 覆土は、4層に分層できた。覆土1~3層は自然堆積、覆土4層は貼床である。床面には炭化物の薄い層が確認できる。覆土1~3層は褐色土で微量の炭化物が含まれる。

形態 南側が調査範囲外のため形状は不明であるが、楕円形と考えられる堅穴住居跡である。石囲炉(HF1)を1か所確認している。

付属遺構 HF:1か所を検出した。HF1は、調査区南側壁面際から検出した石囲炉である。長軸0.8m、短軸0.6mの浅い楕円形の凹みの中央に、長軸が東西方向で長さ0.5m、幅0.45mの隅丸長方形に炉石が配置されている。炉石は10個の礫で構成され、北東角の1点が抜かれている。東西両辺は横長扁平礫の長辺を下にして縦置きし、南北両辺は扁平礫を横置きしている。四隅は礫を縦置きしている。

HP:1基を検出した。HP1は主柱穴と考えられる。メインセクションで確認している。

遺物出土状況 床面から大型の石皿片1点とチャートの大型扁平礫が出土している。覆土からはたたき石や礫が出土している。

時期 住居形態から縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

H-131 (図V-213～214、表V-1)

位置 G13・14 **立地** 標高196～198m付近の平坦地

平面形 不明(楕円形?) **長軸方向** 北東-南西 **規模** (292)/(272)×3.80/3.52×0.472m

確認・調査 G13・14区の盛土の調査を終了し清掃したところ、半円形の褐色土の広がりを確認した。南北方向に半載して調査を行った。壁面の立ち上がりや地床炉を検出したことから、竪穴住居跡であることを確認した。南側の約半分は調査範囲外のため調査を行っていない。大型のフラスコ状土坑であるP-329・341・483を切って、竪穴住居が作られている。床面から検出された炭化材を用いて放射性炭素年代測定を行い、 $4430 \pm 20\text{yrBP}$ の測定値を得ている。

覆土 覆土は、5層に分層できた。覆土1層は盛土遺構堆積物、覆土2層は自然堆積、覆土3～5層は貼床である。覆土2層は褐色土で微量の炭化物が含まれる。

形態 南半分が未調査だが、楕円形の竪穴住居跡と考えられる。地床炉(HF1)が床面中央のやや北側に1か所確認され、HF1の傍からHF2を検出している。主柱穴とみられるHPは壁際から5本(HP1～5)確認している。

付属遺構 HF:2か所を検出した。

HF1は、床面中央のやや北側にある地床炉である。形状は円形で長さ0.36m、幅0.32mである。周囲には炭化物の広がりが確認できる。5cmほど掘り窪めたところに炉を形成している。

HF2はHF1の北側傍から検出された不定形の焼土跡である。炭化物を多く含んでいることから、HF1から廃棄された焼土が置かれていたものの可能性がある。

HP:20基を検出した。HP1～5は主柱穴と考えられる。壁面近くに作られている。

遺物出土状況 床面から土器(見晴町式)、石鐏・扁平打製石器・凹み石・台石などの石器のほか、ミニチュアの北海道式石冠が出土している。覆土からは土器、石鐏・甕状石器・たたき石などの石器が出土している。

時期 出土遺物(見晴町式)と住居形態、放射性炭素年代測定の結果から縄文時代中期中葉と考えられる。(酒井)

H-135 (図V-215、表V-1)

位置 G14・15 **立地** 標高20.0m付近の平坦地

平面形 不明 **長軸方向** 不明 **規模** -/-×-/-×(0.388)m

確認・調査 G14・15区の盛土およびH-128の調査を終了し清掃したところ、半円形の褐色土の広がりを確認した。調査区南端部にわずかにかかる状況のため、メインセクションを調査区南壁面に設

定し調査を行った。壁面の立ち上がりや柱穴を検出したことから、竪穴住居跡であることを確認した。南側のほとんどは調査範囲外のため調査を行っていない。大型のフラスコ状土坑であるP-298・509を切って作られており、P-297には切られている。東側床面はP-509の覆土である。

覆 土 覆土は、2層に分層できた。2層とも自然堆積と考えられ、褐色土で覆土2層には微量の炭化物が含まれる。東側床面には炭化物の薄い層が確認できる。

形 態 南側のほとんどが未調査のため、形状は不明である。

付 属 遺 構 HP: 6基を検出した。HP1・5は主柱穴と考えられる。HP3・6は先端の尖った杭を打ち込んだ形跡と考えられる。

遺物出土状況 覆土から礫が出土している。

時 期 遺構の切り合いから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

H-136 (図V-216、表V-1)

位 置 F・G15 **立 地** 標高20.0m付近の平坦地

平面形 楕円形(Ⅱ類) **長軸方向** 南北 **規 模** 3.32/3.24×2.58/2.46×0.363m

確認・調査 F・G15区の盛土の調査を終了し清掃したところ、楕円形の褐色土の広がりを確認した。P-291・292などに切られていることから、先にこれらの遺構調査を行い、南北方向に半截して調査を行った。壁面の立ち上がりや地床跡を検出したことから、竪穴住居跡であることを確認した。覆土から検出された炭化材を用いて放射性炭素年代測定を行い、 $4,045 \pm 20\text{yrBP}$ の測定結果を得ている。出土土器からみるとやや新しい測定結果である。

覆 土 覆土は、6層に分層できた。覆土1～4層は自然堆積、覆土5・6層は貼床である。覆土1～4層は褐色土で微量の炭化物が含まれる。

形 態 先端ビットのある楕円形の竪穴住居跡である。地床跡(HF1)が床面中央のやや北側に1か所確認され、HF1の下に土坑(HP2)がある。南側床面の壁面近くに周溝とみられる溝跡が部分的に1条確認できる。

付 属 遺 構 HF: 1か所を検出した。HF1は、床面中央のやや北側にある地床跡である。形状は不定形で長さ0.6m、幅0.4mである。HP2の直上に作られている。

HP: 2基を検出した。柱穴と考えられるHPは確認できなかった。

HP1は先端ビットで、住居北側壁面に一對の小穴を確認した。入り口構造に起因するものとみられる。

HP2は、HF1の下から検出した。断面形から考えると柱穴跡と推測される。H-136の建て替え前の柱穴、もしくは未確認の住居跡の柱穴と考えられる。

周溝: 部分的ながら南側で1条を確認した。

遺物出土状況 覆土から土器(見晴町式)、スクレイパー・剥片などの石器が出土している。

時 期 縄文時代中期中葉の見晴町式土器が出土しているため、その時期とみられる。ただし、放射性炭素年代測定の結果からは縄文時代中期後葉とも考えられる。(酒井)

H-139 (図V-217～219、表V-1)

位 置 G11・12 **立 地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 不明 **長軸方向** 南東北西か **規 模** (3.0)×4.2/3.9×0.7m

確認・調査 令和元年度、G11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に

重複している可能性が高かったので、遺構が確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。結果、ブドウの房状の大きな広がりが見られた。この時点では、フラスコ状土坑が団子状に切り取ったものと想定し、P-406~408・417・423・427・428・429と番号を付し、トレンチで切りあひ関係の確認を行った。その結果、P-406~407・428とした部分は竪穴住居であることが確認された。

覆 土 覆土は、自然堆積層、覆土上層、覆土下層に区分可能であった。自然堆積層は、表土、B-Tm、褐色粘質土層が堆積していた。覆土上層は、主ににぶい褐色土からなる盛土層の堆積、暗褐色土とにぶい黄褐色土の互層からなる堆積に二分された。覆土上層上部には現地性の焼土も確認され、あるいは窪みを利用した住居であった可能性もあるが、明瞭ではなかった。覆土上層下部のにぶい黄褐色土は、ほぼローム土そのままにみえた。覆土下層は、段丘砂礫層ブロックを多く含んでおり、屋根土由来の可能性が高い。なお、B-B'断面のB'側には恐らく風倒木による攪乱が認められた。

形 態 南側が調査区外のため、広がりや形態などは全くの不明であるが楕円形の可能性が高い。

付属遺構 HP:10基をHPとした。HP 1~4の規模が大きく、深さもあり支柱穴とみられるが、どのような構成であったかは不明である。

遺物出土状況 覆土中に榎林式の半完形土器が出土した。

時 期 出土遺物（榎林式）から縄文時代中期後葉である。（福井）

H-142 (図V-220、表V-1)

位 置 F 10 **立 地** 標高19.5m付近の平坦地

平面形 不明 **規 模** (2.8)×(0.4)×0.1m

確認・調査 令和元年度、H-121の調査の過程で、認識した。

覆 土 覆土は、黄色系でにぶい褐色土~褐色土が堆積していた。偽礫は含まれなかったの、埋め土を主体とすると考えられる。

形 態 不明瞭ながら隅丸方形とみられる。壁の立ち上がりはやや明瞭。H-9・11・120・121より古い。

付属遺構 HP:1基をHPとした。

時 期 不明ながら見晴町時期のH-11に切られるH-121の床面レベルが同一であるため縄文時代中期中葉か。（福井）

H-143 (図V-221~222、表V-1)

位 置 F 9 **立 地** 標高19.3m付近の平坦地

平面形 不明 **規 模** (1.4)×(2.4)×0.2m

確認・調査 平成29年度、メイントレンチでH-9に削平されるものの、かろうじて残る床面を確認していたが、認識できなかった。令和元年度、H-143調査後検出し、調査を行った。当初土坑と認識したためP-320と命名したが、埋燐炉と地床炉を検出したために住居跡とした。

覆 土 覆土は、黄色系でにぶい褐色土~褐色土が堆積していた。偽礫が含まれたので屋根土由来の可能性が高い。

形 態 部分的なため不明であるが、埋燐炉の存在と、状況から小型の隅丸方形住居とみられる。柱穴も確認できなかった。壁の立ち上がりは明瞭。周溝も確認した。H-9・117・124より古い。

付属遺構 HF:2か所確認した。一つは埋燐炉で、明瞭な焼土は残されていなかったが、埋設土器内部の覆土下部に焼土ブロックが認められた。掻き出されたのかも知れない。土器も少なくとも底

部は分離されて、胴部を埋設した後に、埋め込んだ状況を確認した。もう一つは地床炉とみられるが、灰層とみられるものの外側に土器片が集中していたことから、あるいは埋焼炉であった可能性もある。

周溝：部分的に1条を確認した。

遺物出土状況 榎林式土器が覆土から完形で出土している。

時期 出土遺物（榎林式）と住居形態から縄文時代中期後葉である。（福井）

4 フラスコ状土坑（図V-223～313、表V-2）

P-6（図V-223、表V-2）

位置 E12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規模** 2.36/2.16×2.23/2.08×0.34 m

特徴 初期に設定したメイントレンチにおいて確認した。構築面は削平されたとみられ、当初はソフトローム層中から構築されたものと推測される。土坑の上位は、暗褐色の盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を10cm前後掘りこんでいる。覆土は下部が遺物を多く含むおい褐色土、上部がロームブロックを多く含む褐色～明褐色土であった。下部には、多量の炭化クリを含んでいた。炭化クリは、果皮（鬼皮）はなく子葉（中身）のみであったことから、地下貯蔵していたものが炭化したのではなく、果皮を剥いて乾燥保存していたものを燃やして埋めたもの、納めたものと考えられる。また円筒土器下層d式土器片、扁平打製石器、台石なども出土した。

時期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。覆土出土クリの年代測定結果は、4625±20yrBP（PLD-44919）と整合的であった。（福井）

P-7（図V-224～225、表V-2）

位置 F・G12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規模** 2.10/2.30×2.10/2.08×1.05 m

特徴 初期に設定したメイントレンチにおいて確認した。構築面は削平されているとみられる。土坑の上位は、暗褐色（にぶい黄褐色）の盛土層に覆われており、直下から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を75cm前後掘りこんでいる。覆土は下部が山状堆積、上部がローム主体の土が大きなブロック状に積み重なるような堆積であった。下部の山状堆積は、ローム主体土を灰褐色土が覆う状況であった。重複状況から、P-448・451より新しい。断面からは、繰り返される重複の影響で南側の壁がずり落ちた状況が推測されるが、恐らく埋没後のものと考えられる。大きな原因は、覆土が雨水で締まることでできた空隙によるとみられる。

時期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-12（図V-226、表V-2）

位置 G15 **立地** 標高20.1m付近のⅢ層平坦面

平面形 不明（大型フラスコ状土坑） **規模** (1.66)/(1.90)×(0.38)/(0.46)×1.530 m

特徴 G15区の調査区南壁際から検出している。P-297調査中に東南側底面を切っている遺構を確認した。P-297の調査終了後精査したところ、調査区南壁際にわずかにかかる円弧状の褐色土の広がりを検出した。直上に立木があることから、気を付けつつ調査区南壁をセクション面として掘り進めた。オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。南

側のほとんどが調査範囲外にあることから、中央ピットの有無などは不明である。おそらく底面径が2mを超える大型のフラスコ状土坑と考えられる。断面図からは底面は平坦である。覆土は13層に分層した。流れ込み土と壁面の崩落土と考えられる。覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、剥片・礫が出土している。

時 期 出土遺物と構築面から縄文時代中期中葉と考えられる。（酒井）

P-14（図V-227、表V-2）

位 置 C15 **立 地** 標高20.1m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 1.76/2.16×1.50/1.92×0.672m

特 徴 Cライントレンチを調査中に、褐色土の広がりを確認した。トレンチ南壁をセクションとして半載したところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上部はP-20で削平されている。覆土は9層に分層した。埋め戻し土と考えられる。底面および底面直上の覆土9層から土器（円筒土器上層b式）・扁平打製石器・たたき石・剥片・礫、石棒が出土している。そのほかの覆土から土器（円筒土器上層a式・煉瓦台式）、石鏃・スクレイパーなどの石器や石棒、剥片・礫が出土している。

時 期 出土遺物や周囲の遺構の状況から、縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-18（図V-228、表V-2）

位 置 B15 **立 地** 標高20.7m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 1.88/2.04×1.90/2.00×0.938m

特 徴 B15区の調査中に褐色土の円形の広がりを検出した。トレンチを入れたのち半載して調査を進めたところ、平坦な底面に中央ピット（P1）とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上面は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。土層は23層に分けた。覆土2・4・6層は壁面崩落土、そのほかは埋め戻し土と考えられる。底面から土器（ノダツⅡ式）・礫、覆土から土器（ノダツⅡ式）、スクレイパー・Rフレイク・剥片・礫が出土している。

時 期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-26（図V-229、表V-2）

位 置 C13・14 **立 地** 標高20.2m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 2.38/1.98×(2.12)/(1.68)×0.762m

特 徴 H-25の調査中に北西角壁面に褐色土の広がりを検出した。調査工程の関係から平成29年度にH-25北側の調査終了後に切り合っているP-86・89との切り合い関係が判るよう半載して調査を進めたところ、H-25・P-89に切られ、P-86を切っていることが分かった。平坦な底面とその規模から、フラスコ状土坑であると考えられる。上面は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。土層は10層に分けた。埋め戻し土と考えられる。底面から石皿片・礫、覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、石鏃・スクレイパー・たたき石などの石器、剥片・礫のほか、三脚石器や線刻礫が出土している。また、H-25の壁面にあたる覆土7層から刃部突出型の石刀片が出土し、約40m離れたF21区出土のものと接合している。

時 期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。（酒井）

P-27 (図V-230、表V-2)

位置 D 14 立地 標高19.3m付近のH-16床面

平面形 円形 (大型フラスコ状土坑) 規模 $2.34/2.50 \times 2.22/2.38 \times 0.819\text{m}$

特徴 H-16の調査中に北側床面に褐色土の円形の広がりを出した。H-16の調査終了後に半截して調査を進めたところ、平坦な底面と中央ピット (P P 1)、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。上面はH-16に削平されている。土層は9層に分けた。覆土1層はH-16の貼床、覆土2~8層は埋め戻し土、覆土9層は壁面崩落土と考えられる。覆土7層から炭化材が出土している。覆土から土器 (サイベ沢Ⅶ式)、石鏃・スクレイパー・たたき石などの石器、剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期前葉と考えられる。(酒井)

P-31 (図V-231、表V-2)

位置 C・D 14・15 立地 標高20.1m付近のH-24床面

平面形 円形 (大型フラスコ状土坑) 規模 $2.62/2.32 \times 2.48/2.24 \times 1.233\text{m}$

特徴 H-24を調査中に、床面から褐色土の円形の広がりを確認した。半截して調査を行ったところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上部はH-24で削平されている。覆土は22層に分層した。覆土20・21層は壁面崩落土、そのほかは埋め戻し土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器上層b式)、両面調整石器・Rフレイク、剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期前葉と考えられる。(酒井)

P-33 (図V-232、表V-2)

位置 C・D 14・15 立地 標高20.1m付近のH-24床面

平面形 円形 (大型フラスコ状土坑) 規模 $1.66/2.24 \times 1.88/2.04 \times 1.069\text{m}$

特徴 H-24を調査中に、床面から褐色土の円形の広がりを確認した。半截して調査を行ったところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上部はH-24で削平されている。覆土は18層に分層した。覆土15層は壁面崩落土、そのほかは埋め戻し土と考えられる。覆土16~18層の堆積を見ると、フラスコ状土坑が入れ子状になっていた可能性がある。覆土から土器 (サイベ沢Ⅶ式)、扁平打製石器・たたき石・石核、剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期前葉~中葉と考えられる。(酒井)

P-34 (図V-232、表V-2)

位置 A 6 立地 標高18.9m付近の平地面

平面形 円形 (小型フラスコ状土坑) 規模 $(0.79)/(1.02) \times (0.42)/(0.28) \times 0.30\text{m}$

特徴 平成29調査の過程で確認した。斜面際にかかる部分で、壁面に断面が現われた。構築面は不明だが、平成29・35より古いとみられる。ローム層を掘りこんでいる。覆土は褐色土~黒褐色土で、下部にロームブロックを多く含んでいた。

時期 出土遺物 (円筒土器下層) から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-42 (図V-233、表V-2)

位置 B13・14 **立地** 標高19.9m付近

平面形 円形 (大型フラスコ状土坑) **規模** $3.00/2.82 \times 2.88/2.76 \times 0.949$ m

特徴 H-26の調査中に床面から壁面にかけて褐色土の広がりを検出した。H-26床面やB14区を精査したところ、H-26・P-41に切られた円形の遺構を確認した。これらの遺構の調査を終了したのち、半截して調査を進めたところ、円形で平坦な底面と中央ピット (P P 1)、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。南東側上面はH-26、東側上部はP-41に削平されている。土層は23層に分けた。覆土1~18層は流れ込み土、覆土19~22層は壁面崩落土、覆土23層はP P 1 覆土である。遺物は底面から線刻礫と礫、覆土から土器 (サイベ沢Ⅶ式)、石皿や剥片・礫などが出土している。

時期 H-26に切られていることや出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。

(酒井)

P-43 (図V-234、表V-2)

位置 C12・13 **立地** 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形 (大型フラスコ状土坑) **規模** $(2.00)/(1.90) \times (1.80)/(1.75) \times 0.20$ m

特徴 初期に設定したメイントレンチにおいて確認した。構築面は削平されているとみられるが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。土坑の上位は、褐色とにぶい黄褐色の互層からなる盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を10cm前後掘りこんでいる。覆土は明褐色土でロームブロックを僅かに含んでいた。床面南側にはローム土の広がりがみられ重複した土坑と考えられたが、掘り下げたところ底面が傾斜しており、古い風倒木痕であることを確認した。

時期 出土遺物 (円筒土器下層c式) から縄文時代前期後葉と考えられる。 (福井)

P-44 (図V-235、表V-2)

位置 C・D12 **立地** 標高19.9m付近の平坦面

平面形 円形 (中型フラスコ状土坑) **規模** $2.00/1.88 \times (1.62)/(1.58) \times 0.38$ m

特徴 C12区は11.95~12ラインと12.2~12.25ラインにベルトを残して掘り下げたが、自然堆積層下に堆積した黄褐色の「盛土」では遺構を確認できなかった。そこで段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。なお、この「盛土層」は人為堆積であることは間違いないが、いわゆる盛土層というよりも、判別できなかった土坑覆土とみられる。Dラインでの断面からすると、構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を10cm前後掘りこんでいる。覆土はにぶい褐色土の間に褐色土が認められた。褐色土にはロームブロックがやや多く含まれた。断面から壁は西側で崩落したものとみられる。覆土には炭化クリも含まれていた。

時期 出土遺物 (円筒土器下層d式) から縄文時代前期後葉と考えられる。 (福井)

P-45 (図V-235、表V-2)

位置 C・D12 **立地** 標高20.0m付近の平坦面

平面形 円形 (中型フラスコ状土坑) **規模** $1.80/1.70 \times (1.60)/(1.50) \times 0.50$ m

特徴 C12区は11.95~12ラインと12.2~12.25ラインにベルトを残して掘り下げたが、自然堆

積層下に堆積した黄褐色の「盛土」では遺構を確認できなかった。そこで段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。なお、この「盛土層」は人為堆積であることは間違いないが、いわゆる盛土層というよりも、判別できなかった土坑覆土とみられる。Dラインでの断面からすると、構築面はやや削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測した。坑底は段丘砂礫層を10cm前後掘りこんでいる。覆土はにぶい褐色土と褐色土が認められ、段丘砂礫層ブロックを多く含んでいた。覆土上位に砂利集中が認められたが、土坑と関係するかは不明。

時 期 出土遺物（円筒土器下層式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-46（図V-235、表V-2）

位 置 C11・12 **立 地** 標高19.9m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規 模** $1.65/1.50 \times (1.30)/(1.20) \times (0.17)$ m

特 徴 C12区は11.95～12ラインと12.2～12.25ラインにベルトを残して掘り下げたが、自然堆積層下に堆積した黄褐色の「盛土」では遺構を確認できなかった。そこで段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。なお、この「盛土層」は人為堆積であることは間違いないが、いわゆる盛土層というよりも、判別できなかった土坑覆土とみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を10cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質のにぶい褐色土。

時 期 出土遺物は大安在B式が含まれたが、上部より掘り込まれた柱穴に伴った可能性も考えられる。遺構の切りあいに円筒土器下層式、縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-48（図V-236、表V-2）

位 置 C・D13 **立 地** 標高19.9m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規 模** $1.65/1.50 \times (1.30)/(1.20) \times 0.29$ m

特 徴 H-43調査の過程で壁面に異なる遺構を確認し、Dラインでの土層断面を記録する際に部分的に掘り上げた。ちょうどP-48にはP-49が重複していて、H-43壁面からはにわかには状況がつかめなかったが、のちに上面から確認することで重複状況を認識した。土坑の上位は、暗褐色（にぶい黄褐色）の盛土層に覆われていた。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層上面となっていた。覆土は下部に山状堆積があり、上部はローム質のにぶい褐色土。山状堆積はやや明るい明褐色土の上部を炭片多く含む薄い褐色土が覆っていた。

時 期 重複したP-49より円筒土器上層式が出土しており、縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-54（図V-237、表V-2）

位 置 B・C12 **立 地** 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規 模** $1.88/1.68 \times (1.80)/(1.60) \times 0.40$ m

特 徴 初期に設定したメインレンチにおいて確認した。構築面は削平されているとみられるが、ソフトローム層中から構築されたものと推測される。土坑の上位は、褐色とにぶい黄褐色の互層からなる盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を20cm前後掘りこんでいる。覆土は上部が褐色土、下部が明褐色～にぶい橙色土。下部はロームブロックを多く含んでいた。

時期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-56（図V-238、表V-2）

位置 B・C12 立地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） 規模 $(1.40) / 1.95 \times (1.38) / (1.50) \times 0.48 \text{ m}$

特徴 初期に設定したメイントレンチにおいて確認した。構築面は削平されているとみられるが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。土坑の上位は、褐色とにぶい黄褐色の互層からなる盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を40cm前後掘りこんでいる。覆土は上部がロームブロックやⅦ層由来ブロックを含むにぶい褐色土主体、下部が橙色のローム土主体。

時期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-57（図V-238、表V-2）

位置 B12 立地 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） 規模 $1.30 / 1.46 \times (0.60) / (0.52) \times 0.74 \text{ m}$

特徴 H-55調査の過程で、その北側にローム質土の広がりが見られ、調査区境界にかけて認められたので掘り下げた結果確認した。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。土坑の上位は、にぶい黄褐色とにぶい灰褐色からなる盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を40cm前後掘りこんでいる。覆土は上部が褐色土を挟むにぶい褐色土主体、下部がにぶい橙色土主体。上部は人頭大のロームブロックを多く含んでいた。下部は上部よりロームブロックは小型で少なかった。

時期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-59（図V-239、表V-2）

位置 C14 立地 標高20.1m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） 規模 $2.76 / 2.40 \times 2.68 / 2.26 \times 1.037 \text{ m}$

特徴 P-31を調査中に東側壁面にP-59・60の褐色土の広がりを見出した。P-60の調査終了後に半截して調査を進めたところ、平坦な底面と中央ビット（PP1）を見出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。H-25・P-31・60・83に切られており、上面はH-33・87に削平されている。覆土は5層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層d式）、スクレイパー・砥石などの石器、剥片・礫のほか、三脚石器が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-60（図V-239、表V-2）

位置 C・D14 立地 標高20.1m付近

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） 規模 $(1.32) / 1.68 \times (1.28) / 1.56 \times 1.077 \text{ m}$

特徴 P-31を調査中に東側壁面にP-59・60の褐色土の広がりを見出した。P-60がP-59を切っていたことから、P-60を先に半截して調査を進めたところ、平坦な底面と中央ビット（PP1）、オーバーハングする壁面を見出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。P-31・59を切り、上面はH-24・33に削平されている。覆土は4層に分層した。覆土1～3層は埋め戻し土、覆土4層は壁面崩落土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層d式）、剥片・礫が出土し

ている。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代前期後半と考えられる。

(酒井)

P-65 (図V-240・241、表V-2)

位置 B・C 11・12 立地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形 (大型フラスコ状土坑) 規模 1.80/2.12×2.16/2.40×0.80 m

特徴 初期に設定したメイントレンチにおいてに確認した。構築面は削平されているとみられるが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。土坑の上位は、褐色とにぶい黄褐色の互層からなる盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を40cm前後掘りこんでいる。覆土は上部がにぶい褐色土主体、下部がにぶい橙色～明褐色土主体。下部が斜めに堆積して、人頭大のロームブロックを多く含んでいた。その上位に円筒土器下層式破片を多く含む炭層(土層10)が覆っていた。炭層は、下位の人頭大ロームにできた放射状の亀裂に入り込んだり、ロームブロックの隙間にも入り込んだりしていたことから、両層の時間的間隔は短いものと推測される。したがって、下部層堆積後、速やかに炭と共に土器片を堆積させ、さらに上部層を堆積させた、つまり順番に埋めていったものと考えられる。上部もロームブロックをやや多く含んでいたが、その大きさは下部の半分以下であった。

時期 出土遺物 (円筒土器下層d式) から縄文時代前期後葉と考えられる。

(福井)

P-67 (図V-241、表V-2)

位置 B 12 立地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形 (小型フラスコ状土坑) 規模 (1.40)/(1.32)×(1.15)/1.15×0.35 m

特徴 B 12区は自然堆積層下に堆積した黄褐色の「盛土」レベルでは遺構を確認できなかった。そこで段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を20cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質の褐色土で、ロームブロックを多く含む。

時期 出土遺物 (円筒土器上層a式) から縄文時代中期前葉と考えられる。

(福井)

P-68 (図V-242、表V-2)

位置 B 11・12 立地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形 (中型フラスコ状土坑) 規模 2.06/1.98×1.95/1.64×0.62 m

特徴 B 11・12区は自然堆積層下に堆積した黄褐色の「盛土」では遺構を確認できなかった。そこで段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。それでも複雑な重複関係であったため、いくつか連続して半載した。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を40cm前後掘りこんでいる。覆土は最下部ににぶい褐色土が堆積していたが、おもにはハードローム層の粘土層や段丘砂礫層由来土を主体とするものであった。下部はにぶい褐色～明褐色土のローム土主体であった。中部は灰褐色の炭層があった。上部は、にぶい褐色土でハードローム土を主体とするものであった。覆土からクリ子葉片9点がフローテーション選別によって得られた。

時期 出土遺物 (円筒土器下層式) から縄文時代前期後葉と考えられる。

(福井)

P-69 (図V-243、表V-2)

位置 B 10・11 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規模** 1.68/1.58×1.35/1.25×0.16m

特徴 H-1調査の過程で、床面に円形の広がりが見られたので掘り下げた結果確認した。当初は、H-1の先端ピットとも考えられたが、規模や形態からフラスコ状土坑と考えた。構築面は削平されているが、ハードローム層から構築されたものと推測する。土坑は、H-1 HP 2と重複していた。坑底は段丘砂礫層を15cm以上掘りこんでいる。覆土はロームブロックを多く含む褐色土であった。

時期 出土遺物(円筒土器上層a式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-70 (図V-243、表V-2)

位置 B 10・11 **立地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規模** 1.68/1.50×1.62/1.38×0.38m

特徴 H-1調査の過程で、ローム質土の広がりが見られたので掘り下げた結果確認した。構築面は削平されているが、ハードローム層から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を35cm前後掘りこんでいる。覆土は最下部に段丘砂礫層主体土、下部にローム主体土、中部にロームブロックを多く含む褐色土、上部にロームブロックを含む明褐色土であった。

時期 出土遺物(円筒土器下層d式)から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-71 (図V-244、表V-2)

位置 D・E 14 **立地** 標高19.8m付近のH-16床面、標高19.4m付近のH-25床面

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) **規模** 2.60/2.50×(2.48)/(2.46)×0.48m

特徴 H-16の調査中に南西角床面からH-25に切られた褐色土の三日月形の広がりを見出した。H-25の床面・壁面からも褐色土の広がりを見出した。H-16・25の調査終了後に半載して調査を行ったところ、平坦な底面と中央ピット(P P 1)、壁面の立ち上がりを見出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上面はH-16・25に削平され、底部が浅く残存している状況である。土層は6層に分けた。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。(酒井)

P-73 (図V-244、表V-2)

位置 C 15 **立地** 標高19.9m付近のH-5床面

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) **規模** (1.52)/2.02×(1.64)/1.88×0.823m

特徴 Cライトレンチを調査中に、褐色土の広がりを見出した。調査を進めると、検出面がH-5の床面であることが分かった。P-14に切られていることが分かったことから、H-5・P-14の調査終了後に半載したところ、平坦な底面と中央ピット(P P 1)、オーバーハングする壁面を見出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上部はH-5で削平されている。覆土は14層に分層した。覆土1～3層はH-5の貼床、覆土7・12・14層は壁面崩落土、そのほかは埋め戻し土と考えられる。底面から土器(サイベ沢Ⅶ式)・たたき石・礫や炭化材(No.1・2)、覆土から土器・たたき石・Uフレイク・礫が出土している。

時 期 出土遺物（サイバ沢Ⅶ式）や周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉と考えられる。
(酒井)

P-74 (図V-245、表V-2)

位 置 B12 **立 地** 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 1.50/2.00×1.52/2.01×1.04 m

特 徴 B12区は自然堆積層下に堆積した黄褐色の「盛土」では遺構を確認できなかった。そこで段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードルーム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を90cm前後掘りこんでいる。覆土は明確に3層に分かれた。上部はローム土主体のぶい黄褐色土で、焼土ブロックや段丘砂礫層ブロックが含まれた。中部が段丘砂礫層由来土主体のぶい黄褐色土で、段丘砂礫層ブロックのほかロームブロックも含まれた。下部は焼土主体のぶい赤褐色土で段丘砂礫層ブロックのほかロームブロックも含まれた。このように明確な埋め土でも、中部層は山状堆積しており、フラスコ状土坑の埋め戻しには、坑口が狭いために山状堆積が特徴的に発生した可能性が考えられる。

時 期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。
(福井)

P-75 (図V-246、表V-2)

位 置 B11 **立 地** 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 1.72/2.32×(1.28)/(1.22)×0.62 m

特 徴 B11区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードルーム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を25cm前後掘りこんでいる。覆土は上部がローム土主体の橙色土、下部がぶい褐色土で段丘砂礫層ブロックが含まれた。下部層は山状堆積していた。

時 期 出土遺物（円筒土器下層）から縄文時代前期後葉と考えられる。
(福井)

P-76 (図V-247、表V-2)

位 置 B10・11 **立 地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 2.24/2.16×2.32/2.24×0.48 m

特 徴 H-1調査の過程で、ローム質土の広がりが見られたので掘り下げた結果確認した。構築面は削平されているが、ハードルーム層中から構築されたものと推測する。土坑は、H-1HP2（先端ビット）と重複していた。坑底は段丘砂礫層を45cm前後掘りこんでいる。覆土は上部が上から段丘砂礫層由来土、ハードルーム粘土層由来土、ハードルーム層由来土と堆積していた。下部は、山状堆積で、上から段丘砂礫層由来土、ハードルーム粘土層由来土が堆積していた。

時 期 出土遺物（円筒土器下層式）から縄文時代前期後葉と考えられる。
(福井)

P-77 (図V-247、表V-2)

位置 B10 **立地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規模** 1.30/1.78×1.73/1.76×0.53m

特徴 H-1調査の過程で、ローム質土の広がりか認められたので掘り下げた結果確認した。構築面は削平されているが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を25cm前後掘りこんでいる。覆土は上部がハードローム層由来土が堆積していた。下部は、山状堆積で、炭やロームブロック混じりのにぶい橙色土が堆積していた。

時期 出土遺物(円筒土器下層d式)から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-78 (図V-248、表V-2)

位置 C11 **立地** 標高18.9m付近の平坦面

平面形 円形(小型フラスコ状土坑) **規模** 0.94/0.92×0.73/0.93×0.44m

特徴 H-19調査の過程で、ローム質土の広がりか認められたので掘り下げた結果確認した。構築面は削平されているが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を45cm前後掘りこんでいる。覆土の上部はハードローム層由来にぶい褐色土が堆積していた。下部床面付近には、段丘砂礫層由来土が堆積していた。

時期 出土遺物(円筒土器下層d式)から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-79 (図V-248、表V-2)

位置 C11 **立地** 標高18.9m付近の平坦面

平面形 円形(小型フラスコ状土坑) **規模** 0.95/1.12×0.95/1.15×0.60m

特徴 H-19調査の過程で、ローム質土の広がりか認められたので掘り下げた結果確認した。構築面は削平されているが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を60cm前後掘りこんでいる。覆土の最上部はH-19貼床層で、土坑覆土上に炭層を貼り、にぶい褐色土で窪みを埋めたのち、粘土で整地している。覆土はハードローム層由来土が堆積しており、その中に段丘砂礫層由来土が挟まれるように堆積していた。

時期 出土遺物(円筒土器下層d式)から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-80 (図V-248、表V-2)

位置 C10・11 **立地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) **規模** 2.10/2.18×2.08/2.12×0.49m

特徴 H-19調査の過程で、ローム質土の広がりか認められたので掘り下げた結果確認した。構築面は削平されているが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を70cm前後掘りこんでいる。覆土は貼床である土層1の下位に、ロームブロックを多く含む覆土上層があり、ローム土を主体とする覆土下層が堆積していた。

時期 出土遺物(サイバ沢Ⅶ(新)式)から縄文時代中期中葉と考えられる。(福井)

P-81 (図V-249、表V-2)

位置 B・C10・11 **立地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) **規模** 2.06/2.18×1.88/2.14×1.28m

特 徴 H-1 調査の過程で、ローム質土の広がり方が認められたので掘り下げた結果確認した。構築面は削平されているが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を110cm前後掘りこんでいる。この土坑の覆土の特徴は、下部から上部まで水平堆積で埋められたことである。最上部はロームブロックおよび段丘砂礫層ブロック混じりの褐色土が堆積していた。中部はハードローム層由来土が堆積しており、下部は段丘砂礫層由来土とソフトローム層由来土が互層になるように堆積していた。最下部は、ハードローム層粘土が堆積していた。このように、掘削時にローム層も特徴別に掘り分け、段丘砂礫層も別にして、順に埋めていく埋納儀礼が存在したものと推測される。ただし、埋め方は多様であることから、土を分けることは共通するが、埋め方は参列人数などにより規制されてはいなかったものとみられる。遺物は、覆土上部の壁際から円筒土器下層d式期の有孔円盤、擦切り痕のあるアオトラ石製磨製石斧片が出土した。

時 期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-91（図V-250、表V-2）

位 置 C13 **立 地** 標高19.7m付近

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規 模** 1.60/1.94×1.48/1.80×1.278m

特 徴 Cライン東西メイントレンチを調査中に検出した。H-4の調査で褐色土の円形の広がりを確認し、半載して調査を進めたところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。H-4・P-11・279に切られ、P-251・255・256を切って作られている。覆土は9層に分層した。覆土1・2・8・9層は自然堆積、覆土3～7層は壁面崩落土と考えられる。北東側上部はH-4によって削平されている。底面から土器（円筒土器下層d式）、加工痕のある礫、礫が出土し、覆土中からスクレイパー・北海道式石冠・たたき石などの石器や、多くの頁岩剥片が出土している。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-96（図V-250、表V-2）

位 置 B12 **立 地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規 模** 1.95/1.98×(1.44)/(1.38)×0.65m

特 徴 H-55調査の過程で、その北側にローム質土の広がり方が調査区境界にかけて認められたので掘り下げた結果確認した。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。中央に小土坑が検出された。土坑の上位は、H-55に削平されていない部分は、にぶい黄褐色とにぶい灰褐色からなる盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を40cm前後掘りこんでいる。覆土はにぶい褐色土主体。壁側で段丘砂礫層ブロックをやや含んでいた。

時 期 出土遺物（円筒土器下層式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-97（図V-251、表V-2）

位 置 B11・12 **立 地** 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規 模** 2.15/1.62×1.82/1.25×0.25m

特 徴 B11・12区は自然堆積層下に堆積した黄褐色の「盛土」では遺構を確認できなかった。そこで段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。それで

も複雑な重複関係であったため、いくつか連続して半載した。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を10cm前後掘りこんでいる。覆土はにぶい橙色のローム土主体であった。

時期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-98（図V-252、表V-2）

位置 B11・12 立地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） 規模 $2.18/1.94 \times (1.74)/1.88 \times 0.70$ m

特徴 B11・12区では自然堆積層下に堆積した黄褐色の「盛土」では遺構を確認できなかった。そこで段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。それでも複雑な重複関係であったため、いくつか連続して半載した。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を40cm以上掘りこんでいる。覆土は下部が段丘砂礫層ないしハードローム粘土層由来土が山状堆積していた。中部はにぶい褐色土でハードローム土を主体とするものであった。上部は、黒褐色の炭層で、円筒土器下層d式破片を多量に含む層であった。土器は10cm弱の方形に割られており、何重にも狭い範囲に炭と共に埋められたものである。炭層からオニグルミ核片144点、クリ子葉片236点がフローテーション選別によって得られた。

時期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられ（福井）

P-99（図V-253、表V-2）

位置 A・B11 立地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形（フラスコ状土坑） 規模 $(1.20)/(1.18) \times (0.36)/(0.34) \times 0.72$ m

特徴 B11区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を40cm前後掘りこんでいる。覆土は斜位堆積で、褐色土～にぶい褐色土およびにぶい褐色土～明褐色土の互層となっていた。上半ではロームブロックが多く含まれた。

時期 出土遺物（円筒土器上層式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-100（図V-254、表V-2）

位置 B11 立地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） 規模 $1.68/1.95 \times 1.62/1.38 \times 0.66$ m

特徴 B11区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を55cm前後掘りこんでいる。覆土は全体にハードローム粘土層由来土、ローム由来土がモザイク状に堆積していたため、ブロック状の塊で一時に埋め立てた状況が推測され

る。最上部は粘土が貼られていたので、住居の床面であった可能性がある。

時期 出土遺物は縄文時代中期後葉・榎林式だったが、構築状況から縄文時代前期後葉以降中期中葉以前とみられる。(福井)

P-101 (図V-254、表V-2)

位置 B12 **立地** 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形(フラスコ状土坑?) **規模** $(1.16) / (1.00) \times (0.78) / (0.68) \times 0.26 \text{ m}$

特徴 B12区は自然堆積層下に堆積した黄褐色の「盛土」では遺構を確認できなかった。そこで段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードルーム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を15cm前後掘りこんでいる。覆土はローム土主体のぶい褐色土で、段丘砂礫層ブロックを含んでいた。なお、断面図ではP-101がP-67よりも新しいように表現したが、逆の可能性もある。

時期 構築状況から縄文時代中期後葉以前。(福井)

P-102 欠番

P-103 欠番

P-104 (図V-255、表V-2)

位置 B11 **立地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規模** $1.67 / 1.54 \times 1.23 / 1.14 \times 0.32 \text{ m}$

特徴 B11区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードルーム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30cm前後掘りこんでいる。覆土上部はローム主体層があり、中部は段丘砂礫層由来ブロックを含むぶい褐色土が堆積する。その下位の覆土中位には焼土が残されていた。下部はロームブロックを多く含む橙色土で、最下部が段丘砂礫層由来ブロックを多く含むぶい褐色土で、坑底に接して一部に炭層が残っていた。

時期 出土遺物(円筒土器下層d式)から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-112 (図V-255、表V-2)

位置 D14・15 **立地** 標高20.0m付近

平面形 円形(大型フラスコ状土坑?) **規模** $2.14 \times 2.04 / 2.08 \times 1.98 / 0.421 \text{ m}$

特徴 H-16を調査中に床面から壁面にかけて円形で褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたと、壁面を検出したことから土坑であることを確認した。周囲の遺構の状況からフラスコ状土坑である可能性が高い。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。上部はH-16によって大半が削平されている。北側の一部がP-31に切られている。覆土から土器(榎林式)、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。(酒井)

P-122 (図V-256、表V-2)

位置 B13 立地 標高20.1m付近

平面形 円形(大型フラスコ状土坑?) 規模 $(2.86)/(2.96) \times (1.46)/(1.56) \times 0.647\text{m}$

特徴 H-4の調査中にP-162に切られる褐色土の広がりを、北側床面から壁面にかけて検出した。H-54・P-264・265に北側を削平されていることから、残存部分を半載して調査を進めたところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は4層に分層した。覆土1・2層は流れ込み土、覆土3・4層は壁面崩落土と考えられる。H-54・P-143・264・265に切られている。覆土中から剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-123 (図V-256、表V-2)

位置 B・C14・15 立地 標高20.1m付近

平面形 円形(大型フラスコ状土坑?) 規模 $(2.70)/(2.56) \times (2.46)/(2.38) \times 0.323\text{m}$

特徴 H-26の調査終了後、B14区を調査中に褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、平坦な底面を検出したことから、土坑状の遺構であることを確認した。規模から考えると、フラスコ状土坑である可能性がある。覆土は3層に分層した。自然堆積と考えられる。上部はH-5・26・33によって削平され、P-64・88に切られている。覆土中から礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-128 (図V-257、表V-2)

位置 B11・12 立地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) 規模 $(1.50)/(1.50) \times (1.00)/(0.98) \times 0.40\text{m}$

特徴 B11・12区は自然堆積層下に堆積した黄褐色の「盛土」では遺構を確認できなかった。そこで段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。それでも複雑な重複関係であったため、いくつか連続して半載した。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を25cm前後掘りこんでいる。覆土は下部にハードローム粘土層由来土があり、上部がにぶい褐色のローム土主体であった。

時期 出土遺物(円筒土器下層式)から縄文時代前期後半と考えられる。(福井)

P-129 (図V-258、表V-2)

位置 E14 立地 標高20.4m付近

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) 規模 $1.48/2.00 \times (1.32)/1.98 \times 1.116\text{m}$

特徴 14ライン南北トレンチの調査中に褐色土の覆土と壁面の立ち上がりを検出した。トレンチ壁面で半載して調査を進めたところ、底面が平坦でオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。完掘に向けて調査を進めると、覆土25層上面で頁岩製のRフレイクと石核が各1点と剥片559点の集まった剥片集中を検出した。また同じ面から土器1点と礫18点が出土している。覆土25層の明黄褐色土の面に円形の褐色土の広がりを検出した。半載したと

ころ柱穴状の遺構であることを確認した。覆土25層の上面で検出したが、もっと上面から構築されていた可能性がある。東側はP-191を切って構築されている。覆土は28層に分層した。覆土1～24層は埋め戻し土、覆土25～28層は壁面崩落土と考えられる。底面から長さ45.25cm・幅15.70cm・厚さ15.00cm・重さ1.738kgの安山岩製の大型石棒と礫が出土している。覆土からは土器（円筒土器上層a式）、スクレイパーやたたき石・凹み石、剥片・礫が出土している。

時期 出土遺物などから縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-132（図V-259、表V-2）

位置 E15・16 立地 標高20.2m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） 規模 $(2.14) / 2.14 \times (2.08) / 2.10 \times 0.588 \text{ m}$

特徴 E15・16区を調査中に円形で褐色土の広がりを検出した。半載して断面を確認したところ、平坦な底面と中央ビット（PP1）、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。覆土は11層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土9層には赤色化した小砂利を多く含んでおり、意図的に入れられたと考えられる。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。底面からたたき石や礫、覆土から石鏃・つまみ付ナイフ・たたき石・扁平打製石器などの石器が出土している。

時期 周囲の遺構から、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-133（図V-260、表V-2）

位置 E15 立地 標高20.3m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） 規模 $0.72 / 2.02 \times 0.74 / 1.88 \times 1.130 \text{ m}$

特徴 E15区を調査中に円形で褐色土の広がりを検出した。半載して断面を確認したところ、平坦な底面と中央ビット（PP1）、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。覆土は18層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土18層には炭化物が多く含まれる。周囲の多くの遺構が上部を遺跡の地形改変時に削平されたと考えられるが、P-133は断面からみて、ほとんど削平されていない可能性がある。底面から剥片や礫、覆土からスクレイパー・扁平打製石器、剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構から、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-137 欠番

P-140（図V-261、表V-2）

位置 B・C11 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形（小型フラスコ状土坑） 規模 $(1.06) / (1.28) \times (1.12) / (0.98) \times 0.26 \text{ m}$

特徴 B11区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードルーム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30cm前後掘りこんでいる。覆土はルーム主体層からなるが、最下部は段丘砂礫層由来ブロック、ルームブロックを含んだ山状堆積となっていた。

時期 構築状況から縄文時代前期後葉と考えられる。

(福井)

P-156 (図V-262、表V-2)

位置 B11 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) 規模 $1.54/1.54 \times (0.72)/(0.8) \times 0.26\text{m}$

特徴 B11区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30cm前後掘りこんでいる。覆土上面はローム主体層で貼られていた。覆土は全体にぶい褐色土主体で、段丘砂礫層由来ブロックやロームブロックを多く含み、部分的にローム層由来土主体層を挟んでいた。

時期 構築状況から縄文時代前期後葉と考えられる。

(福井)

P-157 (図V-262、表V-2)

位置 B11 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(小型フラスコ状土坑?) 規模 $0.85/0.68 \times (0.90)/(0.83) \times 0.17\text{m}$

特徴 B11区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を20cm前後掘りこんでいる。覆土は明褐色土で、段丘砂礫層由来ブロックが少量含む状況であった。確認された覆土上面の一角には現地性焼土が認められた。

時期 構築状況から縄文時代前期後葉と考えられる。

(福井)

P-159 (図V-263、表V-2)

位置 B11 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型フラスコ状土坑) 規模 $(0.56)/(0.69) \times (0.26)/(0.22) \times 0.18\text{m}$

特徴 B11区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を20cm前後掘りこんでいる。覆土は橙色土で、段丘砂礫層由来粒・ローム粒を少量含む状況であった。H-19及びP-78に削平されて、ごく一部しか残存しなかった。

時期 構築状況から縄文時代前期後葉と考えられる。

(福井)

P-162 (図V-263、表V-2)

位置 B13・14 立地 標高19.7m付近のH-4床面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) 規模 $1.20/1.76 \times 1.18/1.68 \times 1.005\text{m}$

特徴 H-4床面を調査中にP-122を南側でわずかに切る円形の褐色土の広がりを検出した。

半載して調査を進めたところ、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は12層に分層した。覆土1～3層は流れ込み土、覆土5層は壁面崩落土、覆土4・6～12層は埋め戻し土と考えられる。上部はH-4によって削平されている。覆土中から土器(榎林式)、たたき石・扁平打製石器、剥片、礫などが出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-164 (図V-264、表V-2)

位置 B10・11 **立地** 標高19.3m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規模** 1.64/1.54×1.52/1.47×0.34m

特徴 H-1調査の過程で、ローム質土の広がりが見られたので掘り下げた結果確認した。構築面は削平されているが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を34cm前後掘りこんでいる。覆土は、ローム層由来土主体で、ロームブロックおよび段丘砂礫層ブロックを含む。P-81と重複した部分の底には段丘砂礫層を貼っている。

時期 出土遺物(円筒土器下層式)から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-165 (図V-264、表V-2)

位置 C13 **立地** 標高20.0m付近のH-4床面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規模** (1.70)/(1.60)×(1.28)/(1.16)×0.254m

特徴 Cライン東西トレンチを調査中にH-4に切られる褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、平坦な底面を検出したことから、土坑状の遺構であることを確認した。規模から考えると、フラスコ状土坑である可能性がある。覆土は5層に分層した。埋め戻し土と考えられる。底面直上に焼土塊が多く検出されている。東側はH-4、上部は遺跡の地形改変時に削平されている。底面から土器(円筒土器下層式)・剥片・礫、覆土から剥片・礫が出土している。

時期 出土遺物(円筒土器下層式)から縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-181 (図V-265、表V-2)

位置 A・B11 **立地** 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) **規模** 1.95/2.18×(1.00)/(0.98)×0.5m

特徴 B11区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を85cm前後掘りこんでいる。覆土は最下部が山状堆積で、ローム主体土の上に、ハードローム粘土層由来のいぼいぼ褐色土が堆積していた。下部は段丘砂礫層主体のいぼいぼ黄褐色土。中部はローム主体の橙色土の上に、厚くハードローム粘土層由来のいぼいぼ褐色土が堆積していた。上部はローム主体の橙色、ハードローム粘土層由来のいぼいぼ褐色土が混ざり合うように堆積していた。また、調査区境界で断面観察できたために、上部に堆積した盛土層、重複しあうフラスコ状土坑との関係をよくつかむことができた。即ち、底面のレベル差と、切りあい関係からP-75→P-99→P-181の順で構築され、恐らく構築面も削平されながら、土坑構築が進められたと推測される。その後、中期後葉段階で盛土層が堆積したものとみられる。

時期 出土遺物（円筒土器下層d式）はあるものの、切りあい関係から縄文時代中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-191（図V-266、表V-2）

位置 E14 **立地** 標高20.1m付近

平面形 円形？（中型フラスコ状土坑？） **規模** 1.60/1.38×—/—×1.467m

特徴 P-129の調査中に西側壁面から褐色土の覆土と壁面の立ち上がりを検出した。検出面の観察からP-206・207に切られている遺構が確認できたことから、半截して調査を進めたところ、底面が平坦な土坑状の遺構を検出した。周囲の遺構の状況からフラスコ状土坑である可能性がある。覆土は10層に分層した。覆土1～3・5・6層は流れ込み土で覆土2層はブロック状の焼土塊で廃棄されたものと考えられる。覆土4層は焼土（F-28）で埋没途中の凹みに構築されたと考えられる。覆土7層は埋め戻し土、覆土8・9層は壁面崩落土と考えられる。覆土中から土器（椀形式）、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。（酒井）

P-202（図V-267～269、表V-2）

位置 G12 **立地** 標高19.3m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規模** 0.88/1.88×(0.80)/(1.84)×0.98m

特徴 初期に設定したメイントレンチにおいて確認した。構築面は削平されているとみられるが、ソフトローム層中ないしその上位の褐色盛土層直下から構築されたものと推測する。土坑の上位は、暗褐色（にぶい黄褐色）の盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を60cm前後掘りこんでいる。覆土は下部がロームブロックを多く含むにぶい褐色土で、その上半では炭化材片も多く含まれた。上部は段丘砂礫層由来土主体であった。いずれも水平堆積のため、丁寧に埋められたものとみられる。重複状況から、P-7・572・574より新しい。

時期 出土遺物（円筒土器上層a式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-203（図V-267～269、表V-2）

位置 G12 **立地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（小型フラスコ状土坑） **規模** 1.76/1.36×(0.98)/(0.86)×0.62m

特徴 初期に設定したメイントレンチにおいて確認した。構築面は削平されているとみられるが、ソフトローム層中ないしその上位の褐色盛土層直下から構築されたものと推測する。土坑の上位は、暗褐色（にぶい黄褐色）の盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を50cm前後掘りこんでいる。覆土は下部がハードローム層ブロックの集合体、中部はロームブロックを僅かに含む褐色土、上部はロームブロックを多く含む褐色土であった。下部が斜めに堆積するが、中部・上部はほぼ水平堆積のため、丁寧に埋められたものとみられる。重複状況から、P-451より新しい。

時期 出土遺物（円筒土器下層式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-205（図V-269、表V-2）

位置 E14 **立地** 標高20.0m付近

平面形 楕円形（大型フラスコ状土坑） **規模** 2.38/2.32×2.06/2.00×0.718m

特 徴 E14区の調査中に多数の褐色土の広がりを検出した。切り合い関係を把握するために半載して調査を進めたところ、P-207・285を切って作られた、壁面がオーバーハングするフラスコ状土坑を確認した。底面は平坦で中央ビット（P P 1）と小ビット（P P 2）が検出され、P-206の円形の広がりが確認できる。P-129・316・345に切られている。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土中から土器（円筒土器下層式）、つまみ付ナイフなどの石器、剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-206（図V-270、表V-2）

位 置 E14 **立 地** 標高19.4m付近のP-205底面

平面形 円形（小型フラスコ状土坑？） **規 模** -/1.38×-/1.34×0.749m

特 徴 E14区の調査中に多数の褐色土の広がりを検出した。切り合い関係を把握するために半載して調査を進めたところ、P-205の底面に褐色土の広がりを検出した。P-205の調査終了後に半載したところ、浅く底面が平坦な土坑状の遺構を検出した。周囲の遺構の状況からフラスコ状土坑である可能性がある。P-205によって上部のほとんどを削平されてしまったと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土中から土器（大安在B式）、礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。（酒井）

P-207（図V-271、表V-2）

位 置 E14 **立 地** 標高20.0m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 2.32/2.20×(2.04)/(1.88)×0.607m

特 徴 E14区の調査中に多数の褐色土の広がりを検出した。切り合い関係を把握するために半載して調査を進めたところ、P-205に切られた、底面が平坦で壁面がオーバーハングするフラスコ状土坑を確認した。P-205・311・312・315・319・345に切られている。覆土は8層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土2層と覆土3層の層界から土器片が多数出土している。底面から土器（円筒土器下層c～d式）、剥片・礫、覆土中から石鏃・スクレイパー、扁平打製石器・たたき石、剥片・礫のほか軽石裂石製品が出土している。

時 期 出土遺物（円筒土器下層c～d式）から縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-226（図V-272、表V-2）

位 置 D15・16 **立 地** 標高20.1m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 2.20/2.50×2.02/2.26×0.702m

特 徴 D15・16区の調査中に褐色土で円形の広がりを検出した。調査を進めたところ、平坦な底面と中央ビット（P P 1）、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。覆土は6層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土1層はIV層とはほぼ変わらないことから掘り上げ土をそのまま埋め戻したのと考えられる。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土中から礫が出土している。

時 期 周囲の遺構の状況から縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。（酒井）

P-238 (図V-273、表V-2)

位置 F 15 **立地** 標高20.3m付近

平面形 円形 (大型フラスコ状土坑) **規模** (1.58) / 2.50 × 1.68 / 2.36 × 1.526 m

特徴 E・F 15区を調査中に褐色土の広がりや集まりを検出したことから、切り合い関係が判るように半載して調査を進めたところ、柱穴状の遺構の断面とそれらに切られるフラスコ状土坑の断面を確認した。断面を精査したところP-238がP-208・237に切られて構築されていることが分かった。この半載の位置が土坑の北側端であったため、P-208・237の調査終了後50cmほど南側で半載しなおしている。オーバーハングする壁面と底面に中央ビット (PP1) を検出した。また、底面壁際に10~15cmほどの凹み (PP2~7) を検出した。覆土は19層に分層した。覆土5・6・9・17層は壁面崩落土、そのほかは埋め戻し土と考えられる。底面および底面直上から土器 (榎林式)、たたき石・剥片・礫、覆土から石鏃・スクレイパー・石斧・たたき石などの石器、剥片・礫が出土している。北に約5m離れたP-134出土の石皿と接合する破片が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物、石皿が接合したP-134との関係などから縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-256 (図V-274、表V-2)

位置 C 13 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形 (大型フラスコ状土坑) **規模** 2.26 / 2.18 × 1.76 / 1.76 × 0.682 m

特徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりや多数検出した。検出面を精査したところ、P-91・255・149に切られていることがわかった。これらの遺構の調査が終了したのち、半載して調査を進めた。平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であると考えられる。底面中央部がP-91に削平されていることから、中央ビットの有無は不明である。覆土は7層に分層した。覆土1~3層は埋め戻し土と考えられる。炭化物を含んでおり、炭化したクリ種実が検出されている。覆土4~6層は壁面崩落土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器上層a式)、石鏃・スクレイパー・たたき石などの石器、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉と考えられる。(酒井)

P-257 (図V-274、表V-2)

位置 B 13 **立地** 標高20.2m付近

平面形 不明 (中型フラスコ状土坑?) **規模** - / (0.88) × - / - × 0.300 m

特徴 H-25を調査中に壁面から褐色土の広がりや集まりを検出した。検出面を精査したところ、H-16・25・P-59・60・258に切られていることが分かった。これらの遺構の調査が終了したのち、半載して調査を進めた。4方向全てが他の遺構に削平されているため、規模・形状などは不明である。残存した底面から推測すると、底面径が1.5mほどの円形になりそうなので、周辺の遺構の状況からフラスコ状土坑であった可能性が高いと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器上層式) が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代中期前葉と考えられる。(酒井)

P-280 (図V-275、表V-2)

位置 D 14・15 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規模** $1.78/1.92 \times 1.80/1.86 \times 0.723 \text{ m}$

特徴 H-16を調査中にHF1周辺に褐色土の円形の広がりが出た。H-16の調査終了後、半載して掘り進めたところ、平坦な底面と中央ビット（PP1）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は14層に分層した。埋め戻し土と考えられる。炭化物を含む層が見られ、その中から炭化したクリ種実が検出されている。上部はH-16によって削平されている。底面直上から土器（円筒土器上層式）・石鏃・たたき石などの石器や剥片・礫、覆土から土器（円筒土器上層式）、両面調整石器・石斧・たたき石や剥片・礫が出土している。そのほかに垂飾とみられる軽石製石製品が出土している。

時期 出土土器や他遺構との切り合いから、縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-281（図V-275、表V-2）

位置 B14 **立地** 標高20.5m付近

平面形 不明（中型フラスコ状土坑？） **規模** $(0.66)/(1.22) \times -/- \times 0.530 \text{ m}$

特徴 B14の調査区北側壁面を精査したところ、オーバーハングする壁面とみられる断面を検出した。B14区の調査が進んでいたことから削平してしまったため、断面のみの確認となった。フラスコ状土坑と考えられる。中央ビットなどの付属遺構については不明である。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土から土器（煉瓦台式）が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-286（図V-276、表V-2）

位置 G14 **立地** 標高19.9m付近

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規模** $0.84/1.72 \times 0.74/1.60 \times 0.841 \text{ m}$

特徴 G14区を調査中に褐色土の広がりが連なって検出された。P-286の検出面から頁岩剥片や小礫を含む集中を確認した。半載して調査を進めたところ、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。切り合い関係のあるP-296・300の調査終了後、掘り進めたところ平坦な底面と中央ビット（PP1）を検出した。P-296・300に切られ、P-303を切っている。検出面の剥片と微細礫の集中からは石鏃2点・スクレイパー1点・石核1点・頁岩剥片6,577点・微細礫多数が出土している。覆土は11層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土5層からは焼土が検出されている。このほかの覆土からは土器（円筒土器上層a式）、石槍・スクレイパーなどの石器、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物などから、縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-288（図V-276、表V-2）

位置 G16 **立地** 標高19.9m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規模** $1.58/2.18 \times 1.48/2.16 \times 1.141 \text{ m}$

特徴 G16区を調査中に褐色土の円形の広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、平坦な底面と中央ビット（PP1）、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。覆土は14層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土6・11層からは焼土塊を検出している。覆土14層から土製耳環の破片が出土している。隅縁に溝があり、飾り石を嵌め

るための凹みが作られている。このほかに、覆土から土器（サイベ沢甕式）、石鏃・スクレイパー・たたき石などの石器、剥片・礫が出土している。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。（酒井）

P-289（図V-277、表V-2）

位 置 F 14 立 地 標高20.1m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） 規 模 $2.30/2.22 \times 2.28/2.10 \times 0.610\text{m}$

特 徴 F 14区を調査中に褐色土の円形の広がりが見え、掘り進められていた。掘り進められたところ、底面が平坦な円形のフラスコ状土坑を確認した。上面は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられ、またP-114・283・321・324に切られている。覆土は3層に分層した。覆土1～3層は埋め戻し土、覆土2層には焼土塊が多く含まれており、覆土3層上面で火が焚かれたものと考えられる。底面からは礫、覆土からは土器（円筒土器上層a式）、石鏃・石槍・両面調整石器や剥片・礫が出土している。

時 期 出土土器（円筒土器上層a式）や他遺構との切り合いから、縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-295（図V-278、表V-2）

位 置 F 13・14 立 地 標高19.8m付近

平面形 楕円形（大型フラスコ状土坑） 規 模 $2.26/2.10 \times 2.10/1.88 \times 0.551\text{m}$

特 徴 F 13・14区を調査中に褐色土の広がりが見え、掘り進められていた。掘り進められたところ、平坦な底面と中央ピット（P P 1）が検出され、フラスコ状土坑であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されていると考えられる。P-337・379・397にも切られている。覆土は14層に分層した。埋め戻し土と考えられる。底面から土器（円筒土器下層式）・スクレイパー、覆土から石鏃・石斧・凹み石などの石器、剥片・礫が出土している。

時 期 出土遺物や他遺構との切り合いから、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-297（図V-279、表V-2）

位 置 G 15 立 地 標高20.4m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） 規 模 $1.88/2.06 \times (1.40)/(1.80) \times 0.815\text{m}$

特 徴 G 15区の調査区南壁際から検出した。G 15区の盛土遺構の調査中にH-128・135に切られている半円形の褐色土の広がりを検出した。H-128・135の調査終了後、南北方向にセクションポイントを設定して東側を半載したところ、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。南側の一部が調査範囲外にあるが、底面が平坦な円形で径が2mを超える中央ピット（P P 1）のある大型のフラスコ状土坑である。標高19.5m付近の覆土中層では焼土（P F 1）を含む炭化物の広がりを検出した。炭化物は覆土中層から底面壁際まで広がっている。底面壁際で検出した炭化したイネ科植物の茎部分が、揃って並んだ状態で確認していることから、覆土が山状に堆積した状態のときに揃えて入れられ、燃やされたものと考えられる。覆土は18層に分層した。一部壁面の崩落土があるが、埋め戻し土と考えられる。出土した炭化草本の放射性炭素年代測定を行い、 $4,460 \pm 30\text{yrBP}$ の測定値を得ている。底面から礫、覆土から土器（サイベ沢甕式）・石槍・た

き石・砥石などが出土している。

時期 出土遺物と放射性炭素年代測定値から縄文時代中期中葉と考えられる。(酒井)

P-298 (図V-280、表V-2)

位置 G 14 **立地** 標高20.4m付近

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) **規模** (1.74)/(1.98)×(0.68)/(0.68)×0.462m

特徴 G 14区の調査区南壁際から検出した。G 14区の盛土遺構の調査終了後、H-128に切られる褐色土の半円形の広がりを確認した。H-131の調査終了後、P-286との切り合い関係を把握できるように半載して調査を行ったところ、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。南側の多くが調査範囲外のため中央ビットなどの付属遺構の有無は不明である。H-128・P-286・318・326に切られている。上部は遺跡の地形改変時に削平されていると考えられる。覆土は4層に分層した。埋め戻しと考えられる。覆土から土器(円筒土器下層d式)、石楯・たたき石などの石器、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-300 (図V-280、表V-2)

位置 F・G 14・15 **立地** 標高19.9m付近

平面形 楕円形(大型フラスコ状土坑) **規模** 2.20/2.20×1.56/1.52×0.570m

特徴 F・G 14・15区を調査中に褐色土の広がりが見え、P-484に切られ、P-387を切るP-300を確認した。掘り進めたところ、平坦な底面と中央ビット(P P 1)、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されていると考えられる。P-296・457にも切られている。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器上層式)、Rフレイク・たたき石、剥片・礫が出土している。

時期 出土遺物や他遺構との切り合いから、縄文時代中期前葉と考えられる。(酒井)

P-306 (図V-281、表V-2)

位置 F 14・15 **立地** 標高19.9m付近

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) **規模** 2.16/2.08×1.94/1.86×0.177m

特徴 F 14区を調査中に褐色土の円形の広がりが見え、半載して調査を進めたところ、平坦な底面と中央ビット(P P 1)が検出されたことからフラスコ状土坑であることを確認した。また、底面付近からは炭化物範囲を検出している。上面は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土は3層に分層した。覆土2層は炭化物層、覆土1・3層は埋め戻し土と考えられる。底面からは剥片、覆土から剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-308 (図V-281、表V-2)

位置 D 13 **立地** 標高19.9m付近

平面形 円形(中型フラスコ状柱穴) **規模** 1.62/1.78×(1.30)/(1.26)×0.376m

特徴 H-25を調査中に西側壁面からH-25に切られる褐色土の広がりを見つけた。H-25

の調査終了後に半截して掘り進めたところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は6層に分層した。埋め戻し土と考えられる。上部は遺跡の地形改変時に削平されていると考えられる。覆土2・3・5層からは炭化物が多く含まれており、炭化したクリ種実やクヌギが検出されている。底面から扁平打製石器・たたき石・礫、覆土から土器（円筒土器下層d式）、スクレイパー・扁平打製石器・北海道式石冠などの石器、剥片・礫が出土している。

時 期 出土土器や他遺構との切り合いから、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-309（図V-282、表V-2）

位 置 F 15・16 **立 地** 標高20.0m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 2.08/2.00×2.02/2.04×0.328m

特 徴 F 15・16区を調査中に褐色土の円形の広がり切り合って検出された。確認面の観察からP-309がP-310に切られていることが分かった。半截して調査を進めたところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。（酒井）

P-310（図V-282、表V-2）

位 置 F 15・16 **立 地** 標高20.0m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 2.08/2.00×2.02/2.04×0.328m

特 徴 F 15・16区を調査中に褐色土の円形の広がり切り合って検出された。確認面の観察からP-310がP-309を切っていることが分かった。半截して調査を進めたところ、平坦な底面と中央ピット（P P 1）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土は16層に分層した。覆土7・9・12・16層は壁面崩落土、そのほかは埋め戻し土と考えられる。底面から加工痕がある礫・礫、覆土から土器（見晴町式）、スクレイパー・たたき石・北海道式石冠などの遺物が出土している。

時 期 出土遺物や他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉と考えられる。（酒井）

P-313（図V-283、表V-2）

位 置 D 10 **立 地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規 模** 1.62/2.34×1.42/2.28×1.04m

特 徴 H-12の調査の過程で確認した。構築面は削平されているとみられるが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。土坑の上位は、暗褐色（にぶい黄褐色）の盛土層に覆われていたとみられる。坑底は段丘砂礫層を50cm前後掘りこんでいる。覆土は上部がにぶい褐色土でロームブロックを少量含んでいた。下部は山状堆積となっており、炭化材を多く含むにぶい褐色土とローム質土主体層との互層であった。また各々は薄く、最下部では段丘砂礫層由来土層も確認された。覆土上部下半には部分的に壊されたとみられる半定形土器が横位に置かれていた。また、覆土下部からも土器が多く出土したが、破片状態でまとまることなく含まれていた。ほかにフレイク集中も3か所で確認された。これは覆土の上部と下部で、土層・遺物の埋納に関しての手順が明瞭に異なったため

の出土状況と推測される。

時期 出土遺物（円筒土器上層a式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-314（図V-284、表V-2）

位置 E 8 **立地** 標高18.8m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規模** 1.82/1.84×1.45/1.34×0.06 m

特徴 H-85・117の調査過程で確認した。構築面はH-85・117により削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。土坑の上位は、H-85・117覆土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を5cm前後掘りこんでいる。覆土は住居により大幅に削平されており、坑底付近の状況がかなり残っている。黒褐色土が斜位に堆積していることから、覆土下部は山状に、暗色系と明色系の互層堆積していた可能性がある。

時期 出土遺物（円筒土器上層a式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-320（図V-284、表V-2）

位置 C 11 **立地** 標高18.9m付近の平坦面

平面形 楕円形（小型フラスコ状土坑） **規模** 1.64/1.46×1.24/1.05×0.15 m

特徴 H-19の調査過程で確認した。構築面はH-19により削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。土坑の上位は、H-19覆土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を15cm前後掘りこんでいる。覆土は住居により大幅に削平されており、坑底付近の状況がかなり残っている状況で、段丘砂礫層由来土が堆積していた。土坑壁縁には部分的ににぶい褐色土が確認された。

時期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期中葉と考えられる。（福井）

P-329（図V-285、表V-2）

位置 G 13・14 **立地** 上面削平のため不明

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規模** 1.90/1.88×(1.74)/(1.70)×0.421 m

特徴 G 13・14区の調査区南壁際から検出している。G 13・14区の盛土遺構の調査終了後、H-131の調査中に褐色土の円形の広がりを確認した。上面をH-131および盛土遺構に削平されている。H-131の調査終了後、半截して北側の調査を行ったところ、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。南側の一部が調査範囲外であるが、底面が平坦な円形でセンターピットのある、径が2m弱の中型のフラスコ状土坑である。覆土は2層に分層した。埋め戻しと考えられる。覆土から土器（円筒土器上層a式）、たたき石などの石器が出土している。

時期 H-131（見晴町式）に切られていることや出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-330（図V-285、表V-2）

位置 E 13・14・F 14 **立地** 標高19.8m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規模** 2.18/2.04×1.84/1.96×0.558 m

特徴 E 14区の調査中に多数の褐色土の広がりを検出した。切り合い関係を把握するために半截して調査を進めたところ、P-206に切られ、P-285・336を切っていることが分かった。平坦

な底面とオーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。覆土は10層に分層した。埋め戻し土と考えられる。焼土粒・炭化物を含む土層が多くみられる。覆土中から土器（円筒土器下層式）、つまみ付ナイフ・スクレイパー・たたき石などの石器、剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-333（図V-286、表V-2）

位 置 D・E13 立 地 標高19.9m付近

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） 規 模 $2.08/1.84 \times 1.98/1.82 \times 0.367$ m

特 徴 E14杭西側で褐色土の円形の広がりが見え、連続して検出された。精査したところP-333を切る複数の遺構を確認したことから、これらの調査の終了後に半載した。平坦な底面と底面にY字状の溝を検出したことから、フラスコ状土坑であると考えられる。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層式）、石斧・剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-336（図V-286、表V-2）

位 置 E・F13・14 立 地 標高19.8m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） 規 模 $2.38/2.30 \times 2.28/2.12 \times 0.685$ m

特 徴 F14杭付近から褐色土の広がりが見え、連続して検出された。切り合い関係を把握するために半載して調査を進めたところ、P-330・340に切られていることが分かった。平坦な底面と中央ビット（P1）、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。覆土は7層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土中から土器（円筒土器下層式）、石鏃・砥石などの石器、剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-339（図V-287、表V-2）

位 置 E13 立 地 標高19.8m付近

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） 規 模 $1.48/1.98 \times 1.42/1.94 \times 0.775$ m

特 徴 E13区を調査中に褐色土の円形の広がりが見え、連続して検出された。切り合い関係が判るように半載したところ、P-339がP-345に切れ、P-380・388を切って作られていることが分かった。平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は6層に分層した。覆土1～4層は埋め戻し土、覆土5・6層は壁面崩落土と考えられる。覆土から土器（円筒土器上層a式）、Rフレイク・Uフレイク・たたき石・剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-340（図V-287、表V-2）

位 置 E・F13 立 地 標高19.7m付近

平面形 円形（小型フラスコ状土坑） 規 模 $1.12/1.36 \times 1.06/1.22 \times 0.484$ m

特 徴 F14杭付近から褐色土の広がりが見え、連続して検出された。切り合い関係を把握するため

に半載して調査を進めたところ、P-336を切っていることが分かった。調査を進めると、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-341 (図V-288、表V-2)

位 置 F・G 13・14 **立 地** 標高19.7m付近

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) **規 模** 2.24/2.16×2.18/2.18×0.503m

特 徴 H-131北側の床面から壁面に褐色土の円形の広がりを検出した。半載したところ、H-131・P-295に切られ、P-520を切って作られていることが分かった。平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は5層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土1層からは廃棄されたとみられる焼土塊が含まれる。覆土から土器(円筒土器上層式)、剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。(酒井)

P-348 (図V-288、表V-2)

位 置 D 12・13 **立 地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) **規 模** 1.75/2.08×1.63/2.05×0.92m

特 徴 H-43の調査過程で確認した。また、D 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を80cm前後掘りこんでいる。掘削直後に壁が崩落したためか、坑口は三角形状を呈していた。覆土も壁際に崩落土が堆積し、それを覆うように覆土下部の山状堆積がみられた。覆土下部の山状堆積は厚くなく、その上位をローム土が厚く堆積している。さらにその上位は、黒褐色土とローム土の互層堆積で、斜位に堆積していた。

時 期 出土遺物(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-356 (図V-289、表V-2)

位 置 D・E 12・13 **立 地** 標高19.9m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規 模** 1.96/1.85×2.00/1.94×0.68m

特 徴 D・E 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を25cm前後掘りこんでいる。覆土は大きく上中下に分かれた。覆土下部の山状堆積は厚くなく、段丘砂礫層由来ブロックをやや多く含んだ。中部はハードローム層由来ブロックの集中層で、下部の山状堆積の外側を覆うように堆積していた。上部はローム土からなるもので厚く堆積していた。

時 期 出土遺物(円筒土器下層c式)から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-363 (図V-289、表V-2)

位置 E・F13 **立地** 標高19.6m付近

平面形 円形(小型フラスコ状土坑) **規模** 1.44/1.38×1.22/1.30×0.523m

特徴 F13区を調査中に褐色土の円形の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は7層に分層した。覆土1～6層は埋め戻し土、覆土7層は壁面崩落土と考えられる。覆土から土器(円筒土器上層式)、石斧・石錘などの石器、剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期前葉と考えられる。(酒井)

P-366 (図V-290、表V-2)

位置 D11 **立地** 標高19.3m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規模** 2.02/1.86×1.82/1.78×0.35m

特徴 H-100A・100B・110Bの調査の過程で、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を15cm前後掘りこんでいる。覆土は大きく3つに分かれた。中央部の覆土P-366Aはローム質の明褐色土とにぶい褐色土の互層で、最上部だけやや炭が多く含まれていた。北側P-366Bは中央部覆土を掘りこむような堆積状況にみえたが、包含した土器は円筒土器であったので、仮にH-100A構築時に攪乱を受けていたとしても掘ってすぐ埋めたような状況であったとみられる。南側はH-110Bの柱穴による攪乱を受けていた。坑底中央には本土坑に伴うであろう柱穴状ピットが認められた。また、覆土下部壁付近を巡るように土器片が検出され、そのうち個体状態の小型深鉢が倒立状態で残されていた。

時期 出土遺物(円筒土器下層d式)から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-367 (図V-291、表V-2)

位置 D11 **立地** 標高19.3m付近の平坦面

平面形 円形(フラスコ状土坑) **規模** (1.20)/(1.32)×(0.60)/(0.66)×0.28m

特徴 H-100A・100B・110Bの調査の過程で、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を10cm前後掘りこんでいる。覆土は僅かにしか確認できなかったがローム質土主体の埋め戻し土であった。

時期 出土遺物(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-368 (図V-292、表V-2)

位置 D11 **立地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規模** 1.32/1.58×1.12/1.62×0.76m

特徴 H-110A・110Bの調査の過程で、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を50cm前後掘りこんでいる。覆土は下部と上部に大別できた。下部は、燃焼残渣を含む暗褐色系土とローム質土の互層による堆積で、山状ではあるが水平堆積に近かった。上部はにぶい褐色土の単一堆積に近い状態であった。また、覆土中位および下部壁付近を巡るように土器片が検出され、そのうち個体状態の小型深鉢が正立状態で残されていた。なお、土坑直上には石棒が置かれていた。H-110Aの遺物として取り扱ったが、この土坑に伴うものと考えたほうが良いのかもしれない。No.11・12の中期後葉の土器はH-110A・

Bに関連して落ち込んだ結果含まれたものかもしれない。

時 期 出土遺物（円筒土器上層b式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-369（図V-293、表V-2）

位 置 D11 **立 地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形（小型フラスコ状土坑） **規 模** 1.58/1.45×1.52/1.32×0.05m

特 徴 H-110A・110Bの調査の過程で、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を15cm前後掘りこんでいる。覆土は削平により僅かに下部が残される状況であった。しまりが悪かったようで、H-110B使用時には窪みとなったようである。

時 期 出土遺物（円筒土器上層式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-380（図V-294、表V-2）

位 置 E13 **立 地** 標高19.8m付近

平面形 楕円形（中型フラスコ状土坑） **規 模** 1.30/1.50×(0.80)/(0.98)×0.736m

特 徴 E13区を調査中に褐色土の円形の広がりが見えてきた。切り合い関係が判るように半載したところ、P-380がP-327・339・399に切られて作られていることが分かった。平坦な底面と中央ビット（PP1）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は6層に分層した。埋め戻し土と流れ込み土と考えられる。覆土から土器（榎林式）、礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。（酒井）

P-387（図V-294、表V-2）

位 置 F・G15 **立 地** 標高19.9m付近

平面形 円形？（大型フラスコ状土坑） **規 模** 2.16/1.96×-/-×0.412m

特 徴 F・G14・15区を調査中に褐色土の広がりが見えてきた。切り合い関係を把握できるように半載したところ、H-136・P-300に切られていることを確認した。掘り進めたところ、平坦な底面と中央ビット（PP1）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上部はH-136と遺跡の地形改変時に削平されていると考えられる。P-296・457にも切られている。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器上層a式）、Rフレイク・たつき石、剥片・礫が出土している。

時 期 出土遺物や他遺構との切り合いから、縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-388（図V-295、表V-2）

位 置 E13 **立 地** 標高19.8m付近

平面形 不明（中型フラスコ状土坑？） **規 模** 1.58/1.46×-/-×0.320m

特 徴 E13区を調査中に褐色土の円形の広がりが見えてきた。切り合い関係が判るように半載したところ、P-388がP-339に切られて作られていることが分かった。南側の大半がP-339に削平され、残存した平坦な底面もP-339の調査の際に崩落してしまった。フラスコ状土坑である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器

下層式)、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-392 (図V-295、表V-2)

位置 F12 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) 規模 $2.48/2.32 \times (2.08)/(1.94) \times 0.37$ m

特徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30cm前後掘りこんでいる。覆土は下部しか残されていなかったが、ローム質土を主体とした。部分的に焼残渣を含むにぶい褐色土もみられた。

時期 出土遺物(円筒土器上層a式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-393 (図V-296、表V-2)

位置 E12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(小型フラスコ状土坑) 規模 $1.24/1.22 \times 1.22/1.22 \times 0.37$ m

特徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。なお、本土坑に関しては、H-109の調査の過程で検出されたものである。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を20cm前後掘りこんでいる。覆土は下部しか残されていなかったが、ローム質土を主体としたもので、ロームブロックが多く含まれた。また、遺物としては、土器片(円筒上層)と礫片が散在する状態で含まれた。いずれも同一個体を分割して、埋めたとみられる。

時期 出土遺物(円筒土器上層a式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-394 (図V-296、表V-2)

位置 E11 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形? (大型フラスコ状土坑) 規模 $2.08/2.00 \times (1.92)/(1.90) \times 0.20$ m

特徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。なお、本土坑に関しては、H-17の調査の過程で、壁面で検出されたものである。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を20cm前後掘りこんでいる。覆土は下部しか残されていなかったが、ローム質土を主体としたものであった。ただ、床面が傾斜しており、当初は風倒木痕と考えた。しかし、床面に柱穴状の窪みを検出し、覆土や掘り込みも明瞭であったことから、土坑とした。あるいはH-17の壁面をみると、段丘砂礫層に断層ないし地すべりの痕跡がみられたことから、その影響を受けた可能性も考えられる。

時期 出土遺物(円筒土器下層式)から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-398 (図V-297、表V-2)

位置 F12・13 立地 標高19.5m付近

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規模** 2.04/1.88×(1.68)/(1.62)×0.230 m

特徴 F 12・13を調査中に褐色土の広がりを検出した。半載すると、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層d式）、Rフレイク・Uフレイク、剥片・礫のほか、三脚石器が出土している。また、炭化したクリ種実が検出されている。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-400（図V-297、表V-2）

位置 G 12・13 **立地** 標高19.4 m付近

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規模** 1.94/1.90×1.90/1.80×0.611 m

特徴 G 12・13を調査中に褐色土の広がりを検出した。半載すると、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。P-519を切って作られている。覆土は8層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器上層a式）、スクレイパー・扁平打製石器・すり石などの石器、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-405（図V-298・299、表V-2）

位置 D・E 12 **立地** 標高19.8 m付近の平坦面

平面形 円形（大型フラスコ状土坑） **規模** 2.14/2.14×2.18/2.16×0.76 m

特徴 D・E 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。なお、本土坑に関しては、メイントレンチでの調査過程で、断面を検出したものである。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30 cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質土を主体としたものであった。上部はやや明るく、下部はやや暗色と、自然堆積のローム層を反転させたような堆積順序であり、掘り上げ後速やかに埋めたように推測される。床面中央には柱穴状の窪みが残されていた。柱穴状窪みの覆土は土坑と一連のもので埋没時には土坑同様空であったとみられる。

時期 出土遺物（円筒土器下層式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-408（図V-299、表V-2）

位置 G 12 **立地** 標高18.9 m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規模** 1.44/1.52×1.58/1.58×0.24 m

特徴 令和元年度、G 11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に重複している可能性が高かったため、遺構を確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。結果、ブドウの房状の大きな輪郭が認められた。この時点では、フラスコ状土坑が罎子状に切りあったものと想定し、P-406・408・417・423・427・428・429と番号を付し、トレンチで切りあい関係の確認を行った。結果、P-406・407・428とした部分は堅穴住居であることを確認した。ただ、P-408・417・423・427・429は堅穴住居に切られたフラスコ状土坑であることが判明した。構築面は

削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を25cm前後掘りこんでいる。覆土は最上部がH-139構築時の貼ローム・貼床であった。残った覆土の上部は炭層を含む黒褐色土～にぶい褐色土で、下部は段丘砂礫層由来ブロックを含む褐色土～にぶい褐色土。

時 期 出土遺物（円筒土器上層a式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-414（図V-300、表V-2）

位 置 E12 **立 地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（小型フラスコ状土坑） **規 模** 1.52/1.32×1.36/1.22×0.75m

特 徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を60cm前後掘りこんでいる。覆土は最上部が褐色土で、上部はローム質土のにぶい褐色土主体であった。下部もローム質土主体で、山状に堆積していた。

時 期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-415（図V-300、表V-2）

位 置 D・E11・12 **立 地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（中型フラスコ状土坑） **規 模** 2.00/1.96×2.02/1.92×0.72m

特 徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を60cm前後掘りこんでいる。覆土の上部はローム質土のにぶい褐色土～橙色土主体で、下部は段丘砂礫層由来ブロックを多く含むにぶい褐色土であった。

時 期 出土遺物（円筒土器上層a式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-416 欠番

P-417（図V-301、表V-2）

位 置 G11 **立 地** 標高19.3m付近の平坦面

平面形 円形（小型フラスコ状土坑） **規 模** 1.40/1.40×(1.50)/(1.58)×0.38m

特 徴 令和元年度、G11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に重複している可能性が高かったため、遺構が確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。結果、ブドウの房状の大きな輪郭が認められた。この時点では、フラスコ状土坑が団子状に切りあったものと想定し、P-406～408・417・423・427・428・429と番号を付し、トレンチで切りあい関係の確認を行った。結果、P-406～407・428とした部分は堅穴住居であることを確認した。ただ、P-408・417・423・427・429は堅穴住居に切られたフラスコ状土坑であることが判明した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質土を主体としたものであった。

時 期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-419 (図V-301、表V-2)

位置 E11 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) 規模 $1.54/1.50 \times (1.76)/(1.66) \times 0.37$ m

特徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を20cm前後掘りこんでいる。覆土の上部はにぶい褐色土・褐色土・明褐色土からなり、中位に山状に灰褐色土が堆積し、下部はロームブロックを含む褐色土であった。土器片加工品が円筒土器上層式で、胴部片が榎林式であった。抜根の影響で、上部の遺物が混入していると考えられる。

時期 出土遺物(円筒上層式)から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-420 (図V-302、表V-2)

位置 E10 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型フラスコ状土坑) 規模 $1.32/1.16 \times (0.92)/(0.84) \times 0.36$ m

特徴 E10区はH-2・9・17の境界部分であり、H-17壁面で土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を掘りこんでいない。覆土はにぶい褐色土であった。

時期 出土遺物は榎林式であるが、構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-423 (図V-302、表V-2)

位置 G11 立地 標高19.3m付近の平坦面

平面形 円形(フラスコ状土坑) 規模 $(0.82)/(0.78) \times (1.36)/(1.28) \times 0.10$ m

特徴 令和元年度、G11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に重複している可能性が高かったため、遺構が確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。結果、ブドウの房状の大きな輪郭が認められた。この時点では、フラスコ状土坑が団子状に切りあったものと想定し、P-406～408・417・423・427・428・429と番号を付し、トレンチで切りあい関係の確認を行った。結果、P-406～407・428とした部分は堅穴住居であることを確認した。ただ、P-408・417・423・427・429は堅穴住居に切られたフラスコ状土坑であることが判明した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を10cm前後掘りこんでいる。覆土はハードローム層土を主体としたものであった。

時期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-427 (図V-303、表V-2)

位置 G12 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(フラスコ状土坑) 規模 $(1.54)/(1.52) \times (0.30)/(0.22) \times 0.38$ m

特徴 令和元年度、G11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に重複している可能性が高かったため、遺構が確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。結果、ブドウの房状の大きな輪郭が認められた。この時点では、フラスコ状土坑が団子状に切りあったものと想定し、P-406～408・417・423・427・428・429と番号を付し、トレンチで切りあい関係

の確認を行った。結果、P-406~407・428とした部分は堅穴住居であることを確認した。ただ、P-408・417・423・427・429は堅穴住居に切られたフラスコ状土坑であることが判明した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30cm前後掘りこんでいる。覆土はふい褐色土~橙色土であった。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉~中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-429 (図V-303、表V-2)

位 置 F・G 11・12 **立 地** 標高19.3m付近の平坦面

平面形 円形(大型フラスコ状土坑) **規 模** 2.21/2.12×2.36/2.08×0.60m

特 徴 令和元年度、G 11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に重複している可能性が高かったため、遺構が確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。結果、ブドウの房状の大きな輪郭が認められた。この時点では、フラスコ状土坑が団子状に切りあったものと想定し、P-406~408・417・423・427・428・429と番号を付し、トレンチで切りあい関係の確認を行った。結果、P-406~407・428とした部分は堅穴住居であることが確認された。ただ、P-408・417・423・427・429は堅穴住居に切られたフラスコ状土坑であることが判明した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を60cm前後掘りこんでいる。覆土は最上部が炭化物を多く含む灰褐色土であった。上部は段丘砂礫層由来ブロックを含むふい褐色土で、下部はローム質の明褐色土。覆土下部は山状に堆積していた。

時 期 出土遺物(円筒上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-443 (図V-304、表V-2)

位 置 E 11 **立 地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規 模** 1.56/1.72×(1.46)/(1.68)×0.42m

特 徴 D・E 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を40cm前後掘りこんでいる。覆土は明褐色土であった。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉~中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-448 (図V-304、表V-2)

位 置 F 12 **立 地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規 模** (1.70)/(1.50)×(1.80)/1.52×0.28m

特 徴 D・E 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30cm前後掘りこんでいる。覆土は下部しか残されていなかったが、ローム質土を主体とした。

時 期 出土遺物(円筒上層a式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-449 (図V-305、表V-2)

位 置 E 12 **立 地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（フラスコ状土坑） **規模** $(1.10)/(1.05) \times (0.65)/(0.65) \times 0.28 \text{ m}$

特徴 D・E 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたと推測する。坑底は段丘砂礫層を数cm前後掘りこんでいる。覆土は下部しか残されていなかったが、ローム質土を主体とした。

時期 出土遺物（円筒上層式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-451（図V-305・306、表V-2）

位置 G 12 **立地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（フラスコ状土坑） **規模** $(1.50)/(1.50) \times (1.70)/(1.70) \times 0.70 \text{ m}$

特徴 初期に設定したメイントレンチにおいて確認した。構築面は削平されているとみられるが、ソフトローム層中ないしその上位の褐色盛土層直下から構築されたと推測する。土坑の上位は、暗褐色（にぶい黄褐色）の盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を50cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質土主体で、下部にハードローム層粘土由来土層を挟む。また、最下部には薄く黒褐色土が堆積した。重複状況から、P-7・203より古い。

時期 出土遺物（円筒下層式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-455（図V-307、表V-2）

位置 E・F 10 **立地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形（フラスコ状土坑） **規模** $(0.78)/(0.56) \times (0.22)/(0.26) \times 0.38 \text{ m}$

特徴 E 10区はH-2・9・17の境界部分であり、H-17壁面で土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたと推測する。坑底は段丘砂礫層を10cm前後掘りこんでいる。覆土は明褐色土・にぶい褐色土・橙色土であった。

時期 出土遺物（円筒下層式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-483（図V-307、表V-2）

位置 G 13・14 **立地** 上面削平のため不明

平面形 円形？（大型フラスコ状土坑） **規模** $(1.30)/(2.20) \times (0.36)/(0.84) \times 0.904 \text{ m}$

特徴 G 13・14区の調査区南壁際から検出している。G 13・14区の盛土遺構の調査終了後、H-131の調査中に床面に褐色土の半円形の広がりを確認した。上面をH-131に削平されている。H-131の調査終了後、半截して北側の調査を行ったところ、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。南側のほとんどが調査範囲外であるためセンターピットの有無などは不明である。底面は平坦な円形と考えられ、径は2mを超える大型のフラスコ状土坑である。覆土は15層に分層した。覆土1～13層は流れ込みと壁面の崩落土、覆土14・15層は埋め戻しと考えられる。底面から礫、覆土から土器（円筒土器上層式）、両面調整石器・すり石・たたき石などの石器が出土している。

時期 H-131（見晴町式）に切られていることや出土遺物から縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。（酒井）

P-509 (図V-308、表V-2)

位置 G15 **立地** 上面削平のため不明

平面形 円形? (大型フラスコ状土坑) **規模** $(1.66)/(1.82) \times (0.68)/(0.98) \times 0.839 \text{ m}$

特徴 G15区の調査区南壁際から検出している。H-135調査中に東側底面に半円形の褐色の広がりを確認した。H-135の調査終了後、調査区南壁をメインセクションとして掘り進めたところ、平坦な底面と壁面の立ち上がりを検出したことから、土坑であることを確認した。上部がH-135、東側がP-297に削平され、南側の半分以上が調査範囲外のためはっきりと判別できないが、フラスコ状土坑の可能性がある。中央ビットの有無などは不明である。覆土は2層に分層した。流れ込み土と考えられる。覆土から石礫・石斧などの石器が出土している。

時期 縄文時代中期中葉のP-297に切られていることから、縄文時代前期後半～中期中葉と考えられる。(酒井)

P-519 (図V-308、表V-2)

位置 G12・13 **立地** 標高19.4m付近

平面形 円形? (大型フラスコ状土坑) **規模** $(2.64)/(2.58) \times (0.88)/(0.84) \times 0.407 \text{ m}$

特徴 G12・13区の調査区南壁際からP-400に切られる半円形の褐色土の広がりを確認した。P-400の調査終了後、調査区南壁をメインセクションとして掘り進めたところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。南側の半分以上が調査範囲外にあることから、中央ビットの有無などは不明である。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。東側は攪乱されている。覆土は7層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。(酒井)

P-546 (図V-309、表V-2)

位置 E12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形 (中型フラスコ状土坑) **規模** $1.62/1.52 \times 1.42/1.36 \times 0.18 \text{ m}$

特徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を数cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質土を主体としたものであった。なお、坑底から2基の浅い柱穴状の窪みが検出された。上位から掘りこまれた可能性もあるが、土坑に伴うものとして記録した。

時期 出土遺物 (円筒上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-569 (図V-309、表V-2)

位置 F12 **立地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形 (小型フラスコ状土坑) **規模** $1.52/1.38 \times (1.08)/(1.04) \times 0.07 \text{ m}$

特徴 令和元年度、G11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に重複している可能性が高かったため、遺構が確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。構築面は削平されているが、ソフトローム層から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30cm前後掘りこんでいる。覆土には白い褐色土～橙色土。坑底で柱穴が確認されたために、本土坑

に伴うものとして記載した。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-570 (図V-309、表V-2)

位 置 E・F 12 **立 地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規 模** $1.94/1.82 \times (1.84)/(1.76) \times 0.15$ m

特 徴 令和元年度、G 11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に重複している可能性が高かったため、遺構の落ち込みが確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質の明褐色土。

時 期 出土遺物(円筒上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-571 (図V-310、表V-2)

位 置 E・F 11・12 **立 地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規 模** $1.86/(1.46) \times 1.84/1.12 \times 1.04$ m

特 徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出された。F 12杭周辺に特に柱穴状土坑は集中していたが、その下位からフラスコ状土坑が検出された。構築面は削平されているが、残りの状況からハードローム層中から構築したものと推測する。坑底は段丘砂礫層を105cm前後掘りこんでいる。覆土は下部が焼土ブロックを含むにぶい褐色土で、山状に堆積していた。中部は粘質のローム土を基調とし、上部はややボソボソのローム土を基調とした。最上部は上位に遺構が構築されたために、土質が締まったローム土を基調とした。

時 期 出土遺物(円筒上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-572 (図V-310・311、表V-2)

位 置 G 12 **立 地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(フラスコ状土坑) **規 模** $(1.10)/(1.10) \times (1.10)/(1.10) \times 0.78$ m

特 徴 初期に設定したメイントレンチにおいて確認した。構築面は削平されているとみられるが、ソフトローム層中ないしその上位の褐色盛土層直下から構築されたものと推測する。土坑上位は、暗褐色(にぶい黄褐色)の盛土層に覆われていた。坑底は段丘砂礫層を40cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質土と暗褐色土の互層堆積。重複状況から、P-202より古い。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-585 (図V-312、表V-2)

位 置 C・D 12 **立 地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(中型フラスコ状土坑) **規 模** $1.92/1.86 \times (1.78)/(1.88) \times 0.42$ m

特 徴 調査最終段階で確認した。構築面は削平されているとみられるが、ソフトローム層中ないしその上位の褐色盛土層直下から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を20cm前後掘りこんでいる。覆土は上部が段丘砂礫層を、下部がハードローム層を主体とした。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-592 (図V-313、表V-2)

位置 D12 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形 (フラスコ状土坑) **規模** $(0.84) / (0.60) \times (0.84) / (0.76) \times 0.42 \text{ m}$

特徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。なお、本土坑に関しては、メイントレンチでの調査過程で、断面で検出されたものである。構築面は削平されているが、ソフトローム層の中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を数cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質土を主体としたものであった。

時期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-593 (図V-312、表V-2)

位置 A9 **立地** 標高18.8m付近の平坦面

平面形 円形 (中型フラスコ状土坑) **規模** $1.90 / 1.77 \times (0.70) / (0.58) \times 0.44 \text{ m}$

特徴 H-9調査終了後、床面で検出された。構築面は削平されているが、ソフトローム層の中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を50cm前後掘りこんでいる。覆土はにぶい褐色土を主体としたものであった。中位にはローム質土の薄層が複数挟在した。

時期 出土遺物 (円筒下層d式) から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

5 柱穴状土坑 (図V-314～376、表V-2)

P-4 (図V-314、表V-2)

位置 C8 **立地** 標高19.1m付近の平坦面

平面形 円形 (大型柱穴状土坑) **規模** $0.70 / 0.35 \times (0.6) / (0.3) \times 1.0 \text{ m}$

特徴 初期に設定したメイントレンチにおいて確認した。構築面はH-3覆土中位であり、その後に堆積したH-3覆土上部が土坑部分で下方に挽んでいる。覆土は堅密度が弱く、一部で壁の崩落土が認められるため、柱穴内に残った柱が腐食しながら堆積したものとみられる。

時期 出土遺物は見晴町式であったが、榎林式 (新) のH-18を切っていることから縄文時代中期後葉と考えられる。(福井)

P-38 (図V-315、表V-2)

位置 C13 **立地** 標高19.4m付近のP-91覆土

平面形 楕円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $0.30 / 0.20 \times 0.32 / 0.22 \times 0.412 \text{ m}$

特徴 P-91の覆土から褐色土の広がりを確認した。半截して調査を行ったところ、P-91を切り、P-279に切られた柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻しと考えられる。覆土から土器 (サイベ沢Ⅶ式)、たたき石・剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。(酒井)

P-41 (図V-315、表V-2)

位置 B14 **立地** 標高20.3m付近

平面形 円形 (大型柱穴状土坑) **規模** $1.64 / 1.18 \times 1.52 / 1.10 \times 0.928 \text{ m}$

特徴 H-26の調査中に床面から壁面にかけて褐色土の広がりを検出した。H-26床面を精

査したところ、P-42を切る円形の遺構を確認した。半截して調査を進めたところ、柱穴状の遺構で、P-66が入れ子状にP-41を切っていることが分かった。規模から考えて、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。土層は4層に分けた。埋め戻し土と考えられる。遺物は土器（円筒土器下層d式）が出土している。覆土1層の小礫集中から出土した炭化種実（クリ）の放射性炭素年代測定を行ったところ、 $3,925 \pm 20$ の測定結果を得ている。

時 期 遺構の状況や年代測定の結果から、縄文時代後期初頭と考えられる。（酒井）

P-47（図V-315、表V-2）

位 置 C 12 **立 地** 標高19.1m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規 模** $0.50/0.30 \times 0.42/0.22 \times 0.18$ m

特 徴 初期に設定したメインレンヂ下面においてに確認した。段丘砂礫層を20cm前後掘りこんでいる。ただしこの砂礫層は、P-43坑底でも確認した古い風倒木痕により持ち上がってきたものである。覆土は黒褐色土で、その上位の盛土層と類似することから、構築面は盛土層下位の可能性がある。

時 期 出土遺物（榎林式）から縄文時代中期後葉と考えられる。（福井）

P-49（図V-316、表V-2）

位 置 C 13 **立 地** 標高20.0m付近の平坦面

平面形 円形（大型柱穴状土坑） **規 模** $1.00/0.70 \times 0.75/0.62 \times 0.9$ m

特 徴 H-43調査の過程で壁面に異なる遺構を確認した。ちょうどP-48にはP-49が重複していて、H-43壁面からはにわかに状況がつかめなかったが、のちに上面から確認することで重複状況を認識した。土坑の上位は、暗褐色（にぶい黄褐色）の盛土層に覆われていた。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を65cm前後掘りこんでいた。覆土は柱痕部と根固め部に分かれた。柱痕部は、にぶい橙色～にぶい褐色土であった。根固め部は明褐色土～にぶい褐色土に段丘砂礫層由来ブロックを多量にランダムに含むもので、埋め土と認識された。掘立柱建物の柱穴と考えられる。

時 期 出土遺物は円筒土器上層式であったが、同様な大型柱穴状土坑の時期から縄文時代中期末葉～後期前葉と考えられる。（福井）

P-52（図V-316、表V-2）

位 置 B 14 **立 地** 標高20.3m付近

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規 模** $(0.76)/0.34 \times (0.66)/0.36 \times 0.856$ m

特 徴 P-41の調査中に東側壁面から褐色土の広がりを検出した。P-41調査終了後に半截したところ柱穴状の遺構であることを確認した。調査中に東側壁面を掘り抜いてしまい、P-63を完掘してしまった。遺構の状況からみてP-41・63を切って作られていると考えられる。規模から考えて、未確認の住居跡の主柱穴である可能性が考えられる。土層は6層に分けた。埋め戻し土と考えられる。5・6層は掘り方であると考えられる。遺物は出土していない。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代後期前葉と考えられる。（酒井）

P-58① (図V-317、表V-2)

位置 B12 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** $0.56/0.46 \times (0.23)/(0.20) \times 0.12$ m

特徴 H-55調査の過程で、その北側にローム質土の広がりがあるが調査区境界にかけて認められたので掘り下げた結果確認した。P-96坑底で確認し、当初はフラスコ状土坑中央の浅い土坑かと考えたが、フラスコ状土坑の中央に位置しないため別なものとした (P-58①)。断面からはP-96より古いとみられる。隣接して同規模の土坑があるが、その境界に段丘砂礫層で薄い壁があり、掘り上げた際に、古い土坑 (P-58②) が露出した壁に段丘砂礫層を貼ったものとみられる。

時期 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。 (福井)

P-58② (図V-317、表V-2)

位置 B12 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** $0.44/0.38 \times (0.30)/(0.28) \times 0.073$ m

特徴 H-55調査の過程で、その北側にローム質土の広がりがあるが調査区境界にかけて認められたので掘り下げた結果確認した。P-96坑底で確認し、当初はフラスコ状土坑中央の浅い土坑かと考えたが、フラスコ状土坑の中央に位置しないため別なものとした (P-58②)。断面からはP-96より古いとみられる。隣接して同規模の土坑があるが、その境界に段丘砂礫層で薄い壁があり、掘り上げた際に、古い土坑 (P-58②) が露出した壁に段丘砂礫層を貼ったものとみられる。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉とみられる。 (福井)

P-63 (図V-317、表V-2)

位置 B14 **立地** 標高20.4m付近

平面形 円形 (大型柱穴状土坑) **規模** $1.08/0.94 \times (1.06)/(0.92) \times 0.754$ m

特徴 P-52の調査中に東側壁面を掘り抜いてしまい、完掘してしまったため、セクション図は取っていない。平面形を確認したところ、柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の住居跡の主柱穴である可能性が考えられる。覆土から土器 (大安在B式)、スクレイパー・剥片・礫が出土している。

時期 P-52に切られていることや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。

(酒井)

P-64 (図V-318、表V-2)

位置 B・C14 **立地** 標高20.3m付近

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** $0.94/0.90 \times 0.94/0.88 \times 0.972$ m

特徴 Cライン東西メイントレンチの調査中に褐色土の広がりを検出した。トレンチ北壁をセクションとして半截したところ、柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の住居跡の主柱穴である可能性が考えられる。H-5・P-123を切って作られている。底面直上から完形のミニチュア土器 (ノダツII式) が出土している。覆土から土器 (煉瓦台式)、石錐・扁平打製石器・剥片・礫が出土している。

時期 出土している遺物 (ノダツII式) から、縄文時代中期後葉と考えられる。 (酒井)

P-72 (図V-318、表V-2)

位置 B13 立地 標高19.7m付近のH-4床面

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規模 $0.74/0.56 \times 0.76/0.46 \times 0.564\text{m}$

特徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりを見出し、P-179・180との切り合いを確認するために半載して調査を行ったところ、P-179を切り、P-180に切られる柱穴状の遺構が確認された。上面はH-4に削平されている。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴である可能性がある。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。底面から礫、覆土から土器(サイベ沢Ⅲ式)、扁平打製石器・Uフレイク・剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-85 (図V-318、表V-2)

位置 C14 立地 標高20.1m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規模 $0.64/0.42 \times 0.68/0.40 \times 0.786\text{m}$

特徴 Cライトレンチを調査中に、褐色土の広がりを確認した。半載して調査を進めたところ、P-84を切る柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴である可能性がある。土層は4層に分けた。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器上層式)、礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-88 (図V-319、表V-2)

位置 B14 立地 標高20.7m付近

平面形 円形(大型柱穴状土坑) 規模 $(1.14)/0.96 \times (0.96)/1.08 \times 1.269\text{m}$

特徴 P-82の調査中に東側壁面に褐色土の広がりを検出した。P-82の調査終了後に半載して調査を進めたところ、円形の平坦な底面と壁面の立ち上がりを確認したことから、柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。土層は8層に分けた。覆土1層は盛土、覆土2～8層は埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(煉瓦台式)、たたき石・Rフレイク・剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-89 (図V-319、表V-2)

位置 C13 立地 標高20.2m付近

平面形 円形(大型柱穴状土坑) 規模 $(1.48)/(0.86) \times (1.18)/(0.82) \times 0.687\text{m}$

特徴 H-4の調査にあたり南側壁面に褐色土の広がりを検出した。H-25の床面にP-86、北壁からP-26を検出していたことから、これらの切り合い関係を把握するためにセクションを設定した。西側を半載して調査を進めたところ、H-4・盛土遺構に切られ、P-26を切っていることが判明した。平坦で円形の底面と壁面の立ち上がりを確認したことから、柱穴状の遺構であると考えられる。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。P-89上部は盛土遺構の構築前の地形改変、北側はH-4によって削平されている。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土2層と覆土3層の層界から遺物が出土している。覆土

から土器（榎林式）、石鏃・石斧・たたき石などが出土している。

時期 H-4（煉瓦台式）・盛土遺構に切られP-26を切って作られていることや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-94（図V-320、表V-2）

位置 B13 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規模** $0.28/0.19 \times (0.28)/(0.16) \times 0.25$ m

特徴 H-54調査の過程で、その南側にローム質土の広がりが見られたので掘り下げた結果確認した。断面からはH-54より新しいとみられる。

時期 出土遺物（サイベツⅦ式）から縄文時代中期中葉と考えられる。（福井）

P-95（図V-320、表V-2）

位置 B12・13 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（大型柱穴状土坑） **規模** $0.73/0.69 \times 0.67/0.57 \times 0.83$ m

特徴 H-54調査の過程で、その南側にローム質土の広がりが見られたので掘り下げた結果確認した。覆土は柱痕部と根固め（掘り方）部に分かれた。柱痕部は、上部に黒褐色土・暗褐色土が堆積し、最終的な窪みを埋めたものと認識する。中部にはぶい褐色土で、下部との境界に薄い炭層があり、その上位には焼土ブロックが認められた。下部は褐色土で、段丘砂礫層ブロックを含んでいた。以上から、柱を抜いた後、急急に埋められたものと考えられる。根固め部は段丘砂礫層由来土で、明確に埋め土と認識されるものであった。H-54を切っており、それより明確に新しい。また、上位の盛土遺構よりは古いものとみられる（現場段階で混乱してP-142を再度付してしまった。）。掘立柱建物を構成するものと考えられる。

時期 出土遺物は榎林式であったが、同様な大型柱穴状土坑の時期から縄文時代中期末葉～後期前葉と考えられる。（福井）

P-105（図V-321、表V-2）

位置 B13 **立地** 標高20.7m付近のH-52床面

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規模** $0.80/0.68 \times 0.66/0.36 \times 0.838$ m

特徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりを多数確認した。H-4HP17の調査で掘りすぎた部分がP-105の覆土と考えられたことから、半截したところ掘り方とみられる段差のある柱穴状の遺構を確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。覆土は2層に分層した。覆土1層は柱が抜けた後に入れられた埋め戻し土、覆土2層は掘りかたと考えられる。覆土からは土器（榎林式）、剥片・礫が出土している。

時期 H-4（煉瓦台式）に切られていることや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-106（図V-321、表V-2）

位置 B13 **立地** 標高19.7m付近のH-4床面～壁面

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規模** $0.76/0.44 \times 0.70/0.48 \times 1.078$ m

特徴 H-4を調査中に床面～壁面にかけて円形の褐色土の広がりを検出した。H-4に切ら

れていることから、H P ではないと判断した。また、H P 12・24・29に切られている。半載して調査を進めたところ、底面中央に円形の浅い凹みのある底面がある円形の柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。覆土は3層に分層した。覆土1層は柱が抜けた後に入れられた埋め戻し土、覆土2・3層は掘りかたと考えられる。覆土からは土器（榎林式）、加工痕のある礫・剥片・礫が出土している。

時 期 H-4（煉瓦台式）に切られていることや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-120（図V-322、表V-2）

位 置 B 12 **立 地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規 模** $0.28/0.19 \times (0.16)/(0.11) \times 0.56 \text{ m}$

特 徴 P-96調査過程で、その東側に落ち込みが認められたので掘り下げた結果確認した。

時 期 構築状況から縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。（福井）

P-121（図V-322、表V-2）

位 置 E 14 **立 地** 標高20.5m付近

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規 模** $0.58/0.46 \times 0.52/0.38 \times 0.755 \text{ m}$

特 徴 B 14区の14ライン南北トレンチにおいて柱穴状の断面を確認した。トレンチ壁面をセクションとして半載して調査を進めたところ、盛土遺構の上位から掘られた底面の平坦な柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。覆土は4層に分層した。流れ込み土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 盛土遺構の上位から検出されていることなどから縄文時代中期後葉～後期初頭と考えられる。（酒井）

P-139（図V-322、表V-2）

位 置 B 13・14 **立 地** 標高20.2m付近

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規 模** $0.76/0.34 \times 0.64/0.34 \times 0.927 \text{ m}$

特 徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりをも多数確認した。P-166・179・180との切り合いを確認するために半載して調査を行ったところ、掘り方のある柱穴状の遺構を確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。P-107・166・179・180・194を切って作られている。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは土器（榎林式）、剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-142（欠番）→P-95と同

P-143（図V-323、表V-2）

位 置 B 13 **立 地** 標高19.7m付近のH-4床面～壁面

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規模** 0.62/0.40×0.60/0.40×1.025 m

特徴 B13区の調査区北壁際から検出されている。H-4調査中に北側床面から壁面にかけ褐色土の広がりを確認した。P-122の半截と合わせて南側の調査を行い、P-122を切って作られた柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の支柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。覆土は1層に分層した。流れ込みと考えられる。覆土から石鉄・たたき石・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-145（図V-323、表V-2）

位置 C13 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規模** 0.29/0.12×0.29/0.13×0.20 m

特徴 C13区はフラスコ状土坑検出のために段丘砂礫層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群が検出された。なお、調査工程の都合で断面図の記載は省略した。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉の可能性がある。（福井）

P-146（図V-323、表V-2）

位置 C13 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規模** - m

特徴 C13区はフラスコ状土坑検出のために段丘砂礫層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群が検出された。なお、調査工程の都合で断面図の記載は省略した。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉の可能性がある。（福井）

P-147（図V-324、表V-2）

位置 B・C10 **立地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規模** 0.29/0.29×0.25/0.19×0.41 m

特徴 H-1調査の過程で、ローム質土の広がりが認められたので掘り下げた結果、P-81の断面で確認した。覆土下部には炭化クリが埋積されていた。上部は炭化物や焼土ブロックのほか、ロームブロックを多く含んでおり、埋められたものとみられる。周囲には柱穴状土坑が散在しており、H-1以前の堅穴住居に由来するものとみられたが、各々の関係性は不明確であった。覆土下部層をフローテーション選別したところクリ子葉片708点が得られた。

時期 覆土出土クリの年代測定結果は、4129±19yrBP（PLD-44911）であったので、中期後葉とみられる。（福井）

P-149（図V-324、表V-2）

位置 C13 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規模** 0.78/0.44×0.75/0.54×0.86 m

特徴 C13区はフラスコ状土坑検出のために段丘砂礫層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群が検出された。覆土は柱痕部と根固め（掘り方）部に分かれた。柱痕部は、調査工程の都合で断面図記載は省略した。根固め部はにぶい褐色土で、段丘砂礫層由来ブロックを多く含み、明確に埋め土と認識されるものであった。掘立柱建物を構成するものと考えられる。

時期 出土遺物（円筒土器下層式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-151（図V-323、表V-2）

位置 C13 立地 標高198m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.41/0.24 \times 0.35/0.20 \times 0.26$ m

特徴 C13区はフラスコ状土坑検出のために段丘砂礫層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群が検出された。覆土は明褐色土で、段丘砂礫層由来ブロックを含んだ。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉の可能性がある。（福井）

P-163（図V-325、表V-2）

位置 C13・14 立地 標高199m付近

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.42/0.40 \times 0.38/0.34 \times 0.239$ m

特徴 H-33の調査終了後、C13・14区の調査を進めていたところ、P-84・85・169とともに褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。P-85を切って作られている。H-33のHPであった可能性も考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。（酒井）

P-166（図V-325、表V-2）

位置 B14 立地 標高199m付近

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.48/0.28 \times 0.46/0.28 \times 1.021$ m

特徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりを多数確認した。P-139に切られる円形の広がりを半載して調査を行ったところ、掘り方のある柱穴状の遺構を確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（榎林式）、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-169（図V-325、表V-2）

位置 C14 立地 標高198m付近

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $(0.30)/(0.22) \times (0.28)/(0.22) \times 0.442$ m

特徴 H-33の調査終了後、C13・14区の調査を進めていたところ、P-84を切り、P-85に切られる褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。H-33のHPであった可能性も考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。（酒井）

P-176（図V-326、表V-2）

位置 B13 立地 標高20.1m付近

平面形 円形（中型柱穴状土坑） 規模 $0.94/0.80 \times 0.60/0.24 \times 0.808$ m

特徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりを多数確認した。P-105の北

側から検出した落ち込みを半載して調査を行ったところ、柱穴状の遺構を確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は7層に分層した。覆土1～6層は埋め戻し土、覆土7層は掘り上げ土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-179 (図V-326、表V-2)

位 置 B13 **立 地** 標高20.2m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) **規 模** $0.58/0.30 \times 0.46/0.30 \times 0.843\text{m}$

特 徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりを多数確認した。P-139・166・180との切り合いを確認するために半載して調査を行ったところ、柱穴状の遺構を確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。P-72・180に切られている。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期後葉～後期初頭と考えられる。(酒井)

P-180 (図V-326、表V-2)

位 置 B13 **立 地** 標高20.2m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) **規 模** $0.60/0.38 \times (0.28)/(0.20) \times 0.676\text{m}$

特 徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりを多数確認した。P-139・166・179との切り合いを確認するために半載して調査を行ったところ、柱穴状の遺構を確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。P-72・179を切り、H-4に切られている。半載した際に北側を削平してしまっている。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(煉瓦台式)、たたき石・剥片・礫が出土している。

時 期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期後葉～後期初頭と考えられる。(酒井)

P-184 (図V-327、表V-2)

位 置 B13 **立 地** 標高20.1m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) **規 模** $0.98/0.62 \times (0.44)/(0.28) \times 0.564\text{m}$

特 徴 B13区の盛土遺構の調査終了後、調査区北側壁際でH-80を切る半円形の褐色土の広がりを確認した。調査区北壁をセクションにして半載したところ、柱穴状の遺構を確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は6層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からRフレイク・Uフレイク・扁平打製石器、剥片・礫が出土している。

時 期 検出された土層から、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-185 (図V-327、表V-2)

位 置 B13・14 **立 地** 標高20.1m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) **規 模** $0.60/0.50 \times (0.42)/(0.40) \times 0.238\text{m}$

特 徴 B13・14区の盛土遺構の調査終了後、調査区北側壁際でH-80を切る半円形の褐色土の広がりを確認した。調査区北壁をセクションにして半載したところ、柱穴状の遺構を確認した。規

模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 検出された土層から、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-188 (図V-328、表V-2)

位置 C 13 立地 標高19.8m付近のP-165底面

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規模 $0.60/0.32 \times 0.52/0.34 \times 0.677$ m

特徴 P-165の底面に褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は6層に分層した。埋め戻し土と考えられる。上部をP-165、北側をP-189に切られている。覆土から加工痕のある礫・剥片・礫が出土している。

時期 遺構の切り合いから縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-189 (図V-328、表V-2)

位置 C 13 立地 標高19.8m付近のP-165底面

平面形 楕円形(中型柱穴状土坑) 規模 $0.62/0.42 \times 0.54/0.38 \times 0.512$ m

特徴 P-165の底面に褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は5層に分層した。埋め戻し土と考えられる。上部をP-165に切れ、P-188の北側を切っている。覆土から礫が出土している。

時期 遺構の切り合いから縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-194 (図V-328、表V-2)

位置 B 13 立地 標高20.2m付近

平面形 不明(中型柱穴状土坑) 規模 $0.56/0.26 \times -/- \times 0.340$ m

特徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりを多数確認した。P-139・179・180の切り合いを確認するために半載して調査を行ったところ、これらに切られる別の柱穴状の遺構が確認された。断面は確認できなかった。遺物は出土していない。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期後葉～後期初頭と考えられる。(酒井)

P-208 (図V-329、表V-2)

位置 E・F 15 立地 標高20.3m付近

平面形 円形(大型柱穴状土坑) 規模 $(1.36)/(1.02) \times (1.28)/(0.68) \times 1.264$ m

特徴 E・F 15区を調査中に褐色土の広がりの集まりを検出したことから、切り合い関係が判るように半載して調査を進めたところ、柱穴状の遺構の断面とそれらに切られるフラスコ状土坑の断面を確認した。断面を精査したところP-208がP-237を切り、さらにこれらがP-238を切って構築されていることが分かった。この半載の際にP-208・237の北側底面を削平してしまっている。P-208は規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくはP-283・291・292・296・299とともに掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は7層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(榎林式)、スクレイパー・凹み石・加工痕のある礫・剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-234 (図V-329、表V-2)

位置 B13・14 **立地** 標高20.1m付近

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** $0.66/0.24 \times 0.56/0.28 \times 0.772m$

特徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりをも多数確認した。P-106の南側に検出された褐色土の広がりを半載して調査を行ったところ、掘り方のある柱穴状の遺構が確認された。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。P-42を切って作られている。覆土は9層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは土器(複林式)、石礫・すり石・剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-237 (図V-330、表V-2)

位置 E・F15 **立地** 標高20.3m付近

平面形 円形 (大型柱穴状土坑) **規模** $1.04/0.88 \times (1.04)/0.86 \times 1.343m$

特徴 E・F15区を調査中に褐色土の広がりの集まりを検出したことから、切り合い関係が判るように半載して調査を進めたところ、柱穴状の遺構の断面とそれらに切られるフラスコ状土坑の断面を確認した。断面を精査したところP-237がP-208に切られ、さらにこれらがP-238を切って構築されていることが分かった。この半載の際にP-208・237の北側底面を削平してしまっている。P-237は規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は6層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期後葉～後期初頭と考えられる。(酒井)

P-239 (図V-330、表V-2)

位置 B・C13 **立地** 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** $0.72/0.56 \times 0.64/0.58 \times 0.619m$

特徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを検出したことから、半載して調査を進めたところ、H-4のHP32断面、これに切られるP-239断面とP-239に切られるP-247断面を検出した。断面から柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくはH-4の古い時期のHPである可能性が考えられる。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器上層式)、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-247 (図V-330、表V-2)

位置 B・C13 **立地** 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** $0.90/0.72 \times (0.82)/(0.70) \times 0.532m$

特徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを検出したことから、半載して調査を進めたところ、H-4のHP32の断面、これに切られるP-239の断面とP-239に切られるP-247の断面を検出した。断面から柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認住居跡の主柱穴もしくはH-4の古い時期のHPである可能性が考えられる。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器上層式)、剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。

(酒井)

P-249 (図V-331、表V-2)

位 置 B・C 13 立 地 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) 規 模 $0.46/0.36 \times (0.40)/(0.30) \times 0.526\text{m}$

特 徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを出したことから、半截して調査を進めたところ、H-4のHP32の断面、これに切られるP-239の断面とP-239に切られるP-247の断面を検出した。P-239の調査を進めたところ、別遺構と切り合っていたことが分かった。P-239を完掘した際に同時に完掘したため、断面のセクションはとっていない。完掘の状況から柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくはH-4の古い時期のHPである可能性が考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。

(酒井)

P-250 (図V-331、表V-2)

位 置 B 13 立 地 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) 規 模 $0.50/0.36 \times (0.42)/(0.30) \times 0.473\text{m}$

特 徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを出したことから、半截して調査を進めたところ、H-4のHP6・7・46の断面、P-245・250・251・253の断面を検出した。断面から柱穴状の遺構であることを確認した。P-250はH-4のHP7に切られ、P-245に切られて作られている。規模から考えると、未確認の住居跡の柱穴もしくはH-4のHPである可能性が考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。

(酒井)

P-251 (図V-331、表V-2)

位 置 B 13 立 地 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) 規 模 $(0.90)/0.42 \times (0.82)/0.52 \times 0.856\text{m}$

特 徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを出したことから、半截して調査を進めたところ、H-4のHP6・7・46の断面、P-245・250・251・253の断面を検出した。断面から柱穴状の遺構であることを確認した。P-251はH-4のHP6に切られ、P-253を切って作られている。規模から考えると、未確認住居跡の主柱穴もしくはH-4のHPである可能性が考えられる。覆土は5層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。

(酒井)

P-252 (図V-332、表V-2)

位 置 B・C 13 立 地 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) 規 模 $0.44/0.32 \times (0.44)/0.30 \times 0.544\text{m}$

特 徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを出したことから、半截して調査を進めたところ、H-4のHP8の断面、これに切られるP-255の断面とP-255を切るP-252の断面を検出した。断面から柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴も

しくはH-4のHPである可能性が考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器上層式)、剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-253 (図V-332、表V-2)

位 置 B13 立 地 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 不明(中型柱穴状?) 規 模 $(0.58) / (0.36) \times - / - \times 0.223\text{m}$

特 徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを検出したことから、半載して調査を進めたところ、H-4のHP7・46の断面、P-245・250・251・253の断面を検出した。P-253はP-245・254に切られ、P-251を切って作られている。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片が出土している。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-254 (図V-332、表V-2)

位 置 B・C13 立 地 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形(大型柱穴状土坑) 規 模 $1.00 / 0.78 \times 0.96 / 0.70 \times 0.573\text{m}$

特 徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを検出したことから、半載して調査を進めたところ、P-253を切る柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の柱穴もしくはH-4のHPである可能性が考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-255 (図V-333、表V-2)

位 置 B・C13 立 地 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形(大型柱穴状土坑) 規 模 $1.00 / 0.78 \times 0.96 / 0.70 \times 0.573\text{m}$

特 徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを検出したことから、半載して調査を進めたところ、H-4のHP8の断面、これに切られるP-255の断面とP-255を切るP-252の断面を検出した。断面から柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくはH-4のHPである可能性が考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-264 (図V-333、表V-2)

位 置 B13 立 地 標高19.7m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規 模 $(0.72) / (0.56) \times (0.32) / (0.30) \times 0.730\text{m}$

特 徴 B13区の盛土遺構の調査終了後、調査区北側壁際で褐色土の広がりを確認した。遺構の切り合い関係を把握するため調査区北壁をセクションにして半載したところ、H-54・P-277・278に切られ、P-122・184・265を切る柱穴状の遺構を確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と

考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 検出された土層から、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-265 (図V-333、表V-2)

位 置 B 13 立 地 標高19.3m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規 模 $(0.58)/(0.44) \times (0.24)/(0.20) \times 0.380 \text{ m}$

特 徴 B 13区の盛土遺構の調査終了後、調査区北側壁際で褐色土の広がりを確認した。遺構の切り合い関係を把握するため調査区北壁をセクションにして半載したところ、H-54・P-264に切られ、P-122を切る柱穴状の遺構を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 検出された土層から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-266 (図V-334、表V-2)

位 置 B 13 立 地 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.46/0.30 \times 0.42/0.26 \times 0.784 \text{ m}$

特 徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを検出したことから、半載して調査を進めたところ、P-268を切るP-266の断面を検出した。断面から柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくはH-4のHPである可能性と考えられる。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-268 (図V-334、表V-2)

位 置 B 13 立 地 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.42/0.24 \times (0.32)/(0.28) \times 0.467 \text{ m}$

特 徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを検出したことから、半載して調査を進めたところ、東側上部をH-4のHF1に削平され、西側をP-266に切られるP-268の断面を検出した。断面から柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の柱穴もしくはH-4のHPである可能性と考えられる。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-275 (図V-334、表V-2)

位 置 B・C 13 立 地 標高19.9m付近

平面形 不明(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.30/0.20 \times 0.28/0.20 \times 0.233 \text{ m}$

特 徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりを多数確認した。C 13杭の西側で褐色土の広がりを検出した。半載して調査を行ったところ、柱穴状の遺構を確認した。未確認の住居跡の柱穴の可能性はある。遺物は出土していない。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-277 (図V-335、表V-2)

位置 B13 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $(0.48)/(0.26) \times (0.18)/(0.12) \times 0.640\text{m}$

特徴 B13区の盛土遺構の調査終了後、調査区北側壁際で褐色土の広がりを確認した。遺構の切り合い関係を把握するため調査区北壁をセクションにして半截したところ、P-184に切られ、P-264・278を切る柱穴状の遺構を確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 検出された土層から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-278 (図V-335、表V-2)

位置 B13 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** $(0.50)/(0.18) \times (0.20)/(0.14) \times 0.790\text{m}$

特徴 B13区の盛土遺構の調査終了後、調査区北側壁際で褐色土の広がりを確認した。遺構の切り合い関係を把握するため調査区北壁をセクションにして半截したところ、H-54・P-184に切られ、P-264・265を切る柱穴状の遺構を確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 検出された土層から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-279 (図V-335、表V-2)

位置 C13 **立地** 標高19.7m付近のP-91覆土

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $0.34/0.22 \times 0.32/0.20 \times 0.628\text{m}$

特徴 P-91・256を半截して調査したところ、断面に柱穴状の断面が検出されたことから、P-91を切って作られた柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴である可能性が考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器上層式)、礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-283 (図V-336、表V-2)

位置 F14 **立地** 標高20.3m付近

平面形 円形 (大型柱穴状土坑) **規模** $1.36/0.72 \times 1.12/0.66 \times 1.496\text{m}$

特徴 F14区を調査中に褐色土の円形の広がりが連なって検出された。切り合い関係を把握できるように半截したところ、P-283のほかP-114・287・289・378を確認した。掘り進めたところ、掘り方があり底面に円形の凹みのある大型の柱穴を確認した。P-287・289を切って作られている。P-208・291・292・296・299とともに掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は8層に分層した。覆土1～8層は流れ込み土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器上層a式)、Uフレイクや剥片・礫のほか三脚石器が出土している。

時期 他遺構との切り合いや三脚石器が出土していることから、縄文時代中期後葉～後期初頭と考えられる。(酒井)

P-287 (図V-336、表V-2)**位置** F 14 **立地** 標高20.3m付近**平面形** 不明(中型柱穴状?) **規模** (0.60)／(0.44)×－／－×0.939m

特徴 F 14区を調査中に褐色土の円形の広がりが見え、切り合い関係を把握できるように半載したところ、P-287のほかP-114・283・289・378を確認した。掘り進めたところ、P-283に大半を削平されてしまひ三日月状に残された柱穴とみられる遺構を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-290 (図V-337、表V-2)**位置** F 14・15 **立地** 標高20.0m付近**平面形** 円形(小型柱穴状土坑) **規模** 0.26／0.22×0.24／0.18×0.442m

特徴 F 15区を調査中にF 15杭の南側で褐色土の広がりが見え、切り合い関係を把握できるように半載して掘り進めたところ、P-293を切る柱穴状遺構を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは石槍・剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-291 (図V-337、表V-2)**位置** F 14・15 **立地** 標高20.0m付近**平面形** 円形(大型柱穴状土坑) **規模** 1.24／0.72×1.12／0.82×1.014m

特徴 F 15区を調査中にH-136を切る褐色土の広がりが見え、切り合い関係を把握できるように半載して掘り進めたところ、H-136を切る柱穴状の遺構を確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴もしくはP-208・283・292・296・299とともに掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは土器(Ⅲb～Ⅳa)、台石・剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-292 (図V-337、表V-2)**位置** F 14・15 **立地** 標高19.9m付近**平面形** 円形(中型柱穴状土坑) **規模** 0.92／0.82×0.84／0.82×1.388m

特徴 F・G 14・15区を調査中にG 15杭付近から多数の褐色土の広がりが見え、精査したところP-292がP-306・457・464を切って構築されていることが分かったことから、半載して掘り進めたところ柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴もしくはP-208・283・291・296・299とともに掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は10層に分層した。覆土1～8層は流れ込み土、覆土9・10層は埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(ⅢB～ⅣA)、すり石・たたき石などの石器、剥片・礫のほか線刻礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-296 (図V-338、表V-2)

位置 G 14・15 **立地** 標高19.9m付近

平面形 円形 (大型柱穴状土坑) **規模** 1.02/0.66×0.98/0.64×1.119m

特徴 G 14・15区を調査中にG 15杭付近から多数の褐色土の広がりを検出した。精査したところP-296がP-300・303・344を切って構築されていることが分かったことから、半截して掘り進めたところ掘り方のある柱穴状の遺構であることを確認した。底面中央に円形の凹みが見られる。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴もしくはP-208・283・291・292・299とともに掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は10層に分層した。覆土1～5層は流れ込み土、覆土6～10層は埋め戻し土と考えられる。覆土から石核・たたき石、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-299 (図V-338、表V-2)

位置 G 15 **立地** 標高19.9m付近

平面形 円形 (大型柱穴状土坑) **規模** 1.00/0.36×0.98/0.42×0.994m

特徴 F・G 15区を調査中に褐色土の広がりが連なって検出された。切り合い関係を把握できるように半截したところ、P-299のほかP-294・331を確認した。掘り進めたところ柱穴状の遺構であることを確認した。底面には円形の浅い凹みが検出されている。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴もしくはP-208・283・291・292・296とともに掘立柱建物の柱穴である可能性がある。P-331を切って構築されている。覆土は9層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-301 (図V-339、表V-2)

位置 F 14 **立地** 標高20.0m付近

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.28/0.24×0.26/0.20×0.316m

特徴 F 14区を調査中に褐色土の円形の広がりがP-306北側で検出した。半截したところ、柱穴状の遺構を確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の柱穴の可能性が考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器上層a式)、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期前葉と考えられる。(酒井)

P-303 (図V-339、表V-2)

位置 G 14・15 **立地** 標高19.9m付近

平面形 円形 (大型柱穴状土坑) **規模** 1.06/0.82×1.04/0.68×0.748m

特徴 G 14・15区を調査中にG 15杭付近から多数の褐色土の広がりを検出した。精査したところP-303がP-296に切られ、P-286・344を切って構築されていることが分かったことから、半截して掘り進めたところ柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から石槍・Uフレイク、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-304 (図V-339、表V-2)**位置** G 15 **立地** 標高20.0m付近**平面形** 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.74/0.82×0.68/0.78×0.444 m

特徴 G 15区を調査中に褐色土の円形の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-307 (図V-340、表V-2)**位置** D 13 **立地** 標高19.6m付近**平面形** 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.74/0.54×0.58/0.50×0.400 m

特徴 H-25を調査中に西側壁面から褐色土の広がりが連なって検出された。H-25の調査終了後、切り合い関係が判るように半載して掘り進めたところ、P-307がP-425を切り、H-25・P-424に切られる柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴である可能性がある。覆土は5層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器 (サイベ沢Ⅶ式)、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期中葉と考えられる。(酒井)

P-311 (図V-340、表V-2)**位置** E 14 **立地** 標高20.0m付近のP-207覆土**平面形** 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.52/0.38×0.54/0.34×0.661 m

特徴 P-207を半載した際に断面から柱穴状の遺構を確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴や掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは土器 (円筒土器上層C～D式)、スクレイパー・剥片が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-312 (図V-340、表V-2)**位置** D・E 14 **立地** 標高20.0m付近**平面形** 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.54/0.42×(0.42)/(0.38)×0.556 m

特徴 E 14杭東側から褐色土の広がりが集まっているのを検出した。切り合い関係が判るように半載したところ、P-312がP-315に切られる柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-315 (図V-341、表V-2)**位置** D・E 14 **立地** 標高20.0m付近**平面形** 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.46/0.32×0.46/0.28×0.907 m

特徴 E 14杭東側から褐色土の広がりが集まっているのを検出した。切り合い関係が判るよ

うに半載したところ、P-315がP-312を切る柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-316 (図V-341、表V-2)

位 置 E 14 立 地 標高20.0m付近のP-205覆土

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.34/0.22 \times 0.30/0.22 \times 0.904\text{m}$

特 徴 P-205を半載した際に断面で柱穴状の遺構を確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴や掘立柱建物の柱穴である可能性と考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-317 (図V-341、表V-2)

位 置 E・F 14 立 地 標高20.0m付近

平面形 円形?(中型柱穴状?) 規 模 $0.88/0.70 \times (0.32)/(0.26) \times 0.362\text{m}$

特 徴 E 14区の調査中に多数の褐色土広がりを検出した。切り合い関係を把握するために半載して調査を進めたところ、P-285の壁面に褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたところP-285に切られて三日月状に残存した柱穴状の遺構を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-318 (図V-342、表V-2)

位 置 G 14 立 地 標高20.3m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規 模 $0.52/0.48 \times (0.24)/(0.20) \times 0.985\text{m}$

特 徴 G 14区の調査区南壁際から検出している。P-298の調査中に底面から半円形の広がりを検出した。中央ピットかと思われたが、断面にP-285覆土を切る柱穴状の断面が確認できたことから、別遺構と分かった。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴や掘立柱建物の柱穴である可能性と考えられる。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-319 (図V-342、表V-2)

位 置 E 13・14 立 地 標高20.0m付近のP-207覆土

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.42/0.34 \times 0.42/0.32 \times 0.479\text{m}$

特 徴 P-207を切る円形の褐色土の広がりを確認した。半載したところ柱穴状の遺構を確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-321 (図V-342、表V-2)

位 置 F 14 立 地 標高20.1m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規 模 $0.52/0.32 \times 0.48/0.32 \times 0.905\text{m}$

特 徴 F 14区を調査中に褐色土の円形の広がりが出て検出された。切り合い関係を把握できるようにトレンチを入れたところ、P-289の覆土を切る黄褐色土の断面を確認した。半載して掘り進めたところ、底面の平坦な円形の柱穴状の遺構を確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の柱穴や掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは土器（円筒土器上層式）、スクレイパー・剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-322（図V-343、表V-2）

位 置 D 14 **立 地** 標高20.0m付近

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規 模** $0.52/0.36 \times (0.34)/(0.28) \times 0.606\text{m}$

特 徴 E 14杭東側から褐色土の広がりが出て検出した。切り合い関係が判るように半載したのち調査を進めたところ、P-312・315に切られる柱穴状の遺構を検出した。調査の過程で完掘したため、セクションは取っていない。覆土から石礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-324（図V-343、表V-2）

位 置 F 14 **立 地** 標高20.1m付近

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規 模** $0.68/0.58 \times 0.60/0.48 \times 0.945\text{m}$

特 徴 F 14区を調査中に褐色土の円形の広がりが出て検出された。P-324との切り合い関係を把握できるように半載して掘り進めたところ、底面の平坦な円形の柱穴状の遺構を確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の柱穴や掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。P-338を切って作られている。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは土器（榎林式）、すり石・剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-325（図V-343、表V-2）

位 置 G 14 **立 地** 標高19.8m付近

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規 模** $0.40/0.32 \times 0.36/0.28 \times 0.560\text{m}$

特 徴 P-286の西側から褐色土の円形の広がりが出て検出した。半載して掘り進めたところ、柱穴状の遺構を確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-326（図V-343、表V-2）

位 置 G 14 **立 地** 標高19.4m付近

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規 模** $0.36/0.26 \times 0.32/0.22 \times 0.158\text{m}$

特 徴 P-298の底面北側から褐色土の円形の広がりが出て検出した。半載して掘り進めたところ、柱穴状の遺構を確認した。P-326の調査で上部を削平してしまったと考えられることから、P-326がP-298を切っていると考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-327 (図V-344、表V-2)

位置 E13 **立地** 標高19.8m付近

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.74/0.52×0.70/0.48×0.532m

特徴 E13区を調査中に褐色土の円形の広がりが見え、P-339の南側から検出した円形の広がりを半載して調査を進めたところ、柱穴状の遺構を確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴である可能性が考えられる。P-380を切って作られている。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは土器(円筒土器下層式)・剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-328 (図V-344、表V-2)

位置 E13 **立地** 標高19.8m付近

平面形 楕円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.58/0.44×0.48/0.36×0.728m

特徴 E13区を調査中にE14杭付近で褐色土の円形の広がりが見えて検出された。精査したところP-328がP-333・361を切ることが分かったことから半載して調査を進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器下層式)・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-332 (図V-344、表V-2)

位置 E13 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.70/0.62×0.64/0.52×0.507m

特徴 E13区を調査中にP-333の南西で褐色土の広がりが切り合っているのを検出した。P-332が他の遺構を切っていることが確認できたので、半載して調査を進めたところ、底面の平坦な柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴や掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。P-333・384・385を切って作られている。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器下層式)・剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-334 (図V-345、表V-2)

位置 E13 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.40/0.30×0.36/0.26×0.264m

特徴 P-336の西側にP-336を切る円形の褐色土の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、柱穴状の遺構を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-335 (図V-345、表V-2)

位置 E13 **立地** 標高19.6m付近

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.46/0.26×0.44/0.30×0.175m

特徴 E13区を調査中にP-363の北側から褐色土の広がりを検出した。半載して掘り進めた

ところ、柱穴状の遺構を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-337 (図V-345、表V-2)

位 置 F 13・14 立 地 標高19.9m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.40/0.26 \times 0.32/0.26 \times 0.535$ m

特 徴 P-295を調査中に北側壁面から褐色土の広がりを出した。切り合い関係を把握するため半載すると、P-337がP-295・397を切って構築されていることが分かった。覆土中から土器破片が重ねられて出土している。掘り進めたところ柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(榎林式)・剥片・礫が出土している。

時 期 出土遺物(榎林式)や他遺構との切り合いから、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-338 (図V-345、表V-2)

位 置 F 14 立 地 標高20.1m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規 模 $0.54/0.44 \times 0.52/0.40 \times 0.470$ m

特 徴 F 14区を調査中に褐色土の円形の広がりが連なって検出された。P-324の調査中に東側で他遺構と切り合っていることが確認された。そのため半載して掘り進めたところ、底面の平坦な円形の柱穴状の遺構を確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴や掘立柱建物の柱穴である可能性と考えられる。P-324に切られて作られている。覆土は2層に分層した。流れ込み土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-346 (図V-346、表V-2)

位 置 C 12・13 立 地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.44/0.36 \times 0.42/0.32 \times 0.46$ m

特 徴 C 13区はフラスコ状土坑検出のために段丘砂礫層中まで掘り下げた。精査の結果、小型の土坑群が検出された。覆土は柱痕部と根固め(掘り方)部に分かれた。柱痕部は褐色土で、根固め部にはいり褐色土が堆積していた。根固め部には段丘砂礫層由来ブロックを含んだ。

時 期 出土遺物(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-350 (図V-346、表V-2)

位 置 D 13 立 地 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.28/0.17 \times 0.26/0.10 \times 0.24$ m

特 徴 D 13区はフラスコ状土坑検出のためにローム層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。覆土は、ハードローム層粘土層由来のいり褐色土が堆積していた。ボソボソで、柱下部が残存した状態で埋没したと推測される。

時 期 構築状況から縄文時代中期前・中葉の可能性がある。(福井)

P-353 (図V-346、表V-2)

位置 D13 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.62/0.43×0.58/0.45×0.72m

特徴 D13区はフラスコ状土坑検出のためにローム層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。覆土は柱痕部と根固め(掘り方)部に分かれた。柱痕部はにぶい褐色土で、根固め部は明褐色土が堆積していた。ともに段丘砂礫層由来ブロックを含んでいたが、根固め部により多く含まれた。

時期 出土遺物 (サイベ沢Ⅶ式) から縄文時代中期中葉と考えられる。 (福井)

P-354 (図V-346、表V-2)

位置 D13 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.48/0.36×0.22/0.16×0.62m

特徴 D13区はフラスコ状土坑検出のためにローム層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土で、しまりが悪かったので、木部が残されたままであったとみられる。

時期 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。 (福井)

P-355 (図V-346、表V-2)

位置 D13 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 1.08/0.93×0.82/0.58×0.62m

特徴 D13区はフラスコ状土坑検出のためにローム層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。覆土は明褐色土、橙色土、にぶい褐色土で、段丘砂礫層由来ブロックが層により混入率を変えながら含まれていた。各層は水平堆積しており、底部に柱痕部とみられる部分があったことから、P-353の覆土のような構造であったが、根固め部を広げるように掘りこんで柱を抜いた後に埋めたものと推測される。

時期 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。 (福井)

P-361 (図V-347、表V-2)

位置 D・E13 **立地** 標高20.0m付近

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.72/0.28×0.68/0.26×0.562m

特徴 P-333を半截したところ底面から褐色土の円形の広がりが見えて検出された。断面からP-333の覆土を切って作られた柱穴状の遺構を確認した。調査を進めたところ掘り方のある柱穴状の遺構であることが確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴や掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。半截時にP-333・381・382・401・402が底面から検出されたが、覆土を切って作られていたと考えられる。P-328・332に切られている。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器下層式)・剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。 (酒井)

P-362 (図V-347、表V-2)**位置** E 13 **立地** 標高19.8m付近**平面形** 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $0.32/0.28 \times 0.30/0.26 \times 0.301\text{m}$ **特徴** P-336の北側にP-336を切る円形の褐色土の広がりを検出した。半截して掘り進めたところ、柱穴状の遺構を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片・礫が出土している。**時期** 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)**P-365** (図V-347、表V-2)**位置** E 13 **立地** 標高19.6m付近**平面形** 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $0.48/0.38 \times 0.48/0.34 \times 0.154\text{m}$ **特徴** E 13区を調査中に褐色土の円形の広がりが検出された。半截して掘り進めたところ、柱穴状の遺構を検出した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。**時期** 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)**P-370** (図V-348、表V-2)**位置** G 12 **立地** 標高19.4m付近の平坦面**平面形** 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $0.36/0.27 \times 0.34/0.26 \times 0.08\text{m}$ **特徴** F・G 13区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。覆土は黒褐色土で明瞭であった。なお、同規模のP-372とは組み合わせられたものと推測される。**時期** 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)**P-371** (図V-348、表V-2)**位置** G 12 **立地** 標高19.4m付近の平坦面**平面形** 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $0.24/0.21 \times 0.22/0.18 \times 0.16\text{m}$ **特徴** F・G 13区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。覆土は灰褐色土でやや明瞭であった。なお、P-370と類似した覆土のため関連したものと推測される。**時期** 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)**P-372** (図V-348、表V-2)**位置** F 12 **立地** 標高19.4m付近の平坦面**平面形** 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $0.35/0.32 \times 0.34/0.28 \times 0.08\text{m}$ **特徴** F・G 13区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。覆土の上部は黒褐色土で明瞭であり、最下部は褐色土であった。なお、同規模のP-370とは組み合わせられたものと推測される。**時期** 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-373 (図V-348、表V-2)

位置 F 12 **立地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.22/0.18×0.20/0.18×0.25m

特徴 F・G 13区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部分まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。覆土の上部は黒褐色土で明瞭であり、最下部は褐色土であった。なお、なお、P-372と類似した覆土のため関連したものと推測される。

時期 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。 (福井)

P-374 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 F 12 **立地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.20/0.14×0.15/0.12×0.22m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部分まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は黒褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

P-375 (図V-352、表V-2)

位置 F 14 **立地** 標高19.8m付近

平面形 円形 (極小型柱穴状土坑) **規模** 0.18/0.14×0.18/0.14×0.210m

特徴 F 14区を調査中に褐色土の円形の広がりが見え、連なって検出された。P-338のそばから円形で褐色土の広がりを検出した。半截して掘り進めたところ、底面の平坦な円形の柱穴状の遺構を確認した。規模から考えて杭穴である可能性が考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。 (酒井)

P-378 (図V-352、表V-2)

位置 F 14 **立地** 標高20.1m付近

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.74/0.50×0.68/0.54×0.648m

特徴 F 14区を調査中に褐色土の円形の広がりが連なって検出された。切り合い関係を把握できるように半截したところ、P-378のほかP-114・283・287・289を確認した。掘り進めたところ、底面の平坦な円形の柱穴状の遺構を確認した。P-114を切って作られている。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは土器 (円筒土器上層式)・剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期中葉と考えられる。 (酒井)

P-379 (図V-352、表V-2)

位置 F 13・14 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.52/0.38×0.46/0.36×0.580m

特徴 P-295を調査中に南西側壁面から褐色土の広がりを検出した。半截して掘り進めたところ柱穴状の遺構であることを確認した。P-295との切り合い関係は不明だが、P-379が切つて

いると考えられる。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-381 (図V-353、表V-2)

位 置 E 13 立 地 標高19.6m付近のP-333底面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.38/0.24 \times 0.30/0.26 \times 0.443\text{m}$

特 徴 P-333を半載したところ底面から褐色土の円形の広がりが見え、連続して検出された。切り合い関係が判るように半載したところ、P-381がP-401・402を切って作られた柱穴状の遺構であることが分かった。P-381・382・401・402はP-333の底面から検出したが、覆土を切って作られていたと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-382 (図V-353、表V-2)

位 置 E 13 立 地 標高19.6m付近のP-333底面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.22/0.12 \times 0.20/0.14 \times 0.300\text{m}$

特 徴 P-333を半載したところ底面から褐色土の円形の広がりが見え、連続して検出された。切り合い関係が判るように半載したところ、P-382が柱穴状の遺構であることが分かった。P-381・382・401・402はP-333の底面から検出したが、覆土を切って作られていたと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-383 (図V-353、表V-2)

位 置 F 13 立 地 標高19.7m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.44/0.34 \times 0.42/0.38 \times 0.461\text{m}$

特 徴 F 13区を調査中に褐色土の円形の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(榎林式)・たつき石・剥片・礫が出土している。

時 期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-384 (図V-354、表V-2)

位 置 E 13 立 地 標高19.7m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規 模 $0.78/(0.40) \times 0.74/0.42 \times 0.753\text{m}$

特 徴 E 13区の調査中にP-333の南西で褐色土の広がりが切り合っているのを検出した。P-332の調査終了後、P-385との切り合い関係が把握できるように半載して調査を進めたところ、底面の平坦な柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の竪穴住居の主柱穴や掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。P-385を切り、P-332に切られている。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。炭化物を含んでおり、炭化したクリ種実が検出されている。覆土から土器(円筒土器下層式)・石鏃・剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-385 (図V-354、表V-2)

位置 E 13 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** $(0.96)/0.64 \times 0.82/0.54 \times 0.810\text{m}$

特徴 E 13区の調査中にP-333の南西で褐色土の広がりがあり合っているのを検出した。P-332の調査終了後、P-384との切り合い関係が把握できるように半載して調査を進めたところ、底面の平坦な柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の竪穴住居の主柱穴や掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。P-332・384に切られている。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-386 (図V-354、表V-2)

位置 D 13 **立地** 標高20.0m付近

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $0.46/0.28 \times (0.24)/(0.18) \times 0.079\text{m}$

特徴 H-25の調査中に南西側壁面に褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器下層式)・剥片が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-390 (図V-355、表V-2)

位置 F 13 **立地** 標高19.5m付近

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $0.46/0.32 \times 0.44/0.26 \times 0.235\text{m}$

特徴 F 13区を調査中に褐色土の円形の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器下層式)・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-395 (図V-355、表V-2)

位置 F 14 **立地** 標高19.5m付近のP-114底面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $0.24/0.18 \times 0.24/0.18 \times 0.141\text{m}$

特徴 P-114の底面から褐色土の円形の広がりを検出した。半載したところ柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。P-114の調査中には気づけなかったが、P-114を切って作られていると考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-397 (図V-355、表V-2)

位置 F 13 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** $0.52/0.38 \times 0.46/0.36 \times 0.580\text{m}$

特徴 P-295を調査中に北側壁面から褐色土の広がりを検出した。切り合い関係を把握するため半載すると、P-397がP-295を切りP-337に切られて構築されていることが分かった。掘り進めたところ掘り方のある柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の竪穴住居

の主柱穴である可能性が考えられる。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器上層式）が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。
(酒井)

P-399 (図V-356、表V-2)

位 置 E 13 立 地 標高19.8m付近

平面形 円形（中型柱穴状土坑） 規 模 $0.54/0.32 \times 0.50/0.32 \times 0.601\text{m}$

特 徴 P-380を半載したところ断面に柱穴状の遺構の断面を検出した。調査を進めたところ、P-380を切る柱穴であることを確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層d式）・石斧・剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。
(酒井)

P-401 (図V-356、表V-2)

位 置 E 13 立 地 標高19.5m付近のP-333底面

平面形 不明（極小型柱穴状土坑？） 規 模 $(0.12)/(0.08) \times -/- \times 0.100\text{m}$

特 徴 P-333を半載したところ底面から褐色土の円形の広がりが見えて連なって検出された。切り合い関係が判るように半載したところ、P-401がP-361・381に切られた柱穴状とみられる遺構であることが分かった。P-381・382・401・402はP-333の底面から検出したが、覆土を切って作られていたと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。
(酒井)

P-402 (図V-356、表V-2)

位 置 E 13 立 地 標高19.6m付近のP-333底面

平面形 不明（小型柱穴状土坑？） 規 模 $0.20/0.12 \times (0.08)/(0.04) \times 0.324\text{m}$

特 徴 P-333を半載したところ底面から褐色土の円形の広がりが見えて連なって検出された。P-381の調査で南側壁面から別遺構の落ち込みを確認した。P-381に切られる柱穴状の遺構とみられる。P-381の調査で一緒に完掘してしまったため、断面は確認できなかった。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。
(酒井)

P-407 (図V-349・350・351、表V-2)

位 置 E・F 12 立 地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（中型柱穴状土坑） 規 模 $0.40/0.18 \times 0.30/0.20 \times 0.82\text{m}$

特 徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は大半が段丘砂礫層由来ブロックを含む明褐色土であったが、上面はにぶい褐色土であった。F 12坑周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時 期 出土遺物は複林式であるため中期中葉と考えられるが、構築状況からは縄文時代中期前・中葉の可能性もある。
(福井)

P-410 (図V-357、表V-2)

位置 F 14 **立地** 標高20.0m付近

平面形 円形(極小型柱状土坑) **規模** $0.16/0.12 \times 0.16/0.10 \times 0.079\text{m}$

特徴 F 15区を調査中にF 15杭の南側で褐色土の広がりが見え、切り合い関係が把握できるように半載して掘り進めたところ、P-293を切る柱状の遺構を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-411 (図V-357、表V-2)

位置 F 14 **立地** 標高19.8m付近

平面形 円形(中型柱状土坑) **規模** $0.52/0.32 \times (0.36)/0.28 \times 0.573\text{m}$

特徴 P-330の南東側壁面に褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、掘り方のある柱状の遺構であることを確認した。P-330の調査で北側を削平してしまったと考えられる。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。未確認の住居跡の主柱穴である可能性がある。覆土中から剥片が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-412 (図V-357、表V-2)

位置 F 14 **立地** 標高20.0m付近

平面形 円形(中型柱状土坑) **規模** $0.52/0.32 \times (0.36)/0.28 \times 0.573\text{m}$

特徴 P-129の北側壁面に褐色土の広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、柱状の遺構であることを確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-422 (図V-358、表V-2)

位置 F 13 **立地** 標高19.6m付近

平面形 円形(小型柱状土坑) **規模** $0.46/0.38 \times 0.46/0.32 \times 0.101\text{m}$

特徴 F 13区を調査中に褐色土の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、柱状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-424 (図V-358、表V-2)

位置 D 13 **立地** 標高19.9m付近

平面形 円形(小型柱状土坑) **規模** $0.42/0.26 \times (0.38)/(0.22) \times 0.576\text{m}$

特徴 H-25を調査中に西側壁面から褐色土の広がりが連なって検出された。H-25の調査終了後、切り合い関係が判るように半載して掘り進めたところ、P-424がP-307を切っている柱状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴である可能性がある。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(椀形式)・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-425 (図V-358、表V-2)

位置 C・D 13 立地 標高19.9m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.42/0.36 \times 0.38/0.34 \times 0.592$ m

特徴 H-25を調査中に西側壁面から褐色土の広がりが見え、H-25の調査終了後、切り合い関係が判るように半截して掘り進めたところ、P-425がP-307に切られている柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴である可能性がある。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-426 (図V-359、表V-2)

位置 D 13 立地 標高19.7m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.42/0.38 \times (0.16)/(0.12) \times 0.338$ m

特徴 H-25を調査中に西側壁面から褐色土の広がりが見え、H-25の調査終了後、P-308の調査の際に完掘してしまったため、断面を取っていない。柱穴状の遺構である。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-430 (図V-359、表V-2)

位置 C 14 立地 標高19.3m付近のH-25床面

平面形 円形(中型柱穴状土坑?) 規模 $0.82/0.66 \times 0.78/0.66 \times 0.218$ m

特徴 H-25を調査中に北側床面から褐色土の広がりが見え、H-25の調査終了後、半截して調査を進めたところ、P-435を切る柱穴状の遺構であることを確認した。H-25のHPであった可能性もある。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(榎林式)、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-431 (図V-359、表V-2)

位置 C 14 立地 標高19.3m付近のH-25床面

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規模 $0.60/0.16 \times 0.60/0.18 \times 0.515$ m

特徴 H-25を調査中に北側床面から褐色土の広がりを見出し、H-25の調査終了後、半截して調査を進めたところ掘り方のある柱穴状の遺構であることを確認した。H-33のHPである可能性もある。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は土器(榎林式)が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-432 (図V-360、表V-2)

位置 C・D 13 立地 標高19.3m付近のH-25床面

平面形 円形(中型柱穴状土坑) 規模 $0.64/0.56 \times 0.62/0.52 \times 0.306$ m

特 徴 H-25を調査中に西側壁際から褐色土の広がりが見え、H-25のHP 3・30に切られていることから、調査終了後、切り合い関係が判るように半截して掘り進めたところ、P-456を切る柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。HP 3の掘り方であった可能性もある。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（榎林式）、礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-433 (図V-360、表V-2)

位 置 D 14 **立 地** 標高19.3m付近のH-25床面

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規 模** 0.56/0.44×0.52/0.42×0.230m

特 徴 H-25を調査中に床面から褐色土の広がりを検出した。半截して掘り進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。H-25のHPである可能性もある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-434 (図V-360、表V-2)

位 置 D 13 **立 地** 標高19.3m付近のH-25床面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規 模** 0.46/0.32×0.42/0.32×0.493m

特 徴 H-25の調査中に南西側壁際に褐色土の広がりが見えて、切り合い関係が判るように半截して調査を進めたところ、P-439を切る、柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（榎林式）、礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代中期後葉と考えられる。（酒井）

P-435 (図V-359、表V-2)

位 置 C 14 **立 地** 標高19.3m付近のH-25床面

平面形 円形（小型柱穴状土坑？） **規 模** 0.42/0.26×(0.20)/(0.12)×0.081m

特 徴 H-25を調査中に北側床面から褐色土の広がりが見えて、H-25の調査終了後、半截して調査を進めたところ、P-430に切られる柱穴状の遺構であることを確認した。H-25のHPであった可能性もある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-436 (図V-361、表V-2)

位 置 F 14 **立 地** 標高19.9m付近

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規 模** 0.22/0.14×0.18/0.14×0.449m

特 徴 F 14区北側を調査中に褐色土の円形の広がりを検出した。半截して掘り進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、杭穴と考えられる。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-437 (図V-361、表V-2)**位置** E・F 14 **立地** 標高19.9m付近**平面形** 円形(小型柱穴状土坑) **規模** $0.34/0.22 \times 0.30/0.20 \times 0.315\text{m}$ **特徴** E 14区南側を調査中に褐色土の円形の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、P-438を切る柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。**時期** 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)**P-438** (図V-361、表V-2)**位置** E 14 **立地** 標高19.9m付近**平面形** 円形(極小型柱穴状土坑) **規模** $0.18/0.10 \times (0.14)/(0.08) \times 0.100\text{m}$ **特徴** E 14区南側を調査中に褐色土の円形の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、P-437に切られる柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。**時期** 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)**P-439** (図V-361、表V-2)**位置** D 13 **立地** 標高19.3m付近のH-25床面**平面形** 円形(中型柱穴状土坑) **規模** $0.54/0.38 \times (0.50)/(0.28) \times 0.413\text{m}$ **特徴** H-25の調査中に南西側壁際に褐色土の広がりが連なって検出された。切り合い関係が判るように半載して調査を進めたところ、P-434・447に切られる柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。**時期** 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)**P-440** (図V-349・350・351、表V-2)**位置** E 12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面**平面形** 円形(大型柱穴状土坑) **規模** $(0.75)/(0.66) \times 0.80/0.65 \times 0.28\text{m}$ **特徴** E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は二重構造となっており、外側が掘り方、内側が柱痕とみられる。掘り方の覆土は、にぶい褐色土～橙色土であった。柱痕の覆土は、にぶい褐色土～明褐色土で、下部には段丘砂礫層由来ブロックが含まれていた。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせで住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。**時期** 出土遺物(サイバ沢Ⅶ式)から縄文時代中期中葉と考えられる。(福井)**P-445** (図V-362、表V-2)**位置** F 14 **立地** 標高19.8m付近**平面形** 円形(小型柱穴状土坑) **規模** $0.48/0.38 \times 0.44/0.36 \times 0.104\text{m}$ **特徴** F 14杭付近を調査中に褐色土の円形の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土は1

層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-446 (図V-362、表V-2)

位置 F 14 立地 標高19.8m付近

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) 規模 $0.40/0.28 \times 0.38/0.26 \times 0.161$ m

特徴 F 14杭付近を調査中に褐色土の円形の広がりを見出した。半截して掘り進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-447 (図V-362、表V-2)

位置 D 13 立地 標高19.9m付近のH-25壁際

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) 規模 $0.38/0.26 \times 0.36/0.30 \times 0.522$ m

特徴 H-25の調査中に南西側壁際に褐色土の広がりが見出された。切り合い関係が判るように半截して調査を進めたところ、P-439を切る柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器下層式)、剥片が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-456 (図V-362、表V-2)

位置 C・D 13 立地 標高19.3m付近のH-25床面

平面形 円形 (中型柱穴状土坑) 規模 $0.54/0.40 \times (0.26)/(0.18) \times 0.310$ m

特徴 H-25を調査中に西側壁際から褐色土の広がりが見出された。切り合い関係が判るように半截して掘り進めたところ、P-432に切られる柱穴状の遺構であることを確認した。P-307を切っている。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-457 (図V-363、表V-2)

位置 F・G 14・15 立地 標高19.9m付近

平面形 円形 (大型柱穴状土坑) 規模 $1.50/0.66 \times 1.28/0.58 \times 0.904$ m

特徴 F・G 14・15区を調査中にG 15杭付近から多数の褐色土の広がりを見出した。P-292・302の調査終了後に半截したところ柱穴状の遺構であることを確認した。A-A'断面下端からP-464の断面、B-B'断面下端からP-467の断面を確認したことからP-457がP-464・467を切っていることが分かった。規模から考えて、未確認の竪穴住居の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は11層に分層した。覆土1～9層は流れ込み土、覆土10・11層は埋め戻し土もしくは壁面崩落土と考えられる。覆土から土器 (大安B式)、たたき石・凹み石、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-458 (図V-363、表V-2)**位置** G 14・15 **立地** 標高19.9m付近**平面形** 円形 (大型柱穴状土坑) **規模** $1.02/0.66 \times 0.98/0.64 \times 1.119\text{m}$

特徴 G 14・15区を調査中にG 15杭付近から多数の褐色土の広がりを検出した。精査したところP-296がP-458を切って構築されていることが分かったことから、P-296の調査終了後に半截して掘り進めたところ柱穴状の遺構であることを確認した。H-128のHPの可能性もある。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からスクレイパー・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-459 (図V-364、表V-2)**位置** G 12 **立地** 標高19.3m付近の平坦面**平面形** 楕円形 (極小型柱穴状土坑) **規模** $(0.18)/(0.16) \times (0.18)/(0.12) \times 0.25\text{m}$

特徴 D・E 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。P-459はフラスコ状土坑P-429の断面で検出したものである。P-429覆土中位炭層の下位から掘りこまれたもので、覆土はにぶい褐色土と灰褐色土があった。

時期 構築状況から縄文時代中期中・後葉と考えられる。(福井)

P-460 (図V-364、表V-2)**位置** G 12 **立地** 標高19.3m付近の平坦面**平面形** 楕円形 (小型柱穴状土坑) **規模** $(0.44)/(0.38) \times (0.30)/(0.28) \times 0.22\text{m}$

特徴 D・E 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。P-460はフラスコ状土坑P-429の断面で検出したものである。P-429覆土上位から掘りこまれたもので、覆土はローム質土を主体としたが、下部に炭層を挟んでいた。

時期 構築状況から縄文時代中期中・後葉と考えられる。(福井)

P-461 (図V-364、表V-2)**位置** F 14 **立地** 標高19.8m付近のP-305覆土**平面形** 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** $0.50/0.38 \times 0.36/0.32 \times 0.598\text{m}$

特徴 F 14区を調査中にH-131・P-341に切られる褐色土の広がりを検出した。褐色土の広がりを切る円形の広がりが確認できたことから、切り合い関係を把握できるように半截したところ、P-305の覆土を切るP-461・503・504・507を確認した。P-461はP-503・504・507を切る柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。底面からたたき石、覆土から土器(円筒土器下層)、砥石・石核・剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土物から、縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-462 (図V-365、表V-2)**位置** F 12・13 **立地** 標高19.3m付近のP-398底面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) **規模** $0.18/0.06 \times 0.16/0.08 \times 0.310\text{m}$

特徴 P-398の底面から褐色土の広がりを検出した。半載すると、柱穴状の遺構であることを確認した。杭穴であると考えられる。P-398との切り合い関係は不明である。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-464 (図V-365、表V-2)

位置 F15 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) **規模** $0.72/0.66 \times -/- \times 0.739\text{m}$

特徴 F・G14・15区を調査中にG15杭付近から多数の褐色土の広がりを検出した。P-292・302の調査終了後にP-457を半載したところA-A'断面下端からP-464の断面が確認された。P-457の調査終了後に掘り進めたところ、柱穴状の遺構を確認した。西側はP-292に削平されている。規模から考えて、未確認の堅穴住居の支柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-467 (図V-365、表V-2)

位置 F14・15 **立地** 標高19.4m付近

平面形 円形(中型柱穴状土坑) **規模** $(0.74)/0.58 \times (0.66)/(0.52) \times 0.380\text{m}$

特徴 F・G14・15区を調査中にG15杭付近から多数の褐色土の広がりを検出した。P-292・302の調査終了後にP-457を半載したところB-B'断面下端からP-467の断面を確認した。P-457・464の調査終了後に掘り進めたところ、柱穴状の遺構を確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の支柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-468 (図V-366、表V-2)

位置 D14 **立地** 標高19.9m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) **規模** $0.34/0.30 \times 0.32/0.26 \times 0.617\text{m}$

特徴 H-25の南側壁面から褐色土の広がりが確認された。H-25の調査終了後に半載したところ、柱穴状の断面を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。盛土遺構の下層を切って作られている。覆土から礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

P-469 (図V-366、表V-2)

位置 F14 **立地** 標高19.8m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) **規模** $0.28/0.18 \times 0.28/0.18 \times 0.539\text{m}$

特徴 F14区を調査中にP-114の南側から褐色土の円形の広がりを検出した。P-114との切り合い関係が判るように半載したところ、古い風倒木痕を切る柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認堅穴住居の支柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土

と考えられる。覆土から土器（円筒土器上層式）、剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土土器から、縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-470（図V-366、表V-2）

位置 F 14 **立地** 標高19.8m付近

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規模** 0.26/0.18×0.20/0.14×0.347m

特徴 F 14区を調査中にP-378の南側から褐色土の円形の広がりを検出した。半載したところ、古い風倒木痕を切る柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-471（図V-366、表V-2）

位置 C 14 **立地** 標高19.8m付近

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規模** 0.28/0.18×0.20/0.20×0.349m

特徴 H-25の北側壁面から褐色土の広がりを確認した。H-25の調査終了後に半載したところ、柱穴状の断面を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-473（図V-367、表V-2）

位置 F 13 **立地** 標高19.7m付近

平面形 円形（中型柱穴状土坑） **規模** 0.50/0.44×0.48/0.42×0.181m

特徴 P-295の南西側に褐色土の広がりが連なって検出された。P-379の調査終了後に半載したところ、柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-474（図V-367、表V-2）

位置 C 13 **立地** 標高19.8m付近

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規模** 0.24/0.16×0.22/0.16×0.215m

特徴 H-25の北東側から褐色土の円形の広がりが確認された。半載したところ、柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。（酒井）

P-480（図V-367、表V-2）

位置 F 13 **立地** 標高19.6m付近

平面形 円形（極小型柱穴状土坑） **規模** 0.18/0.12×0.18/0.12×0.132m

特徴 P-295の北側を精査したところ、P-397に切られる褐色土の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ柱穴状の遺構であることが確認された。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-484 (図V-368、表V-2)

位 置 G 14 立 地 標高19.9m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.44/0.30 \times 0.34/0.36 \times 0.749\text{m}$

特 徴 P-300の西側壁際に褐色土の円形の広がりを見出した。半截して掘り進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。P-286・300を切って作られている。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-485 (図V-368、表V-2)

位 置 E・F 12 立 地 標高19.5m付近

平面形 楕円形(中型柱穴状土坑) 規 模 $0.84/0.52 \times 0.50/0.40 \times 0.548\text{m}$

特 徴 F 12区を調査中に褐色土の広がりを見出した。半截して掘り進めたところ、P-486に切られる柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-486 (図V-368、表V-2)

位 置 E・F 12 立 地 標高19.5m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.28/0.24 \times 0.26/0.14 \times 0.293\text{m}$

特 徴 F 12区を調査中に褐色土の広がりを見出した。半截して掘り進めたところ、P-485を切る柱穴状の遺構を確認した。そのため、東側を削平してしまっている。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器上層式)、剥片が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代前葉と考えられる。(酒井)

P-489 (図V-369、表V-2)

位 置 F 12 立 地 標高19.3m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.24/0.16 \times 0.22/0.16 \times 0.092\text{m}$

特 徴 F 12区を調査中に褐色土の広がりを見出した。半截して掘り進めたところ、柱穴状遺構を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-490 (図V-369、表V-2)

位 置 F 12 立 地 標高19.3m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規 模 $0.24/0.14 \times 0.22/0.14 \times 0.119\text{m}$

特 徴 F 12区を調査中に褐色土の広がりを見出した。半截して掘り進めたところ、柱穴状遺構を確認した。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-491 (図V-369、表V-2)

位置 D13 立地 標高19.6m付近

平面形 円形(極小型柱状土坑) 規模 $0.14/0.06 \times 0.12/0.04 \times 0.154\text{m}$

特徴 D13区を調査中に褐色土の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、柱状の遺構を確認した。杭穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-492 (図V-369、表V-2)

位置 D13 立地 標高19.6m付近

平面形 円形(極小型柱状土坑) 規模 $0.10/0.06 \times 0.08/0.04 \times 0.195\text{m}$

特徴 D13区を調査中に褐色土の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、柱状の遺構を確認した。杭穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-493 (図V-369、表V-2)

位置 F14 立地 標高19.7m付近

平面形 円形(小型柱状土坑) 規模 $0.22/0.12 \times 0.22/0.12 \times 0.156\text{m}$

特徴 F14杭付近を調査中に盛土遺構下部から褐色土の円形の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、柱状の遺構であることを確認した。杭穴である可能性がある。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-495 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 F12 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱状土坑) 規模 $0.47/0.34 \times 0.26/0.24 \times 0.34\text{m}$

特徴 E・F12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱状土坑群も検出した。覆土は褐色土～にぶい褐色土であった。F12杭周辺の柱状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-496 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E・F12 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱状土坑) 規模 $(0.40)/0.34 \times 0.26/0.18 \times 0.30\text{m}$

特徴 E・F12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱状土坑群も検出した。覆土は大半が段丘砂礫層由来ブロックを含む明褐色土であったが、上面はにぶい褐色土であった。F12杭周辺の柱状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成

していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物（円筒土器上層式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-497（図V-349・350・351、表V-2）

位置 F12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.38/0.22 \times 0.24/0.16 \times 0.54$ m

特徴 E・F12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は灰褐色土・にぶい褐色土・褐色土であった。F12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物（円筒土器上層式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-498（図V-370、表V-2）

位置 G11 立地 標高19.3m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.24/0.08 \times (0.08)/(0.07) \times 0.18$ m

特徴 令和元年度、G11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に重複している可能性が高かったため、遺構が確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑も検出した。覆土は明褐色土であった。

時期 構築状況から縄文時代中期後葉～後期前葉。（福井）

P-499（図V-370、表V-2）

位置 G11 立地 標高19.3m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.28/0.25 \times 0.26/0.23 \times 0.21$ m

特徴 令和元年度、G11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に重複している可能性が高かったため、遺構が確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。

時期 構築状況から縄文時代中期後葉～後期前葉。（福井）

P-500（図V-349・350・351、表V-2）

位置 F12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.58/0.53 \times 0.52/0.54 \times 0.32$ m

特徴 E・F12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出された。覆土はにぶい褐色土であった。P-500は、一見するとその他の土坑に振り分けるべきものにみえるが、坑底に小さな柱穴状の広がりがみられたため、掘り方のある柱穴であった可能性を考えた。F12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-501 (図V-349・350・351、表V-2)**位置** F 12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面**平面形** 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.24/0.16×0.22/0.13×0.24m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土～明褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせで住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。 (福井)

P-503 (図V-370、表V-2)**位置** F・G 14 **立地** 標高19.8m付近のP-305の覆土**平面形** 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.56/0.42×0.44/0.36×0.595m

特徴 F 14区を調査中にH-131・P-341に切られる褐色土の広がりを検出した。褐色土の広がりを切る円形の広がりが確認できたことから、切り合い関係を把握できるように半載したところ、P-305の覆土を切るP-461・503・504・507を確認した。P-503はP-504を切り、P-461・507に切られている。柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代前期後半と考えられる。 (酒井)

P-504 (図V-370、表V-2)**位置** F・G 14 **立地** 標高19.8m付近のP-305の覆土**平面形** 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.74/0.60×0.64/0.48×0.687m

特徴 F 14区を調査中にH-131・P-341に切られる褐色土の広がりを検出した。褐色土の広がりを切る円形の広がりが確認できたことから、切り合い関係を把握できるように半載したところ、P-305の覆土を切るP-461・503・504・507を確認した。P-504はP-305を切り、P-461・503・507に切られている。柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代前期後半と考えられる。 (酒井)

P-510 (図V-371、表V-2)**位置** B 8 **立地** 標高19.6m付近の平坦面**平面形** 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.32/0.29×(0.24)/(0.16)×0.62m

特徴 H-18・39・60・69に挟まれて島状に残ったローム層の残存部で、調査最終段階の見直しで確認した。複雑に住居が重複する地点であるため、あるいは古い時期の住居跡に関連する柱穴かもしれない。覆土はロームブロックを含み、にぶい褐色土～褐色土を主体とした。

時期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期後葉。 (福井)

P-512 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E・F 12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.26/0.21×0.22/0.19×0.24m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は段丘砂礫層由来ブロックを含む橙色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

P-513 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E・F 12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.22/0.18×0.28/0.18×0.26m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はソフトローム層主体の明褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

P-514 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E 12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** (0.32)/0.18×0.20/0.18×0.24m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はローム主体のにぶい褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

P-515 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E 12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** (0.30)/0.12×0.22/0.12×0.31m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はロームブロックを含む褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。 (福井)

P-516 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E 12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.28/0.27×0.18/0.14×0.22m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の

結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-517 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E・F 12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.22/0.19 \times 0.22/0.12 \times 0.30$ m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土～褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-518 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E 12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.18/0.10 \times 0.16/0.15 \times 0.32$ m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-520 (図V-371、表V-2)

位置 F 14 立地 標高19.7m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.28/0.24 \times 0.26/0.24 \times 0.682$ m

特徴 P-341を半截したところ、柱穴状の褐色土の断面を検出した。掘り進めたところ、P-341を切る柱穴状の遺構であることを確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-521 (図V-372・373、表V-2)

位置 D 12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.18/0.10 \times 0.16/0.15 \times 0.32$ m

特徴 D 11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は褐色土が主体であった。D 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。覆土には1個体の土器を分割して大きな破片状態で重ねたもの、その下から石棒が出土した。石棒は自然の円柱礫を磨いたもので、被熱し、焼けはじけが生じていた。

時期 出土遺物（榎林式）から中期後葉と考えられる。（福井）

P-522（図V-372・373、表V-2）

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（極小型柱穴状土坑） 規模 $0.19/0.16 \times 0.19/0.15 \times 0.22$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は褐色土～にぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期後葉～後期前葉。（福井）

P-523（図V-372・373、表V-2）

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（極小型柱穴状土坑） 規模 $0.15/0.12 \times 0.15/0.08 \times 0.40$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期後葉～後期前葉。（福井）

P-524（図V-372・373、表V-2）

位置 D11・12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（極小型柱穴状土坑） 規模 $0.17/0.12 \times 0.15/0.12 \times 0.26$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物（サイベツⅦ式）から縄文時代中期中葉と考えられる。（福井）

P-525（図V-372・373、表V-2）

位置 D11 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.21/0.17 \times 0.17/0.15 \times 0.18$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は灰褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物（円筒土器上層式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-526（図V-372・373、表V-2）

位置 D11 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（極小型柱穴状土坑） **規模** 0.14/0.09×0.12/0.08×0.14m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-527（図V-372・373、表V-2）

位置 D11 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規模** 0.24/0.16×0.19/0.15×0.18m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は明褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-528（図V-372・373、表V-2）

位置 D11 **立地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（極小型柱穴状土坑） **規模** 0.17/0.12×0.15/0.13×0.25m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-529（図V-372・373、表V-2）

位置 D11 **立地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） **規模** 0.25/0.22×0.22/0.20×0.17m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土・橙色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-530（図V-372・373、表V-2）

位置 C11 **立地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（極小型柱穴状土坑） **規模** 0.19/0.15×0.18/0.16×0.05m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

ラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-531 (図V-372・373、表V-2)

位置 D11 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.26/0.16 \times 0.24/0.18 \times 0.06$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-532 (図V-372・373、表V-2)

位置 D11 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $(0.20)/0.12 \times 0.24/0.11 \times 0.25$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-533 (図V-372・373、表V-2)

位置 D11 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.18/0.08 \times (0.22)/0.08 \times 0.21$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-534 (図V-372・373、表V-2)

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.18/0.15 \times 0.18/0.13 \times 0.16$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は明褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-535 (図V-372・373、表V-2)

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.28/0.16 \times 0.26/0.14 \times 0.56\text{m}$

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土と橙色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-536 (図V-372・373、表V-2)

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.16/0.13 \times 0.16/0.14 \times 0.05\text{m}$

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土と橙色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-537 (図V-372・373、表V-2)

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.18/0.14 \times 0.14/0.12 \times 0.04\text{m}$

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出された。覆土はにぶい褐色土と橙色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-538 (図V-372・373、表V-2)

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.14/0.12 \times 0.14/0.11 \times 0.04\text{m}$

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出された。覆土は褐色土と橙色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-539 (図V-372・373、表V-2)

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.16/0.14 \times 0.14/0.12 \times 0.15\text{m}$

特 徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時 期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-540 (図V-372・373、表V-2)

位 置 D11 **立 地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) **規 模** 0.32/0.26×0.22/0.19×0.08m

特 徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は橙色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時 期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-541 (図V-371、表V-2)

位 置 F14 **立 地** 標高19.7m付近

平面形 円形(小型柱穴状土坑) **規 模** 0.30/0.24×0.26/0.22×0.118m

特 徴 F14区を調査中にP-305の東側から褐色土の円形の広がりを検出した。半載して掘り進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片・礫が出土している。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-542 (図V-371、表V-2)

位 置 F14 **立 地** 標高19.7m付近のP-302の底面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) **規 模** 0.20/0.28×-/-×0.149m

特 徴 P-302の底面から褐色土の半円形の広がりを検出した。P-457東側壁面で半載したところ、柱穴状の遺構であることを確認した。P-302・457に切られていると考えられる。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-543 (図V-349・350・351、表V-2)

位 置 E12 **立 地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) **規 模** 0.19/0.12×0.18/0.10×0.24m

特 徴 E・F12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土～褐色土であった。F12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時 期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-544 (図V-349・350・351、表V-2)**位置** E12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面**平面形** 円形 (中型柱穴状土坑) **規模** 0.32/0.22×0.18/0.16×0.56m

特徴 E・F12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。フラスコ状土坑P-414覆土にあたった部分には礫を当ててしまりの悪さを補強したとみられる。F12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

P-545 (図V-349・350・351、表V-2)**位置** E12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面**平面形** 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.35/0.24×0.24/0.22×0.11m

特徴 E・F12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。F12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

P-547 (図V-349・350・351、表V-2)**位置** E12 **立地** 標高19.6m付近の平坦面**平面形** 円形 (小型柱穴状土坑) **規模** 0.35/0.25×0.25/0.24×0.27m

特徴 E・F12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は褐色土～にぶい褐色土であった。F12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。 (福井)

P-548 (図V-349・350・351、表V-2)**位置** E12 **立地** 標高19.5m付近の平坦面**平面形** 円形 (極小型柱穴状土坑) **規模** 0.18/0.22×0.18/0.22×0.49m

特徴 E・F12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は褐色土であった。F12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物は榎林式であるため中期後葉と考えられるが、構築状況からは縄文時代中期前・中葉の可能性もある。 (福井)

P-549 (図V-349・350・351、表V-2)**位置** E12 **立地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.22/0.14 \times 0.16/0.14 \times 0.12$ m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

P-550 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E 12 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.20/0.16 \times 0.22/0.18 \times 0.16$ m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物（円筒土器上層式）から縄文時代中期前葉と考えられる。 (福井)

P-551 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E 12 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（極小型柱穴状土坑） 規模 $0.18/0.18 \times 0.18/0.14 \times 0.15$ m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

P-552 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E・F 12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.34/0.17 \times 0.24/0.19 \times 0.25$ m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい橙褐色土～橙褐色土であった。F 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

P-553 (図V-372・373、表V-2)

位置 D 12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（極小型柱穴状土坑） 規模 $0.16/0.14 \times 0.16/0.13 \times 0.17$ m

特徴 D 11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D 12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少な

くともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物（円筒土器上層式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-554（図V-372・373、表V-2）

位置 D11・12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.26/0.24 \times 0.18/0.17 \times 0.16$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物（椀林式）から縄文時代中期後葉と考えられる。（福井）

P-555（図V-372・373、表V-2）

位置 D12 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（極小型柱穴状土坑） 規模 $0.13/0.09 \times 0.12/0.08 \times 0.12$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-556（図V-374、表V-2）

位置 D10 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.32/0.22 \times 0.27/0.24 \times 0.38$ m

特徴 H-2・12・57・100・116・119に挟まれて島状に残ったローム層の残存部で、調査最終段階の見直しで確認した。複雑に住居が重複する地点であるため、あるいは古い時期の住居跡に関連する柱穴かもしれない。覆土はにぶい褐色土・明褐色土であった。

時期 出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。（福井）

P-557（図V-374、表V-2）

位置 D10 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.25/0.22 \times 0.22/0.21 \times 0.06$ m

特徴 H-2・12・57・100・116・119に挟まれて島状に残ったローム層の残存部で、調査最終段階の見直しで確認した。複雑に住居が重複する地点であるため、あるいは古い時期の住居跡に関連する柱穴かもしれない。覆土は褐色土であった。

時期 出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。（福井）

P-558（図V-374、表V-2）

位置 D10 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形（小型柱穴状土坑） 規模 $0.32/0.26 \times 0.24/0.18 \times 0.44$ m

特 徴 H-2・12・57・100・116・119に挟まれて島状に残ったローム層の残存部で、調査最終段階の見直しで確認した。複雑に住居が重複する地点であるため、あるいは古い時期の住居跡に関連する柱穴かもしれない。覆土は褐色土主体であった。

時 期 構築状況から縄文時代中期後葉と考えられる。(福井)

P-559 欠番

P-560 (図V-372・373、表V-2)

位 置 D11 **立 地** 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) **規 模** 0.24/0.18×0.22/0.18×1.11m

特 徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時 期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-561 (図V-374、表V-2)

位 置 E10 **立 地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) **規 模** 0.26/0.20×0.24/0.18×0.16m

特 徴 H-2・112に挟まれて島状に残ったローム層の残存部で、調査最終段階の見直しで確認した。複雑に住居が重複する地点であるため、あるいは古い時期の住居跡に関連する柱穴かもしれない。覆土はにぶい褐色土・明褐色土であった。

時 期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-562 (図V-374、表V-2)

位 置 E10 **立 地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) **規 模** 0.38/0.35×0.28/0.22×0.38m

特 徴 H-2・112に挟まれて島状に残ったローム層の残存部で、調査最終段階の見直しで確認した。複雑に住居が重複する地点であるため、あるいは古い時期の住居跡に関連する柱穴かもしれない。覆土はにぶい褐色土・明褐色土であった。

時 期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-563 (図V-374、表V-2)

位 置 E10 **立 地** 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) **規 模** 0.25/0.20×0.28/0.18×0.38m

特 徴 H-2・112に挟まれて島状に残ったローム層の残存部で、調査最終段階の見直しで確認した。複雑に住居が重複する地点であるため、あるいは古い時期の住居跡に関連する柱穴かもしれない。覆土はにぶい褐色土であった。

時 期 出土遺物(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-565 (図V-372・373、表V-2)

位置 D11 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.16/0.10 \times 0.15/0.12 \times 0.14$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-566 (図V-372・373、表V-2)

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.45/0.34 \times 0.38/0.34 \times 0.20$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-567 (図V-372・373、表V-2)

位置 D11・12 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.18/0.15 \times 0.14/0.12 \times 0.09$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-568 (図V-372・373、表V-2)

位置 D11・12 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.36/0.24 \times 0.26/0.18 \times 0.24$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土はにぶい褐色土・褐色土であった。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。(福井)

P-575 (図V-375、表V-2)

位置 F10 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.24/0.19 \times (0.18)/0.14 \times 0.14$ m

特徴 H-2・9・17に挟まれて島状に残ったローム層の残存部で、調査最終段階の見直しで

確認した。複雑に住居が重複する地点であるため、あるいは古い時期の住居跡に関連する柱穴かもしれない。覆土は褐色土であった。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-576 (図V-375、表V-2)

位置 F 10 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.22/0.15 \times (0.18)/0.08 \times 0.15$ m

特徴 P-575と同様な状況。覆土はにぶい褐色土であった。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-577 (図V-375、表V-2)

位置 F 10 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.24/0.20 \times (0.15)/0.12 \times 0.12$ m

特徴 P-575と同様な状況。覆土は褐色土であった。

時期 出土遺物(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-578 (図V-375、表V-2)

位置 F 10 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.14/0.12 \times (0.16)/0.12 \times 0.14$ m

特徴 P-575と同様な状況。覆土はにぶい褐色土であった。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-579 (図V-375、表V-2)

位置 F 10 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.28/0.22 \times (0.25)/0.17 \times 0.12$ m

特徴 P-575と同様な状況。覆土はにぶい褐色土であった。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-580 (図V-349・350・351、表V-2)

位置 E 12 立地 標高19.5m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.30/0.21 \times 0.22/0.19 \times 0.27$ m

特徴 E・F 12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。覆土は全体にローム質土からなるが、中位に炭層や粘土層の薄層を挟んでいた。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-581 (図V-375、表V-2)

位置 E 10 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.12/0.12 \times 0.10/0.08 \times 0.46$ m

特徴 P-575と同様な状況。覆土は褐色土であった。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-582 (図V-375、表V-2)

位置 G11 立地 標高19.2m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.30/0.20 \times 0.26/0.17 \times 0.08$ m

特徴 令和元年度、G11・12付近はメイントレンチでの観察の結果フラスコ状土坑が複雑に重複している可能性が高かったため、遺構が確認できる自然堆積のローム層が残る面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑も検出した。覆土は褐色土であった。

時期 構築状況から縄文時代前期後葉～後期前葉と考えられる。(福井)

P-589 (図V-376、表V-2)

位置 F10 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.21/0.18 \times 0.19/0.18 \times 0.26$ m

特徴 P-575と同様な状況。覆土は褐色土を主体とした。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-590 (図V-376、表V-2)

位置 F10 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.26/0.24 \times 0.22/0.20 \times 0.16$ m

特徴 P-575と同様な状況。覆土はにぶい褐色土を主体とした。

時期 出土遺物(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-591 (図V-376、表V-2)

位置 F10 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.32/0.27 \times 0.32/0.27 \times 0.17$ m

特徴 P-575と同様な状況。覆土はにぶい褐色土～明褐色土を主体とした。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-595 (図V-376、表V-2)

位置 B8 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.18/0.15 \times 0.18/0.14 \times 0.26$ m

特徴 P-575と同様な状況。

時期 出土遺物(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-600 (図V-372・373、表V-2)

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(極小型柱穴状土坑) 規模 $0.18/0.16 \times 0.14/0.12 \times 0.30$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせで住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは

新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。

(福井)

P-601 (図V-372・373、表V-2)

位置 D12 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形(小型柱穴状土坑) 規模 $0.22/0.19 \times 0.22/0.18 \times 0.30$ m

特徴 D11・12区はフラスコ状土坑検出のためにローム層最下部面まで掘り下げた。精査の結果、柱穴状土坑群も検出した。D12杭周辺の柱穴状土坑は集中しており、組み合わせて住居を構成していたと推測されるが、その掘り込みは検出できなかった。少なくともフラスコ状土坑群よりは新しいものである。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。

(福井)

6 その他の土坑 (図V-377~265、表V-2)

P-3 (図V-377、表V-2)

位置 B・C11 立地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形(小型土坑) 規模 $0.60/0.30 \times (0.60)/0.39 \times 0.50$ m

特徴 メイントレンチ掘削時に検出した。構築は盛土層直下より掘り込まれていた。少なくともフラスコ状土坑P-156よりは新しいものである。

時期 出土遺物(榎林式)から縄文時代中期後葉と考えられる。

(福井)

P-5 (図V-377、表V-2)

位置 E14 立地 標高20.3m付近

平面形 楕円形(小型土坑) 規模 $1.10/0.82 \times 1.04/0.88 \times 0.365$ m

特徴 平成29年度の14ライン南北トレンチの調査において褐色土の楕円形な広がりを検出した。盛土遺構の調査終了後に精査したところ、褐色土の広がりを確認した。半載して調査を行ったところ、平坦で楕円形の底面と壁面を確認したことから土坑と考えられる。覆土は5層に分層した。流れ込み土と考えられる。覆土から土器(榎林式)、すり石・剥片などの石器のほか、三脚石器が出土している。

時期 出土遺物(榎林式・三脚石器)から、縄文時代中期後葉と考えられる。

(酒井)

P-13 (図V-377、表V-2)

位置 B・C15 立地 標高19.8m付近のH-5床面

平面形 円形? (小型土坑) 規模 $1.00/0.84 \times (0.56)/(0.48) \times 0.178$ m

特徴 H-5を調査中に、床面からP-30に切られる褐色土の広がりを確認した。半載して調査を行ったところ、平坦な底面と壁面の立ち上がりを検出したことから、土坑状の遺構であることを確認した。上部はH-5で削平されている。覆土は2層に分層した。自然堆積と考えられる。覆土から土器(大安在B式)、剥片・礫、三脚石器が出土している。

時期 H-5(ノダツプⅡ式)に削平されていることや出土遺物に土器(大安在B式)があることから、縄文時代中期後葉と考えられる。

(酒井)

P-19 (図V-378、表V-2)

位置 A 5 立地 標高18.5m付近の平坦面

平面形 不整形(小型土坑) 規模 $(0.43)/(0.30) \times 0.71/0.48 \times 0.28$ m

特徴 H-8・30調査の過程で確認した。斜面際にかかる部分で、H-8覆土と斜面堆積物の境界が不明瞭で、H-8床面まで掘り下げ、かつその北側のH-30掘り下げの過程で確認した。構築面は不明だが、H-8より古い可能性もある。ただ、上位に伐根時の攪乱があり、詳細不明。ローム層を掘りこんでいる。覆土は褐色土で、下部にロームブロックを多く含んでいた。

時期 出土遺物(榎林式)から縄文時代中期後葉と考えられる。(福井)

P-20 (図V-378、表V-2)

位置 C 15 立地 標高20.4m付近

平面形 円形(小型土坑) 規模 $(1.34)/(1.38) \times (1.12)/(1.00) \times 0.457$ m

特徴 Cライトレンチを調査中に褐色土の広がりを確認した。トレンチ南壁をセクションとして半載したところ、H-5・P-14を切る土坑状の遺構を検出した。覆土は5層に分層した。埋め戻し土と考えられ、土器(サイベ沢Ⅶ式)、たたき石、剥片・礫が出土している。

時期 出土遺物や周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉と考えられる。(酒井)

P-30 (図V-379、表V-2)

位置 B 14・15・C 15 立地 標高19.9m付近のH-5床面

平面形 円形(中型土坑) 規模 $1.64/1.54 \times 1.58/1.36 \times 0.273$ m

特徴 H-5を調査中に、床面から褐色土の広がりを確認した。H-5のセクションと合わせて半載して調査を行ったところ、平坦な底面と壁面の立ち上がりを検出したことから土坑状の遺構であることを確認した。上部はH-5で削平されている。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。底面から礫、覆土から土器(榎林式)、スクレイパー・黒曜石製の石槍片、たたき石・すり石などの石器や有孔石製品が出土している。

時期 H-5(ノダップⅡ式)に削平されていることや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-53 (図V-379、表V-2)

位置 C・D 14・15 立地 標高20.1m付近のH-24床面

平面形 円形?(土坑?) 規模 $-/- \times -/- \times 0.526$ m

特徴 H-24を調査中に、床面からP-31・33を検出して調査を行ったところ、両遺構に切られる三日月状の遺構を検出した。調査中に完掘してしまったためセクション図は取っていない。遺物は出土していない。

時期 周囲の遺構の状況から、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。(酒井)

P-66 (図V-380、表V-2)

位置 B 14 立地 標高20.3m付近

平面形 円形(小型土坑) 規模 $0.94/0.80 \times 0.86/0.64 \times 0.182$ m

特徴 H-26の調査中に床面から壁面にかけて褐色土の広がりを検出した。H-26床面を精

査したところ、P-42を切る円形の遺構を確認した。半載して調査を進めたところ、土坑状の遺構で、P-66が入れ子状にP-41を切っていることが分かった。上面をH-26に削平され、H-68を切っている。覆土は3層に分けた。覆土2層から小礫集中が検出され、12,797点が出土している。覆土から石鉄・すり石・Uフレイク・Rフレイク、剥片・礫が出土している。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-82 (図V-380、表V-2)

位 置 B・C14 立 地 標高20.3m付近

平面形 楕円形(大型土坑) 規 模 $246/202 \times (1.74)/1.38 \times 0.477$ m

特 徴 Cライトレンチを調査中に、北壁断面に褐色土の広がりを確認した。トレンチ調査によって南側の壁を削平してしまっている。トレンチの北壁をセクションとして調査を進めたところ、楕円形の平坦な底面と壁面の立ち上がりを確認したことから、土坑状の遺構であることを確認した。上部はH-26で削平され、東側壁面はP-88に切られている。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(榎林式)、剥片・礫が出土している。

時 期 出土遺物や周囲の遺構の状況から、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-83 (図V-381、表V-2)

位 置 C14 立 地 標高19.8m付近のH-33・87床面

平面形 円形(大型土坑) 規 模 $214/208 \times 2.06/1.84 \times 0.546$ m

特 徴 Cライトレンチを調査中に、褐色土の広がりや連続しているのを確認した。H-33・87の調査終了後、切り合い関係が判るように半載して調査を進めたところ、P-84を切っていることが分かった。平坦な底面と周溝、壁面の立ち上がりを確認したことから、土坑状の遺構であることを確認した。周溝は底面壁際の南西側以外で検出され、幅6～12cm、深さ1～3cmである。上面はH-33・87に削平されている。土層は7層に分けた。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器下層d式)、剥片・礫が出土している。

時 期 P-84を切っているなど周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-84 (図V-381、表V-2)

位 置 C14 立 地 標高19.9m付近のH-33床面

平面形 円形(小型土坑) 規 模 $1.28/1.22 \times 1.18/1.08 \times 0.238$ m

特 徴 Cライトレンチを調査中に、褐色土の広がりや連続しているのを確認した。H-33・87の調査終了後、切り合い関係が判るように半載して調査を進めたところ、P-83に切られていることが分かった。平坦な底面と壁面の立ち上がりを確認したことから、土坑状の遺構であることを確認した。上面はH-33に削平されている。土層は3層に分けた。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(榎林式)、凹み石・Uフレイク・剥片・礫が出土している。

時 期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-86 (図V-382、表V-2)

位 置 C13 立 地 標高19.4m付近のH-25床面

平面形 円形（中型土坑） **規模** 1.68/1.56×1.60/1.46×0.143m

特徴 H-25の調査中に北西角床面に褐色土の円形の広がりを検出した。調査工程の関係から平成29年度にH-25北側の調査終了後に切り合っているP-86・89との切り合い関係が判るようになり半載して調査を進めたところ、H-25・P-26に切られていることが分かった。平坦な底面と壁面の立ち上がりを確認したことから、土坑状の遺構であることを確認した。フラスコ状土坑の可能性はある。上面はH-25・P-26に削平され、底部が浅く残存している状況である。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層式）、礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。

（酒井）

P-87（図V-382、表V-2）

位置 B14・15 **立地** 標高20.7m付近

平面形 円形（中型土坑） **規模** 1.74/1.68×1.38/1.30×0.715m

特徴 B14区の調査中に褐色土の半円形の広がりを検出した。Bラインをセクションとして半載して調査を進めたところ、楕円形の平坦な底面と壁面の立ち上がりを確認したことから、土坑状の遺構であることを確認した。土層は6層に分けた。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層式）、剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。

（酒井）

P-107（図V-383、表V-2）

位置 B13・14 **立地** 標高20.2m付近

平面形 楕円形？（小型土坑） **規模** (0.60)/(0.56)×(0.56)/(0.48)×0.184m

特徴 H-4の東側壁面近辺に柱穴とみられる褐色土の広がりをも多数確認した。トレンチを入れて確認したところ、浅い土坑状の掘り込みを検出した。半載して掘り進めたところ、底面の平坦な楕円形の土坑を確認した。P-139を切って作られている。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土からは土器（榎林式）、剥片・礫のほか、三脚石器が出土している。

時期 他遺構との切り合いや土器（榎林式）、三脚石器が出土していることから、縄文時代中期後葉と考えられる。

（酒井）

P-114（図V-383、表V-2）

位置 F14 **立地** 標高19.8m付近

平面形 円形（小型土坑） **規模** 1.22/0.90×1.10/0.94×0.683m

特徴 F14区を調査中に褐色土の円形の広がりにつながって検出された。切り合い関係を把握できるように半載したところ、P-114のほかP-283・287・289・378を確認した。掘り進めたところ、底面の平坦な円形の土坑もしくは柱穴を確認した。P-114はP-289を切り、P-378に切られて作られている。覆土は7層に分層した。覆土1～6層は流れ込み土、覆土7層は壁面崩落土と考えられる。覆土からは土器（サイベ沢Ⅶ式）、両面調整石器や剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期中葉と考えられる。

（酒井）

P-134 (図V-384、表V-2)

位置 D 15・E 14・15 **立地** 標高20.3m付近

平面形 円形(大型土坑) **規模** (3.76)／1.88×(3.30)／2.02×1.209m

特徴 E 15区を調査中に円形で褐色土の広がりを検出した。半截して断面を確認したところ、平坦な底面と壁面を検出したことから土坑状の遺構であることを確認した。調査を進めたところ、底面に周溝と2か所の小ピット(P P 1・2)を検出した。北側の一部をH-16に切られている。覆土は7層に分層した。流れ込み土と考えられる。覆土6層から出土した大型の石皿と南に約5m離れたP-238の覆土出土の破片が接合している。底面から礫、覆土から土器(榎林式)、石錐・スクレイパー・扁平打製石器・たたき石などの石器、剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構や出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-136 (図V-385、表V-2)

位置 E 14 **立地** 標高20.0m付近

平面形 円形(小型土坑) **規模** 1.20／1.10×1.06／0.96×0.658m

特徴 14ラインの南北トレンチ調査中に、褐色土の覆土と壁面立ち上がりを検出した。半截して調査を進めたところ、底面が平坦な土坑状の遺構であることを確認した。覆土は4層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(榎林式)、たたき石、剥片・礫が出土している。

時期 出土遺物などから縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

P-138 (図V-385、表V-2)

位置 B 13 **立地** 標高19.7m付近の平坦面

平面形 不整形(小型土坑) **規模** 0.72／0.61×(0.30)／(0.10)×0.52m

特徴 B 13区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードルーム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を15cm前後掘りこんでいる。覆土はルームブロックと締めりの悪い土壌がモザイク状に堆積していたため、埋め土とみられる。

時期 出土遺物(榎林式)から縄文時代中期後葉と考えられる。(福井)

P-144 (図V-386、表V-2)

位置 C 13 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形(小型土坑) **規模** 0.70／0.10×(0.45)／0.14×0.19m

特徴 C 13区はフラスコ状土坑検出のために段丘砂礫層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群が検出された。なお、調査工程の都合で断面図の記載は省略した。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-150 (図V-386、表V-2)

位置 C 13 **立地** 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形(小型土坑) **規模** (0.71)／(0.58)×0.70／0.60×0.17m

特 徴 C13区はフラスコ状土坑検出のために段丘砂礫層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群が検出された。覆土はローム質土であった。なお、調査工程の都合で断面図の記載は省略した。

時 期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-158 (図V-386、表V-2)

位 置 B11 **立 地** 標高19.5m付近の平坦面

平面形 不整形 (小型土坑) **規 模** (0.63)/(0.59)×(0.57)/(0.51)×0.1m

特 徴 B11区では自然堆積層下の灰褐色の盛土層下位に黄褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、段丘砂礫層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を複数確認した。なお、この「盛土層」は、明らかな盛土層の暗褐色土層以下は多数重複した遺構覆土によるものとみられる。構築面は削平されているとみられるが、ハードローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を10cm前後掘りこんでいる。覆土は明褐色土で、段丘砂礫層由来ブロックが少量含む状況であった。確認された覆土上面の一角には現地性焼土が認められた。なお、坑底は凹凸があり不安定であったので、掘削途中で埋められたものかもしれない。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉と考えられる。(福井)

P-182 (図V-387、表V-2)

位 置 G9 **立 地** 標高19.2m付近の斜面際

平面形 楕円形 (小型土坑) **規 模** (1.04)/(0.98)×1.04/0.86×0.54m

特 徴 G9区は「盛土」層とも覆土ともみられるにぶい褐色土が堆積したため、これを掘り下げローム層を露出させた。その結果、にぶい黄褐色土の広がりを検出した。ただ不明瞭であったので、大きく半載したところ、にぶい褐色土の広がりを2基確認し、P-182・183と命名した。覆土の大半は暗褐色系土であった。最下部は橙色で、ロームブロックを多く含んだ。P-183との間がプライマリーなローム層ではなく、段丘砂礫層起源ブロックを含むローム質土であり、「坑壁」も漸移的で不明瞭なことから、あるいはP-182・183は風倒木痕かとも考えられる。なお、覆土上部に中期型の北海道式石冠が検出された。

時 期 出土土器 (榎林式) から縄文時代中期後葉と考えられる。(福井)

P-183 (図V-387、表V-2)

位 置 G9 **立 地** 標高19.2m付近の斜面際

平面形 楕円形 (小型土坑) **規 模** (1.08)/(1.04)×0.85/0.68×0.47m

特 徴 G9区は「盛土」層とも覆土ともみられるにぶい褐色土が堆積したため、これを掘り下げローム層を露出させた。その結果、にぶい褐色土の広がりを検出した。ただ不明瞭であったので、大きく半載したところ、にぶい褐色土の広がりを2基確認したため、P-182・183と命名した。覆土の大半は暗褐色系土であった。P-182との間がプライマリーなローム層ではなく、段丘砂礫層起源ブロックを含むローム質土であり、「坑壁」も漸移的で不明瞭なことから、あるいはP-182・183は風倒木痕かとも考えられる。

時 期 出土土器 (榎林式) から縄文時代中期後葉と考えられる。(福井)

P-197 欠番

P-223 (図V-387、表V-2)

位置 C 11 立地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 不明(小型土坑) 規模 $(0.45)/(0.40) \times (0.08)/(0.07) \times 0.14$ m

特徴 H-19・100 Aの調査の過程で検出した。フラスコ状土坑の可能性も高いが、断片的な遺存状況であったので不明としておく。覆土は褐色と黒褐色土からなるものであった。

時期 出土土器(円筒土器上層式)から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-235 (欠番)

P-240 (図V-388、表V-2)

位置 C 9 立地 標高19.8m付近の平坦面

平面形 不明(小型土坑) 規模 $0.96/0.72 \times (0.74)/(0.74) \times 0.44$ m

特徴 H-97・60の調査の過程で検出した。盛土層上位から掘りこまれた可能性が高く、後期前葉の土坑の可能性が高い。覆土は褐色～にぶい褐色土からなるものであった。

時期 構築状況から縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(福井)

P-245 (図V-388、表V-2)

位置 B 13 立地 標高19.6m付近のH-4床面

平面形 円形(小型土坑) 規模 $0.80/0.54 \times 0.68/0.48 \times 0.717$ m

特徴 H-4の床面を調査中に褐色土の広がりを検出したことから、半載して調査を進めたところ、H-4のHP6・7・46の断面、P-245・250・251・253の断面を検出した。P-245はH-4のHP7に切られ、P-250・253を切って作られている。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくはH-4のHPである可能性もある。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器上層式)、剥片・礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物から縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。(酒井)

P-258 (図V-388、表V-2)

位置 B 13 立地 標高20.2m付近

平面形 円形(小型土坑?) 規模 $1.20/0.80 \times (0.44)/(0.30) \times 0.352$ m

特徴 H-16を調査中に壁面から褐色土の広がりを検出した。検出面を精査したところ、H-16・P-60に切られていることが分かった。これらの調査が終了したのち、半載して調査を進めた。南側の半分以上がH-16によって削平されているため、規模・形状などは不明である。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(円筒土器上層a式)、礫が出土している。

時期 他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉と考えられる。(酒井)

P-285 (図V-389、表V-2)

位置 E 14 立地 標高20.0m付近

平面形 楕円形(小型土坑) 規模 $1.20/1.08 \times (1.16)/(0.82) \times 0.606$ m

特 徴 E14区の調査中に多数の褐色土広がりを検出した。切り合い関係を把握するために半載して調査を進めたところ、P-317を切り、P-205・330に切られている、底面の平坦な土坑状の遺構を確認した。覆土は3層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土中から土器(ⅡB～ⅢB)、剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。

(酒井)

P-293 (図V-390、表V-2)

位 置 F14・15 **立 地** 標高20.0m付近

平面形 楕円形(小型土坑) **規 模** 0.92/0.80×0.74/0.60×0.198m

特 徴 F15区を調査中にF15杭の南側で褐色土の広がりが見え、掘り進められてきた。切り合い関係を把握できるように半載して掘り進めたところ、P-290・410に切られる土坑状の遺構を確認した。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。

(酒井)

P-294 (図V-390、表V-2)

位 置 F・G15 **立 地** 標高20.0m付近

平面形 円形(小型土坑) **規 模** 1.28/1.24×(1.10)/(1.06)×0.302m

特 徴 F・G15区を調査中に褐色土の広がりが見え、掘り進められてきた。切り合い関係を把握できるように半載したところ、P-294のほかP-299・331を確認した。掘り進めたところ、底面が平坦な円形の土坑状の遺構を確認した。周辺の遺構の状況からフラスコ状土坑の可能性もある。P-331に切られている。上部は遺跡の地形改変時に削平されている。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。

(酒井)

P-302 (図V-390、表V-2)

位 置 F14・15・G14 **立 地** 標高19.9m付近

平面形 円形(小型土坑) **規 模** 1.14/1.06×0.86/0.78×0.265m

特 徴 F14区を調査中に褐色土の円形の広がりが見え、掘り進められてきた。切り合い関係を把握できるように半載したところ、P-457の覆土を切るP-302を確認した。掘り進めたところ、底面の平坦な土坑状の遺構を確認した。P-300・457を切り、P-292に切られている。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土から土器(大安在B式)、たたき石・剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。

(酒井)

P-305 (図V-391、表V-2)

位 置 F・G14 **立 地** 標高19.9m付近

平面形 円形(中型土坑) **規 模** 1.56/1.52×(1.30)/(1.22)×0.197m

特 徴 F14区を調査中にH-131・P-341に切られる褐色土の広がりが見え、掘り進められてきた。切り合い関係を把握できるように半載したところ、

P-305の覆土を切るP-461・503・504・507を確認した。これらの遺構の調査終了後に掘り進めたところ、底面の平坦な土坑状の遺構を確認した。周辺の遺構の状況からフラスコ状土坑である可能性がある。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層c式）、両面調整石器・剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-331（図V-391、表V-2）

位 置 F・G 15 立 地 標高19.9m付近

平面形 楕円形（中型土坑） 規 模 $1.68 / (0.82) \times 1.30 / 1.04 \times 0.400 \text{ m}$

特 徴 F・G 15区を調査中に褐色土の広がりが見え、掘り進められていた。掘り進めたところ、P-331はP-294を切り、P-299に切られていた。P-299の調査終了後に掘り進めたところ、底面が平坦な土坑状の遺構を確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されていると考えられる。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-344（図V-391、表V-2）

位 置 G 14・15 立 地 標高19.9m付近

平面形 不明（小型土坑？） 規 模 $(0.62) / (0.50) \times - / - \times 0.241 \text{ m}$

特 徴 G 14・15区を調査中にG 15杭付近から多数の褐色土の広がりを検出した。精査したところP-344がP-296・303に切られて構築していることが分かったことから、半載して掘り進めたところ削平されて三日月状に残存する遺構を検出した。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片が出土している。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-345（図V-392、表V-2）

位 置 E 13・14 立 地 標高20.0m付近

平面形 円形（小型土坑） 規 模 $1.38 / 1.10 \times 1.24 / 1.06 \times 0.826 \text{ m}$

特 徴 E 13区を調査中に褐色土の円形の広がりが掘り進められていた。掘り進めたところ、P-345がP-206・339を切って作られていることが分かった。平坦な底面を検出し、土坑状の遺構であることを確認した。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層c式）、スクレイパー・たたき石などの石器、剥片・礫が出土している。

時 期 他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

P-347（図V-392、表V-2）

位 置 C 12・13 立 地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 円形（小型土坑） 規 模 $0.58 / 0.52 \times 0.48 / 0.38 \times 0.70 \text{ m}$

特 徴 C 13区はフラスコ状土坑検出のために段丘砂礫層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群を検出した。柱穴状のP-346より古い浅い土坑。覆土はにぶい褐色土が堆積して

いた。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。

(福井)

P-349 (図V-393、表V-2)

位置 D13 立地 標高19.8m付近の平坦面

平面形 楕円形 (小型土坑) 規模 $0.34/0.28 \times 0.38/0.26 \times 0.06$ m

特徴 D13区はフラスコ状土坑検出のためローム層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。覆土はハードローム層粘土層由来のにぶい褐色土が堆積していた。

時期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。

(福井)

P-357 (図V-393、表V-2)

位置 D13 立地 標高19.8m付近の平坦面

平面形 楕円形 (小型土坑) 規模 $0.82/0.48 \times 0.67/0.46 \times 0.38$ m

特徴 D13区はフラスコ状土坑検出のためにローム層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。フラスコ状のP-348より新しい中型土坑。覆土は、ハードローム層粘土層由来のにぶい褐色土が堆積していたが、斜位に堆積した覆土下部には段丘砂礫層由来ブロックが多量に含まれた。早い段階で埋め戻されたものとみられる。

時期 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。

(福井)

P-358 (図V-393、表V-2)

位置 D13 立地 標高19.8m付近の平坦面

平面形 楕円形 (小型土坑) 規模 $0.73/0.58 \times (0.52)/0.36 \times 0.28$ m

特徴 D13区はフラスコ状土坑検出のためにローム層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群も検出した。フラスコ状のP-348より新しい中型土坑。覆土は、ハードローム層粘土層由来のにぶい褐色土が堆積していた。

時期 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。

(福井)

P-377 (図V-394、表V-2)

位置 E12・13 立地 標高19.6m付近

平面形 円形 (中型土坑) 規模 $1.78/1.64 \times 1.56/1.44 \times 0.275$ m

特徴 E12・13区を調査中に褐色土の円形の広がりが出検された。半載して掘り進めたところ、平坦な底面を検出したことから、土坑状の遺構であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられ、フラスコ状土坑である可能性もある。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土から土器 (円筒土器上層a式)、石鏃・Rフレイク・Uフレイク、剥片・礫が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期前葉と考えられる。

(酒井)

P-396 (図V-394、表V-2)

位置 E14 立地 標高19.9m付近

平面形 円形 (小型土坑) 規模 $0.78/0.64 \times 0.74/0.56 \times 0.182$ m

特徴 E14区の調査中にP-129の東側で褐色土の円形の広がりが出検された。半載したとこ

ろP-121に切られる土坑状の遺構を確認した。覆土は2層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剥片が出土している。

時期 他遺構との切り合いから、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-406 (図V-395、表V-2)

位置 E11 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 楕円形 (小型土坑) 規模 $0.88/0.70 \times (0.68)/0.45 \times 0.52$ m

特徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。坑底は段丘砂礫層を20cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質土を主体としたもので、段丘砂礫層由来ブロックが含まれた。本土坑はP-394とは別に命名したものであるが、P-394自体が断層の影響か歪んでおり、両者が別のものか、一連のものか判断しきれなかった。

時期 出土遺物 (円筒土器上層式) から縄文時代中期前葉と考えられる。(福井)

P-421 (図V-395、表V-2)

位置 F13 立地 標高19.8m付近

平面形 円形 (小型土坑) 規模 $0.94/0.32 \times (0.50)/(0.20) \times 0.387$ m

特徴 P-336の南側壁面から褐色土広がりを検出した。半載して調査を進めたところ、皿状の底面を検出したことから土坑状の遺構であることを確認した。P-336との切り合い関係は不明である。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土中から土器 (円筒土器下層式)、剥片が出土している。

時期 他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

P-428 (図V-395、表V-2)

位置 E・F11・12 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 楕円形 (小型土坑) 規模 $(0.86)/(0.60) \times (0.50)/(0.46) \times 0.28$ m

特徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。なお、本土坑に関しては、H-17の調査の過程で、壁面で検出したものである。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を30cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質土を主体としたものの間に灰褐色土が挟まれた。

時期 出土遺物 (榎林式) から縄文時代中期後葉と考えられる。(福井)

P-450 (図V-396、表V-2)

位置 E12 立地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 楕円形 (小型土坑) 規模 $(0.46)/(0.42) \times (0.48)/(0.44) \times 0.16$ m

特徴 D・E12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底は段丘砂礫層を数cm前後掘りこんでいる。覆土はローム質土を主体とした。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前葉と考えられる。(福井)

P-452 (図V-396、表V-2)

位 置 E 12 立 地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 楕円形 (小型土坑) 規 模 $(0.86)/(0.72) \times (0.60)/(0.58) \times 0.08$ m

特 徴 D・E 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底はハードローム粘土層中に達している。覆土はローム質土を主体とした。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-453 (図V-396、表V-2)

位 置 E 12 立 地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 楕円形 (小型土坑) 規 模 $(0.70)/(0.66) \times (0.60)/(0.42) \times 0.11$ m

特 徴 D・E 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底はハードローム粘土層中に達している。覆土はローム質土を主体とした。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-454 (図V-396、表V-2)

位 置 E 12 立 地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 楕円形 (小型土坑) 規 模 $(0.64)/(0.46) \times (0.60)/(0.50) \times 0.08$ m

特 徴 D・E 12・13区は自然堆積層下に暗褐色「盛土」が堆積した。その面では遺構を確認できなかったため、ローム層が露出する面まで掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。構築面は削平されているが、ソフトローム層中から構築されたものと推測する。坑底はハードローム粘土層中に達している。覆土はローム質土を主体とした。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。(福井)

P-463 (図V-397、表V-2)

位 置 F 15 立 地 標高19.7m付近

平面形 楕円形 (小型土坑) 規 模 $0.62/0.42 \times 0.48/0.34 \times 0.229$ m

特 徴 F 13区を調査中に褐色土の広がりを検出した。半截して調査を進めたところ、楕円形の土坑状の遺構を確認した。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。覆土中から礫が出土している。

時 期 周囲の遺構の状況から、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

P-476 (図V-397、表V-2)

位 置 E 8 立 地 標高19.0m付近の平坦面

平面形 楕円形 (小型土坑) 規 模 $(1.08)/(0.96) \times (0.30)/(0.30) \times 0.42$ m

特 徴 H-117調査終了後、斜面際までの間を掘り下げたところ、土坑の輪郭を確認した。ハー

下ローム層中に掘りこまれたもの。覆土はローム質土を主体としており、坑底に倒立させた状態で完形の土器が出土した。

時 期 出土遺物（サイベ沢Ⅶ式）から縄文時代中期中葉と考えられる。（福井）

P-481（図V-398、表V-2）

位 置 F・G 8・9 立 地 標高19.1m付近の斜面際

平面形 円形（大型土坑） 規 模 $2.44/2.24 \times (1.20)/(1.12) \times 0.28$ m

特 徴 H-127調査終了後、斜面際に「落ち込み」を検出した。検出時は黒色土混じりであったため新しい時期の風倒木痕と推測し、掘り下げたが、底部分が平坦で柱穴状小土坑も検出したため土坑として認定した。覆土はローム質土を主体とした。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-487（図V-398、表V-2）

位 置 F 9 立 地 標高19.3m付近の平坦面

平面形 楕円形（小型土坑） 規 模 $1.00/0.82 \times (0.68)/(0.52) \times 0.56$ m

特 徴 H-124調査終了後、壁面に落ち込みを検出した。覆土はローム質土を主体とした。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-507（図V-399、表V-2）

位 置 F 14 立 地 標高19.8m付近のP-305覆土

平面形 円形（小型土坑） 規 模 $0.48/0.48 \times (0.20)/(0.20) \times 0.587$ m

特 徴 F 14区を調査中にH-131・P-341に切られる褐色土の広がりを検出した。褐色土の広がりを切る円形の広がりが確認できたことから、切り合い関係を把握できるように半載したところ、P-305の覆土を切るP-461・503・504・507を確認した。P-507はP-305を切り、P-461・503・504に切られている、柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えて、未確認の堅穴住居の主柱穴である可能性もある。覆土は1層で、埋め戻し土と考えられる。遺物は出土していない。

時 期 他遺構との切り合いから、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-552 欠番

P-573（図V-399、表V-2）

位 置 G 12 立 地 標高19.3m付近の斜面際

平面形 楕円形（小型土坑） 規 模 $0.16/0.08 \times (0.10)/(0.07) \times 0.07$ m

特 徴 G 12区フラスコ状土坑群調査終了後、見直して「落ち込み」を検出した。

時 期 出土遺物（円筒土器下層d式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-574（図V-399、表V-2）

位 置 F・G 12 立 地 標高19.3m付近の斜面際

平面形 楕円形（小型土坑） 規 模 $(0.44)/(0.38) \times (0.48)/(0.48) \times 0.07$ m

特 徴 G 12区フラスコ状土坑群調査終了後、見直して「落ち込み」を検出した。覆土はロー

ム質土主体であった

時 期 出土遺物（円筒土器下層式）から縄文時代前期後葉と考えられる。（福井）

P-583（図V-400、表V-2）

位 置 B 8・9 立 地 標高19.1m付近の平坦面

平面形 楕円形（小型土坑） 規 模 $(0.64) / (0.60) \times 0.92 / 0.84 \times 0.48 \text{ m}$

特 徴 H-18調査終了後、壁面に「落ち込み」を検出した。覆土はにぶい褐色土～褐色土を主体とした。

時 期 出土遺物（大安在B式）から縄文時代中期後葉と考えられる。（福井）

P-584（図V-400、表V-2）

位 置 B 10 立 地 標高19.3m付近の平坦面

平面形 楕円形（小型土坑） 規 模 $0.75 / 0.68 \times (0.32) / (0.18) \times 0.34 \text{ m}$

特 徴 H-1調査終了後、風倒木痕中央の盛り上がり部分で落ち込みを検出した。覆土はローム質土を主体とした。

時 期 出土遺物（円筒土器上層式）から縄文時代中期前葉と考えられる。（福井）

P-586（図V-400、表V-2）

位 置 F 12・13 立 地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 楕円形（小型土坑） 規 模 $0.36 / 0.32 \times (0.28) / (0.21) \times 0.24 \text{ m}$

特 徴 P-7調査終了後、壁面で「落ち込み」を検出した。覆土はにぶい褐色土であった。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-587（図V-401、表V-2）

位 置 D 12・13 立 地 標高19.7m付近の平坦面

平面形 楕円形（小型土坑） 規 模 $0.54 / 0.47 \times (0.52) / (0.49) \times 0.22 \text{ m}$

特 徴 P-348調査終了後、壁面で「落ち込み」を検出した。覆土はにぶい褐色土。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-588（図V-401、表V-2）

位 置 F 10 立 地 標高19.4m付近の平坦面

平面形 楕円形（小型土坑） 規 模 $(1.12) / (1.12) \times (0.26) / (0.24) \times 0.42 \text{ m}$

特 徴 H-2・9・17に挟まれて島状に残ったローム層の残存部で、調査最終段階の見直しで確認した。覆土はローム質土を主体とした。

時 期 構築状況から縄文時代前期後葉～中期前・中葉と考えられる。（福井）

P-594（図V-401、表V-2）

位 置 B 8・9 立 地 標高19.1m付近の平坦面

平面形 楕円形（大型土坑） 規 模 $2.08 / 1.84 \times 1.76 / 1.62 \times 0.28 \text{ m}$

特 徴 H-18調査終了後、床面の段丘砂礫層にローム質土の広がりを検出した。覆土はロー

ム質土を主体とした。外形が明瞭なため土坑と認定したが、古い風倒木痕の可能性も高い。

時 期 出土遺物（榎林式）から縄文時代中期後葉と考えられる。 (福井)

P-596 (図V-402、表V-2)

位 置 G・H 9 立 地 標高19.4m付近の斜面際

平面形 楕円形（小型土坑） 規 模 $1.08/0.78 \times (0.32)/(0.24) \times 0.48 \text{ m}$

特 徴 調査最終段階の調査区境界で検出した。覆土はにぶい褐色土を主体とした。表土直下からの掘り込みであったが、自然堆積の黒色土は縄文時代に削平されたようである。

時 期 構築状況から縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。 (福井)

P-598 (図V-402、表V-2)

位 置 B 13 立 地 標高19.6m付近の平坦面

平面形 円形（小型土坑） 規 模 $0.70/0.78 \times (0.50)/(0.38) \times 0.66 \text{ m}$

特 徴 H-54調査の過程で、その南側にローム質土の広がりが見られたので掘り下げた結果確認した。断面からはH-54より古いとみられる。

時 期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

P-599 (図V-386、表V-2)

位 置 C 13 立 地 標高19.8m付近の平坦面

平面形 円形（小型土坑） 規 模 $0.58/0.21 \times (0.38)/0.22 \times 0.63 \text{ m}$

特 徴 C 13区はフラスコ状土坑検出のために段丘砂礫層中まで掘り下げた。精査の結果、より小型の土坑群を検出した。なお、調査工程の都合で断面図の記載は省略した。

時 期 構築状況から縄文時代中期前・中葉と考えられる。 (福井)

7 焼 土 (図V-403～408、表V-3)

F-1 (図V-403、表V-3)

位 置 B 10 立 地 標高19.8m付近の平坦地

規 模 $(0.56) \times (0.45) \times 0.1 \text{ m}$

特 徴 盛土層中で確認した。被熱面を切るように窪みがあり、底に攪乱焼土も含まれた。

時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。 (福井)

F-2 (図V-403、表V-3)

位 置 F 12 立 地 標高19.8m付近の平坦地

規 模 $(0.30) \times (0.30) \times 0.04 \text{ m}$

特 徴 盛土層中で確認した。焼土がブロック化していたため、異地性焼土とみられた。

時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。 (福井)

F-3 (図V-403、表V-3)

位 置 F 12 立 地 標高19.8m付近の平坦地

規 模 $(0.44) \times (0.40) \times 0.06 \text{ m}$

- 特 徴 盛土層中で確認した。焼土がブロック化していたため、異地性焼土とみられた。
 時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。 (福井)

F-4 (図V-403、表V-3)

- 位 置 G 12 立 地 標高19.7m付近の平坦地
 規 模 $1.09 \times 0.42 \times -$ m
 特 徴 盛土層中で確認した。焼土がブロック化していたため、異地性焼土とみられた。
 時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉のものとみられる。 (福井・土肥)

F-13 (図V-404、表V-3)

- 位 置 C 13 立 地 標高20.5m付近の平坦地
 規 模 $0.56 \times 0.40 \times 0.03$ m
 特 徴 盛土層中で確認した。
 時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉のものとみられる。 (土肥)

F-19 (図V-404、表V-3)

- 位 置 B 11 立 地 標高19.8m付近の平坦地
 規 模 $0.37 \times 0.24 \times 0.03$ m
 特 徴 盛土層中で確認した。
 時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉のものとみられる。 (土肥)

F-20 (図V-404、表V-3)

- 位 置 B 12 立 地 標高19.8m付近の平坦地
 規 模 $(0.70) \times (0.65) \times 0.1$ m
 特 徴 盛土層中で確認した。焼土が明瞭で、現地性焼土とみられた。
 時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。 (福井)

F-21 (図V-404、表V-3)

- 位 置 C 11 立 地 標高19.9m付近の平坦地
 規 模 $0.48 \times 0.41 \times 0.07$ m
 特 徴 盛土層中で確認した。
 時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉のものとみられる。 (土肥)

F-23 (図V-404、表V-3)

- 位 置 B 11 立 地 標高19.8m付近の平坦地
 規 模 $1.59 \times 0.47 \times 0.05$ m
 特 徴 盛土層中で確認した。
 時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉のものとみられる。 (土肥)

F-28 (図V-405、表V-3)

位置 E 14 立地 標高20.1m付近のP-191の覆土4層

平面形 楕円形 規模 $0.44 \times (0.30) \times 0.06$ m

特徴 P-191を半截して調査したところ、断面に赤褐色の焼土を確認した。P-191の覆土4層として調査を行った。P-191の埋没途中に形成されたと考えられる。

時期 P-191埋没途中のため、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

F-29 欠番

F-30 (図V-405、表V-3)

位置 G 12 立地 標高19.7m付近の平坦地

規模 $(0.36) \times (0.25) \times -$ m

特徴 盛土層中で確認した。焼土がブロック化していたため、異地性焼土とみられる。

時期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-31 欠番

F-32 (図V-405、表V-3)

位置 G 12 立地 標高19.7m付近の平坦地

規模 $(0.50) \times (0.45) \times 0.08$ m

特徴 盛土層中で確認した。焼土がブロック化していたため、異地性焼土とみられる。

時期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-33 (図V-405、表V-3)

位置 G 12 立地 標高19.7m付近の平坦地

規模 $(0.63) \times (0.55) \times 0.06$ m

特徴 盛土層中で確認した。焼土がブロック化していたため、異地性焼土とみられる。

時期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-34 (図V-405、表V-3)

位置 G 12 立地 標高19.7m付近の平坦地

規模 $(0.40) \times (0.30) \times 0.04$ m

特徴 盛土層中で確認した。焼土がブロック化していたため、異地性焼土とみられる。

時期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-35 (図V-405、表V-3)

位置 G 12 立地 標高19.7m付近の平坦地

規模 $(0.30) \times (0.23) \times 0.04$ m

特徴 盛土層中で確認した。焼土がブロック化していたため、異地性焼土とみられる。

時期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-36 (図V-405、表V-3)

位置 G 12 立地 標高19.7m付近の平坦地

規模 $(0.38) \times (0.32) \times 0.06$ m

特徴 盛土層中で確認した。焼土がブロック化していたため、異地性焼土とみられる。

時期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-37 (図V-406、表V-3)

位置 G 12 立地 標高19.7m付近のIV層上面

平面形 楕円形 規模 $0.44 \times (0.30) \times 0.06$ m

特徴 G 12区の盛土遺構を調査中に南側壁際で赤褐色焼土を含む暗褐色土の範囲を検出した。調査区南壁を断面として半載したところ断面に焼土を確認した。IV層に焼土が形成され、上面には盛土遺構が堆積している。焼土の上には小砂利を多量に含む暗褐色土がみられる。

時期 盛土遺構形成直前とみられるため、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

F-38 (図V-406、表V-3)

位置 D 10 立地 標高19.7m付近の平坦地

規模 $(1.00) \times (0.65) \times 0.1$ m

特徴 盛土層中で確認した。焼土境界が不明瞭であったため、異地性焼土とみられる。上面に小礫集中も伴った。

時期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-39 (図V-407、表V-3)

位置 F 15 立地 標高20.4m付近のIV層上面

平面形 不正楕円形 規模 $0.80 \times 0.66 \times 0.24$ m

特徴 F 15区の盛土遺構を調査中に赤褐色焼土の範囲を検出した。半載したところ断面に赤褐色の焼土層を確認した。IV層に焼土が形成され、上面には盛土遺構が堆積している。焼土層の上には焼土粒や骨片を含む褐色土がみられる。

時期 盛土遺構形成直前のため、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(酒井)

F-40 (図V-407、表V-3)

位置 E 14 立地 標高20.1m付近の盛土層

平面形 不定形 規模 $0.90 \times 0.74 \times 0.28$ m

特徴 E 14区の盛土遺構を調査中に検出した。半載したところ断面に赤褐色の焼土を多く含む層を確認した。盛土層中に形成され、断面の状況から焼土の廃棄と考えられる。

時期 盛土層中に形成されたため、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(酒井)

F-41 (図V-407、表V-3)

位置 D 14 立地 標高20.2m付近のH-25の覆土上部

平面形 楕円形 規模 $0.30 \times 0.20 \times -$ m

特徴 H-25の覆土上部を調査中に検出した。半載して調査を行ったが厚みがほとんどなかった。

たことから断面実測は行わず、表面注記のみ行った。焼土粒と微細骨片を検出した。現地で焼成されたものではなく、H-25の埋没途中に焼土が廃棄されたと考えられる。

時 期 H-25埋没途中のため、縄文時代中期後葉の榎林式の時期と考えられる。(酒井)

F-42 (図V-408、表V-3)

位 置 E 12 立 地 標高19.7m付近の平坦地

規 模 (0.48) × (0.35) × 0.08 m

特 徴 盛土層中で確認した。焼土が明瞭で、現地性焼土とみられる。

時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-43 (図V-408、表V-3)

位 置 E 12 立 地 標高19.7m付近の平坦地

規 模 (0.50) × (0.34) × 0.08 m

特 徴 盛土層中で確認した。焼土が明瞭で、現地性焼土とみられる。

時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-44 (図V-408、表V-3)

位 置 E 12 立 地 標高19.7m付近の平坦地

規 模 (0.42) × (0.30) × 0.08 m

特 徴 盛土層中で確認した。焼土が明瞭で、現地性焼土とみられる。

時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-45 (図V-408、表V-3)

位 置 E 12 立 地 標高19.7m付近の平坦地

規 模 0.58 × 0.44 × 0.04 m

特 徴 盛土層中で確認した。焼土が明瞭で、現地性焼土とみられる。

時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-46 (図V-408、表V-3)

位 置 F 12 立 地 標高19.6m付近の平坦地

規 模 (0.54) × (0.26) × 0.02 m

特 徴 盛土層中で確認した。焼土は不明瞭であったが、現地性焼土とみられる。隣接してローム土が硬化した貼床状の面が認められた。P-374・407・440・465～497・500・501・512～518・542～543・547～551・580といった柱穴状土坑が周囲に存在することから、関連して住居を構成していた可能性も残る。

時 期 確認した層位から、縄文時代中期後葉～後期前葉のものとみられる。(福井)

F-47 (図V-408、表V-3)

位 置 F 12 立 地 標高19.6m付近の平坦地

規 模 (0.40) × (0.32) × 0.03 m

特徴 盛土層中で確認した。焼土は不明瞭であったが、現地性焼土とみられる。隣接してローム土が硬化した貼床状の面が認められた。P-374・407・440・465~497・500・501・512~518・542~543・547~551・580といった柱穴状土坑が周囲に存在することから、関連して住居を構成していた可能性も残る。

時期 確認した層位から、縄文時代中期後葉~後期前葉のものとみられる。(福井)

F-48 (図V-408、表V-3)

位置 E11 **立地** 標高19.3m付近の平坦地

規模 (0.60) × (0.40) × 0.08 m

特徴 盛土層中で確認した。焼土がブロック化していたため、異地性焼土とみられる。

時期 確認した層位から、縄文時代中期後葉~後期前葉のものとみられる。(福井)

8 小礫集中 (図V-409)

SB-1 (図V-409)

位置 D11 **立地** 標高19.7m付近の平坦地

規模 (0.58) × (0.52) m

特徴 盛土層中で確認した。106.053点(8,590 g)の直径3 cm以下の小礫からなり、多くは0.5 cm以下である。このほか頁岩製剥片が5点含まれる。

時期 確認した層位から、縄文時代中期後葉~後期前葉のものとみられる。(福井)

SB-2 (図V-409)

位置 E14 **立地** 標高20.7m付近の盛土上層

平面形 不整楕円形 **規模** 1.36 × 0.80 m

特徴 E14区を調査中に、標高20.7m付近の盛土上層から礫が集中して出土する範囲を検出した。遺物は泥岩などの礫が323点出土した。

時期 盛土遺構上層で検出したため、縄文時代中期後葉~後期前葉と考えられる。(酒井)

SB-3 (図V-409)

位置 F15 **立地** 標高20.3m付近の盛土中層

平面形 不整円形 **規模** 1.16 × 1.10 m

特徴 F15区を調査中に、標高20.3m付近の盛土中層から礫が集中して出土する範囲を検出した。南東側が挟れていたことから、遺構による削平の可能性を考慮して周辺の精査を行ったところ、風倒木による攪乱による削平であることがわかった。遺物は頁岩の剥片が1点、頁岩の原石が4点、泥岩の礫が442点、チャートの礫が17点、合計464点である。

時期 盛土遺構中層で検出していることから、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

SB-4 (図V-409)

位置 G15 **立地** 標高20.3m付近の盛土中層

平面形 不整円形 **規模** 0.86 × 0.80 m

特徴 G15区を調査中に、標高20.3m付近の盛土中層から礫石器や礫などが集中して出土す

る範囲を検出した。北東側の一部は風倒木による攪乱で削平されていると考えられる。遺物は、たたき石、凹み石、加工痕のある礫が各1点のほか、頁岩の剥片が1点、泥岩1,052点を含む1,115点の礫が出土した。

時期 盛土遺構中層で検出していることから、縄文時代中期後葉と考えられる。(酒井)

9 その他の遺構 (図V-410~412)

石棒ピット (図V-410)

位置 B15 **立地** 標高20.8m付近のIV層上面

平面形 楕円形 **規模** 0.20/0.12×0.14/0.08×0.24m

特徴 B15区を調査中に2点の石棒(1・2)が立った状態で検出した。掘り込みの可能性を考慮してトレンチを入れて半載したところ、わずかな土質の違いを確認できたことから、柱穴状の掘り込みを作って石棒を立たせたと考えられる。周囲には非常に締まった褐色粘土の範囲を確認しており、未確認の住居の床面の可能性もある。付近から別の石棒(3)が出土しており、関係がある可能性がある。

時期 IV層上面に形成されることから、縄文時代中期中葉~後葉と考えられる。(酒井)

倒立土器 (図V-410)

位置 D7 **立地** 標高18.7m付近の平坦面~斜面変換点

特徴 斜面際の盛土層中で確認した。特に掲載No.1674倒立土器は土圧で破片化し、斜面方向に土が動くことで、階段状にずれるような状態を明瞭に示していた。なお、同じような立地でP-476覆土から倒立状態の土器が出土している。時期は中期中葉サイベ沢Ⅶ式ながら、関連性が考えられる。

時期 出土土器(円筒土器上層a式)から、縄文時代中期前葉のものとみられる。(福井)

畑跡 (図V-411・412)

表土除去は現地表面から15cmほどであったため、掘削開始面は乾燥すると全面に近代の耕作による畝間が東西方向に認められた。断面で観察を行ったところ、畝間はI層中に納まるものであった(12.5ライン断面図、図V-412)。地元の方の話によると、同地点ではブラウによる耕作ではなく、鋤によるものであったらしい。I・II層を掘削除去し、盛土層上面に達したところ、盛土層を切るように黒色土が落ち込んだ畝間が確認された(図V-411)。畝間は白頭山苦小牧火山灰層(B-Tm)を切っているので、10世紀以降のものであることは確実である。断面で観察を行ったところ、畝間に堆積した黒色土はII層由来土主体で、ローム粒・ロームブロックを含む「作土」とみられる。また、部分的に駒ヶ岳D火山灰の小ブロックが含まれた(C15区平面・断面図、図V-412)。小ブロックは、板状で、雨水で集積したものが収縮し塊のまま堆積したと推測される。つまり1640年以前の耕作と考えられる。(福井)

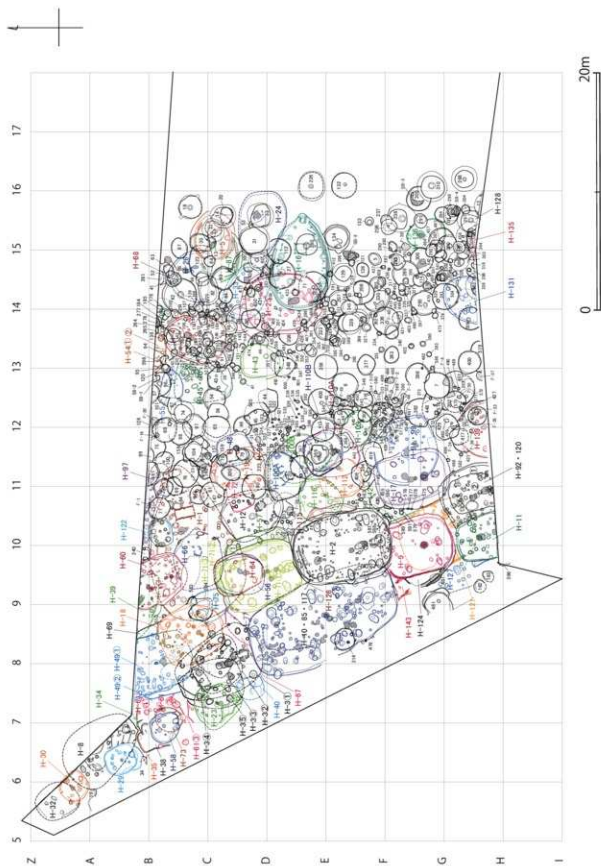


図 V-1 西側遺構群遺構位置図

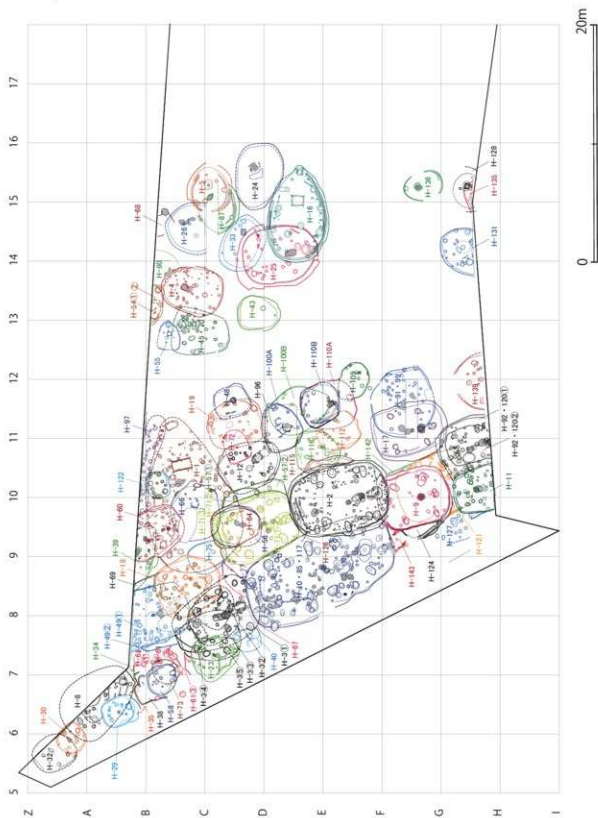


図 V-2 西側遺構群壁穴住居跡位置図

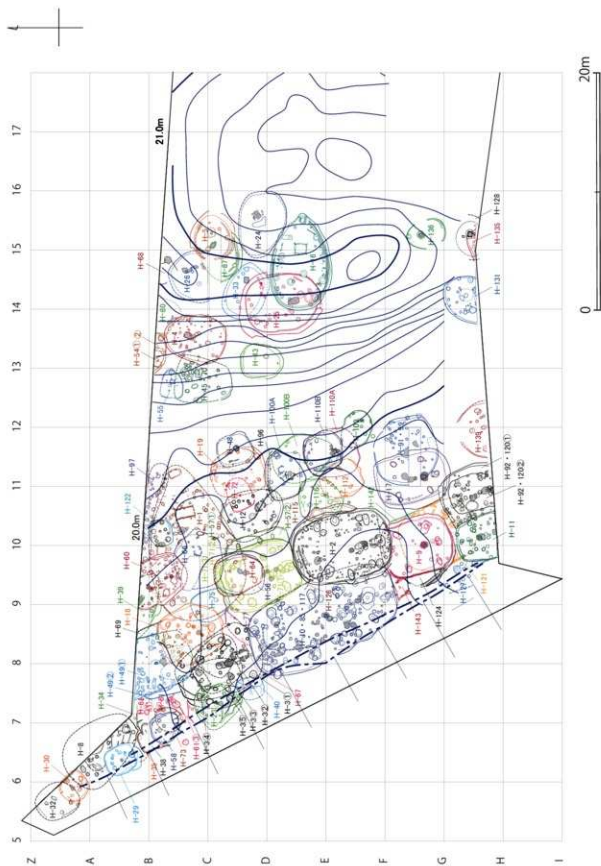


図 V-3 西側遺構群群穴居跡位置図 (等高線あり)

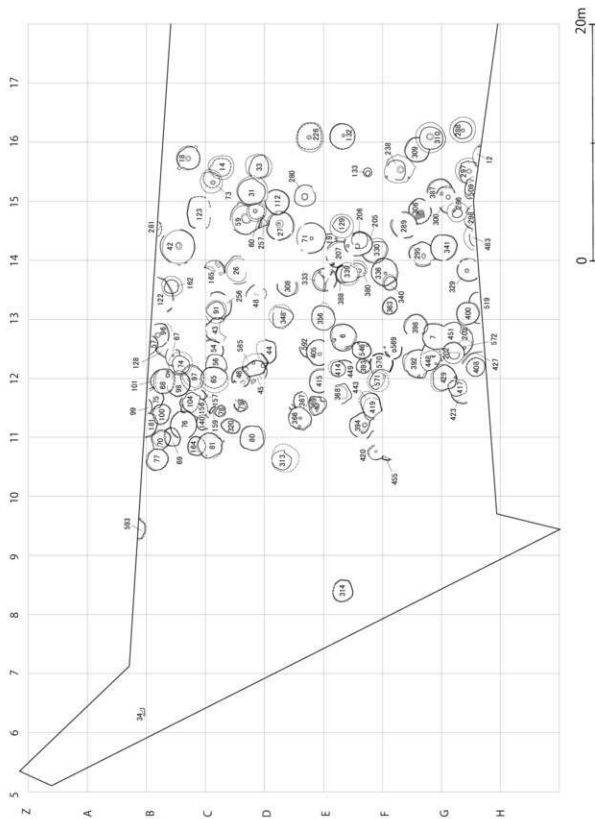


図 V-4 西側遺構群フラスコ状土坑位置図

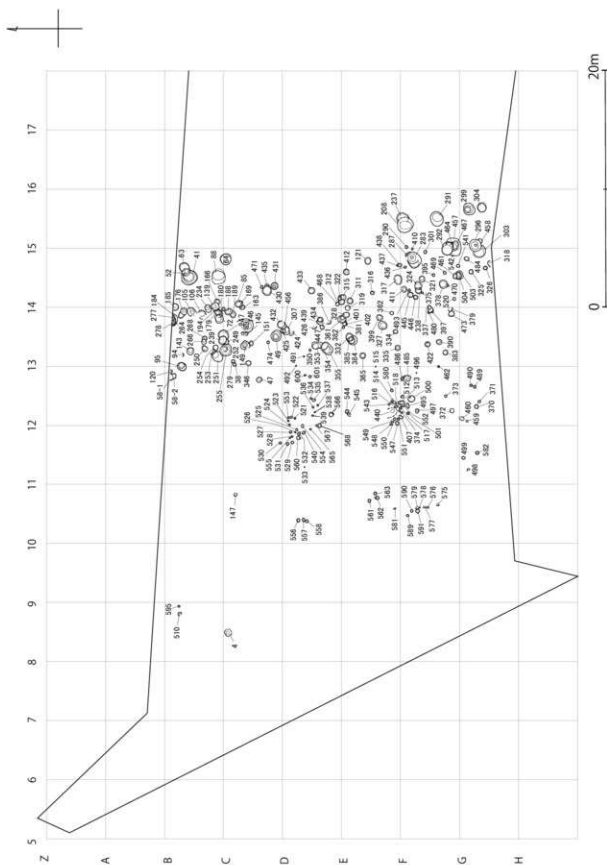
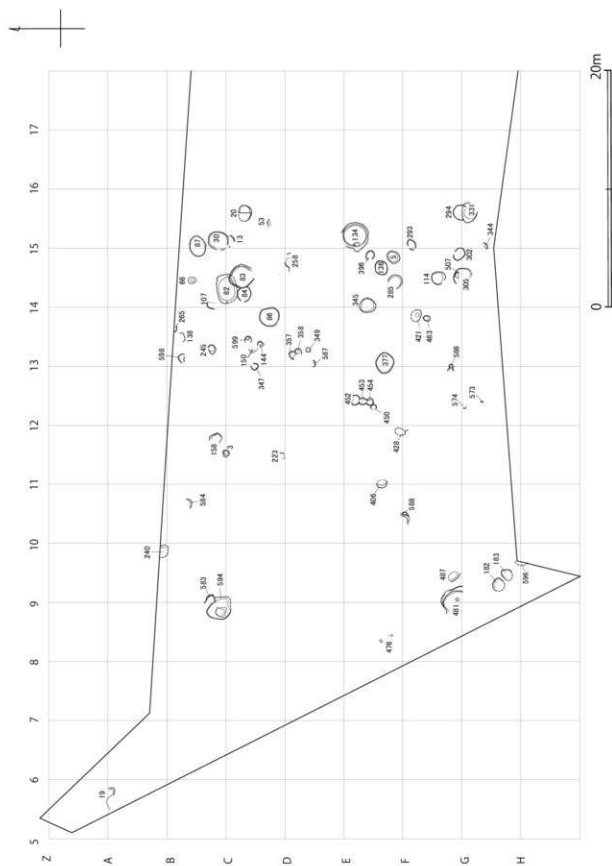


図 V-5 西側遺構群柱穴状土坑位置図



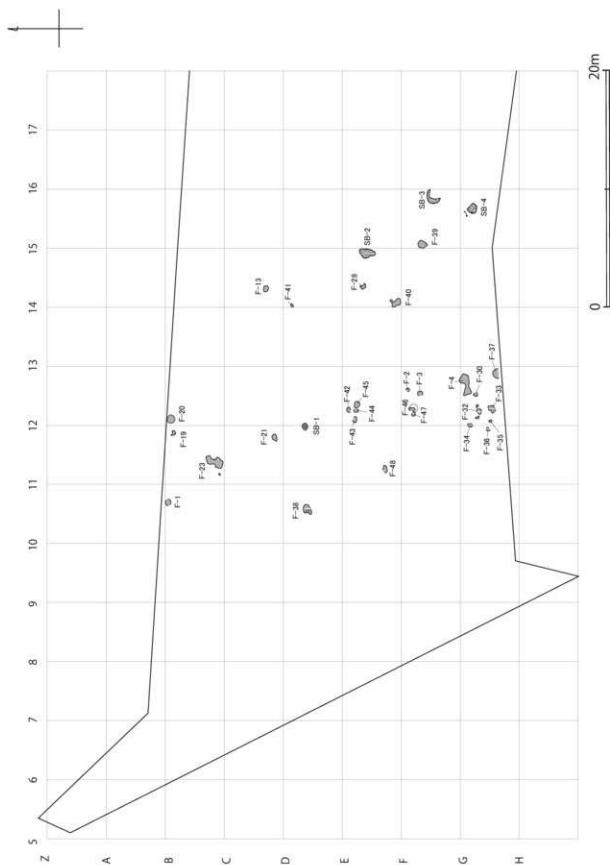
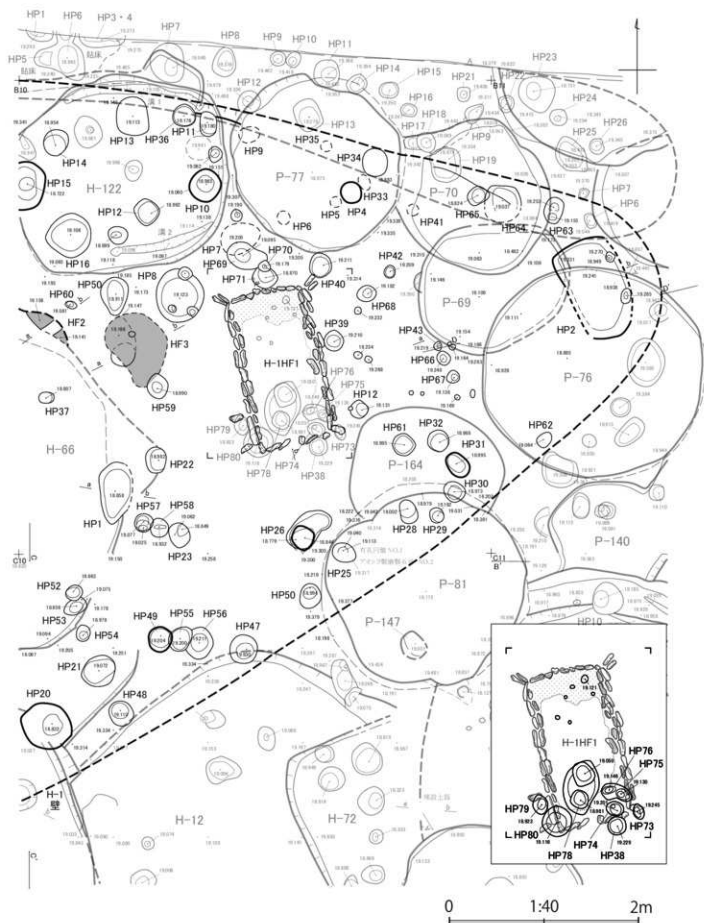
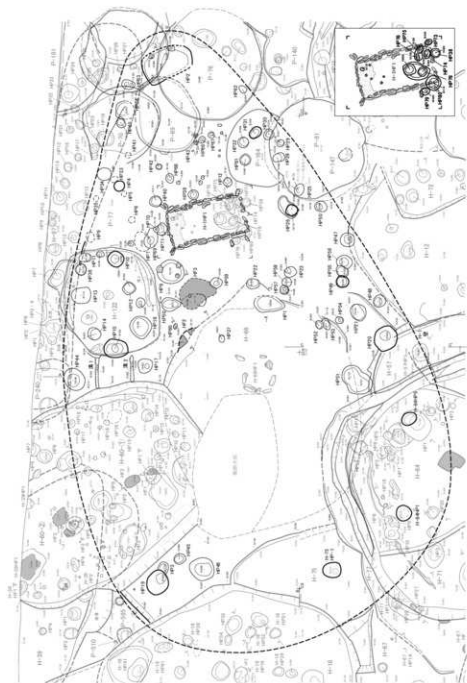


図 V-7 西側遺構群・小穴集位置図





0 1.80 4m

図 V-9 H-1 (2)

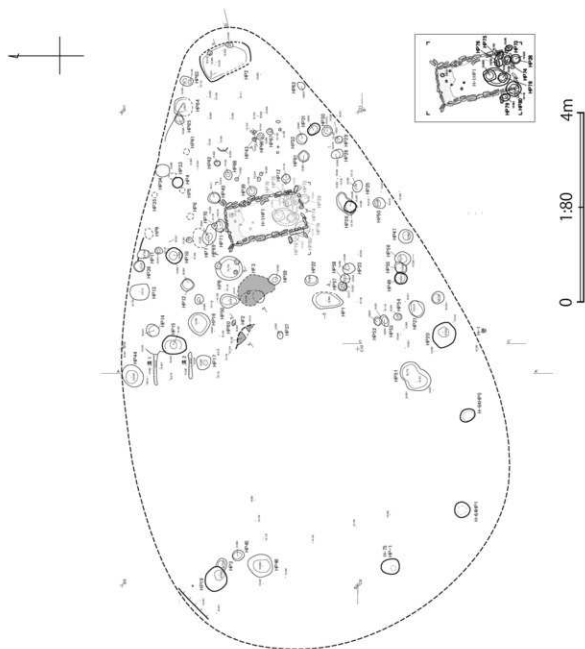
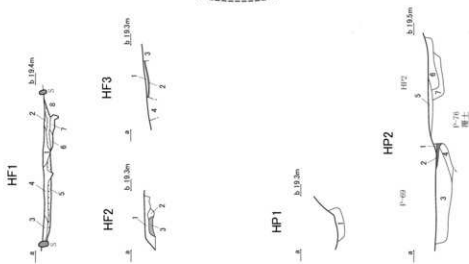
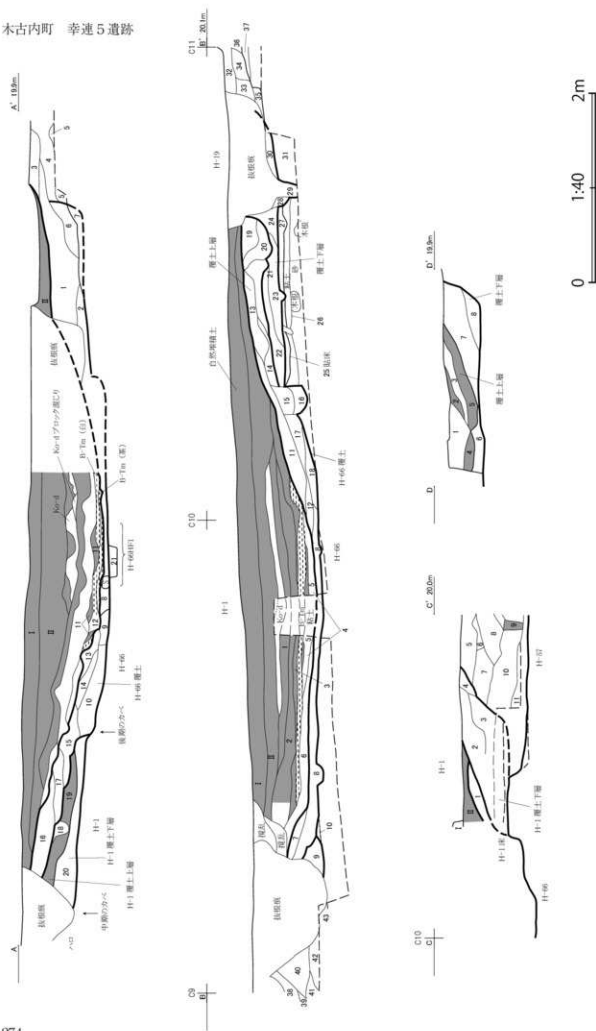


図 V-10 H-1 (3)





H-1 A-B'

No.	土色	粘性	土性	堅硬度	混入物	備考	
1	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小・ロームブロック小～中 15%	ローム主
2	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	礫土	すこぶる堅 炭小・VI層由来粒・ロームブロック中 10%	
3	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	砂礫土	すこぶる堅 炭小・ローム粒 3%	
4	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小 7%	VI層由来層主
5	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	礫土	すこぶる堅 VI層由来ブロック大～特大 50%	
6	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小～中・ロームブロック小～中 20%	
7	褐色	7.5YR	4/4	弱	礫土	すこぶる堅 VI層由来粒・炭小 3%	粘土・水成堆積、床面で濃褐色
8	灰褐色	7.5YR	4/2	弱	礫砂土	すこぶる堅 ローム粒 1%	
9	褐色	7.5YR	4/3	弱	礫砂土	やや軟 ローム粒 1%	
10	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小 7%	自然堆積 B-1m直じる
11	黄褐色	10YR	5/4	弱	砂礫土	すこぶる堅	
12	灰褐色	10YR	4/2	弱	砂礫土	すこぶる堅	
13	褐色	7.5YR	4/3	弱	砂礫土	堅 ローム粒 2%	
14	にぶい褐色	10YR	4/3	弱	砂礫土	堅 ローム粒 2%	
15	にぶい褐色	10YR	4/3	弱	砂礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小 3%	
16	にぶい褐色	10YR	5/4	弱	砂礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小 7%	
17	にぶい褐色	10YR	5/4	弱	砂礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小 1%	
18	にぶい褐色	10YR	5/4	弱	砂礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小 10%	
19	にぶい褐色	10YR	4/3	弱	砂礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小 5%	遺物集中層 上より明
20	にぶい褐色	10YR	4/3	弱	砂礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小 15%	
21	褐色	7.5YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 ローム粒 5%	

H-1 B-B'

No.	土色	粘性	土性	堅硬度	混入物	備考
1	褐色	10YR	2/1	弱	礫土	堅
2	灰褐色	10YR	2/2	弱	礫砂土	堅
3	灰褐色	10YR	3/1	弱	礫土	軟
4	灰褐色	7.5YR	3/2	弱	砂礫土	堅
5	灰褐色	7.5YR	4/2	弱	礫土	堅
6	灰褐色	7.5YR	4/2	弱	礫土	堅
7	褐色	7.5YR	4/3	弱	礫砂土	すこぶる堅
8	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	礫土	すこぶる堅 炭小・ローム粒 3%
9	褐色	7.5YR	6/6	弱	礫砂土	すこぶる堅 炭小 1%
10	にぶい褐色	7.5YR	5/3	弱	砂礫土	すこぶる堅 ロームブロック 50%
11	黄褐色	7.5YR	3/2	弱	礫土	すこぶる堅 炭小・ロームブロック中 2%
12	灰褐色	7.5YR	4/2	弱	礫土	堅 ローム粒・炭小 3%
13	灰褐色	7.5YR	3/2	弱	砂礫土	堅
14	黄褐色	10YR	3/3	弱	礫土	すこぶる堅 ロームブロック小 2%
15	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 ロームブロック小 1%
16	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	礫砂土	すこぶる堅 VI層由来ブロック 50%
17	黄褐色	10YR	3/3	弱	礫土	すこぶる堅 炭小・ローム粒 2%
18	灰褐色	7.5YR	4/2	弱	礫土	すこぶる堅 VI層由来ブロック 25%
19	黄褐色	10YR	3/3	弱	砂礫土	すこぶる堅
20	褐色	7.5YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 ロームブロック小 2%
21	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫砂土	すこぶる堅 炭小・ローム粒 3%
22	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 ローム粒 3%
23	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 ローム粒 2%
24	褐色	10YR	4/4	弱	礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小 7%
25	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 VI層由来ブロック特大 30%
26	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	礫砂土	すこぶる堅
27	褐色	7.5YR	4/3	弱	礫砂土	すこぶる堅
28	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	礫砂土	すこぶる堅 炭小・ローム粒 7%
29	褐色	7.5YR	4/4	弱	礫土	堅 炭小・ローム粒 7%
30	灰褐色	7.5YR	4/2	弱	礫土	すこぶる堅 炭小・ローム粒 7%
31	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫砂土	すこぶる堅 炭小・ローム粒 3%
32	褐色	10YR	4/4	弱	砂礫土	すこぶる堅 ロームブロック小 1%
33	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 ローム粒 3%
34	黄褐色	10YR	3/3	弱	礫土	堅 炭小 2%
35	褐色	7.5YR	4/4	弱	礫土	すこぶる堅 炭小・黄土粒 2%
36	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	砂礫土	すこぶる堅 ローム粒・炭小 7%
37	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	礫土	すこぶる堅 ロームブロック大・炭小
38	黄褐色	10YR	3/3	弱	礫土	すこぶる堅 ロームブロック小・炭小 10%
39	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 炭小・ロームブロック小～中 15%
40	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 炭小・ロームブロック中 3%
41	褐色	7.5YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅 炭小・ロームブロック小 40%
42	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	礫砂土	すこぶる堅 ロームブロック特大・炭小 50%
43	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫砂土	すこぶる堅 ロームブロック大・炭小 2%

H-1 C-C'

No.	土色	粘性	土性	堅硬度	混入物	備考		
1	にぶい黄褐色	10YR	5/4	弱	砂礫土	堅	炭小・ローム粒 2%	ややボソボソ
2	にぶい黄褐色	10YR	5/3	弱	砂礫土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 3%	
3	にぶい黄褐色	10YR	5/4	弱	砂礫土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 15%	
4	にぶい黄褐色	10YR	5/4	弱	砂礫土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 10%	
5	にぶい黄褐色	10YR	5/4	弱	砂礫土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 15%	
6	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	砂礫土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 3%	
7	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	砂礫土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 15%	
8	にぶい黄褐色	10YR	5/4	弱	砂礫土	すこぶる堅	炭小・ローム粒 15%	
9	褐色	7.5YR	4/3	弱	礫土	すこぶる堅	ロームブロック大・炭小～中 30%	
10	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	礫土	すこぶる堅	炭小～中 3%	
11	明褐色	7.5YR	5/6	弱	礫土	すこぶる堅	炭小 1%	

H-1 D-D'

No.	土色	粘性	土性	堅硬度	混入物	備考		
1	黄褐色	10YR	3/3	弱	砂礫土	すこぶる堅	ローム粒 3%	
2	黄褐色	10YR	3/2	弱	砂礫土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 7%	
3	黄褐色	10YR	3/3	弱	砂礫土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 5%	
4	黄褐色	10YR	3/2	弱	砂礫土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 10%	
5	黄褐色	10YR	3/2	弱	礫土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 10%	
6	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	礫砂土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 10%	
7	にぶい黄褐色	10YR	4/4	弱	礫土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 15%	
8	にぶい褐色	7.5YR	5/4	弱	礫土	すこぶる堅	ローム粒・VI層由来粒・ローム粒・VI層由来粒 20%	

図V-12 H-1 (5)



H-1 HF						
産出地 No.	主色	結晶主色	硬度	比重	真比重	備考
HF1	1. 緑色	7.5YR 4/4	緑土	ずぶん堅	ロームブロック中・炭小 5%	ロームブロック主
	2. 灰色	10YR 5/4	緑土	ずぶん堅	ローム粒・炭小 10%	
	3. にじみ黄褐色	10YR 4/3	緑土	ずぶん堅	ローム粒・炭小 3%	
	4. 暗褐色	10YR 3/3	緑土	ずぶん堅	ローム粒・炭小 7%	
	5. 緑色	7.5YR 4/3	緑土	ずぶん堅	ローム粒・炭小 40%	
HF2	6. 褐色	7.5YR 4/4	緑土	堅	ロームブロック中・炭粒 5%	砂砂層
	7. 褐色	7.5YR 4/3	緑土	堅	ロームブロック大・炭小中 20%	
	8. 灰色	10YR 4/3	緑土	ずぶん堅	ロームブロック大・炭大 5%	
	9. にじみ黄褐色	10YR 4/3	緑土	ずぶん堅	ローム粒・炭小 15%	
	10. 黒褐色	10YR 3/2	砂土	ずぶん堅	炭小・ローム粒・炭小 10%	
HF3	11. 黒褐色	5YR 13/6				粘土、VI層上白色粘土が混入
	12. 灰色	7.5YR 4/3	緑土	ずぶん堅	VI層由炭粒・炭土ブロック 15%	
	13. 灰色	5YR 4/4	緑土	ずぶん堅		
	14. にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂土	ずぶん堅	VI層由ブロック中・炭大・炭小 40%	
4. 褐色	7.5YR 4/3	砂土	ずぶん堅	炭土ブロック中・炭小・VI層由炭粒 20%		粘土
H-1 HP						
産出地 No.	主色	結晶主色	硬度	比重	真比重	備考
HP2	1. 灰色	10YR 5/4	緑土	ずぶん堅	炭小中・VI層由ブロック中大 30%	粘土床
	2. にじみ黄褐色	7.5YR 1/2	砂土	ずぶん堅	ロームブロック大・炭小中 50%	
	3. 灰褐色	7.5YR 4/2	砂土	ずぶん堅	炭小中・炭土ブロック中 20%	
	4. にじみ黄褐色	7.5YR 5/4	砂土	ずぶん堅	ローム粒・ロームブロック中大・ローム粒・VI層由炭粒 30%	
	5. にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂土	ずぶん堅	炭小 3%	
	6. にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂土	ずぶん堅	ローム粒・炭小・ロームブロック 15%	
	7. にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂土	ずぶん堅	ローム粒・炭小・ロームブロック 20%	
	8. にじみ黄褐色	10YR 4/3	砂土	ずぶん堅	ローム粒・炭小・ロームブロック 10%	

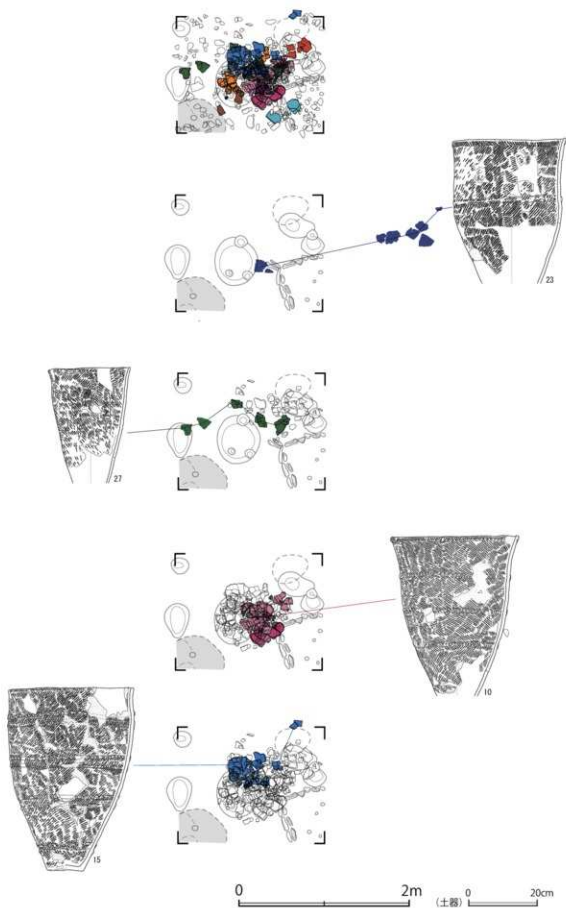
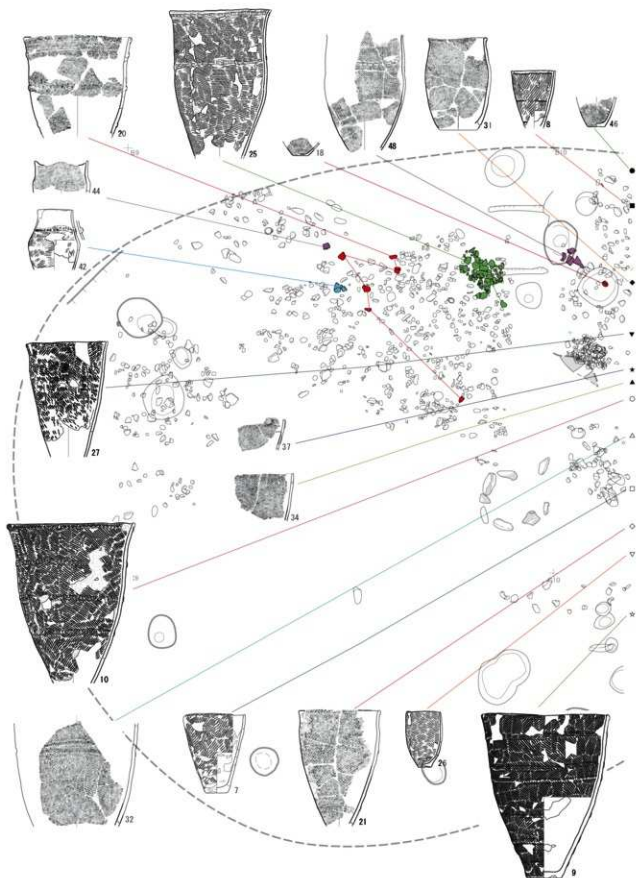
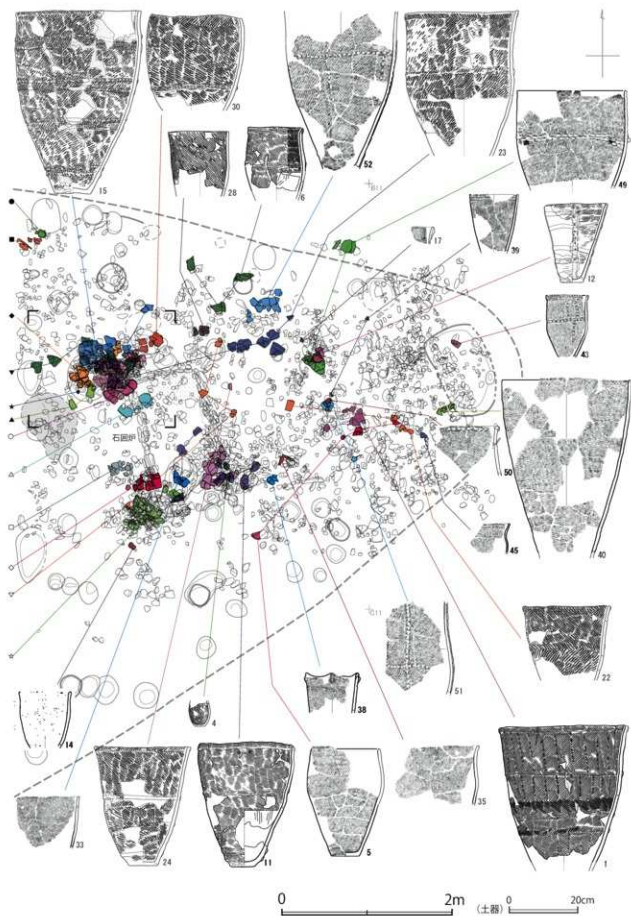


図 V-14 H-1 (7)

H-1・66 遺物出土状況

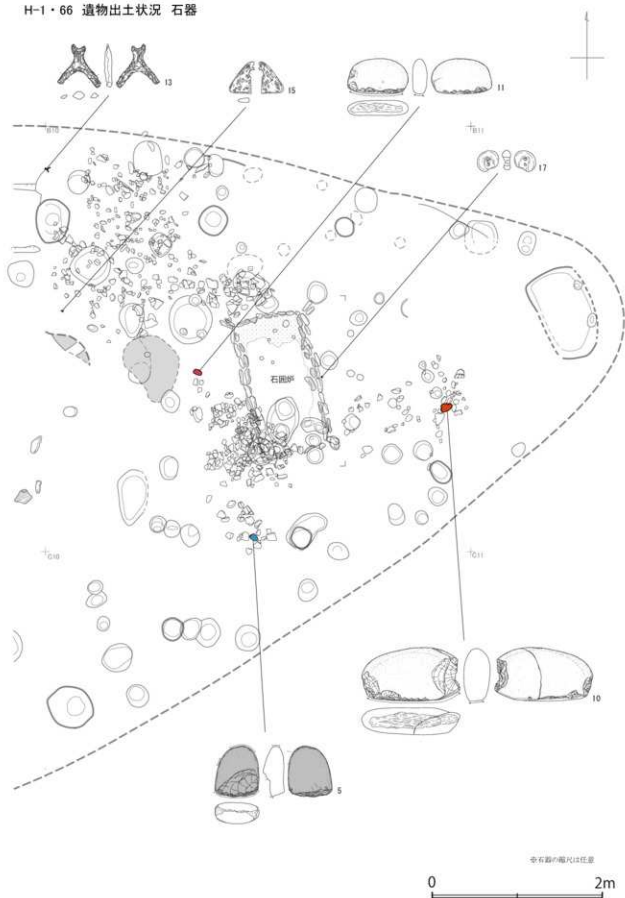


図V-15 (1) H-1 (8-1)



図V-15 (2) H-1 (8-2)

H-1・66 遺物出土状況 石器



図V-16 H-1 (9)

H-2

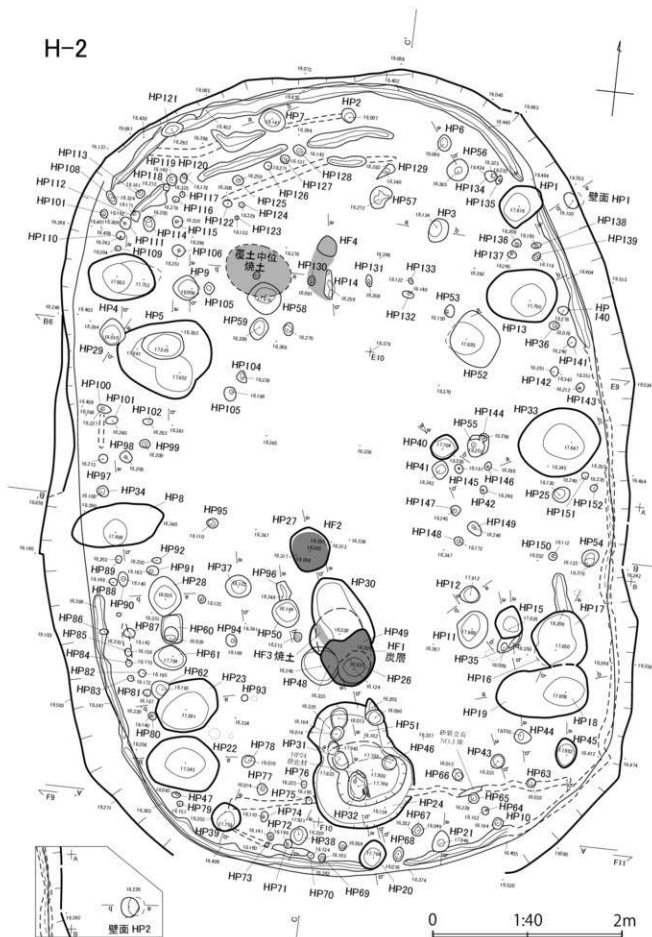
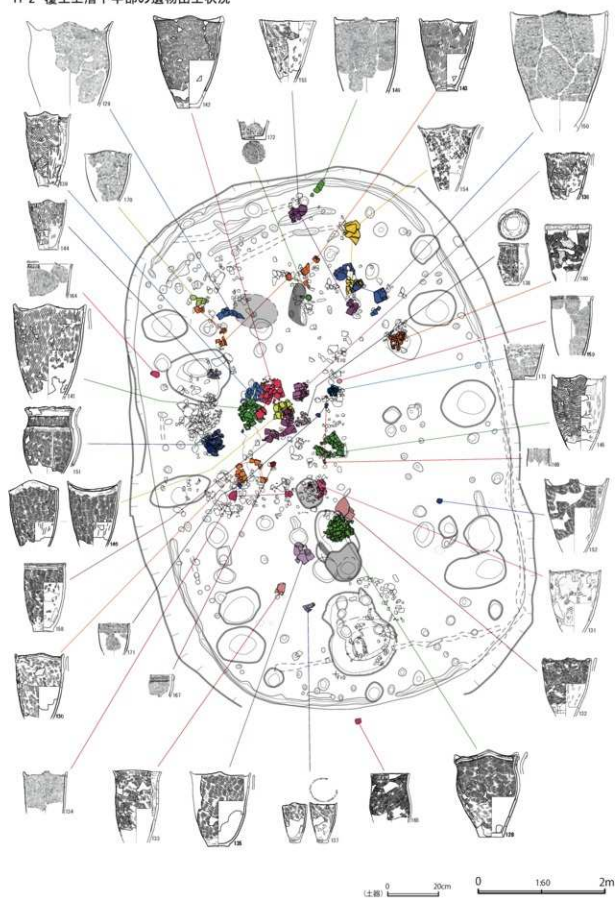


図 V-17 H-2 (1)

H-2 覆土上層下半部の遺物出土状況



図V-18 H-2 (2)